目 次

○第1号（3月3日）

議事日程 第1号	1
本日の会議に付した事件	2
出席議員	3
欠席議員	3
説明のため出席した者	3
事務局職員出席者	3
開会・開議	4
町長挨拶	4
諸般の報告	4
日程第 1 会議録署名議員の指名	4
日程第 2 会期の決定	4
日程第 3 発委第 1号 吉岡町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を 改正する条例	5
日程第 4 発議第 1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求 める意見書」の国への提出について	6
日程第 5 議案第 7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する 条例の一部を改正する条例	8
日程第 6 議案第 8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用 弁償に関する条例の一部を改正する条例	9
日程第 7 議案第 9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する 条例	10
日程第 8 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一 部を改正する条例	13
日程第 9 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例 の整理に関する条例	15
日程第10 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するた めの番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利 用に関する条例の一部を改正する条例	16
日程第11 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金 条例	17

日程第12	議案第14号	吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例	18
日程第13	議案第15号	吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	20
日程第14	議案第16号	吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例	21
日程第15	議案第17号	吉岡町渇水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例	22
日程第16	議案第18号	町道路線の認定・廃止について	23
日程第17	議案第19号	吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例	24
日程第18	議案第20号	令和6年度吉岡町一般会計補正予算(第7号)	27
日程第19	議案第21号	令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	30
日程第20	議案第22号	令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算(第4号)	32
日程第21	議案第23号	令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)	33
日程第22	議案第24号	令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算(第4号)	34
日程第23	議案第25号	令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算(第4号)	36
日程第24	諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	38
日程第25	町長施政方針		39
散会			42

○第2号(3月4日)

議事日程 第2号	43
本日の会議に付した事件	43
出席議員	44
欠席議員	44
説明のため出席した者	44
事務局職員出席者	44
開議	45
日程第1 町長施政方針に対する質問	45
日程第2 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算	70

日程第 3	議案第 27 号	令和 7 年度吉岡町学校給食事業特別会計予算	8 1
日程第 4	議案第 28 号	令和 7 年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算	8 2
日程第 5	議案第 29 号	令和 7 年度吉岡町介護保険事業特別会計予算	8 4
日程第 6	議案第 30 号	令和 7 年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算	8 7
日程第 7	議案第 31 号	令和 7 年度吉岡町水道事業会計予算	8 9
日程第 8	議案第 32 号	令和 7 年度吉岡町下水道事業会計予算	9 1
散 会			9 5

○第 3 号（3 月 6 日）

議事日程 第 3 号	9 7
本日の会議に付した事件	9 7
出席議員	9 8
欠席議員	9 8
説明のため出席した者	9 8
事務局職員出席者	9 8
開 議	9 9
日程第 1 一般質問	9 9
◇富岡大志君	9 9
◇富岡栄一君	1 2 0
◇宮内正晴君	1 2 9
◇飯島 衛君	1 3 7
◇大井俊一君	1 5 4
散 会	1 6 9

○第 4 号（3 月 7 日）

議事日程 第 4 号	1 7 1
本日の会議に付した事件	1 7 1
出席議員	1 7 2
欠席議員	1 7 2
説明のため出席した者	1 7 2
事務局職員出席者	1 7 2
開 議	1 7 3
日程第 1 一般質問	1 7 3

◇飯塚憲治君	173
◇小池春雄君	188
◇山崎守人君	205
◇坂田一広君	214
散 会	230

○第5号（3月21日）

議事日程 第5号	233
本日の会議に付した事件	235
出席議員	236
欠席議員	236
説明のため出席した者	236
事務局職員出席者	236
開 議	237
日程第 1 委員会議案審査報告（総務産業・文教厚生・予算決算 各常任委員長報告）	237
日程第 2 発議第 1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について	243
日程第 3 議案第 7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	243
日程第 4 議案第 8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	244
日程第 5 議案第 9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	244
日程第 6 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例	245
日程第 7 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例	245
日程第 8 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例	246
日程第 9 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例	246

日程第10	議案第14号	吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例	247
日程第11	議案第15号	吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	247
日程第12	議案第16号	吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例	247
日程第13	議案第17号	吉岡町渇水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例	248
日程第14	議案第18号	町道路線の認定・廃止について	248
日程第15	議案第19号	吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例	249
日程第16	議案第20号	令和6年度吉岡町一般会計補正予算(第7号)	249
日程第17	議案第21号	令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	250
日程第18	議案第22号	令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算(第4号)	250
日程第19	議案第23号	令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)	251
日程第20	議案第24号	令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算(第4号)	251
日程第21	議案第25号	令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算(第4号)	252
日程第22	議案第26号	令和7年度吉岡町一般会計予算	252
日程第23	議案第27号	令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算	252
日程第24	議案第28号	令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算	253
日程第25	議案第29号	令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算	253
日程第26	議案第30号	令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算	254
日程第27	議案第31号	令和7年度吉岡町下水道事業会計予算	254
日程第28	議案第32号	令和7年度吉岡町下水道事業会計予算	255
日程第29	議会運営委員会の閉会中の継続調査の申し出について		255
日程第30	総務産業常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について		255
日程第31	文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について		255
日程第32	議会広報常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について		255
日程第33	予算決算常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について		255
日程第34	議会議員の派遣について		256
	町長挨拶		256

閉 会.....2 5 7

令和7年第1回吉岡町議会定例会会議録第1号

令和7年3月3日（月曜日）

議事日程 第1号

令和7年3月3日（月曜日）午前9時30分開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 発委第 1号 吉岡町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・討論・表決)
- 日程第 4 発議第 1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について
(提案・質疑・付託)
- 日程第 5 議案第 7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第 6 議案第 8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第 7 議案第 9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第 8 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第 9 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第10 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第11 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第12 議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例
(提案・質疑・付託)
- 日程第13 議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一

部を改正する条例

(提案・質疑・付託)

日程第14 議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例

(提案・質疑・付託)

日程第15 議案第17号 吉岡町渇水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例

(提案・質疑・付託)

日程第16 議案第18号 町道路線の認定・廃止について

(提案・質疑・付託)

日程第17 議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例

(提案・質疑・付託)

日程第18 議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算(第7号)

(提案・質疑・付託)

日程第19 議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)

(提案・質疑・付託)

日程第20 議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算(第4号)

(提案・質疑・付託)

日程第21 議案第23号 令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)

(提案・質疑・付託)

日程第22 議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)

(提案・質疑・付託)

日程第23 議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算(第4号)

(提案・質疑・付託)

日程第24 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について

(提案・質疑・討論・表決)

日程第25 町長施政方針

(演述)

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（13人）

1番	山崎守人君	2番	春山和久君
4番	大井俊一君	5番	秋山光浩君
6番	宮内正晴君	7番	小林静弥君
8番	富岡栄一君	9番	飯塚憲治君
10番	富岡大志君	11番	坂田一広君
12番	飯島衛君	13番	小池春雄君
14番	廣嶋隆君		

欠席議員（1人）

3番 藤多ゆかり君

説明のため出席した者

町長	柴崎徳一郎君	副町長	高田栄二君
教育長	山口和良君	総務課長	小林康弘君
企画財政課長	齋藤智幸君	住民課長	一倉哲也君
健康福祉課長	永井勇一郎君	産業観光課長	渡部英之君
建設課長	大澤正弘君	税務会計課長	中澤礼子君
上下水道課長	岸一憲君	教育委員会事務局長	米沢弘幸君

事務局職員出席者

事務局長 福島良一 主任 関浩己

開会・開議

午前9時30分開会・開議

議長（廣嶋 隆君） 皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員数は13名です。定足数に達していますので、令和7年第1回吉岡町議会定例会を開会します。

これから本日の会議を開きます。

町長挨拶

議長（廣嶋 隆君） 町長より発言の申入れがありましたので、これを許可します。

柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 皆さん、おはようございます。

令和7年第1回吉岡町議会定例会の開会に当たりまして、ご挨拶申し上げます。

さて、本日、令和7年第1回定例議会が議員各位の出席の下、開会できますことに、感謝と御礼を申し上げます。

本定例会では、条例関係12件、令和6年度の補正予算関係6件、令和7年度の当初予算関係7件、諮問1件の合わせて27件を予定しております。いずれも重要な案件でございますので、ご審議を賜りご決定くださいますようお願い申し上げます。開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。

本日は大変お世話になります。よろしく申し上げます。

諸般の報告

議長（廣嶋 隆君） 次に、諸般の報告をいたします。

お手元に配付してある書面のとおりです。これをもって諸般の報告といたします。

議事日程（第1号）により会議を進めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

議長（廣嶋 隆君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、吉岡町議会会議規則第119条の規定により、議長において、8番 富岡栄一議員、9番 飯塚憲治議員を指名します。

日程第2 会期の決定

議長（廣嶋 隆君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

会期については、議会運営委員会に付託してありますので、小池春雄委員長より委員長

報告を求めます。小池委員長。

[議会運営委員会委員長 小池春雄君登壇]

議会運営委員長（小池春雄君） 報告いたします。

令和7年2月21日金曜日、午前9時半から全員協議会室において、委員全員、議長、執行側からは町長、副町長、教育長、関係課長、局長の出席の下、議会運営委員会を開催し、令和7年第1回定例会の会期及び日程について協議を行いました。

協議の結果、本定例会の会期は、3月3日から3月21日までの19日間とすることに決定しました。議事日程は3月3日が当初予算以外の議案等の提案、質疑、付託及び町長施政方針、4日が施政方針に対する質問、当初予算の議案等の提案、質疑、付託です。3月6日、7日が一般質問、3月21日が委員長報告、討論、表決となります。

なお、会期の日程の詳細につきましては、お手元に配付のとおりであります。

議長（廣嶋 隆君） 委員長報告が終わりました。

小池委員長、自席にお戻りください。

お諮りします。

ただいまの委員長報告のとおり、会期を3月3日から3月21日までの19日間としたいと思います。これにご異議ございませんか。

[「異議なし」の声あり]

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、会期は3月3日から3月21日までの19日間と決定しました。

なお、日程はお手元に配付したとおりです。

日程第3 発委第1号 吉岡町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第3、発委第1号 吉岡町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提出者の議会運営委員会小池春雄委員長に提案説明を求めます。小池委員長。

[議会運営委員会委員長 小池春雄君登壇]

議会運営委員長（小池春雄君） それでは、発委第1号 吉岡町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例の提案説明を行います。

提案理由は、刑法の改正により罰則に関わる刑の種類について区分の整理を行い、経過措置を定めるとともに、番号利用法の改正により、条項ずれ対応及び字句等の整理のため所要の改正を行うものでございます。

新旧対照表をご覧ください。

まず初めに、番号利用法の改正に伴う条項ずれ対応は、1ページの第2条第10項中の旧「第2条第8項」を新「第2条第9項」に改めるもの及び2ページの表中の旧「第2条第9項」を新「第2条第10項」に改めるものが対象となります。

次に、刑法の改正に伴う対応は、6ページの第54条から第56条までの旧「懲役」を新「拘禁刑」に改めるものが対象となります。

その他の改正は字句等の整理となります。

続きまして、議案書をご覧ください。

2ページの下段にある附則の施行日をご覧ください。

この条例は、令和7年4月1日から施行するものでありますが、第54条から第56条までの改正規定は、令和7年6月1日から施行するものであります。

以上、提案理由の説明とさせていただきます。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

小池委員長は自席にお戻りください。

ただいま議題となっております発委第1号は、委員会発議でありますので、吉岡町議会会議規則第37条第2項の規定により委員会付託を行いません。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより起立によって採決を行います。

発委第1号 吉岡町議会の個人情報保護に関する条例の一部を改正する条例を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議 長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、発委第1号は原案のとおり可決されました。

日程第4 発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について

議 長（廣嶋 隆君） 日程第4、発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出についてを議題とします。

提出者の藤多ゆかり議員が欠席のため、賛成者である春山和久議員に提案理由の説明を

求めます。春山議員。

〔2番 春山和久君登壇〕

2 番（春山和久君） 発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について、提案理由を説明いたします。

発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出についての議案を、地方自治法第112条第2項及び吉岡町議会会議規則第13条第1項の規定により提出します。

提出者は、町議会議員藤多ゆかり、賛成者は町議会議員春山和久であります。

提案理由。

私たちは、社会全体でジェンダー平等を推進し、全ての人々が平等な権利と機会を享受できる社会を目指しております。

しかし、現実には多くの女性が差別や暴力に直面しており、その状況を改善するための具体的な対策が求められています。

このような背景から、女性差別撤廃条約（CEDAW）の選択議定書は、女性の権利保護と差別撤廃に向けた重要な枠組みを提出しています。

選択議定書は、女性が国内での法的救済を受けられない場合に国際的な救済を求めることができる制度を設けており、女性の権利を実質的に保護するための強力な手段となります。

我が国は、既に女性差別撤廃条約を批准しており、その精神に基づいて、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法を制定し、女性の権利向上に努めてきました。しかし、選択議定書の批准はいまだされていません。

選択議定書を批准することで、国際社会における我が国の責任を果たすとともに、女性の権利保護に対する国際的な信頼を高めることが重要です。また、選択議定書の批准は、国内の法制度や政策においても、女性差別撤廃の取組を一層進展させる契機となります。

女性が直面する差別や暴力の問題に対して、より効果的な対策を講じるための枠組みを強化し、全ての女性が平等な権利と機会を享受できる社会を実現するための一歩となります。

昨年12月現在、13府県を含む359の地方議会が採択し、意見書を提出しています。

私たち、基礎自治体の議会としてできることに限りはありますが、しっかりと進めていくこと、そして、それはSDGsの5番、ジェンダー平等の実現にもつながります。

以上の理由から、地方自治法第99条の規定により意見書を提出したいものです。

提出先は、内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、総務大臣、外務大臣、内閣府特命担当大臣（男女共同参画）といたしました。

以上、「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出を求める提案理由といたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

春山和久議員、自席にお戻りください。

ただいま議題となっております発議第1号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第5 議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第5、議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

本議案は、吉岡町特別職報酬等審議会の答申に基づき、議員報酬の額の見直しを行うものであります。

その他、詳細につきましては、総務課長に説明させていただきますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

まず、先ほど、町長が「吉岡町特別職報酬等審議会の答申に基づき」と申し上げましたが、議員報酬に対する方針について概要を説明させていただきます。

昨年開催された本審議会における議員報酬についての議論は、全国町村議会議長会からの要望等も考慮して行われ、議員の成り手不足の問題を解決するためにも、報酬等の額についてはおおむね増額方向での見直しを行うべきとの意見が多く出されました。

一方で、先行きが不透明な状況下において、本町の財政状況や財政調整基金の残高、他町村の状況等を考慮した場合、大幅な報酬額の引上げについては慎重に対応すべきではないかという意見もございました。

これらを踏まえ、引上げ額につきましては、平成31年に開催された前回の本審議会以

降の物価変動が反映された直近の令和6年の消費者物価の指数に準拠することが妥当であるとの方向性が出され、令和7年1月に令和6年の当該指数が108.5に確定しましたので、8.5%の議員報酬の額の引上げといたしました。

なお、この8.5%の改定率により、報酬額を算定する際に、100円未満を四捨五入すると改定率が8.5%を下回る場合がありますので、100円未満については繰上げとしています。このため、改定率については、役職により8.5%から8.9%となっています。

概要説明書をご覧ください。

まず、別表第1中の議員報酬の月額についてですが、議長を2万6,000円増の32万6,000円に、副議長を2万円増の25万4,000円に、常任委員長を1万9,000円増の24万1,000円に、常任副委員長を1万9,000円増の23万5,000円に、運営委員長を1万9,000円増の24万1,000円に、運営副委員長を1万9,000円増の23万5,000円に、議員を1万9,000円増の23万1,000円にそれぞれ引き上げるものでございます。

続きまして、附則の関係として、施行期日については、令和7年4月1日からの施行としています。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第7号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第6 議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第6、議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

本議案は、県内町村等の状況その他社会情勢の変化に鑑み、非常勤特別職の報酬の額について見直しを行うものであります。

その他、詳細につきましては、総務課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可
決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

非常勤特別職の報酬の額につきましては、前回の全体見直しから10年が経過したこと
から、県内町村等の状況や近年の物価や賃金の上昇等の社会情勢の変化に鑑み、報酬額の
見直しを行うものであります。

概要説明書をご覧ください。

まず、1 報酬額の見直し（別表関係）ですが、こちらは、別表に掲げる非常勤特別職
のうち、監査委員（議員）を1万8,000円増の16万5,000円、監査委員（識見
を有する者）を2万6,000円増の19万8,000円、教育委員会委員を1万2,0
00円増の17万6,000円、学校医を1校につき14万7,600円の固定額に、さ
らに、その従事する学校に在籍する児童または生徒1人につき100円を乗じて得た額を
加算した額とするものとし、産業医を10万8,600円増の16万円にそれぞれ引き上
げるものとなります。

続きまして、2 技術的改正（別表関係）については、学校薬剤師の報酬に係る部分に
ついて、学校医の規定に合わせて整理をするものです。

最後に、附則の関係として、施行期日については、令和7年4月1日からの施行として
います。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第8号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第7 議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

議 長（廣嶋 隆君） 日程第7、議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正す
る条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例に

ついて、提案理由の説明を申し上げます。

本議案は、令和6年人事院勧告に鑑み、一般職の職員の給料月額の上上げ、扶養手当の見直し、通勤手当その他諸手当の支給要件の拡大等のため、所要の改正を行うものであります。

その他、詳細につきましては、総務課長に説明させていただきますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

まず、令和6年の給与勧告の概要についてですが、給与のアップデートといたしまして、月例給、期末勤勉手当の支給率のほか、通勤手当や地域手当などの諸手当にも上上げや見直しを含んだものとなっており、民間企業の状況を反映して、約30年ぶりとなる高水準のベースアップとなっております。

1月に開催いただいた臨時会では、当該勧告の中で先行実施とされる一般職の給料月額、期末手当及び勤勉手当を引き上げるための改正を行いました。

今回の条例改正では、それ以外の給料月額の最低水準の上上げ、ライフスタイルの多様化を踏まえた、通勤手当等の上上げやその他諸手当の見直し等を行うものであります。

それでは、概要説明書をご覧ください。

本条例は、吉岡町職員の給与に関する条例、吉岡町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例、吉岡町一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例、地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例及び附則にて改正いたします吉岡町職員の育児休業等に関する条例を条立てで改正する整備条例となっております。

まず、1 吉岡町職員の給与に関する条例の一部改正、第1条による改正関係としまして、令和7年4月以降のフレックスタイム制のさらなる柔軟化に伴う日割計算に係る引用規定の改正を行うものであります。

続いて、扶養手当の見直しとして、扶養手当の対象者から配偶者を廃止し、子に対する手当月額を1人につき1万3,000円に増額するものとなります。

続いて、(3) 通勤手当の支給要件の拡大、そして(4) 通勤手当の支給額の上上げとしまして、新幹線鉄道等に係る通勤手当の要件のうち、通勤事情の改善に相当程度資するものという要件を廃止し、新たに採用した者にも新幹線鉄道等に係る通勤手当の支給をすることとするもの及び1か月当たりの交通機関等に係る通勤手当の限度額を15万円とするものであります。

(5) 単身赴任手当の支給要件の拡大としまして、こちらにつきましても、基準に照らし、新たに採用した者にも単身赴任手当を支給することとするものであります。

(6) フレックスタイム制の柔軟化に伴う時間外勤務手当の支給要件に係る改正としまして、(1)と同様に、フレックスタイム制のさらなる柔軟化の対応を行うものであります。

(7) といたしまして、時間外勤務手当が支給されない管理職員が、週休日等または平日深夜に臨時または緊急の業務に従事した場合に支給される管理職特別勤務手当の支給対象時間を午後10時から翌日の午前5時までと拡大するものでございます。また、週休日等のみであった規則に定める勤務をした場合の当該手当の割増しの要件を週休日等以外でも適用とするものです。

(8) につきましては、定年前再任用短時間勤務職員に住居手当を適用とするものです。

(9) 一般職の職員の給料表の改正、別表第1関係となりますが、新旧対照表の10ページからとなります。こちらは、3級から6級の初号近辺の号給をカットし、初号の額を引き上げるものとなります。

(10) 技術的改正としましては、条項ずれ対応及び字句の整理を行うものとなります。

続いて、2 吉岡町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正、第2条による改正関係としまして、こちらは技術的改正となりまして、第1条による吉岡町職員の給与に関する条例の改正に伴う字句の整理を行うものとなります。

3 吉岡町一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部改正、第3条による改正関係となりますが、こちらは吉岡町職員の給与に関する条例の改正に伴う字句の整理を行うものとなります。

続いて、4 吉岡町一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部改正、第4条による改正関係としまして、(1)から(3)までを一括して説明いたしますと、特定任期付職員業績手当を廃止し、特定任期付職員に勤勉手当を適用することとするものでありまして、期末手当の率を100分の95、勤勉手当の率を100分の87.5とするものであります。(4)は技術的改正となりまして、本条例による改正に伴う条項ずれ対応を行うものであります。

5 地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部改正、第5条による改正関係としまして、職員の定年引上げ等のため令和4年に公布いたしました当該条例の附則を暫定再任用職員に住居手当を適用するため、改正するものであります。また技術的改正としまして、地方公務員法の一部を改正する法律の一部を改正する法律の施行による条項ずれ対応を行うものであります。

6 吉岡町職員の育児休業等に関する条例の一部改正、附則第6条による改正関係とい

たしまして、こちらは第1条による吉岡町職員の給与に関する条例の改正に伴う字句の整理を行うものとなります。

最後に、6 施行期日等となります。施行期日は、令和7年4月1日となります。ただし、第3条による吉岡町一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部改正は、公布の日とし、イとなりますが、その第3条による改正後の規定は、令和6年4月1日から適用するものとなります。

(2) 号給の切替え附則第2条及び附則別表関係としまして、改め文7ページからの記載となりますが、給料表の改定に伴い、施行日前にその者が受けていた級と号給に応じ、附則別表に定める号給へ切り替えるものとなります。

(3) 附則第3条関係としまして、子及び配偶者に係る扶養手当の引上げまたは廃止を2年間で段階的に行うものとなります。

(4) 附則第4条関係としまして、新規採用の職員のみならず、既存職員にも通勤手当及び単身赴任手当を支給することとするものでございます。

(5) 附則第5条は規則へ委任することとするものでございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

議 長(廣嶋 隆君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長(廣嶋 隆君) 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第9号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第8 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例

議 長(廣嶋 隆君) 日程第8、議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長(柴崎徳一郎君) 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

本条例はフレックスタイム制の柔軟化及び育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律及び次世代育成支援対策推進法の一部を改正する法律の施行に伴う所要の改正、その他字句の整理を行うものであります。

その他、詳細につきましては、総務課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可

決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

令和7年4月1日からのフレックスタイム制の柔軟化の実施に係る改正、また、少子高齢化の進展や人口減少が加速している中で、男女共に仕事と育児・介護を両立できる職場環境を整備するため、子の年齢に応じ柔軟な働き方を実現するための措置の拡充や介護離職防止のための仕事と介護の両立支援制度に関する周知の強化等を行うため、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律及び次世代育成支援対策推進法の一部を改正する法律が施行されたことにより、所要の改正を行うものであります。

それでは、概要説明書をご覧ください。

本条例は、吉岡町職員の勤務時間休暇等に関する条例及び吉岡町職員の育児休業等に関する条例を条立てで改正する整備条例となっております。

1 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正、第1条による改正関係としまして、（1）では、育児のための早出遅出勤務、時間外勤務の制限等の制度について、フレックスタイム制の柔軟化に伴い、対象となる子の定義の見直しを行うものであります。

続いて、（2）としまして、育児のため、所定外労働時間を超えた勤務を制限することを請求できる職員の範囲を3歳に満たない子から小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員に拡大するものであります。

（3）新第17条の2及び新第17条の3関係としまして、介護休暇の取得に係る意向確認、職員に対する制度の周知、介護両立支援制度に関する措置を規定するものとなります。

（4）は技術的改正となり、本条例による改正に伴う字句の整理を行うものとなります。

2 吉岡町職員の育児休業等に関する条例の一部改正、第2条による改正関係としまして、こちらは、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴う条項ずれ対応を行うものとなります。

3 施行期日等といたしまして、施行期日は令和7年4月1日となります。また、附則第2条関係としまして、3歳から小学校の始期に達するまでの子を養育する場合において、この条例の施行の前日から時間外勤務の制限を請求することができるものとするものでございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第10号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第9 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

議 長（廣嶋 隆君） 日程第9、議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

本議案は、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う改正、その他所要の改正を行おうとするものです。

その他、詳細につきましては、総務課長に説明させていただきますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

刑法等の一部を改正する法律が施行されることに伴いまして、懲役及び禁錮が廃止され、これらを一本化した拘禁刑が創設されることとなり、町の条例についても字句の修正が必要となりましたので、関係規定の改正をすること、その他所要の改正を行おうとするものであります。

それでは、概要説明書をご覧ください。

まず、第1条による改正関係としまして、吉岡町職員の給与に関する条例の一部改正については、期末手当を支給しないまたは支給を一時的に差し止める者について定める要件のうち、禁錮以上の刑としている部分について、刑罰の区分を拘禁刑とするものであります。

続きまして、第2条による改正関係としまして、吉岡町情報公開・個人情報保護審査会条例の一部改正については、審査会の委員に課せられる守秘義務に違反して秘密を漏らした者に適用される罰則において、刑罰の区分を拘禁刑とするもの、その他字句の修正を行うものであります。

続きまして、第3条による改正関係としまして、吉岡町消防団条例の一部改正について

は、消防団員となれない者について定める要件のうち、禁錮以上の刑としている部分について、刑罰の区分を拘禁刑とするものであります。

続きまして、第4条による改正関係として、吉岡町行政不服審査会条例の一部改正については、審査会の委員に課せられる守秘義務に違反して秘密を漏らした者に適用される罰則において、刑罰の区分を拘禁刑とするもの、その他字句の修正を行うものであります。

次のページにお進みください。

第5条による改正関係として、吉岡町個人情報保護法施行条例の一部改正については、情報保護法施行条例の施行前に収集されていた個人情報について漏えい等をさせた者に適用される処罰に係る経過措置について、刑罰の区分を拘禁刑とするものであります。

最後に、附則の関係として、施行期日については、刑法等の一部を改正する法律の施行日である令和7年6月1日としております。

また、経過措置として、この条例の施行前にした行為に対する処罰については、施行前と同じ罰則を適用すること、この条例による改正前に他の条例が改廃された際に設けられた経過措置等により適用することとされている当該改廃前の条例の罰則規定についての読替規定を設けること、この条例の施行前に禁錮以上の刑が定められている罪につき起訴された者に対して吉岡町職員の給与に関する条例における期末手当の不支給、または一時差止めの規定を適用する場合の読替規定を設けることとしております。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第11号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第10 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第10、議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番

号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るためのデジタル社会形成基本法等の一部を改正する法律（令和6年法律第46号）の施行に伴い、所要の改正を行うものでございます。

その他、詳細につきましては、企画財政課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

概要説明書をご覧ください。

1の技術的改正（第2条関係）は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴う条項ずれ対応を行うものであります。

2の施行期日（附則関係）は、令和7年4月1日であります。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第12号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第11 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第11、議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例について、提案理由の説明を申し上げます。

議案書2ページに提案理由がございますが、この案を提出いたしますのは、ふるさと納税型クラウドファンディングに係る寄附金について、基金を設置して適正に管理するため、本条例を制定するものでございます。

詳細につきましては、企画財政課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 議案第13号の町長の補足説明をさせていただきます。

吉岡町では、令和2年度よりクラウドファンディングを行い数年経過しました。引き続き、事業活動に伴う財源確保としてクラウドファンディングの提案を各課から募集し、特定の事業の実施に係る有効な財源確保を行いたいと考えております。そのため、頂いた寄附をより適正かつ効果的に活用するため、本条例にて基金の管理に関する事項を定めるものでございます。

制定の内容でございますが、基金の設置に関する規定を第2条に置き、以降、第3条は積み立てる額を毎会計年度の予算の定めによることとし、第4条は確実かつ有利な方法による現金の管理を、第5条から第7条においては運用及び処分に関し規定するものでございます。

その他、所要の事項を規定し、施行期日を令和7年4月1日からとするものでございます。

以上、町長の補足説明でございます。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第13号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第12 議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例

議 長（廣嶋 隆君） 日程第12、議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

本条例は、宅地造成及び特定盛土等規制法、通称、盛土規制法による盛土等による災害の防止に関する規制が適用されること及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う所要の改正、その他字句の整理を行うものであります。

その他、詳細につきましては、住民課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可

決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 一倉住民課長。

〔住民課長 一倉哲也君発言〕

住民課長（一倉哲也君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

概要説明書の1ページをご覧ください。

概要の1. 盛土規制法と重複する土砂等による埋立て等に関する規制の整理（第1条による改正）については、令和7年5月26日から、吉岡町の全域が盛土規制法第10条に規定する宅地造成等工事規制区域に指定され、盛土規制法による盛土等による災害の防止に関する規制が適用されることに伴い、条例による災害の防止及び土壌汚染の防止に関する規制のうち、盛土規制法と重複する災害の防止に関する規制を廃止するとともに、土壌汚染の防止に関する規制を継続するため、所要の規定の整理を行うものです。

具体的には、下記の（1）埋立て等による災害の防止を目的とする規定の削除、第1条、第4条、第5条第2項、第10条第1項及び第3項、第17条第1項並びに第22条関係といたしまして、条例の規制目的から災害の防止を除外するため、関係規定を削除するもの。

（2）小規模特定事業から小規模埋立等事業への改正といたしまして、条例の規制対象となる事業を「災害の防止及び土壌汚染の防止のための規制を行う小規模特定事業」から「土壌汚染の防止のための規制を行う小規模埋立等事業」とするため、概要説明書1ページのアから2ページのチまでに記載の各規定を改正するもの。

2ページの（3）小規模特定事業に関する規定の削除といたしまして、災害の防止及び土壌汚染の防止を目的とする小規模特定事業に関する規定のうち、土壌汚染の防止の目的を含まない2ページのアから3ページのケまでに記載の各規定を削除するもの。

3ページの（4）技術的改正、第2条第1号、第3条及び第10条第2項関係といたしまして、その他字句の整理を行うものであります。

次に、2. 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う所要の改正（第2条による改正）については、第27条及び第28条関係といたしまして、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴い、懲役及び禁錮が廃止され、これらに代えて拘禁刑が新設されることに伴い、所要の改正を行うものであります。

最後に、3の施行期日等については、（1）施行期日（附則第1項関係）といたしまして、本条例の施行日について、盛土規制法と重複する土砂等による埋立て等に関する規定の整理を行う第1条による改正については令和7年5月26日とし、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う所要の改正を行う第2条による改正については令和7年6月1日とするもの。

(2) 小規模特定事業に関する経過措置（附則第2項関係）といたしまして、令和7年5月26日時点において、現に受けている小規模特定事業の許可等は、完了、廃止等により終了するまでの間は、なおその効力を有するものとし、盛土規制法による工事の許可を要する変更の許可及び災害を防止するため緊急の必要があると認めるときの措置命令に関する規定を除き、当該許可に係る小規模特定事業に関する旧条例の規定の適用については、なお従前の例によるものとするもの。

(3) 罰則の適用に関する経過措置（附則第3項関係）といたしまして、令和7年5月31日以前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例によるものがあります。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第14号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第13 議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第13、議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

本議案は、国が定める家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準（平成26年厚生労働省令第61号）の改正に伴い、所要の改正を行うものであります。

その他、詳細につきましては、健康福祉課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

議案名及び提案理由は、先ほど町長が申し上げたとおりでございます。

条例の主な改正点について、概要説明書の概要欄をご覧ください。

概要の1として、家庭的保育事業等の施設における栄養士の配置基準の見直しに関する改正でございます。

これは、栄養士法の改正により、栄養士免許を取得せずとも管理栄養士となることが可能になることを受け、家庭的保育事業等の施設の運営等に当たり栄養士を配置することとされていた部分に、栄養士免許を有しない管理栄養士を新たに加えるものでございます。

議案書の1ページにお戻りください。

附則の施行期日について、この条例は令和7年4月1日から施行するものでございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第15号は、文教厚生常任委員会に付託します。

日程第14 議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第14、議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

小口資金の融資条件について、県制度融資の借換制度の継続に伴う群馬県小口資金融資促進制度要綱の改正を受けたことによる条例の改正を行うため、吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正することにつきまして、議会の議決を求めるものでございます。

詳細につきましては、産業観光課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） それでは、議案第16号につきまして、町長の補足説明をさせていただきます。

群馬県では、小口資金の返済負担の軽減策として、群馬県小口資金融資促進制度要綱に基づく資金の既往債務について、令和6年度までに融資申込みがあった場合に限り、要綱に基づく融資により借換ができるものとしております。今般、その申込み期間を1年間延

長し、令和7年度末まで継続することになったものでございます。

条例制定当初の附則につきまして、第2項中の「令和7年3月31日」を「令和8年3月31日」に改めることにより、令和7年度中の借換えに対応するものとなります。

附則といたしまして、本条例は令和7年4月1日から施行するものでございます。

以上で、町長の補足説明とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第16号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第15 議案第17号 吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例

議 長（廣嶋 隆君） 日程第15、議案第17号 吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第17号 吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

昭和62年に制定した吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例に関して、基金残高がゼロになる見込みのため、基金の清算に伴い、条例を廃止するものであります。

詳細につきましては、建設課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

上越新幹線榛名トンネルの掘削工事に伴う湧水対策の補償金として、日本鉄道建設公団から支払われた4億9,815万4,000円を基金とし、吉岡町湧水対策施設の維持管理費に財源を充当しておりましたが、このたび、基金残高がゼロになる見込みです。

したがって、基金の全部を処分し清算することに伴い、吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止するものでございます。

附則としまして、令和7年4月1日より施行します。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第17号は、総務産業常任委員会に付託します。

ここで休憩を取ります。再開を10時45分とします。

午前10時28分休憩

午前10時45分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

日程第16 議案第18号 町道路線の認定・廃止について

議長（廣嶋 隆君） 日程第16、議案第18号 町道路線の認定・廃止についてを議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第18号 町道路線の認定・廃止について、提案理由の説明を申し上げます。

道路法に基づき、町道の認定及び廃止により道路網の整備を行うためでございます。

主に、民間・開発事業に伴う寄附道路の申請に伴い、他の路線も含め、道路網の整備を行うものでございます。

詳細につきましては、建設課長に説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

最初に、町道の認定路線について、資料の町道路線認定調書の1ページから3ページをご覧ください。

こちらの表は、町道認定路線の一覧表で、路線番号と路線名はそれぞれ個別の認定路線を示しております。また、起点と終点は認定区間を番地で示したものです。

町道認定路線は、1ページの整理番号1・小井出21号線、整理番号2・小井出22号線、整理番号3・原14号線。2ページ目の整理番号4・畑中14号線、整理番号5・鬼ヶ橋8号線。次に、3ページ目の整理番号6・宮後9号線、整理番号7・十石塚7号線、整理番号8・田端14号線、合計で8路線でございます。

認定の理由としましては、民間開発事業による道路寄附のためでございます。

次に、資料の4ページから8ページの道路網図をご覧ください。

これらの図は、1ページから3ページの町道路線認定調書と対応しており、その路線の位置を示しております。

新規認定路線は青色のラインで着色しており、丸の中の数字は整理番号を示しております。その脇の数字は路線番号を示して、下3桁までを表示しております。

次に、廃止路線について、町道路線廃止調書の1ページと2ページをご覧ください。

こちらは廃止の該当路線の一覧表で、全部で3路線ございます。路線番号と路線名はそれぞれの個別の廃止路線を示しております。起点と終点は廃止の区間を番地で示したものでございます。

整理番号1番・北下東原2号線と2番・北下東原4号線については民間開発に伴う用途廃止、整理番号3・下町3号線については、民間調査の結果、私道と判明したため、町道を廃止するものでございます。

続いて、3ページと4ページの道路網図をご覧ください。

廃止は3路線で、黄色のラインで着色しており、1ページから2ページの路線廃止調書と対応しております。

なお、次のページ以降は参考資料の位置図です。道路網図では場所が分かりづらいときに活用いただき、確認をお願いいたします。

なお、今回の更新後の町道認定につきましては、路線数は1,684路線、総延長は暫定で32万2,377メートルとなります。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第18号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第17 議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例

議 長（廣嶋 隆君） 日程第17、議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明を申し上げます。

農業集落排水事業区域の公共下水道区域への統合に伴い、新規負担区の追加及び受益者負担金の単価を定めること、その他所要の改正を行うことに伴い、条例の一部を改正することにつきまして議会の議決を求めるものでございます。

概要につきましては、上下水道課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） それでは、議案第19号につきまして、概要説明書により説明をさせていただきます。

議案名及び提案理由については、先ほど町長が申し上げたとおりでございます。

まず、概要の1としまして、下水道事業の負担区への新規負担区の追加ですが、下水道事業の負担区に新たに第9負担区を追加することに伴い、負担区の区域について必要な事項を定めるものでございます。

次に、概要の2、第9負担区に係る受益者ですが、第9負担区の受益者については、当該負担区に存する建物の所有者とするものですが、使用貸借権等の目的となっている建物にあっては、原則として使用貸借権を有する者としております。

続いて、概要の3、負担区の変更の公告についてですが、負担区を変更した場合の公告について追加するものです。

次に、概要の4、第9負担区に係る受益者負担金の算定方法ですが、第9負担区に係る負担金の額を1単位ごとに29万円とするものです。

続いて、概要の5、第9負担区における単位の決定ですが、第9負担区の単位数は、（1）1棟の建築物において1世帯が生活を営む場合は、1単位とする。（2）アパートその他の集合住宅の場合は、2世帯につき1単位とする。（3）上記以外の場合は、排水設備の設置状況及び使用状況を勘案し、町長がその都度定めることとするものでございます。

次に、概要の6、賦課対象区域の公告時期の見直しですが、負担金を賦課しようとする区域を定めたときは、当該区域を公告することとする。

続いて、概要の7、第9負担区に係る受益者負担金の賦課ですが、第9負担区に係る負担金は賦課対象区域の公告が行われた日に、現に当該区域内に存する建物及び当該公告の日以後に公共下水に汚水を排除しようとする建物に係る受益者に賦課するものとするほか、賦課するに当たり必要な事項について定めるものでございます。

次に、概要説明書の2ページになりますが、概要の8、第9負担区の追加に伴う規定の整理ですが、(1)第1負担区から第8負担区までの受益者に適用される規定について、第9負担区の受益者を除くための規定を整理するもの。

(2)全ての受益者に適用される規定に係る整理として、負担金の徴収猶予、適用除外及び減免の要件について第9負担区の受益者に係る建物を追加するものです。

次に、概要の9は技術的改正であり、(1)本条例による改正に伴う条項ずれ対応を行うものと、(2)その他字句の整理を行うものでございます。

最後の概要の10、施行期日につきましては、(1)令和7年4月1日とします。

また、(2)経過措置として、この条例の施行の前日までに賦課された受益者負担金については、なお従前の例によるものとするものです。

以上で、概要説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議長(廣嶋 隆君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

坂田議員。

[11番 坂田一広君発言]

11番(坂田一広君) 第4条の関係についてお伺いします。

第1負担区から第8負担区までにつきましては、平米当たりの単価を決めまして、その受益者の方が保有する土地の面積によって受益者負担金の額が決定されたわけでありまして、第9負担区に関しましては、1単位当たり29万円と一律に定められているわけでありまして、この違いの生じた理由についての説明をお願いします。

議長(廣嶋 隆君) 岸上下水道課長。

[上下水道課長 岸 一憲君発言]

上下水道課長(岸 一憲君) 議員のおっしゃるとおり、これまでの公共下水道の受益者については、受益面積でもって単価を決めさせていただいておりました。しかし、今回の農業集落排水施設事業のほうの区域の方については1単位ごととすると。

こちらについては、現在の農業集落排水の受益者分担金が1単位29万円でございます。この辺も、いろいろこちらのほうも調査、県内でも同じような事例がございます。その辺も考慮することと、また、新たに今回、上野田地区は編入になりますけれども、北下・南下地区あるいは小倉地区については来年、1年後に、またさらに2年後に編入されてくると。それまでこの29万円というものがまだ生きておりますので、その辺も考慮させていただいて、今まで使っておりました農業集落排水の単位、単価を、採用させていただいたという次第でございます。

議長(廣嶋 隆君) ほかにありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第19号は、総務産業常任委員会に付託します。

日程第18 議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）

議長（廣嶋 隆君） 日程第18、議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）について、提案理由の説明を申し上げます。

本補正は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ1億8,448万2,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ9億7,371万8,000円とするものです。

今回の補正の主な内容ですが、歳入は、町民税や軽自動車税（環境性能割）で現在の収入実績などを勘案した増額、国の補正予算による地方交付税の増額、歳出における各種事業費の変更に伴う国及び県負担金や補助金の補正、各種町債の補正などとなっております。

本補正における歳入歳出全体の共通事項として、年度末を迎えての各事業の計数整理による補正となっております。

その他、繰越明許費、地方債の補正など、詳細につきましては企画財政課長に説明させていただきますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）の議案書1ページをご覧ください。

第1条第1項の歳入歳出予算の補正額については、町長が提案理由の中で申し上げたとおりでございます。

第2条については、繰越明許費の補正で、「第2表・繰越明許費補正」によるということで、7ページをご覧ください。

繰越明許費の追加です。

1段目、2款総務費1項総務管理費、公共交通基礎調査業務190万円は、新駅の需要量調査に不測の期間が生じたため、翌年度に繰り越すものです。

2段目、3款民生費1項社会福祉費、障害福祉システム改修委託業務78万4,000

円は、システム改修後のリリース時期が年度をまたぐ可能性があるため、翌年度へ繰り越すものです。

3 段目、6 款農林水産業費 1 項農業費、漆原天神東公園基本構想修正業務 4 9 万 5, 0 0 0 円は、基本構想の修正に不測の期間を要したため、翌年度へ繰り越すものです。

4 段目、7 款商工費 1 項商工総務費、駒寄スマート I C 産業団地基本計画等策定業務 5, 1 5 9 万 8, 0 0 0 円は、事業予定区域の検討や関係機関との調整等に不測の日数を要したため、翌年度に繰り越すものです。

5 段目、8 款土木費 2 項道路橋梁費、渋川吉岡連携道路事業 6 1 2 万 9, 0 0 0 円は、国補正予算の補助金により事業を実施するため、事業期間の確保が必要になり、年度内の完了が困難となったため、翌年度に繰り越すものです。

6 段目、4 項都市計画費、都市計画道路漆原総社線新設事業 3, 0 8 4 万 1, 0 0 0 円は、地権者との交渉に不測の日数を要したため、翌年度へ繰り越すものです。

同じく 7 段目、漆原天神東公園基本計画策定業務 2 8 9 万 3, 0 0 0 円は、基本計画の策定に不測の期間を要したため、翌年度に繰り越すものです。

8 段目、1 0 款教育費 2 項小学校費、駒寄小学校校庭拡張工事設計及び開発申請委託業務 2, 3 4 1 万 9, 0 0 0 円は、設計業務に合わせて開発申請が必要となる事業であり、現況確認及び県との協議に当初の想定より時間を要したため、翌年度に繰り越すものです。

9 段目、3 項中学校費、吉岡中学校音楽備品購入事業 1 3 2 万 2, 0 0 0 円は、クラウドファンディングの寄附金を活用して、吹奏楽部の楽器を購入する事業であり、楽器の特性上、納期までに数か月を要する可能性があることから、年度内の完了が困難となったため、翌年度へ繰り越すものです。

同じく 1 0 段目、吉岡中学校校庭拡張事業 5, 6 5 2 万 9, 0 0 0 円は、国の補助金対象であることから発注時期を検討し、また、工事に対する生徒等への影響を学校側と調整するのに当初の想定より時間を要するため、翌年度へ繰り越すものです。

1 1 段目、4 項社会教育費、駒寄スマート I C 産業団地埋蔵文化財試掘確認調査支援業務 5, 1 7 0 万円は、耕作等の状況を踏まえ、当初の予定から埋蔵文化財試掘確認調査の実施期間を変更することとなり、年度内の完了が困難となったため、翌年度へ繰り越すものです。

以上が、「第 2 表・繰越明許費補正」となります。

次に、8 ページをご覧ください。

地方債の追加です。

こちらは国補正予算の補助金の活用による事業追加に伴い、追加するものです。

次に、地方債の変更です。

1行目、公共事業等債から9ページ1行目、一般事業債については、事業費の変更や補正予算に伴い変更するものです。

2行目、学校教育施設等整備事業債については、国補正予算の補助金の活用により、充当率に変更になったことなどに伴い、限度額を変更するものです。

以上が、「第3表・地方債補正」となります。

次に、歳入歳出予算補正の内容となります。

先ほど町長が提案説明でも申し上げましたが、本補正は、年度末を迎えての各事業の計数整理による補正が主となっていますので、補正増減額の大きいものなどを中心に、事項別明細書でご説明申し上げます。

まず、歳入です。

13ページをご覧ください。

1款町税1項町民税3項軽自動車税（環境性能割）は、これまでの収入実績と今後の収入見込みなどを勘案し、増額計上しました。

16ページをご覧ください。

11款1項1目地方交付税1節普通交付税1億2,182万9,000円は、国の補正予算による追加交付に伴い計上しました。

17ページ下段、15款国庫支出金から22ページ、16款県支出金3項県委託金までの補正は、歳出の各事業における増減に伴うものとなります。

主なものについて説明いたします。

18ページをご覧ください。

15款国庫支出金2項国庫補助金5目土木費国庫補助金、社会資本整備総合交付金（道路改良事業）1,607万3,000円の減は、道路改良事業費の減額に伴うものです。

続いて、21ページをご覧ください。

16款県支出金2項県補助金2目民生費県補助金7節福祉医療費補助金392万円の減は、事業費の減額に伴うものでございます。

次に、23ページをご覧ください。

19款繰入金2項基金繰入金1目1節財政調整基金繰入金は、町税などの歳入の増及び歳出の減に伴う財源不足額の縮小などにより3億5,615万9,000円の減となります。

25ページをご覧ください。

22款町債の補正については、先ほどの「第3表・地方債補正」のとおり、2目土木債の事業費の減、4目教育債の事業の増などに伴うものでございます。

次に、歳出の主な増減内容です。

45ページをご覧ください。

8款土木費2項道路橋梁費3目道路新設改良費18節負担金、補助及び交付金490万8,000円の増は、国補正予算に伴う渋川吉岡連携道路事業負担金の増等によるものでございます。

46ページをご覧ください。

8款土木費5項住宅費1目住宅管理費14節工事請負費1,860万1,000円の減は、町営住宅北下団地北棟解体工事の皆減によるものでございます。

52ページをご覧ください。

10款教育費3項中学校費2目教育振興費17節備品購入費132万2,000円は、学習用教材の購入などに伴う計上でございます。

以上が、歳出の主な補正内容となります。

57ページから61ページは、給与費明細書となっております。

最後の62ページは、地方債の令和4年度末及び令和5年度末における現在高並びに令和6年度末における現在高の見込みに関する調書となります。

また、補正予算書とは別に、説明資料を添付させていただきました。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第20号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第19 議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

議 長（廣嶋 隆君） 日程第19、議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について、提案理由の説明を申し上げます。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,093万7,000円を増額し、歳入歳出それぞれ19億6,191万2,000円とするものであります。

補正の主な内容につきましては、基金繰入金の減額及び前年度分の精算金の増額に伴う

ものになります。

なお、詳細につきましては、住民課長に説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 一倉住民課長。

〔住民課長 一倉哲也君発言〕

住民課長（一倉哲也君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

歳入歳出予算事項別明細書にて主な補正内容を説明させていただきます。

7ページ中段をご覧ください。

歳入の部、4款国庫支出金1項国庫補助金は、主に社会保障・税番号制度システム整備費補助金の増により270万2,000円を増額するものです。

5款県支出金1項県補助金1目2節保険給付費等交付金（特別交付金）は、保険者努力支援分及び県繰入金（2号分）の増により852万9,000円の増額となります。

8ページをご覧ください。

7款繰入金1項他会計繰入金1目一般会計繰入金は、主に職員給与費等繰入金の実績に伴う減により470万6,000円の減額となります。

9ページ中段をご覧ください。

7款繰入金2項基金繰入金1目国民健康保険基金繰入金1,250万8,000円の減は、現在の歳入歳出の実績を勘案し、基金からの繰入金を減額するものとなります。

9款諸収入1項延滞金及び過料1目一般被保険者延滞金681万円は、延滞金収納実績に伴い増額するものです。

10ページをご覧ください。

9款諸収入3項雑入は、主に前年度分の精算金等で1,009万7,000円を増額するものです。

続いて、11ページをご覧ください。

歳出の部、1款総務費は1項総務管理費から12ページ、4項趣旨普及費まで、実績を勘案し、合わせて155万5,000円を減額するものです。

12ページ下段をご覧ください。

2款保険給付費は1項療養諸費から13ページ、4項出産育児諸費まで、実績を勘案し、合わせて112万5,000円を減額するものです。

14ページ中段をご覧ください。

4款保健事業費は1項特定健康診査等事業費から、15ページ、2項保健事業費まで、実績を勘案し、合わせて317万3,000円を減額するものです。

15ページ中段をご覧ください。

5款1項基金積立金1目国民健康保険基金積立金は、現在の歳入歳出の実績を勘案し、積立額を722万7,000円増額するものです。

16ページをご覧ください。

7款諸支出金1項償還金及び還付加算金は、主に前年度分の保険給付費等交付金（普通交付金）の精算に伴う償還金の増によるもので、956万4,000円を増額するものです。

補足説明は以上になります。よろしく申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第21号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第20 議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）

議長（廣嶋 隆君） 日程第20、議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）について、提案理由の説明を申し上げます。

第1条では、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ8,367万6,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ15億4,037万9,000円とするものであります。

補正の主な内容につきましては、総じて事業の完了や保険給付費の現在までの執行状況に伴い予算を減額するものであります。

その他、詳細につきましては、健康福祉課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それでは、歳入歳出予算事項別明細書にて町長の補足説明をさせていただきます。

歳入の7ページをご覧ください。

1 款 1 項介護保険料につきましては、現在までの歳入執行ベースによる補正となります。続く 2 款国庫支出金から 9 ページの 4 款県支出金までは、歳出の 2 款保険給付費及び 4 款地域支援事業費の支出見込額に対応する公費等負担額の補正となります。

続いて 10 ページをご覧ください。

6 款 1 項一般会計繰入金の 1 目から 3 目までは、先ほど説明した保険給付費や地域支援事業費の補正に対応する一般会計からの繰入金の減額となります。

次の 5 目は、歳出の 12 ページ、1 款総務費 3 項介護認定審査会費及び 5 項計画策定委員会費の変更に伴う繰入金の減額となります。

続いて歳出に移ります。

12 ページをご覧ください。

1 款総務費 3 項 1 目認定調査費 88 万円の減は、現在までの委託件数による減額、2 目認定審査会共同設置負担金は審査件数等の見込みによる増額となります。

次に、12 ページから 14 ページにかけての 2 款保険給付費の減は、現在までの給付実績から勘案した決算見込額による調整となります。

続いて、14 ページの下段から 16 ページ中段にかけての 4 款地域支援事業費は、先ほどの保険給付費と同様に各種事業の執行状況から決算見込額を勘案しての減額となります。

最後に、5 款基金積立金 89 万 3,000 円の増額は、歳入の項目で説明した介護保険料及び調整交付金並びに保険給付費等に対する公費負担額の補正を反映させた結果によるものでございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第 22 号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第 21 議案第 23 号 令和 6 年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算 (第 3 号)

議 長（廣嶋 隆君） 日程第 21、議案第 23 号 令和 6 年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第 3 号）を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第 23 号 令和 6 年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算

(第3号)について、提案理由の説明を申し上げます。

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ304万4,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ2億8,842万8,000円とするものであります。

補正の内容につきましては、主に保険料歳入の増額によるものになります。

なお、詳細につきましては、住民課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長(廣嶋 隆君) 一倉住民課長。

[住民課長 一倉哲也君発言]

住民課長(一倉哲也君) それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

歳入歳出予算事項別明細書にて主な補正内容を説明させていただきます。

6ページ、歳入をご覧ください。

1款1項後期高齢者医療保険料については、調定見込額等により、1目特別徴収保険料の減、2目普通徴収保険料の増により586万8,000円を増額するものです。

2款繰入金1項一般会計繰入金1目事務費繰入金は80万9,000円の減額、2目保険基盤安定繰入金は271万5,000円を減額するものです。

7ページ中段をご覧ください。

4款諸収入4項雑入では、人間ドック補助金の支給実績を勘案し60万円を増額するものです。

8ページ、歳出をご覧ください。

1款総務費1項総務管理費1目一般管理費は、7節報償費から11節役務費まで実績に伴う減額、18節負担金、補助及び交付金、人間ドック補助金については支給実績を勘案し60万円を増額するものです。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金は、保険料等負担金の増と保険基盤安定負担金の減に伴い325万3,000円を増額するものです。

補足説明は以上になります。よろしくお願ひします。

議 長(廣嶋 隆君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

[「なし」の声あり]

議 長(廣嶋 隆君) 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第23号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第22 議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)

議 長(廣嶋 隆君) 日程第22、議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第

4号)を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長(柴崎徳一郎君) 議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)について、提案理由を申し上げます。

まず、第2条収益的収入及び支出の収入について、第1款水道事業収益を2,000万円の増額補正。

また、支出の第1款水道事業費用を68万8,000円の減額補正とするものです。

詳細につきましては、上下水道課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長(廣嶋 隆君) 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長(岸 一憲君) それでは、議案第24号につきまして、町長の補足説明をさせていただきます。

水道事業会計補正予算明細書により説明させていただきますので、議案書の11ページをご覧ください。

収益的収入及び支出の収入について、1款水道事業収益2項営業外収益2,000万円の増額は、1目消費税及び地方消費税還付金の増額で、決算期における消費税申告の見込みに基づく増額補正でございます。

次に、支出についてですが、1款水道事業費用1項営業費用68万8,000円の減額は、1目配水及び給水費31万7,000円の増額及び2目総係費100万5,000円の減額に伴うもので、その内容としましては、職員給与費関係の手当及び法定福利費等の増減による補正でございます。

そのほか、議案書の3ページにお戻りいただきますとキャッシュ・フロー計算書が、また、4ページ以降には給与費明細書等を添付しておりますので、ご確認をお願いいたします。

以上で、町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長(廣嶋 隆君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長(廣嶋 隆君) 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第24号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第23 議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）

議長（廣嶋 隆君） 日程第23、議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）について、提案理由を申し上げます。

まず、第2条収益的収入及び支出の収入について、第1款公共下水道事業収益を160万9,000円の増額。

第2款農業集落排水事業収益を9万5,000円の増額補正とするものです。

支出については、第1款公共下水道事業費用を90万1,000円の減額。

第2款農業集落排水事業費用を349万6,000円の減額補正とするものです。

続いて、第3条資本的収入及び支出の収入について、第1款公共下水道事業資本的収入を128万3,000円の増額補正。

支出については、第1款公共下水道事業資本的支出を565万6,000円の減額補正とするものです。

併せて、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額の補填財源の額についても改めさせていただきます。

詳細につきましては、上下水道課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） それでは、議案第25号につきまして、町長の補足説明をさせていただきます。

下水道事業会計補正予算明細書により説明させていただきますので、議案書の14ページをご覧ください。

収益的収入及び支出の収入について、1款公共下水道事業収益1項営業収益202万3,000円の増額は、1目下水道使用料の増額で、当初の試算より増加が見込まれることによる増額です。

続いて、2項営業外収益41万4,000円の減額は、3目長期前受金戻入で44万7,000円の減額及び5目雑収益で3万3,000円の増額に伴う減額でございます。

次に、15ページの2款農業集落排水事業収益1項営業収益14万5,000円の増額は、1目農業集落排水施設使用料の増額で、当初の試算より増加が見込まれることによ

る増額です。

続いて、2項営業外収益5万円の減額は、3目長期前受金戻入の減額に伴うものでございます。

次に、16ページの支出になります。

1款公共下水道事業費用1項営業費用117万円の減額は、1目管渠費が72万9,000円の減額、2目総係費が99万3,000円の減額、4目減価償却費が143万4,000円の減額に伴う減額でございます。

続いて、2項営業外費用26万9,000円の増額は、1目支払利息の増額に伴うものでございます。

次に、17ページの2款農業集落排水事業費用1項営業費用449万6,000円の減額は、1目管渠費が450万円の減額、2目総係費が4,000円の減額、3目減価償却費が8,000円の増額に伴う減額でございます。

続いて、2項営業外費用100万円の増額は、2目消費税及び地方消費税の増額に伴うものでございます。

次に、18ページをご覧ください。

資本的収入及び支出の収入について、1款公共下水道事業資本的収入2項負担金等128万3,000円の増額は、1目受益者負担金の増額に伴うもので、宅地開発等に伴い負担金の納付があったことにより増額補正とするものでございます。

続いて支出になります。

1款公共下水道事業資本的支出1項建設改良費565万6,000円の減額は、1目管渠建設改良費が15万円の増額、2目流域下水道建設負担金が580万6,000円の減額に伴う減額です。なお、流域下水道建設負担金は、負担額の確定に伴い減額するものでございます。

そのほか、議案書の6ページにお戻りいただきますとキャッシュ・フロー計算書が、また、7ページ以降には給与費明細書等を添付しておりますので、ご確認をお願いいたします。

以上で、町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第25号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第24 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について

議長（廣嶋 隆君） 日程第24、諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題とします。

柴崎町長に提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についての提案理由を申し上げます。

人権擁護委員の現行委員の辞任に伴い、後任候補者の推薦を行うに当たり、あらかじめ議会の意見を求めるものであります。

人権擁護委員は、人権擁護委員法に基づいて、人権相談を受けたり、人権の考え方を広めたりする活動をする民間の方で、法務大臣から委嘱されて人権擁護活動を行うものであります。

任期は、令和7年7月1日から令和10年6月30日までの3年間となっております。

意見を求めたい候補者の氏名は、佐藤昌弘さんです。住所及び生年月日については議案書に記載のとおりです。

同氏は、本町のご出身で、定年後は嘱託で勤務をしながら自治会などの地域活動にも熱心に取り組んでおられます。

今後は人権擁護委員として地域への貢献、特に高齢者や障害のある方に寄り添った活動をしたいと意欲を燃やしております。堅実かつ温厚な人柄で、地域の相談員として重要な役目を担う人権擁護委員に最適任であると考えます。

今回は、新たに人権擁護委員をお願いするものでありますが、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっております諮問第1号は、吉岡町議会会議規則第37条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思えます。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、委員会付託を省略することに決定します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより起立によって採決を行います。

諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についてを原案のとおり答申することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議 長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、諮問第1号は原案のとおり答申することに決定しました。

日程第25 町長施政方針

議 長（廣嶋 隆君） 日程第25、町長施政方針を行います。

柴崎町長は登壇して、施政方針を述べてください。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 1. はじめに。

令和7年度の施政方針を申し上げます。

まず、令和6年度を振り返ってみますと、1月1日の午後4時過ぎに発生した石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震により、大勢の方が貴い命を失い、今もなお復旧が進まず避難所生活を強いられている中、9月の記録的大雨による河川の氾濫や土砂崩れが相次ぎ、二重被災とも言える厳しい状況を目にすると、改めて自然災害への備えと危機意識の大切さを痛感させられます。

他方で、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、日本の経済は物価が持続的に下落するデフレの状況から潮目が変わってきており、2024年に入って日経平均株価が史上最高値をつけ、企業で賃上げも相次ぎ、3月にはマイナス金利政策も解除され17年ぶりの利上げもありました。世界的な情勢は依然として混迷を極めており、円安や原燃料高など不安要素は残りますが、物価が上がることで売上げが上がり、給料も上がるという好循環が生まれ、景気がよくなっていくことが期待されます。

その中で、終始、町民の安全と健康を最優先に考えつつ、イベントや町の将来を左右する事業にも積極的に取り組むなど、町の活性化にも努めてきましたが、今年度も、引き続き町民第一の思いを忘れることなく、町政運営に邁進していきたいと考えております。

2. 町政運営の方向性について。

まず、国及び県の政策動向に対応した政策運営については、昨年度同様、原材料価格の上昇や物価高騰に対する経済対策を引き続き重視してまいります。雇用政策においては、国及び県との連携をさらに強化し、地域経済の安定と成長を図るための施策を推進していく所存です。

次に、中長期的な町政運営については、第6次総合計画に基づく計画的な事務執行を継続しつつ、新たな課題が発生した際には、長期的な視点から従来の計画に柔軟に組み込んでいく考えであります。その中で特に重要な課題として挙げられるのは財源の確保です。人口増加は喜ばしいことですが、それに伴い、教育や福祉関係予算が増加し、経常経費が上昇することで予算の柔軟性が失われております。そのため、これまで以上に各事業に優先順位をつけ、効率的・効果的な実施を目指してまいります。

また、最低限行わなければならない事業に追われ、町民の要望に十分応えられない状況を防ぐためにも、財源の確保が極めて重要であると認識しております。それには、財源を獲得するための様々な方面への働きかけを強化し、地域を豊かにする政策立案にも積極的に挑む必要性があります。その実現のため、近隣市町村と緊密に連携を深めつつ、基盤整備事業や企業誘致等の取組を進め、地域経済の活性化に努めてまいります。

さらに、国土強靱化地域計画により町民の安全・安心を確保するための基盤整備を進めるとともに、地域防災計画に基づく取組を強化することにより、災害時にも迅速かつ適切な対応ができる体制を整えてまいります。

最後に、私たちの目指すべき未来は、全ての町民が安心して暮らせる地域社会の実現であります。そのためには、町民の皆様との対話を大切にし、ご意見やご要望をしっかりと受け止めながら施策を進めていくことが不可欠です。今後とも町民と共に歩む町政を目指し、一層努力してまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 令和7年度の方向性について。

第6次吉岡町総合計画を策定してから既に丸3年がたとうとしております。この計画は我々の町の将来像を描き、その実現に向けた道筋を示すものです。しかし、この間に計画どおりに進められなかった施策や新たに立ち上がった課題については、新たな目標を念頭に、町政が進むべき方向性を再認識した上で町の運営方針を定め、実行していく必要があります。

同時に、様々な問題に対し、我々は何よりもまず町民の生活を守りつつ、町の発展を図るという使命を忘れてはならないということを強く認識しております。そのため、企業誘致をはじめとした事業実施については、規模や財政状況を見据えた中で、可能な限り無駄を省きながらも、町として将来に向けて必要な投資は積極的に行ってまいりたいと考えております。

総合計画では、そのような将来のビジョンを実現するために、6つの基本目標を設定し、それらを戦略の大綱として取り組んでいます。

それでは、総合計画におけるそれぞれの大綱の令和7年度の主な取組をご説明いたします。

大綱1つ目「紡ぐ1 すべての住民に優しい健康・福祉施策の充実」では、地域の特性や福祉ニーズに応じて、各事業を効率的・効果的に実施します。主な事業として、子育て支援策として、保育料の無償化を継続しつつ、高齢者福祉策として、高齢者インフルエンザ・新型コロナウイルスワクチン定期接種を継続する中で、新たに年度年齢65歳の高齢者を対象とした、高齢者带状疱疹ワクチン定期接種を実施します。

また、待機児童対策として保育所の施設整備を行い、引き続き定員増を図ります。

大綱2つ目「紡ぐ2 「学びのまち・吉岡」の推進」では、将来のまちづくりを担う子供たち一人一人が輝き、健やかに成長できるよう、多様な学習活動を進めるとともに、導入したICT機器のさらなる活用を目指します。主な事業として、GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の整備以降、端末やバッテリーの老朽化が進んでいることから、学習用端末の更新を行います。また、吉岡中学校では、老朽化が進んでいた渡り廊下改修工事をはじめ、防犯カメラの更新工事を行い、子供たちの安全確保に努めます。

大綱3つ目「紡ぐ3 次世代につなげる生活環境の充実」では、持続可能な社会へ貢献することを前提に公共交通の利便性や定住環境の向上に努め、住民生活の質の向上を図ります。主な事業として、ごみの減量化対策として、令和6年度に補助率を大幅に引き上げた生ごみ処理機器購入補助や、資源循環及びリサイクル率向上のため令和6年8月から運営を開始した町営の資源ごみストックハウスのさらなる利用促進を図ります。

道路整備では、都市計画道路漆原総社線（第1工区）に係る用地買収及び補償を引き続き行いつつ、吉岡バイパスの延伸についても、早期の事業着手に向けて、県に対し要望してまいります。

公園整備では、漆原地区の天神東公園の再整備に当たり、用地測量を行います。

また、産業団地造成事業その他の社会情勢の変化に伴う都市計画の見直しを行いつつ、適正なまちづくりと公共交通を推進するため、「吉岡町都市計画マスタープラン」の改定を進めます。

大綱4つ目「紡ぐ4 地域産業の持続的発展支援」では、都市化が進み、商業立地が進んでいる中で、若者や女性の働く場所の創出を図るとともに、観光面での地域資源の利活用を努めます。主な事業として、駒寄スマートIC産業団地事業を推進します。また、榛東村・吉岡町合同イベントを継続します。道の駅については、天神東公園の再整備と併せて、東の玄関口としてふさわしい施設となるようリニューアルを検討してまいります。

大綱5つ目「紡ぐ5 緊急時対応への備えの充実」では、防災・防犯施策の充実を図りつつ、災害が起きても迅速に回復するしなやかさを備えるとともに、事故や犯罪の少ないまちづくりを推進します。主な事業として、防災行政無線施設の適切な維持管理を行うとともに、各自主防災組織への支援の充実を図ります。また、交通安全の向上を図るため、

交通安全施設の整備を行うとともに、犯罪防止のため、防犯灯や防犯カメラの適切な維持管理を行うほか、交通・防犯に関わる各種補助金制度を引き続き実施します。

大綱6つ目「紡ぐ6 将来を見据えた行財政運営の推進」では、住民の利便性向上と業務の合理化・効率化に向けて、さらなるデジタル化と堅実な行財政運営を推進します。主な事業として、令和8年3月期限のガバメントクラウド移行に向けて、7月からガバメントクラウド上での基幹系システムの運用を開始します。財源確保策としては、引き続きふるさと納税やクラウドファンディングによる寄附を推進していきます。

以上、町の総合計画に基づいた視点での令和7年度の方針並びに主な事業の説明とさせていただきます。

4. むすびに。

私は、町政運営の基本を「町民目線で、町民の生活を最優先に考える」こととし、「みんなで創ろう 住み続けたいまち よしおか」をスローガンに、これまでの施策運営を行ってまいりました。次のステージとして、「思いを紡ぎ、未来につなげるまちづくり 吉岡」の実現に向け、第6次総合計画の基本構想を基本に、これまでの町の取組と地域の経過を未来につなげるための取組を重視しつつ、町政全般の立案に努めてまいります。さらに、各種施策を進める際には、健全な財政運営を保ちつつ、町民目線を忘れず、新時代に対応した事業に取り組んでいきたいと考えております。

議員皆様には、特段のご支援、そして、ご助言やご提案をいただければ幸いです。

以上です。

議長（廣嶋 隆君） ただいま町長施政方針が終わりました。

この町長施政方針に対する質問は、明日3月4日火曜日の議事日程の日程第1で通告のあった3名の議員によって行います。

散 会

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、本日の日程は終了いたしました。

これにて散会とします。

午前11時53分散会

令和7年第1回吉岡町議会定例会会議録第2号

令和7年3月4日（火曜日）

議事日程 第2号

令和7年3月4日（火曜日）午前9時30分開議

- 日程第 1 町長施政方針に対する質問（別紙質問表による No.1～No.3）
- 日程第 2 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算
(提案・質疑・付託)
- 日程第 3 議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算
(提案・質疑・付託)
- 日程第 4 議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算
(提案・質疑・付託)
- 日程第 5 議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算
(提案・質疑・付託)
- 日程第 6 議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算
(提案・質疑・付託)
- 日程第 7 議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算
(提案・質疑・付託)
- 日程第 8 議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算
(提案・質疑・付託)
-

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（13人）

1番	山崎守人君	2番	春山和久君
4番	大井俊一君	5番	秋山光浩君
6番	宮内正晴君	7番	小林静弥君
8番	富岡栄一君	9番	飯塚憲治君
10番	富岡大志君	11番	坂田一広君
12番	飯島衛君	13番	小池春雄君
14番	廣嶋隆君		

欠席議員（1人）

3番	藤多ゆかり君
----	--------

説明のため出席した者

町長	柴崎徳一郎君	副町長	高田栄二君
教育長	山口和良君	総務課長	小林康弘君
企画財政課長	齋藤智幸君	住民課長	一倉哲也君
健康福祉課長	永井勇一郎君	産業観光課長	渡部英之君
建設課長	大澤正弘君	税務会計課長	中澤礼子君
上下水道課長	岸一憲君	教育委員会事務局長	米沢弘幸君

事務局職員出席者

事務局長	福島良一	主任	関浩己
------	------	----	-----

開 議

午前9時30分開議

議長（廣嶋 隆君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員数は13名です。定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

議事日程（第2号）により会議を進めます。

日程第1 町長施政方針に対する質問

議長（廣嶋 隆君） 日程第1、町長施政方針に対する質問を行います。

通告がありました3名の議員による質問を行います。

ここで説明をしておきます。質問と答弁を含めて、議員の持ち時間30分以内で終了できるようにしてください。

なお、持ち時間の残り時間が5分になったときにブザーが鳴ります。

さらに残り時間がなくなったときにマイクの電源が切れますので、ご承知おきください。その時点で、途中であっても質問者及び答弁者は発言を打ち切るようにご協力をお願いします。

それでは、質問者、10番富岡大志議員を指名します。

富岡議員。

〔10番 富岡大志君登壇〕

10番（富岡大志君） それでは、議長への通告に基づき、町長施政方針への質問を行います。

災害時に迅速かつ適切な対応ができ、回復に向かうことができる体制の強化についてお尋ねしていきます。

施政方針の中で町長、地域防災計画に基づく取組を強化すると。することにより災害時にも迅速かつ適切な対応ができる体制を整えていきますと。別のところでは、災害が起きても迅速に回復するしなやかさを備えるとありました。

そこで、迅速かつ適切な対応と体制の強化についてお尋ねしていくものであります。

まず、計画、マニュアル整備の状況と訓練実施についてですが、繰り返しますが、地域防災計画に基づく迅速かつ適切な対応と体制の強化においては、まずは防災に関する各計画やマニュアルの整備が必須であります。

そこで、作成に遅れが出ているBCP・受援計画は本年度内の完成となるのか。また、参集・応急活動・避難所運営についてのマニュアルの整備はどこまで進んでいるのか。そして、各マニュアルに基づく訓練の実施についてはどのように考えているのか。以上、合わせてお答えを求めたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 改めておはようございます。3議員より施政方針への質問をいただきました。

まずは、富岡大志議員より災害時に迅速かつ適切な対応ができ、回復に向かうことができる体制の強化についてをいただきました。お答えいたします。

まず、防災に関する計画やマニュアルの整備に関してですが、まず、BCP（業務継続計画）については、各所属の優先業務の確認を経て令和6年8月に内容の更新を終えております。

また、受援計画については、更新されたBCPと整合性を取りながら、現在策定を進めているところであり、こちらも本年度内に完成する見込みとなっております。

次に、参集・応急活動・避難所運営についてのマニュアルの整備に関してですが、参集・応急活動に関しての災害対応（職員初期行動マニュアル）は令和6年4月に改定しております。避難所運営マニュアルについては、BCPと受援計画との整合性も取りながら現在作成を進めており、こちらも本年度内に完成する見込みとなっております。

最後に、各マニュアルに基づく訓練の実施についてですが、本年度は職員動員メールによる災害時を想定した参集訓練を行ったほかは、具体的な訓練は実施できておりません。職員参集訓練や避難所開設訓練以外は、過去に実施経験のない訓練となりますので、今後訓練方法等も研究しながら訓練の実施に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） まずは、質問中ですので、不規則発言を慎んでいただくよう、議長からの注意を願うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 分かりました。

10番（富岡大志君） ある程度そろってきてはいる。本年度中に作成されるという形なんですけれども、改めて今までなかなか進んでいなかった。地域防災計画も遅れがあったし、この受援計画も一般質問で質問している中でなかなか進んでいなかったというのは認識していただきたいなと思っております。

今大船渡で大きな火災が起こっています。町長の施政方針演説の中でも能登の地震の話も出ておりましたが、いつ私たちのところで起こるか分からないという状況の中で、やはりこういうものの策定を急いでしていただかなければいけないというのは強く求めたいと思っております。

また、災害ボランティアセンター運営マニュアルについてなんですけれども、災害から

の迅速な回復にはボランティアの力が欠かせないのは町長自身一番よくご存じだと思います。この災害ボランティアセンターの設置に向けては、町は昨年11月に社会福祉協議会と災害ボランティアセンターの設置運営に関して協定というのを締結しております。今後できるだけ早く同センター運営マニュアルの整備を行い、それに基づく図上訓練を実施する必要があると考えるんですけれども、町長はどのようにお考えなのか。

また、そのマニュアル策定と訓練実施のめどはどうなっているのかについて説明いただきたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 災害ボランティアセンター運営マニュアルにつきましては、現在協定提携先である町社会福祉協議会でマニュアルの検討を行っていただいているところであります。

現時点で完成のめどについて具体的にお答えできるところまで至っておりませんが、また、訓練についても具体的な予定は現在決まっておりません。

町としましても災害ボランティアセンターの開設体制の早急な整備は必要であると認識しておりますので、今後も町社会福祉協議会と連携を密に取りながらマニュアルの作成と訓練実施に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） これができていないというのは大問題だと思うんです。受援計画ができていなくても、実際その大きな力というのは、やはり国とか県の支援が入るでしょうし、もちろん災害時相互応援協定結んでいるところからとか近隣自治体からも入ってくると思うんですけれども、そのほかにやはり災害からの復旧においては、ボランティアの力が欠かせないわけなんです。受援という部分においては、なのに、受援計画はできていなくても、ボランティアセンターについてはまだ全然だという形になっているんです。

そこはやっぱり今年の体制強化の中で、常に意識して取り組んでいただきたいなと思っております。

次、県外自治体との支援協定についてなんですけれども、同じような形で、大規模災害が発生した際には、周辺自治体も大きく被災していることが想定されて、県外自治体からの人的、物的の支援は迅速な回復に必須であると考えます。

そこでお尋ねしますが、県外の災害時相互応援協定は、昨年に開成町と締結しているわけなんですよね。県外自治体と初の締結となったわけなんですけれども、まだ1自治体でしかないわけなんです。こちらについては同協定締結先の拡大を求めたいと思いますが、町長

はどのようにお考えなのかお答えいただきたいと思います。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町 長（柴崎徳一郎君） 県外の自治体との災害協定の締結については、これまでも答弁してきたとおり、その必要性は強く認識しているところであり、今年度においては、先ほどお話が出ましたように、神奈川県開成町さんとの間に災害時相互応援協定を締結することができました。

この開成町さんとの協定は、大規模災害発生時に近隣市町村が同時に被災した場合において町の支えになるものと考えております。

一方で、人的支援に関しては、総務省が制度化している応急対策職員派遣制度により、災害協定のあるなしにかかわらず、自治体同士で助け合う制度も確立されており、現に、本町からもこの制度の下、災害協定を締結していない石川県かほく市へ職員を派遣した実例もございます。

また、物的支援についても、近年民間事業者と積極的に物資等に関する災害協定を締結し、その支援体制の拡充に努めております。

今後こういった現状も踏まえながら、県外自治体との協定締結の拡大の方向性は維持し、さらなる災害協定締結の可能性のある自治体を探っていきたいと考えております。

議 長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） おっしゃることはごもっともかもしれないんですけども、やはりそれは締結先をなかなか進められていない理由じゃないかと思ってしまいます。

そうならないように、特にファーストコンタクトの重要性ですよね。最初にお会いした際にどれだけこの柴崎町長とお付き合いしたいとか、吉岡町さんとお付き合いしたいなというところで、きっかけを通じてどれだけこの町に関心を持ってもらえるか。そういう行動を常に心がけていっていただきたいと。これはもう何回も申し上げていることなので、改めてそれについてはお答えを求めませんけれども、そういう形で進めていただきたいと思っています。

今回はですね、1つ町長に提案したいと思っています。それは、ささつな自治体協議会への参加というものです。このささつな自治体協議会は、全国の自治体首長が集う協議会で、地域を超えた首長同士の対話と連携によって個々の地域課題の解決を図り、災害時の相互支援体制の構築にも取り組んでいます。参加自治体を募集しており、会費等は一切かからないとのことなんです。

そこで、この協議会への参加を強くお勧めしたいと思いますが、町長はどのよう

にお考えなのかお答えいただきたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） ささつな自治体協議会については、今回の議員の提案により初めて耳にさせていただきましたものがございます。

この協議会による防災研究、災害支援協定の締結状況を確認したところ、全国規模に広がっていて、現時点では群馬県内で参加している自治体はないようであります。

この協議会による協定締結は、相互支援自治体を拡大する有効な方法ではありますが、この協議会以外にも自治体間の協定締結の枠組みがあるようでございます。

協定締結自治体の数を増やすことが目的とならないよう、慎重に判断した上で、選択肢の1つとしてこの協議会についても研究していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 町長、ほかにもあるので、どちらか慎重に考えると、ちょっと何かおかしいんじゃないかなと思うわけです。というのは、総務産業常任委員会が昨年視察に行った際、富山県の舟橋村に視察に行ったんですけれども、そこも渡辺村長が加入されていて、ここは町長自身が既に渡辺村長とお知り合いになっているというか、視察に行った際にお会いになられていると。面識があるということなんです。なので、慎重にじゃなくて、もうつながりがあるんだから、渡辺村長に電話してみて、どうなんですかと聞いてみればいいじゃないですか。実際。

あと、静岡県松崎町というところも加入しています。これも総務産業常任委員会が令和4年に視察に行ったときをきっかけに、当時、深澤町長から交流したいなと末永くお付き合いいただきたいという形で言葉がけいただいて、私も交流が続いています。

そういうつながりを広げるよい機会にもなるんじゃないかと思うんですけれども、このささつな自治体への参加を、選んでいるのに時間をかけていないで、実際話を聞いてみて、一回行ってみてはどうですかと思うんですけれども、その辺は町長どのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） ささつな自治体協議会の研究に当たっては、機会があれば舟橋村の渡辺村長、また、松崎町の深澤町長さんらにも話を聞いてみたいと考えております。

ただ、先ほども申し上げましたように、このささつな協議会につきましては、全国に散らばっている団体でございます。その辺の協議会の内容等、もう少し研究していきたいと

考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 逆に言いますと、全国に散らばっているからこそいいんじゃないんですかと。逆にそれを慎重に考えなきゃいけない理由にするのはおかしいと思うんですけどもね。

あとは、今の2自治体については既につながりがあるわけなんです。そんな中で、こちらから交流してみませんかとか、お話聞かせてくれませんかとか、町長自身言えるわけなんです。先ほども町長おっしゃられましたけれども、実際にそういう行動を取ってみたいかがですか。

舟橋村の村長とか、松崎町長だってコンタクトは取れると思うんです。どんなもんなんですかと聞いてみたらどうでしょう。町長どう思いますか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 先ほども答弁させてもらいましたように、機会があればお話を聞きたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 機会をつくってください。

松崎町長でしたら、私のほうからも話できますので、ぜひコンタクト取ってみてください。

次行きます。

このままでは、災害時に応援に来てくれるのは国や県を頼る。国や県は大規模災害のときに吉岡にはなかなか難しいんじゃないんですか。やはり、こういうときこそ災害時相互応援協定が生きてくるんじゃないかと。逆に言うと、このままだと、県外自治体が被災したときに応援も行けないわけです。それは、令和元年の千葉の台風被害のときにも痛感されたんじゃないんですか。提携先がないから応援に行けないと。

逆に、もう一つ。支援を行ったとしても、単に私たちがお金使っちゃっただけでおしまいということにもなりかねないわけです。協定が増えていかないと。そういうことにならないようにしていただきたいなと思っております。

次です。災害対応体制の強化についてお尋ねしていきます。

災害時に適切かつ迅速な対応に必要となるマニュアルや協定締結が遅れている理由というのは、担当部署が抱えている業務が多いためではないかと。協働安全室から協働関係の

業務を外し、消防、防災、防犯、交通安全の業務に専念させなければいけないんじゃないかと思うわけですが、町長はどのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） マニュアルや協定締結が遅れた要因が担当部署が抱えている業務が多いためではないかというご指摘でございますが、確かに議員のおっしゃることも1つの要因であると考えられておりますが、一方で、今年度各種計画、マニュアル作成や協定締結がこれまでに比べて大きく前進したわけですから、その要因として協働安全室からふるさと祭りや男女共同参画の業務が他部署へ移ったこと、また、年度途中からではありましたが、防災に係る人員が増員されたことなどが考えられます。

次年度現状の体制が維持できるかは、全部署の人員配置のバランスを踏まえての話になりますので、断言はできませんが、なるべく現状に近い体制を維持していきたいと考えております。

なお、協働安全室から協働関係の業務を外すことに関しましては、今後の他部署も含めた総合的な機構改革の際に改めて検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 町長、令和2年の機構改革、ここでしっかり機構改革について検討進めて、総務課の安全安心室となったわけです。それが2年たって元に戻しちゃったわけです。もともとは防災部門の強化が必要だと町長が思われてやったはずなのに戻しちゃっているわけです。

それがあったから遅れてしまったと。協働安全室の中で協働を一回外して、まずはこのいろいろな整備を完成させてみてはいかがかなと思ったわけなんですよね。

でも、今年度にきちんと進めていただけたらというのであれば、それはそれでいいと思います。

業務がふるさと祭りとあと男女共同参画でしたっけ、その部分を外していくと。今後は、再度検討する中で考えていくということであれば、そこについてはもう言わないでいいと思います。

最後、専門家の配置についてなんですけれども、危機管理には専門家の配置が不可欠ではないかと思えます。やはり、危機管理に慣れているのは、一番は私は退職幹部自衛官じゃないかと。ですので、彼らを、退職幹部自衛官を防災専門部署への配置をしたほうがいいと思ひまして、再度求めたいものです。

もちろん、常に皆さんのようにPDCAで回しているんじゃなくて、常にウーダグループ

で回している人たちです。そういう経験を積んできている人たちです。また、退職前にはいわゆる危機管理監になるための研修もしっかり受けていらっしゃると思います。そんな中で、そういう方たちの活用というのをやはりもう一度しっかり検討していただきたいなど、そう思うわけですが、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 危機管理部署への専門家の配置に関してですが、災害対応が未経験な職員が多い本町にとって、専門家の配置は大変有効な手段であると考えております。

来年度につきましても、防災に関して専門知識を持つ方を町の防災専門員として任用できるか、検討を進めているところであります。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 最後にお尋ねしますが、退職自衛官を防災専門の職員として、または危機管理監として採用、配置することについて、町長自身がどのぐらいそれが有効だと思っていられるのかお聞きしたいんですが、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 自分が町長になって一度専門員を置いておりますので、有効かどうかは十分承知しております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 以上で終わります。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、富岡大志議員の質問が終わりました。

次の質問者の用意を行いますので、ここで休憩を取ります。再開を10時10分とします。

午前 9時53分休憩

午前10時10分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

それでは、質問者、7番小林静弥議員を指名します。

小林議員。

〔7番 小林静弥君登壇〕

7番（小林静弥君） 議長への通告に基づき町長の施政方針に対する質問を行います。

令和7年度の方向性について、第6次吉岡町総合計画6つの大綱の中からそれぞれの項目について説明をいただきました。項目ごとにお聞きしたいと思います。

「紡ぐ1 すべての住民に優しい健康・福祉施策の充実」についてお聞きします。通告には子育て政策の課題としてありますが、特にお聞きしたいのは、保育所や学童保育についてです。施政方針の中で待機児童対策として、保育所施設の整備を行い、定員増を図るとありました。施設の整備には建物の充実もありますが、指導員や保育士の人材の充実も大切なところだと思います。子育て支援として、保育所やこども園、学童保育など、幼児教育や初等教育の過程において、保護者の皆様が安心して子供を預けられる環境というのは子育て支援の充実において必要不可欠なものと考えます。施設の充実も大切ですが、人材の充実においてどのようにお考えでしょうか。

また、併せて男女共同参画の観点からも現在の学童保育指導員は女性の割合がかなり多いと聞いており、男性の指導員の必要な場面も多く想定できるケースがあるようです。今すぐにどうにかするというだけでなく、この先10年を見据えたとき、初等教育、幼児教育の現場において男性職員の充実を図るということについてどのようにお考えでしょうか。お尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 小林静弥議員より質問いただきました。お答えいたします。

全国各地で少子化や過疎化による人口減少が進み、保育所や学童クラブの需要が頭打ちになる地域が増えておりますが、本町では子育て世帯の堅調な増加により、子供を預けて働きたいという家庭は現在も増え続けております。そのため、本町では保護者の育児支援及び就労支援として待機児童の解消を町の子育て支援の重要施策に位置づけて、定員拡大のための保育所や学童クラブの施設整備を実施してまいりました。

しかしながら、議員がおっしゃるとおり、子供の健やかな成長と保護者の安心を支える場所として、待機児童の解消と同時に保育の質的向上も目指していかなければなりません。学童クラブも含め、保育の現場は慢性的な人手不足状態ではありますが、保育士等確保事業による運営費補助を来年度も継続するとともに、運営側とも必要に応じて協議を重ね、保育士の確保と専門性を高めることによる保育の質向上を支援してまいりたいと考えております。

また、男女共同参画の面では、社会のあらゆる分野で性別にかかわらず個人の能力を十分に発揮できる社会の実現を目指していくことが重要であります。

保育士は女性の仕事という社会的なイメージや職場環境の問題等による影響で、保育の現場でも現在は男性が少ない現状ではありますが、町としても吉岡町男女共同参画基本計画

に基づいて、男性保育士の登用が進むよう、関係各所に働きかけていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7番（小林静弥君） お答えをいただきました。

私も知り合いから学童保育、やはり男手が必要だというような声や保育園の先生にも女性ばかりですが、男性に面倒見てもらうのはやはりちょっと抵抗があるというような声も聞いております。町長のお耳にも届いている件は多いと思いますけれども、そういった件も含めまして、今後考えていっていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、「紡ぐ2 「学びのまち・吉岡」の推進」について、ICT機器の活用の将来像をどのようにお考えかお尋ねします。

吉岡町では、近隣自治体と比べて早くからGIGAスクール構想に基づき、1人1台端末の整備がなされ、実用化されてきました。

そして、令和7年度の方針では老朽化に伴う学習端末の更新という予定を挙げておられましたが、このICT機器の使用、利用が小学校、中学校で老朽化が心配になるほど使用年度が重なってきているということです。

この子供たちが高校、大学へ進む。そして、社会に出ていく。その頃、これから先10年後を考えると、ICT機器の職場でのふだん使いが当たり前の社会になっていることと思います。

子供の教育にICT関係の教育が進むということは、社会においてもICT機器の利用が普通になってくるということだと思います。最近ではファミリーレストランなど、注文はタブレットに入力するというような店舗もかなり増えました。これからはICT機器の充実を整えていく必要があると思います。役場の業務も最近ではICT化が進んでいるようですが、これから先タブレットの利用やペーパーレス化を進めていく上で現在は過渡期だと思いますが、いち早く進めるべきなのか、それともゆっくり徐々にでいいとお考えなのか、町長の方針ではいかがでしょうか。お尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 現在これからの社会を生きるためにはICT機器を正しく安全に扱いながら生成AIや社会にあふれる情報の真意を見極め、自分で考え、自ら判断し、自ら行動できる力が不可欠となるでしょう。

町のHiBALIプランは、来年度5.0へとバージョンアップすると聞いております。

ICT機器を学習道具の1つとして活用しながら、実体験など直接体験を重視した学習や活動など、多様な学びを通してH i B A L Iプランの最上位目標である「考えて行動できる人」の育成を目指していくことを期待しているところであります。

そして、現在デジタル技術の進化により教育現場での学習方法、住民へのサービス、そして役場の内部業務など様々な場面でのデジタル化が急速に進展しております。

この進展は過去数年で目覚ましいものがあります。現代ではデジタル社会の利便性を我々全員が身をもって実感しているところであります。

例えば、役場の内部会議ではかつて時間をかけて印刷した資料を配る代わりに、現在ではパソコン1台で会議を進行し、ペーパーレス化が進んでおります。また、議場でもタブレットの使用はその一例で、今後さらなる活用が期待されているところであります。

しかし、この便利さを享受する一方で、その裏にある危険性も忘れないことも重要であります。その点を心に留めながら、スムーズなデジタル化の実現を追求し続けてまいりたいと思います。

議 長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7 番（小林静弥君） 早急にということではなく、スムーズなデジタル化への移行ということで、今後も慎重かつスムーズな進行をお願いしたいと思います。

続きまして、子供の安全を図るということについて、中学校の渡り廊下の改修や防犯カメラの設置等がありました。建物や地域の環境の安全性を高めるということにおいては、これまでどおりということかと思いますが、先ほども話したように、ICT機器の技術が進歩すれば子供たちを取り巻くネット環境の安全性も高めていく必要があると思います。

闇バイトの被害とかSNS上でのトラブルとか、危険なことから未然に自らを守る、そのような教育もこれから必要になってくるかと思いますが。

老朽化の機器の更新に併せて、安全面の心がけの更新、教育のさらなるアップデートも必要になるかと思いますが。お考えをお尋ねします。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） SNSのトラブルから自らの安全を守る教育についての取組ですが、町の各学校では児童生徒の発達の段階に応じて意図的、計画的に指導しております。扱う内容によっては、授業ばかりでなく、外部講師を招いたり警察等に依頼したりしており、保護者との合同講演会も行うこともあります。

具体的指導内容例を挙げれば、SNSの安全な利用方法を習得し、トラブルを未然に防ぐこと、情報リテラシーを高め、正しい情報を選択、発信できる能力を育成すること、他

者を尊重する倫理観を養い、ネットいじめや誹謗中傷をなくすこと、SNS依存を防止し、健全な生活習慣を身につけること、万が一トラブルに遭ってしまったときに適切な行動が取れるようにすること、スマホの扱い方について家庭での話合いやルールづくりをすることの重要性などであります。

これからの社会は、インターネットやSNSの活用抜きには成り立ちません。学校での教育を通じて全ての利用者が安全に、そして安心してインターネットを活用できる社会を構築するためには、子供たちの情報活用能力の育成は必須の課題となります。教育委員会で進めているHiBALIプランの施策は、その課題解決のために重要な役割を担っていると認識しております。

議長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7番（小林静弥君） 教育の面でさらなるIT機器の教育の進んだ面も今後も見えていただけると思います。

次に、「紡ぐ3 次世代につなげる生活環境の充実」についてのところですが、ごみ減量化対策の考えはということでお聞きします。

一言で言って、ごみの減量化はごみの分別によるところが大きいと思います。吉岡町でも黄色い袋でプラスチックごみの分別回収を始めましたが、その後状況の推移はいかがでしょうか。

感覚的には、さほどごみが減ったようなイメージは持っていませんが、またデータが出ましたら調査分析をしていただくとして、この質問の趣旨は、ごみの分別の町民の意識を向上させる計画についてどのようにお考えかということです。

ごみの分別は、一人一人が他人ごとではなく、全部燃えるごみで出してしまうところから、一つ一つでも手をかけて分別していく。生ごみも燃えるごみに出さず、自然に返すような処理をしていく。このモチベーションを上げるにはどのような方策が必要でしょうか。補助金を出すとか、ごみステーションやストックハウスの施設を充実させるとか、自治会ごとにごみ減量の取組を行うということ意識を高めていくとか、やはり結果、効果、成果の見える化が必要なのではないかと思います。

ごみが減ったことによる町の財政面での経費削減効果がどのような形で現れてくるか、町の財政に自分が役立っているという意識も一人一人がモチベーションを上げることに繋がってくるのではないのでしょうか。

町を挙げてごみ分別の意識を高める、このことについてどのような方策をもってするか。ごみ減量化に対する町長のお考えはいかがでしょうか。お尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 吉岡町におけるプラごみの収集状況については、4月から1月までに渋川広域組合の清掃センターに搬入された家庭ごみの総量4,171.3トンに対してプラごみは159.3トンであり、3.18%となっております。

この家庭ごみの搬入量の総量に対するプラごみの搬入量の割合を広域3市町村で比較しますと、吉岡町が3.18%なのに対し、渋川市は1.88%、榛東村は2.08%となっているほか、2月、3月のプラごみの搬入量が過去10か月の平均値で推移すると仮定し推計しますと、当初に渋川広域組合が算出した想定搬入量に対する達成率は、吉岡町が88.13%なのに対し、渋川市が48.37%、榛東村が57.26%であり、広域圏内においては吉岡町は、渋川市、榛東村よりもプラごみの分別が進んでいる状況となっております。

また、令和7年度からは、吉岡町は広域圏内で唯一プラごみの回収を毎週行うこととしており、より一層分別が進んでいくものと認識しております。

しかしながら、先ほど数量を申し上げましたけれども、プラごみは非常に軽く、町民の方が全てのプラごみを分別いただいたとしても、ごみの排出量に占める割合は非常に少なく、目に見える経費削減効果としては乏しいものであります。

そのため、ごみの減量化には排出量の大半を占める生ごみの減量が必要不可欠であります。

令和7年度においては、厳しい財政状況で予算に限界はありますが、生ごみ処理機の購入補助金を継続していくほか、この補助制度の周知と併せて生ごみ排出量を増加させる原因であるフードロスの削減のため、買い過ぎない、使い切る、食べ切るといったことも周知を図っていきたいと考えております。

また、令和7年度ごみの分け方、出し方については、生ごみの削減による財政効果、リサイクルごみの再商品化、大量の草木のリサイクル業者と町との提携などについても掲載するほか、指定ごみ袋への町のごみ分別辞典のQRコードの掲載なども予定しているところであります。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律では、廃棄物（ごみ）は不要物（要らないもの）と定義されております。「捨てればごみ、生かせば資源」という言葉がありますが、同じごみステーションに出すものでも緑の袋は焼却した後に最終処分場に埋め立てる一方、黄色の袋、ペットボトル、瓶、缶類は再商品化され、その行き先は全く異なります。

吉岡町には次期最終処分場の建設が予定されており、緑の袋は、吉岡町に埋め立てられることとなります。次世代につなげる生活環境の充実のため、また、最終処分場をただの埋立施設としてでなく、環境学習に資する施設としていくためにも、家庭から排出された

ごみが資源の先行きを見える化し、出し方によって全くゴールが異なることを見える化することが非常に重要であると考えており、そのための周知啓発を図っていくことにより、町民の分別に対する意識を高めていきたいと考えているところであります。

議 長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7 番（小林静弥君） 今お話を伺いました。吉岡町が渋川広域の中でこの3市町村の中で最も分別の結果が高く出ているという、意識が高いという結果が出ているというふうにお聞きしました。

また、令和7年度から黄色い袋の回収も毎週されるということをお聞きしました。

これをぜひ町民皆さんに知らしめて、今後もますますこのごみ減量化に対する意識向上を図っていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、施設の改修、整備の今後はということで、道路整備や公園整備について、具体的な道路名、公園名を挙げて言及がありました。

それぞれ大型の土木事業ということで、予算的には国や県からの補助も大きく必要な部分もあるかと思っておりますし、それぞれに優先順位もあるかと思っております。

そのほかにも、ここでの言及はありませんでしたが、給食センターや八幡山グラウンド、明治小学校体育館など、これからも大型の施設の改修や整備が順番待ちの状況ではないでしょうか。

確かに、道路網の整備は、されれば交通環境がよくなり、町民の生活にも役に立ち、経済発展の効果も期待できるかもしれません。しかしながら、今の吉岡町でそれほど緊急性が高いところが多いとは思えません。学校施設や町の施設、町民が実際に必要としている施設の優先順位を高く考えなくてはならないと思っておりますが、優先順位についてのお考えをお尋ねします。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 施設の改修、整備の今後における優先順位に関する質問ですが、現段階では給食センターの新設について内部協議を進めております。

また、八幡山グラウンドや明治小学校体育館の改修についても補助事業の採択を視野に入れながら、関連機関との協議を進行中でございます。

ただし、町は財政的に複数の大型事業を一度に進めるのは非常に厳しい状況です。その中で、未来を見据えて取り組むべき事業なども含めて、総合的に判断いたしました。

各事業は、多額の費用を要しますので、引き続き県や国の協力を最大限得られるよう努力するつもりであります。

その上で明確な優先順位を設定し、町の発展につなげていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7番（小林静弥君） 分かりました。それでは、次の質問に参ります。

「紡ぐ4 地域産業の持続的発展支援」についてお聞きします。

町の玄関口をどう考えていくかということについてですが、方針では道の駅よしおか温泉を吉岡町の東の玄関口として、天神東公園と併せて整備し、リニューアルを考えるとあります。ここで、吉岡町の東の玄関口としての道の駅よしおか温泉ということですが、玄関と言うからにはそこは入り口であり、素通りされるような場所ではなく、立ち寄っていただきたいところであり、吉岡町がどんなところか、吉岡町の魅力はどんなものかが紹介できるような施設であることが大事なところだと思います。

この玄関口という考え方の役割を果たせるためには、家の玄関は家の顔であるわけですから、町の顔と言ってもおかしくないような施設の充実を図っていく必要があるのではないのでしょうか。

そういった意味では、駒寄スマートインターチェンジも南北からの玄関口と考えられると思います。JR線に吉岡町に駅があれば、そこも吉岡町の玄関口という表現ができると思いますが、あいにくその構想は将来的にはどうなるか分かりませんが、現在ではないようです。

この玄関口という考え方、自治体の顔とも言うべき魅力的な場所である必要が大いにあると考えます。

駒寄スマートインターチェンジは、近くに大型商業施設、また、これからは産業団地と、吉岡の経済発展を示せるような地域の特徴が伴っているように思います。

天神東公園と道の駅よしおか温泉も吉岡を代表するような施設、吉岡町の顔となるような施設を目指す。そのような心積もりでの東の玄関口という呼称であるべきと思いますが、町長のお考えはいかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議員のおっしゃるとおり、吉岡町の東の玄関口として道の駅よしおか温泉と天神東公園は、吉岡町の顔となるように再整備を進めていく必要があると考えております。

天神東公園に関しては、道の駅よしおか温泉と隣接していることから、道の駅のサポート施設として公園があることによって道の駅利用者が増加し、集客と売上げアップにも貢献する魅力ある公園、楽しそうで誰でも行ってみたくなる公園となるように再整備に向け

た基本計画を現在策定中でございます。

また、道の駅に関しては、天神東公園を含めて町外に向けて吉岡町を知り、町のイメージを高めるためにも観光戦略上のハブ施設として重要な施設として捉えております。

道の駅については、天神東公園の再整備と併せて、町の東の玄関口としてふさわしい施設となるよう、リニューアルを検証してまいりたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7番（小林静弥君） ぜひ東の玄関口として、あそこは桜の季節にはすごく桜並木もあり、花見の家族も多く出向くところだと思いますし、それから、1年にわたって毎朝ラジオ体操も開かれている場所でもありますので、東の玄関口ですね、吉岡町の入り口に朝行つて、みんなでラジオ体操しようなんていう、そういう観光の資源にもつながったらいいかと思いますので、今後も引き続きよろしく願いいたします。

「紡ぐ5 緊急時対応への備えの充実」について。交通・防犯の安全についてのこれからはということでお聞きします。

方針では、令和7年度についてお話しされていますが、近々の計画はそれでいいでしょう。その先の考えはいかがでしょうか。5年先、10年先、高齢化がますます進みます。交通安全のことを考えますと、自ら運転することもそうですが、免許返納後の移動手段、公共交通機関の充実をこれから先計画的に図っていかねばならないでしょう。時代がそうなることは想像に難くないのではないのでしょうか。

AI機器の技術発展も目覚ましい、予想もできないような進歩があるかもしれません。携帯電話やスマホがこれほどまでに普及することが考えられなかったことと同じように、自動運転の交通手段が当たり前の日常になっている可能性もあります。想像を飛躍させますと、ドローンによる空の交通ももしかしたら大幅な進歩があるかもしれません。町内の至るところに防犯カメラや画像通信の連絡網が張り巡らされ、交通安全も防犯も一元的管理ができるようなシステムも構築されるような未来があるかもしれません。

そのようなあらゆる可能性を考える際、防犯や交通安全の充実を図るには、まずは交通システムの整備が最重要項目となるのではないのでしょうか。

社会の高齢化と福祉の面からの吉岡町の将来の交通安全対策の推進を考えれば、公共交通を中心とした交通システムを今から徐々に充実を図るべきではないのでしょうか。

町長は、吉岡町の将来的な交通安全についてどのようなお考えをお持ちでしょうか。お尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 吉岡町は、幹線道路の整備が進み、自動車での移動がしやすくなった半面、自動車以外の移動手段がないことが大きな課題となっております。

将来的な交通安全対策を捉えるとき、議員が言われる公共交通を中心とした交通システムを充実していく上でも自動車を運転しない、自動車を運転できない人でも利用しやすい移動手段を確保することが重要であると認識しております。

これから改定に着手する吉岡町都市計画マスタープランの中で、移動手段の確保について検討してまいります。

議 長（廣嶋 隆君） 小林議員。

〔7番 小林静弥君発言〕

7 番（小林静弥君） 以上、令和7年度町長の施政方針を基に、それを土台とした将来的なビジョンをお伺いしました。

これで私の質問を終わります。

議 長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、小林静弥議員の質問が終わりました。

次の質問者の用意を行いますので、ここで休憩を取ります。再開を10時50分とします。

午前10時39分休憩

午前10時50分再開

議 長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

それでは、質問者、13番小池春雄議員を指名します。

小池議員。

〔13番 小池春雄君登壇〕

13番（小池春雄君） それでは、施政方針に対する質問を行います。

まず、財源の確保ということでありまして、町長は企業誘致とありますが、企業誘致は当然リスクも伴うと考えられますけれども、これは絶対間違いは許されない課題だというふうに思っております。

計画があったことは以前から承知をしておりますけれども、世相が不安定な中、私には突然出てきたようにも思えます。まだ実際に始まっていませんので、始まるというのは説明会等進めている段階ですね。その慎重な検討が必要だというふうに思います。

この計画が完成すると、一体どの程度のお金がかかりますか。

そして、企業も進出するには当然単価が低く、交通の便のよいところを探します。当てがあつての産業団地計画開発でも、今後の町の将来発展に結びつくことが必要不可欠です。

町長は、企業誘致は雇用の拡大、確保につながると言いましたけれども、これまでに多

くの企業が進出をしております。近隣市町村から見れば多いほうだと思います。雇用の確保でこれからは賃金をいかにして減らしていくかが企業の課題と言われております。いかにして人を使わないで済ませるか。それでも雇用の拡大ができると思っているのか聞きたいと思います。

税収が増えると言っていますけれども、固定資産税が増えればその分交付税が減額されます。不交付団体であれば増えることは大いに歓迎ですけれども、いかがでしょうか。

過去においても現在もまだ農地は健在ですが、農業で食べていける状況にないことは承知をしておりますけれども、町が農地を潰し、産業団地を造成し販売をすることは、町の将来の大きな分岐点にあることは確かです。

多岐にわたる調査、研究が必要だと思いますけれども、いかが考えますか。それとも、そのことはあまり考えずに突っ走るといふ考えでいるのかについてをお尋ねをします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 小池春雄議員より、まずは財源確保について質問いただきました。お答えいたします。

産業団地造成による企業誘致は、吉岡町の地域経済の発展にとっても若者の流出を抑制し、定着してもらえる上でも非常に重要な事業であり、全力で取り組んでいるところであります。

産業団地造成事業にどの程度の金額がかかるかというご質問をいただきました。現在住民アンケートを踏まえ、産業団地の道路、公園等のインフラ整備や土地利用の方針をまとめた基本計画（案）を住民の方々に説明したところでございます。基本計画（案）が策定されたことで造成費、道路や橋梁などのインフラ整備費の算定を行っているところでございます。

また、文化財調査における費用についても、試掘などを通じて算定を行っているところでございます。

また、吉岡町は人口が増えていますが、10年後には人口が減少すると考えられています。現状が続くと、将来的な生産年齢人口の減少による地域の活力の衰退や持続的な財政運営が困難になると考えております。

産業団地を整備し、企業が進出することで、雇用機会の拡大により、子や孫世代の若者の町外流出の抑制や既存事業者の受注機会の拡大、従業員等の日常生活における消費の拡大や企業が必要とするサービスや製品を提供する地元企業も恩恵を受けるため、誘致企業の雇用だけでなく、地域全体としての経済の活性化が図れると考えております。

さらに、農地を産業団地用地として造成することにより、農業生産や環境への影響があ

ることは十分に承知しております。このため、産業団地造成に当たっては、失われる農地などについて代替農地提供等の農業支援策を進めており、地域の農業生産を保護する手だてについても研究を進めております。

吉岡町の将来を左右する、この重要な事業を着実に進めるために、今後も議員皆様との連携を大切にして、「思いを紡ぎ、未来につなげるまちづくり 吉岡」の実現に向け、事業を進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 先日、担当課のほうからこの産業団地に対して計画図面も示されました。およそ20ヘクタールのうち工業団地として使えるのが12ヘクタールぐらいじゃないかと。そしてまた、その外周用道路であるとか、取付道路であるとか、公園の整備だとか、また、宅地との間の境界にまた植樹をするとか、そんな話がありました。

私がやっぱり懸念するのは、まず、この産業団地を造るについて、失敗は絶対許されないんだということがあると思います。これは、今までも町というのは議会も問題もあつたんですけども、町が言うことだからというので、構わず賛成をしてきて、後になってその大きなツケを払わされたという結果というものは幾つもあると思います。

例えば、農集排もそうでしたね。私が議員になってから、農集排ができたわけですけども、こんなふうになって、ほとんど使わない状態で、使えない状態で、途中で臭いが出るからというので、消臭設備をしたけれども、結局にはやっぱり消せなかったと。相当かけたお金も無駄になったというようなこともありました。

やはり、結果的に町が損をする。大きな痛手を被るということだけは避けなければならないと。

先ほど言いましたけれども、町から示されましたけれども、どの程度金額がかかりますかということに対しては、これから調査をするのでまだ分からないという回答でしたけれども、おおよそざっくりこのぐらいかかるんだと。多少前後あってもいいですよ。でも、このぐらいかかるだろうと。大体似たような規模でやっているところというのは大体このぐらいの予算でできましたというのがあるかと思うんですけども、まだ全く、これは当然用地購入費から造成費用からどうせ売るわけですから、それを含めた中で、5億円で済むのか、50億円で済むのか、全く検討もつかないというのは危険だと思うんです。

でも、恐らくこのくらいでは済ませたいというのがあるかと思うんです。この規模だったらこのくらいというのがあるかと思うんです。その辺というのをどういうふうに見ているのか。全くその辺を無視して突き進んでいるか。その辺の確認をしたいんですけども、いかがでしょうか。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町 長（柴崎徳一郎君） 先ほどもお話しさせてもらいましたように、今基本計画（案）を立ち上げたところでございます。その中で算出をしていきたいと思っておりますので、このくらいというおおよその数もちよっと申し上げられませんが、申し訳ないです。

議 長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 私は、海のものとも山のものとも全く採算性というものを普通は見ってからやるんですけども、それが分からないでスタートするということは、危険だというふうに思うんですけども、その辺、町長、危険だというふうに思いませんか。いかがですか。

私は、それを全く分からないというのが理解できないんです。吉岡町ぐらいの規模だと近隣でやっているところは大体このぐらいでできましたというのがあるんじゃないですか。そうすると、ああやってもいいな、ちょっとこれは考えようというふうになると思うんです。

でも、これは失敗したらもう大変なことなんです。どこかがお金くれるわけじゃないんです。もらえるわけじゃないですよ。失敗したら大変なことになるんです。ですから、私は最初から反対という考えで言っているんじゃないんです。やっぱり多方面の角度から検討して、そしていいだろうということになって進まない、後になって取り返しがつかないことになるのではないかとこのように思っているんです。

でも、まだこれからの調査で、全く、皆目見当がつかないという考えなんですか。それとも展望はここまでは仮に50億円なら50億円、これ以上は出せないとか、どこかあると思うんです。それも全く分からないということなんでしょうか。いかがですか。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町 長（柴崎徳一郎君） 現段階ではお示しできませんので、ご了承いただきたいと思います。

議 長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） ですから、私は危険だと思っているんです。だって、私も図面を見せられて、この図面見せられましたよね。図面を。こんなふうになるんだと。20ヘクタールぐらいあって、使えるのは十二、三ヘクタールだというのが示されました。それで、道路もこんな感じで造りますと。この道路だけでも相当かかると思うんです。そしてまた、外周の道路もありますから、これ見たら相当金かかるなというふうに思ったんです。

そのほかに、今度は土地の買収ですから、それなりの、前橋でしたか、前橋で坪4万円

だというような話も聞きましたけれども、地権者の吉岡の人に聞くと、坪5万円以下じゃ駄目だよなというような話も聞いたりしているんです。

そうすると、皆目ちょっと見当がつかないんです。それに造成費用がありますから、果たして、先ほど聞いてもどうも分からないという話なんですけれども、でも、展望はこれ以上は無理だというのがやっぱりあるじゃないですか。これ以上高かったらもう買う人はいないよと。でも、この範囲で収められれば相場だから何とかそこを買う人が出てくるんじゃないかというのがあると思うんですよ。

これもこれ以上聞きませんが、やっぱり全く見当がついていないというふうに私が理解すべきなんでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 今、小池議員のほうから単価の話が出てきたんですけれども、単価についてまだ公表しておりませんので、申し訳ありませんが、ここでは差し控えさせていただきますと思います。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 私が単に言ったのは、前橋市の、前橋市がたしか4万円だというふう聞いているので、だから、吉岡の人というのは、その前橋市より安ければ売れないよというような地権者から話を聞いたものですから、恐らくその場所によってこれだけ広い場所ですから、場所によってそれで高低はあろうかと思えますけれども、ならずとそのくらいになるんじゃないかと思うんです。

だから、土地代というのもあくまでもそのぐらいしますよという、それと造成費と、そうすると相当の額がかかるでしょうと。だから、恐らく幾らになりますかと言ったら、今のところは計算していないから言えない、分からないというふうに判断しました。

それと、先ほど質問した中に町長は、企業誘致は雇用の拡大だというふうに言っていますけれども、雇用の拡大、今の新しい企業というのは、AI等を利用する中で人件費が一番高いので、人を使わない企業というのがどんどん増えていますよね。配送関係の事業所にしても物を作るにしても、人を置かない。極力人件費が高いので人を置かないというのが増えております。

そういう中におきまして、町長は町民が町外へ流出をしないためとか言っていましたけれども、今の時代というのは果たしてそうでしょうか。もしも、見込みとしたら、町というのはどの程度の雇用を確保できるというふうにお考えなんでしょうか。それは多ければ多いほどいいんでしょうけれども、雇用の確保だと言っていますから、じゃ、おおよそ

のくらいは確保したいんだというものがあるんですか。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町 長（柴崎徳一郎君） お話の中で雇用拡大を唱えておりますけれども、それを何人かという、そういう数字までは現段階では出しておりません。

議 長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 町からの先ほど町長が雇用の流出であるとか、経済基盤の安定だというふうに言っていますけれども、産業団地イコール雇用の拡大には私今の時代ってはないと思っています。そういうときに、これやっぱりリスクですよ。目的は雇用の拡大と。だけれども、雇用の拡大ということで進めたけれども、雇用が町が希望とすればこのくらいは確保したいというのがあってしかるべきじゃないんですか。

そうすると、どういう企業に来てもらうかということも定まってくるかと思うんです。

でも、やったけれども、雇用の拡大には全くつながりませんでしたということになったけれども、町が推し進めようとしている、その目的を失っちゃうわけですよ。先ほども言いましたけれども、企業が来れば固定資産税が増えると。固定資産税が増えれば今ある町の、これは交付税法で決められている、いわゆる町の基準財政需要額があって、収入額があって、この収入額は減れば当然交付税は増えるんだというふうになっているわけですから、増えた分がそっくりお金になるという話じゃないので、そうすると、何のためだったのかなというふうになると思うんです。

私が進めていく上では、そこの部分の議論というのがやっぱり一番大事な議論だと思うんですけれども、私はどうもそこのところがすっ飛ばして今進んでいるというふうにも思えてならないんですけれども、いかがでしょうか。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町 長（柴崎徳一郎君） 先ほどもお話しさせていただきましたように、企業誘致のその雇用だけに限らずに地域全体として経済の活性化を求めているということでございます。

議 長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 経済の活性化というのは、今まで産業団地の東側にいろいろな大きなお店ができて、これでもうこれだけでも吉岡町は近隣の市町村から見ればいいですねというふうに言われて、もうそういうふうになっていると思うんです。

ですから、その辺のバランスというものを考えたときに、果たしてどこまで必要なのか

ということは、やっぱり私は大事だというふうに思っています。

この問題ばかりに時間を取られるわけにいきませんので、ふるさと納税についてお尋ねをしますけれども、ふるさと納税では相変わらず損をしているか、得をしているかもはっきりせずに、18年がたとうとしております。

私は個人的にはこの制度がよい制度だとは思ったことはありませんけれども、制度としてある以上、うまく活用しないと全く得になりません。財政法上の収入とみなされないのので、うまく税収として増やせば増やすほど自主財源として活用でき、町民サービスに使えます。

そうであれば、皆さんで知恵を絞り、ふるさと納税の確保のために取り組む必要があると思いますけれども、新年度の新たな取組と決意、心構えをお尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） ふるさと納税のご質問をいただきました。

これまでも複数の議員方よりふるさと納税のご質問をいただき、答弁をさせていただきましたが、改めてふるさと納税制度が発足された経緯に触れますと、自治体の税収の減少に伴い、十分な行政サービスができないなど、過疎化に悩む地方を見直す必要が出てきたため、できたのではないかと感じております。

しかし、現在はこの本来の目的を見失い、自治体同士の返礼品競争で寄附を募っているように感じております。

ご質問の内容は、理念がどうであれ、ふるさと納税制度がある以上、その制度をいかに活用するか、しているのか。寄附を増やす努力はしているのかとのことであると思います。

ふるさと納税が返礼品をよりどころにしていることが大きいことから、これまでは返礼品提供事業者の発掘、返礼品の充実など、多種多様な返礼品を取りそろえること、また、ふるさと納税を行う際に吉岡町という自治体があり、欲しいと望んだ返礼品があったと思わせるよう、PRも大切なことから、多様なサイトからふるさと納税を行えるよう、新規の納税サイトを検討してきたところであります。

これに加え、担当職員のみならず、全職員からアイデアを募り、力を借りてふるさと納税増額のための努力を行ってまいりました。

その間もさきに述べたように、ふるさと納税の返礼品競争が過熱したことから、この制度も度々見直され、返礼品要件も厳格化され、返礼品として扱っていたものが返礼品の対象外となるなど、寄附額が減収となってまいりました。

これまでの取組では返戻金等にも限りがあり、頭打ちすることは必然で、今後もふるさと納税の寄附額は伸び悩むことが想定されます。

さらに、ふるさと納税制度に反対してきた都市部でも税が流出し続ける状況を看過できないとして、ふるさと納税への取り組む自治体が増えてまいりました。

当然ふるさと納税をする方や寄附額の分母が大きくならなければ影響は避けられない状況にあります。

今後も個々の方のふるさと納税に対する意識が変わらなければ、返礼品本意は続くのではないかと考えます。抜本的な対処とはなりません、これまでと同様、努力を引き続き行うことはもちろんのこと、新たな返礼品提供事業者として活躍できるような産業の育成にも注力していければと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） これが始まってからもう18年たつんですけれども、それでもまだ1,500万円程度なんです。1,500万円程度のふるさと納税を得るためには、それなりのまた人手も必要ですし、また、吉岡町からふるさと納税によって本来町に入るべきものが出ていっちゃって、プラス・マイナスでやっぱりマイナスだと思うんです。また、見れば分かるんですけれども、これだけの事務量がありますから、この事務量っていうのは相当の額だと思うんです。かえてこの制度ってマイナスだと思うんです。

でも、隣の榛東村は、それでも今のところ2億円を超す。多いときは6億円を超していましたけれども、それだけのものがある。

努力次第でこういうふうにもなるんでしょうけれども、私も先ほど言いましたけれども、この制度がこのままでいいとは決して思いませんけれども、ある以上は活用しなければならぬ。

先ほど町長のほうからも知恵を絞って活用したいということがありましたので、ぜひともこれ、これだけの職員もいるわけですから、やはり、返礼品の発掘というよりも、そのことで町が活性化できる産業としてもつくれるという側面からの考えを変えた形でのふるさと納税の在り方というものを検討していただきたいということをお願いをしておきます。

それと、最後になりますけれども、子育て支援についてお尋ねをします。

時間も迫ってきましたので、他市町村に誇れる支援策が求められています。「子どもを育てるなら吉岡町」と言ってきましたけれども、中身が伴っているとは言えません。

町民、保護者、児童生徒たちが自慢できる町であることが大事です。県内を見回しても「子どもを育てるなら吉岡町」と言えるほど勝っているとは言えません。名実ともに誇れるまちづくりのための施策を示していただきたい。

申し上げておきますけれども、金がない、給食センター建設が控えているなどの言い訳は聞きたくありません。町長の子育て支援に対する姿勢について、また、熱意、決意をお

尋ねをするものであります。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 本町の子育て支援策について、まずは保育関連から説明いたします。

これまで一貫して取り組んできたのは、保育所や学童クラブの待機児童対策をはじめとする保育サービスの充実であります。働く女性の増加、それに伴い共働き世帯も増加しており、とりわけ本町は若い子育て世帯の増加により安心して子供を預けられる施設の拡充は喫緊の課題であります。

これまでも学童クラブの施設拡大はもとより、民間法人が運営する保育所等が行う施設整備に対しても、町の厳しい財政状況を理由に事業を先送りすることなく、必要な補助を実施して定員の拡大を図ってまいりました。

施設整備にかかる費用は、建築資材の高騰や人手不足のために年々高騰しておりますが、令和7年度においても保育所のさらなる定員増を図るための施設整備補助金を計上しております。

施設を整備した後も定員が増えることにより、運営費の負担はさらに増加することが見込まれますが、施設を利用する方々に負担を転嫁することがないように、来年度も保育料の無償化や学童保育料の据置きなどで保護者を経済面から支援してまいります。

また、子供が病気になっても仕事を急に休めない保護者のニーズを酌み取り、病児保育事業を拡大してまいります。

町内の小児科で実施していた病後児保育を病中児にも対応できるよう、事業類型を転換いたしました。

保育所や認定こども園では、現在病後児のほか、保育中に体調不良になった児童をそのまま施設内で預かるなどの対応が可能な保育所が2か所あり、令和7年度以降も順次増やしていく予定でございます。

さらに、学校教育面においても学校給食費は、保護者負担を軽減する観点で児童生徒1人当たり月950円、年額1万4500円の補助、食材費補助として500万円、第3子以降の児童生徒の無料化、昨今の食材費高騰に伴い、令和6年度当初で1,100万円、補正予算で700万円繰り出しています。令和7年度は当初から2,000万円繰り出す用意をしております。

そして、町独自の事業として、従来からの就学援助に加え、町独自の事業として、家計急変世帯への援助費の支給を引き続き行います。

従来のふれあい教室のほか、児童生徒が安心して過ごせる新たな居場所として「ひばりの家」を令和6年度から開設し、10月からは給食も提供しております。

何らかの要因や背景により学校に登校しない、あるいはしたくてもできない生徒、児童やその保護者の支援を目的として、家庭訪問型の「Y' ODS事業」を実施させていただいております。

インターネットに接続する環境を整備した際に通信環境整備支援金を交付しております。経済的理由によりICTを利用した学習環境の整備が困難と認められる児童生徒にモバイルルーターを貸し出しているところであります。

そのほか、ICTを活用した学習の充実も子育て支援策として重視しております。時間がないので、これで終わります。

議長（廣嶋 隆君） 答弁終了まで発言を許します。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） ありがとうございます。

そのため、ICT支援員配置を継続して委託するとともに、全ての児童生徒用タブレット端末の新品への更新、また、学校のインターネット通信回線の性能向上事業を実施することにより、子供一人一人にこれからの社会を生き抜く力を身につけさせるための教育環境整備を着実に前進させます。

これからも町の子育て支援策の誇れる大きな事柄として胸を張れるものであると考えます。

加えて、中学校の渡り廊下の整備や小中学校の校庭拡張整備事業、そして、中高生へのヘルメット購入助成事業、高校生等への公共交通通学支援事業などなど、子育て支援策として町が誇れる項目を列举させていただきました。

これからも議員皆様のご指導、またご鞭撻等をお願いしたいと思います。

以上です。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、小池春雄議員の質問が終わりました。

以上で町長施政方針に対する質問を終わります。

ここで休憩を取ります。再開を11時30分とします。

午前11時22分休憩

午前11時30分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

日程第2 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第2、議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算の提案理由の説明を申し上げます。

令和7年度吉岡町一般会計当初予算は、予算総額90億4,900万円で、対前年度プラス8.9%、7億4,200万円の増となっております。

主な歳入一般財源の見込みですが、町税については、納税義務者数の増や物価上昇による賃金上昇等を勘案し、対前年度プラス7.5%、2億1,390万6,000円増、30億8,041万3,000円を計上しております。

地方譲与税については、総務省の地方税収見込みや令和6年度における交付状況等を勘案し、対前年度プラス2.2%、185万1,000円の増、8,515万8,000円を計上しております。

法人事業税交付金については、総務省の地方税収見込み等を勘案し、対前年度プラス39.5%、1,002万1,000円増、3,538万7,000円を計上しております。

地方特例交付金については、令和6年度における交付状況等を勘案し、対前年度プラス4.9%、199万5,000円増の4,303万9,000円を計上しております。

地方交付税については、地方財政対策の増減率、推計による基準財政収入額の増を勘案し、対前年度マイナス14.3%、1億8,700万円減の11億2,000円を計上しております。臨時財政対策債については、地方財政対策の増減率等を勘案し、皆減しております。

これらにより、一般財源総額は、対前年度プラス3.0%、1億7,622万7,000円増の60億1,724万6,000円となっております。

特定財源総額は、ガバメントクラウド移行事業、駒寄スマートインターチェンジ産業団地関連業務に伴う国庫支出金やGIGAスクール構想に伴う県支出金の増を主な要因として、対前年度プラス22.9%、5億6,577万3,000円増の30億3,175万4,000円となっております。

なお、財政調整基金繰入金は、前述した事業の実施や、保育所運営委託料などの扶助費の増に伴う財源不足分への対応として、対前年度プラス9.5%、9,030万4,000円増の10億3,609万4,000円を計上しております。

それでは、令和7年度の主な事業についてご説明いたします。

保育料無償化事業は、保育料の無償化を継続します。

福祉医療費事業は、高校生世代までの医療費の無償化を県内統一で引き続き実施します。

高齢者福祉施策としては、高齢者インフルエンザ・新型コロナウイルスワクチン定期接種を継続する中で、新たに年度年齢65歳の高齢者を対象とした高齢者帯状疱疹ワクチン

定期接種を行います。

漆原総社線新設事業は、都市計画道路漆原総社線第1工区分の整備を行います。令和7年度は用地買収及び補償を実施します。

次に、ガバメントクラウド移行事業は、令和7年7月からガバメントクラウド上での基幹系システムの運用を開始します。

次に、駒寄スマートインターチェンジ産業団地道路新設事業は、駒寄スマートインターチェンジ産業団地及び周辺の幹線道路を整備します。

以上、予算の概要を説明させていただきました。

令和7年度予算は、人口増加、高齢化による扶助費の増を背景に、義務的経費等の大幅な増加もあり、町の貯金である財政調整基金の繰入額は前年度を上回る予算額となり、財政調整基金が近年で枯渇してしまうような厳しい財政状況です。

このような状況にあっても、第6次総合計画を骨子に据え、町民目線を意識し、未来へつなげるまちづくりの実現を目指すため、可能な限り歳出削減、財源確保を図り、将来を見据え、持続可能な予算編成といたしました。よろしくご審議の上、可決くださいますようお願いいたします。

なお、詳細については、企画財政課長に説明させます。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算について、町長の補足説明をいたします。

予算書5ページをご覧ください。

第1条の歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ90億4,900万円と定めるものです。前年度当初予算と比較するとプラス8.9%、7億4,200万円の増です。

第2項の歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、第1表・歳入歳出予算によるので、後ほど事項別明細書で説明いたします。

第2条債務負担行為及び第3条地方債は、11ページから12ページになります。

初めに、11ページをご覧ください。

第2表・債務負担行為は、議会広報印刷製本業務委託、期間は令和8年度、限度額は900万円です。

12ページをご覧ください。

第3表・地方債は、地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債です。令和7年度に予定している起債は12件です。

1段目及び2段目の一般事業債は、役場庁舎空調設備改修事業及び役場電気設備改修事

業に対するもので、充当率75%で、交付税措置はございません。

3段目、地方道路等整備事業債は、県単林道改良事業に対するもので、充当率90%で交付税措置はございません。

4段目、地域活性化事業債は、小規模農村整備事業に対するもので、それぞれ充当率は90%、交付税措置は22%程度となっております。

5段目から8段目までは、公共事業等債です。

5段目は、特定農業用管水路等特別対策事業に対するもの、6段目は、渋川吉岡連携道路事業に対するもの、7段目は都市計画道路漆原総社線新設事業に対するもの、8段目は、産業団地関連道路事業に対するもので、それぞれ充当率は90%、交付税措置は22%程度となっております。

9段目及び10段目は、公共施設等適正管理推進事業債で、9段目の道路長寿命化事業に対するもので、充当率は90%、交付税措置は財政力指数に応じ30から50%となります。

10段目の町営住宅本宿団地改修事業は、充当率は100%、交付税措置はございません。

11段目は、緊急防災・減災事業債は、群馬県防災情報通信ネットワークシステム衛星回線整備事業に対するもので、充当率100%で交付税措置は70%です。

12段目は、学校教育施設等整備事業債、吉中渡り廊下改修事業に対するもので、充当率は75%、交付税措置はございません。

以上、12の対象事業の起債額の合計1億7,760万円を予定しました。

起債の方法、利率、償還の方法については、表記載のとおりでございます。

再び議案書の5ページにお戻りください。

第4条の一時借入金は、昨年度と同額の最高限度額を10億円と定めるものです。

第5条の歳出予算の流用については、前年と同様です。

予算の内容につきまして、歳入歳出予算事項別明細書によりご説明いたします。

予算書の15ページをご覧ください。

なお、詳細な増減内容については、予算書と一緒に配付した別冊の総括に記載されてございます。

まず、歳入の町税です。

1款の町税全体では、対前年度7.5%増、2億1,390万6,000円増の30億8,041万3,000円を計上しました。

詳細は、1款町税1項町民税1目個人は、納税義務者数の増などを勘案し、対前年比5.0%増の12億1,988万5,000円。2目法人は、法人均等割分の増などを勘案し、

対前年比14.5%増の1億6,781万2,000円。町民税個人、法人合計で対前年比6.0%増の13億8,769万7,000円を見込んでおります。

2項1目固定資産税は、住宅新築に伴う土地、家屋分の増、商業施設における償却分の増などを勘案し、対前年比9.9%増の14億1,337万6,000円。

3項の軽自動車税の種別割は、課税台数の増などを勘案し、対前年比5.3%増の8,413万7,000円を計上しました。

次に、16ページから17ページの2款地方譲与税は、全体で2.2%増の8,515万8,000円を、4款配当割交付金は22.6%増の1,678万1,000円を、5款株式等譲渡所得割交付金は7%増の1,666万7,000円を、18ページの6款法人事業税交付金は前年度比39.5%増の3,538万7,000円、7款地方消費税交付金は前年度比10.6%増の5億1,248万7,000円、9款環境性能割交付金は前年比35.9%増の1,251万3,000円、それぞれ総務省の地方税収見込み、令和6年度の交付状況などを勘案して計上いたしました。

19ページ、10款地方特例交付金は、決算実績などを勘案し、前年度比4.9%増の4,303万9,000円を計上しました。

11款地方交付税は、国の地方財政対策の増減率などを勘案し、前年度比14.3%減の11億2,000万円を計上しました。内訳は、普通交付税が10億4,000万円、特別交付税が8,000万円です。

19ページ、12款交通安全対策特別交付金は、交付実績を勘案し、4.1%減の319万4,000円を計上いたしました。

13款分担金及び負担金は、老人保護の措置人数の増に伴う老人保護費負担金の増を要因として、対前年比125.8%増の316万6,000円を計上しました。

20ページ、14款使用料及び手数料は、一般廃棄物処理手数料として、指定ごみ袋の販売を商工会への委託から町の直営に変更することを要因として、全体で対前年比83%増の5,046万7,000円を計上しました。

22ページから24ページの15款国庫支出金は、全体で対前年比35.4%増の17億4,094万3,000円を計上しました。増加の主な要因としましては、保育所運営委託料の事業費、児童手当費の増に伴う国庫負担金の増及びデジタル基盤改革支援補助金の皆増などです。

24ページから28ページの16款県支出金は、全体で対前年比19%増の9億9,258万3,000円を計上しました。増加の主な要因としましては、保育所運営委託料の事業費の増、県単林道改良事業、学習端末の更新事業、参議院議員選挙費の皆増などです。

29ページ、18款寄附金は、令和6年度の納税寄附状況を勘案し、前年と同額の2,

015万円を計上しました。

30ページの19款繰入金は、全体で対前年比8.6%増の10億4,095万7,000円を計上しました。主なものは、2項基金繰入金1目1節財政調整基金繰入金10億3,609万4,000円です。

同じく20款繰越金は、対前年比3.1%増の937万1,000円を計上しました。

31ページから34ページの21款諸収入は、全体で対前年比19.2%増の7,080万6,000円を計上しました。増加の主な要因としましては、地球温暖化対策実行計画等策定事業費補助金の皆増などです。

35ページの22款町債は、第5表地方債で説明しましたので、ここでは省略いたします。

以上が歳入でございます。

引き続き、歳出についてご説明いたします。

予算書36ページをご覧ください。

1款議会費は、総じて報酬、給料、手当などの増などにより、対前年比11.7%増、1,137万9,000円増の1億861万5,000円を計上しました。

38ページ、2款総務費は、全体で対前年比18.6%増、1億9,429万7,000円増の12億3,731万9,000円を計上しました。

主なものとしまして、40ページ、1項総務管理費1目一般管理費12節委託料、自治会事務委託料4,509万6,000円は、広報や行政連絡文書等の配付や回覧を自治会に委託する経費、宿直業務委託料644万2,000円を計上しました。

44ページ、5目財産管理費12節委託料、公共施設樹木管理除草等業務委託料4,760万2,000円を計上しました。14節工事請負費5,160万円を計上しました。内容は、役場空調設備改修工事及び電気設備改修工事などです。

45ページ、6目企画費10節需用費、返礼品（ふるさと納税）501万円は、歳入のふるさと納税に対応し、計上しました。

46ページ、18節負担金、補助及び交付金は、県及び近隣市町村で連携し運行している地域乗合バスの負担金として838万7,000円、移住支援金400万円などを計上しました。

49ページ、12目電子計算費12節委託料、一括処理委託料として2,227万5,000円、自治体システム標準化移行作業、いわゆるガバメントクラウド移行事業料としまして1億824万9,000円などを計上いたしました。13節使用料及び賃借料6,032万円は、標準化後のシステム使用料などを計上しました。

52ページ、2項徴税費2目賦課徴収費12節委託料、固定資産基礎資料作成業務委託

(航空写真撮影) としまして1, 119万円を令和9年基準年度固定資産税評価替えに係る鑑定評価業務委託料379万6, 000円を計上いたしました。

58ページをご覧ください。

3款民生費、全体で対前年比10.2%増、3億5, 796万6, 000円増の38億8, 458万4, 000円を計上しました。

主なものとしましては、59ページ、1項社会福祉費1目社会福祉総務費13節使用料及び賃借料、温泉施設使用料(無料招待券交付事業)では、前年と同額の870万2, 000円、60ページ、18節負担金、補助及び交付金、社会福祉協議会補助金5, 270万円などを計上しました。

62ページ、4目老人福祉費12節委託料は、老人福祉センター指定管理料2, 439万1, 000円を計上しました。

65ページをご覧ください。

6目福祉医療費19節扶助費は、子供や重度心身障害者、母子・父子家庭の健康管理に寄与するための事業として、医療費2億7, 004万1, 000円を計上しました

68ページ、2項児童福祉費2目児童手当費19節扶助費は、児童手当の費用として5億7, 060万円を計上しました。制度改正により、令和6年10月分から高校生世代まで手当が拡充されてございます。

3目児童保育費12節委託料、保育所運営委託料10億2, 493万5, 000円、18節負担金、補助及び交付金、施設型給付費3億2, 638万1, 000円は、保育園や認定こども園と幼稚園に対する給付費を計上しました。

69ページ、5目学童保育事業費12節委託料、学童クラブ指定管理料は4, 216万9, 000円を計上いたしました。

71ページ、4款衛生費は、全体で対前年比1%増、840万2, 000円増の8億6, 437万1, 000円を計上しました。

主なものは、72ページ、1項保健衛生費1目保健衛生総務費12節委託料、地球温暖化対策実行計画策定業務委託料791万1, 000円は、(事務事業編)の中間見直しとともに、(区域施策編)を一体として策定するため計上いたしました。

73ページ、18節負担金、補助及び交付金、住宅用太陽光発電システム等設置整備事業費補助金として、前年同額の500万円を地球温暖化対策として計上しました。

2目予防費12節委託料、予防接種委託料1億1, 324万円を計上しました。

74ページ、3目母子衛生費12節委託料、妊婦健康診査委託料2, 394万4, 000円、75ページ、18節負担金、補助及び交付金では、妊婦のための支援給付金2, 000万円を計上しました。

76ページ、4目健康増進費12節委託料、健康診査等委託料3,952万1,000円を計上しました。

78ページ、2項清掃費2目塵芥処理費12節委託料、一般廃棄物収集運搬委託料6,251万3,000円、指定ごみ袋等製造販売委託料2,864万8,000円を計上いたしました。

議長（廣嶋 隆君） ここで休憩を取ります。再開を13時とします。

午前11時59分休憩

午後 1時00分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） それでは、78ページをご覧ください。

5款労働費は、全体で対前年比6.7%減、53万8,000円減の751万3,000円を計上しました。主なものは、78ページ、1項1目労働諸費18節負担金、補助及び交付金、勤労者住宅資金利子補給700万円を計上しました。

79ページ、6款農林水産業費は、全体で対前年比20.2%増、6,413万8,000円増の3億8,128万6,000円を計上しました。

主なものは、81ページ、1項農業費3目農業振興費12節委託料、道の駅指定管理料1,026万9,000円、14節工事請負費、道の駅屋外トイレ改修工事93万2,000円を計上しました。

82ページ、18節負担金、補助及び交付金、野菜王国・ぐんま総合対策補助金810万円、新規就農者育成総合対策経営開始資金150万円及び経営発展支援事業450万円は、農業の新たな担い手である認定新規就農者向けの補助金を計上しました。

84ページ、6目地籍調査費12節委託料、地籍調査業務委託料3,026万2,000円、復元測量等業務委託料470万円などを計上しました。令和7年度は大久保地区の字大下、字下中町及び字下町を実施予定でございます。

86ページ、2項林業費2目林業振興費14節工事請負費、県単林道改良工事2,514万円などを計上しました。これは、林道湯出入線の復旧及び改良工事を実施予定でございます。

87ページ、7款商工費は、全体で対前年比7.1%増、563万5,000円増の8,511万円を計上しました。主なものは、89ページ、1項商工費2目観光費12節委託料、リバートピア吉岡及び緑地運動公園（河川敷公園）指定管理料2,183万4,000

0円を計上しました。

90ページ、8款土木費は、全体で対前年比11.3%減、6,091万6,000円減の4億7,951万7,000円を計上しました。

主なものは、92ページ、2項道路橋梁費2目道路維持費12節道路清掃委託料1,245万1,000円を計上しました。14節工事請負費は、道路維持補修工事や道路長寿命化補修工事など計7,000万円を計上しました。自治会要望等で判明した町道等の危険箇所や不具合箇所の改善、道路の維持補修工事を行います。

93ページ、18節負担金、補助及び交付金では、小倉工業団地北側で事業化している渋川吉岡連携道路に関連する渋川市への負担金として400万円を計上しました。

95ページ、4項都市計画費1目都市計画総務費12節委託料、天神東公園用地測量業務委託料1,954万円、吉岡町都市計画マスタープラン改定業務委託料1,000万円を計上しました。

96ページ、2目都市施設費12節委託料、池端・南下線詳細設計業務委託料（単独）として94万円、（補助）としまして3,200万円及び大久保・南下線詳細設計業務委託料（単独）として50万円、（補助）としまして700万円は、産業団地関連の道路整備に伴う計上でございます。

97ページ、16節公有財産購入費、漆原総社線（第1工区）用地買収費2,000万円及び21節補償、補填及び賠償金500万円をそれぞれ計上しました。

5項住宅費1目住宅管理費12節委託料、改修工事設計業務委託料438万1,000円は、町営住宅本宿団地改修工事の設計に伴うものです。

98ページ、9款消防費は、全体で前年比3.2%増、1,202万9,000円増の3億9,262万1,000円を計上しました。

主なものは、101ページ、1項消防費5目無線放送施設設置事業費18節負担金、補助及び交付金、群馬県防災情報通信ネットワークシステム衛星回線整備工事負担金1,592万1,000円を計上しました。

101ページ、10款教育費は、全体で前年比16.7%増、1億6,094万8,000円増の11億2,307万6,000円を計上しました。

主なものは、101ページから106ページにかけて、1項教育総務費2目事務局費で、新規事業として学習用情報端末及び校内学習系ネットワーク機器の改善に伴う費用でございます。

104ページ、12節委託料には、それぞれ844万4,000円、880万円を計上しております。

105ページ、17節備品購入費には学習用情報端末の更新として1億3,029万5,

000円を計上しました。

106ページ、27節繰出金は、学校給食の充実を図るための食材費助成500万円及び昨今の原材料高騰対策として、学校給食事業特別会計への繰出金2,000万円を計上しました。また、第3子以降の給食費を無料化する事業として729万6,000円を計上しました。

109ページから110ページにかけて、2項小学校費1目学校管理費13節使用料及び賃借料、明小教職員用パソコンリース料501万8,000円及び駒小教職員用パソコンリース料592万円は、教職員用パソコンに伴うものです。なお、中学校費では、吉岡中学校教職員用パソコンリース料595万7,000円を計上いたしております。また、駒小LED照明リース料254万5,000円を計上しました。

112ページ、2目教育振興費13節使用料及び賃借料、明小学習支援ソフト使用料277万7,000円、駒小学習支援ソフト使用料391万3,000円を計上しました。昨年度に引き続き、情報端末を活用した授業や家庭学習支援の取組を進めます。中学校費は、吉岡中学校分272万6,000円を計上しております。

27節繰出金は、学校給食費に対する保護者負担の軽減を図ることを目的として、児童生徒1人当たり年額1万450円を補助するもので、明小分669万9,000円、駒小分875万8,000円です。なお、中学校費は、吉岡中学校分718万円を計上しております。

113ページ、3目学校建設費12節委託料には明小空調設備更新工事設計業務委託499万4,000円を計上しました。

116ページをご覧ください。

3項中学校費3目学校建設費14節工事請負費、防犯カメラ更新工事495万円、渡り廊下改修工事3,675万1,000円を計上しました。

122ページをご覧ください。

4目文化センター費12節委託料、自主事業委託料374万円を計上しました。

124ページ、14節工事請負費235万7,000円は、文化センターホール舞台系統空調リモートユニット交換修繕工事に伴う計上でございます。

127ページをご覧ください。

5項保健体育費1目保健体育総務費12節委託料、町民グラウンド改修計画策定業務委託料263万円を計上しました。また、14節工事請負費は、明治地区児童屋内体育施設建具修繕工事として981万9,000円を計上しました。

130ページをご覧ください。

6項1目給食センター費12節委託料、調理業務等委託料6,358万円を計上したほ

か、新給食センター関連費用として、基本計画策定業務委託料1,359万5,000円、整備事業業務委託1,897万5,000円、候補地用地測量及び事業認定申請書等作成等業務委託1,820万5,000円をそれぞれ計上しております。

132ページ、133ページ、12款公債費は、全体で前年比2.3%減、1,102万6,000円減の4億7,560万2,000円を計上しております。

以上、歳出予算の説明となります。

次に、135ページをご覧ください。

135ページから144ページまでは、給与費明細書、145ページは、継続費についての令和5年度末までの支出額、令和6年度末までの支出額又は支出額の見込み及び令和7年度以降の支出予定額並びに事業の進行状況等に関する調書。

146ページには、債務負担行為で令和8年度以降にわたるものについての令和6年度末までの支出額又は支出額の見込み及び令和7年度以降の支出予定額等に関する調書。

147ページには、地方債の令和5年度末における現在高並びに令和6年度末及び令和7年度末における現在高の見込みに関する調書でございます。

また、別紙として、令和7年度一般会計当初予算（総括）、一般会計の主要事業を記した当初予算説明資料（事業別予算概要）となります。

お手元に一般会計当初予算（総括）のご用意をお願いいたします。

その説明資料12ページをご覧ください。

渋川広域組合負担金の負担割合や負担金の比較を記載しております。広域組合負担金の全体では、対前年比1.7%増、5,091万円増の31億3,337万1,000円です。中央、黒の太枠内をご覧ください。吉岡町の負担割合は、令和6年度は19.647%、令和7年度は19.727%で、0.08%増です。

続いて、13ページをご覧ください。

一番左の欄、吉岡町の負担金は、一般経費、し尿運営、消防救急などの増に伴い、対前年比2.1%増、1,250万3,000円増の6億1,808万1,000円でございます。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第26号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第3 議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第3、議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

本予算は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億4,414万1,000円とするものです。

その他、詳細につきましては、教育委員会事務局長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

歳入歳出予算事項別明細書でご説明申し上げます。

156ページをご覧ください。

初めに、歳入です。

1款1項1目給食費納入金は、前年度比559万7,000円減の8,906万3,000円を計上しました。内訳は、説明欄のとおり、現年度分の教職員給食費、給食センター職員等給食費、児童生徒給食費などと過年度分給食費となっています。

次に、2款1項1目1節一般会計繰入金は、前年度比904万2,000円増の5,496万9,000円を計上しました。内訳は、3校分の給食費補助分繰入金の合計として2,263万4,000円、食材費助成分繰入金500万円、令和4年度から開始した第3子以降給食費無料化分繰入金729万5,000円を計上しました。人数は180人を見込んでいます。次に、昨年度に引き続き、食材費の価格高騰に対応するため、物価高騰分繰入金として昨年度から900万円増の2,000万円を計上しました。

次に、3款1項1目1節繰越金は、7万円を計上しました。

4款諸収入1項1目雑入は、廃油回収等など3万9,000円を計上しました。

歳入の合計は、前年度比348万5,000円増の1億4,414万1,000円です。続いて、歳出になります。

158ページをご覧ください。

1款1項1目学校給食費は、前年比348万5,000円増の1億4,414万1,000円を計上しました。内訳は、10節需用費、給食用食材料費1億4,389万1,0

00円、26節公課費、消費税25万円の計上となります。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第27号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第4 議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第4、議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ前年度比167万4,000円の減となる19億4,669万5,000円に定めたいものであります。

詳細につきましては、住民課長に説明させますので、ご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 一倉住民課長。

〔住民課長 一倉哲也君発言〕

住民課長（一倉哲也君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

161ページをご覧ください。

歳入歳出予算の総額については、先ほど町長が提案理由で申し上げたとおりでございます。

第2条の一時借入金については、最高額を5,000万円と定めるものです。

第3条の歳出予算の流用については、前年と同様になります。

それでは、当初予算の内容について、歳入歳出予算事項別明細書で概略を説明させていただきます。

167ページをご覧ください。

歳入の1款国民健康保険税は、対前年度比259万3,000円増の3億9,847万3,000円を計上しています。

168ページをご覧ください。

4款1項国庫補助金2目子ども・子育て支援事業費補助金として188万1,000円を計上しています。

5款1項1目保険給付費等交付金は、対前年度比171万5,000円増の13億9,232万円を計上しました。内訳としては、1節保険給付費等交付金（普通交付金）は、主に歳出の第2款保険給付費分を賄うもので、13億5,000万4,000円を、2節保険給付費等交付金（特別交付金）は、疾病予防費や特定健康診査などの事業に係る経費分として4,231万6,000円を計上しています。

169ページをご覧ください。

7款1項1目一般会計繰入金は、対前年度比153万5,000円の減となる1億2,139万7,000円を計上しました。主なものとしては、保険基盤安定繰入金として9,494万3,000円を計上しました。これは、一般会計から特別会計に繰入れするもので、そのうち4分の3が国及び県の負担金として一般会計に入り、これに4分の1の町負担金を足したものがこの繰入金となっています。また、その他として、歳出の総務費や出産育児一時金に係る負担金なども計上されています。

次に、170ページ、7款2項1目国民健康保険基金繰入金は2,750万4,000円、9款諸収入は506万5,000円を計上しており、これの主なものは保険税の延滞金となっています。

それでは、172ページ、歳出をご覧ください。

1款総務費は、174ページまで合わせて、対前年度比181万2,000円の増となる1,180万8,000円を計上しました。

174ページをご覧ください。

2款保険給付費は、176ページまで合わせて、対前年度比204万1,000円の減となる13億5,000万4,000円を計上しております。なお、この金額については、群馬県が各市町村の医療費分を基に算出した保険給付費等交付金の金額を参考に計上したものとっております。

176ページ下段をご覧ください。

3款国民健康保険事業費納付金は、177ページまで合わせて対前年度比32万2,000円減となる5億4,960万7,000円を計上しました。この金額は、群馬県が各市町村の被保険者数や所得水準などにより算出したものであり、納付金は、国民健康保険税と公費負担分の基盤安定繰入金等で納めるものになります。

177ページ下段、第4款保健事業費については、179ページまで合わせて対前年度比112万3,000円減の2,670万6,000円を計上しました。

180ページ、第7款諸支出金としては、合わせて356万8,000円を、また、1

81ページ、8款予備費については、前年度と同額となる500万円を計上しています。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第28号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第5 議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第5、議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算についての提案理由を申し上げます。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ15億2,036万円で、前年度予算額から414万4,000円の減、前年度比99.7%に定めるものであります。

令和7年度は、3年を1期とした第9期介護保険事業計画の2年目となります。

その他、詳細につきましては、健康福祉課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

歳入歳出予算の総額については、先ほど町長が提案理由で申し上げたとおりでございます。

当初予算の内容につきまして、歳入歳出予算事項別明細書で概略を説明させていただきます。

193ページをご覧ください。

歳入の1款保険料は3億9,590万円です。前年度比較1,100万円の増、前年度比102.9%を計上しています。保険料は、所得に応じた保険料率により納めていただくこととなります。

次に、2款国庫支出金です。193ページから194ページにかけて、全体で2億7,555万3,000円です。前年度比較1,657万6,000円の減、前年度比は94.

3%です。項目ごとに法定割合に応じた額を計上しております。

1項1目介護給付費負担金は、歳出の保険給付費のうち、居宅サービス費の20%分と施設サービス費の15%分を国が負担すると定められております。

2項1目調整交付金は、国庫負担割合のうち、その年の調整率に応じた額が交付されますが、令和6年度の交付割合が0%であったため、費目を残すための予算のみを計上しております。

2目地域支援事業交付金（介護予防・日常生活支援総合事業）は、歳出における地域支援事業のうち、介護予防・生活支援サービス事業の25%のうち、調整率に応じた額を計上しております。

また、3目地域支援事業交付金（介護予防・日常生活支援総合事業以外の地域支援事業）は、地域包括支援センター運営費などの国の負担割合38.5%を計上しています。

続いて、4目保険者機能強化推進交付金、7目保険者努力支援交付金につきましては、高齢者の自立支援、重症化予防等に向けた保険者の取組に対して交付されるものでございます。

3款支払基金交付金は、40歳から64歳までの第2号被保険者保険料として納めていただく交付金です。収入見込総額は3億9,279万8,000円です。前年度比較94万5,000円の減、前年度比99.8%です。

次に、4款県支出金は、全体で2億2,010万9,000円です。前年度比較104万円の減、前年度比99.5%です。国庫と同様に、項目ごとに法定割合を計上しています。

195ページの下段から196ページにかけての6款1項一般会計繰入金の前年度額は2億3,462万7,000円です。前年度比較205万円の増、前年度比100.9%です。こちらも項目ごとに、町の一般会計より法定割合を繰り入れるものです。

次に、2項基金繰入金は、介護保険料や公費負担額の不足分136万7,000円を基金から繰り入れるものです。

続いて、歳出に移ります。

1款総務費は、198ページから200ページにかけて、全体で2,594万3,000円です。

まず、1項総務管理費では157万1,000円を計上しました。

続いて、2項徴収費は、介護保険料徴収に係る郵便料や手数料となります。

また、199ページの3項介護認定審査会費は1,925万円を計上し、そのうち1目認定調査費は1,210万3,000円で、主なものは、主治医意見書の作成手数料と要介護認定のための訪問調査を行う会計年度任用職員の給与費となります。

2目認定審査会共同設置負担金は714万7,000円で、渋川広域の3市町村で構成する渋川地域介護認定審査会の負担金となります。

200ページに移りまして、5項計画策定委員会費は、次期介護保険事業計画の策定に向けたアンケート調査及び集計業務を委託するもので、340万円を計上しています。

次に、200ページから205ページにかけてが2款保険給付費となります。1項介護サービス等諸費は13億416万1,000円で、前年度比較176万4,000円の減、前年度比99.9%です。

次に、2項介護予防サービス等諸費は3,966万8,000円で、前年度比較176万4,000円の減、前年度比95.7%です。これら介護サービス及び介護予防サービスともにほぼ前年度並みの予算計上となります。

203ページの3項その他諸費は、介護給付費の審査支払手数料として、国民健康保険団体連合会へ支払うものです。

次の4項高額介護サービス等費は、利用者の月々の負担額が限度額を超えた場合に給付されるもので、前年度と同額の3,031万6,000円を計上させていただきました。

204ページに移りまして、5項高額医療合算介護サービス等費は、医療費と介護費の両方が高額となった世帯に自己負担限度額を超えた分を支給し、負担を軽減するものです。こちらについても、前年度と同額の予算計上となります。

続いて、6項特定入所者介護サービス等費は、主に所得の低い方が施設サービスを利用した場合に食費や居住費についての負担を軽減するもので、こちらも前年度と同額の3,622万8,000円を計上しました。

次に、205ページから208ページにかけては、4款地域支援事業費になります。全体の予算額は7,273万4,000円で、前年度比較310万円の減です。そのうち主な内容は、205ページの1項包括的支援事業・任意事業費1目包括的支援事業費12節委託料、説明欄にあります包括的支援事業委託料2,466万2,000円は、吉岡町地域包括支援センターの運営委託費で、職員給与費及び地域包括支援センターで行う包括的支援事業や介護予防支援に関わる事務経費となります。

また、206ページの3目在宅医療・介護連携推進事業費12節委託料の417万5,000円は、渋川広域の3市町村で構成する在宅医療介護連携支援センターの運営委託料となります。

続いて、2項介護予防・生活支援サービス事業費3,681万4,000円のうち、主な経費として計上されている1目介護予防・生活支援サービス事業費（第1号訪問事業、第1号通所事業、第1号生活支援事業）は、要支援者に対する訪問、通所介護のほか、生活機能の低下が疑われる高齢者に対して訪問型と通所型のサービスなどを実施するもので

す。

2目介護予防ケアマネジメント事業費につきましては、介護予防・生活支援サービス利用者のケアマネジメントを行うための経費を計上しております。

次に、207ページから208ページにかけて、3項一般介護予防事業費は、介護予防教室や介護予防サポーター養成講座、ボランティアポイント等の事業を実施する経費を計上しております。

最後に、6款予備費及び7款諸支出金では、前年度と同様の金額を計上しました。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第29号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第6 議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第6、議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ前年度比1,188万1,000円の増となる2億9,226万8,000円に定めたものであります。

なお、予算につきましては、群馬県後期高齢者医療広域連合より示されたものを基に作成いたしました。

現在の町の主な業務といたしましては、保険料の徴収、広域連合への納付業務、資格確認等の発行などとなっております。

詳細につきましては、住民課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 一倉住民課長。

〔住民課長 一倉哲也君発言〕

住民課長（一倉哲也君） それでは、町長の補足説明をさせていただきます。

215ページをご覧ください。

歳入歳出予算の総額については、先ほど町長が提案理由で申し上げたとおりです。

第2条の一時借入金については、5,000万円を最高額と定めるものです。

当初予算の内容につきましては、歳入歳出予算事項別明細書で概略を説明させていただきます。

220ページをご覧ください。

歳入の1款後期高齢者医療保険料は、対前年度比639万4,000円の増となる2億1,146万3,000円です。

2款1項国庫補助金1目子ども・子育て支援事業費補助金として38万2,000円を計上しています。

3款繰入金是对前年度比421万8,000円の増で6,846万7,000円を計上しました。内訳については、広域連合事務費負担金として1,655万7,000円、保険基盤安定繰入金として5,191万円となっています。なお、保険基盤安定については、県から4分の3の負担金が入り、これに町負担分4分の1を足して一般会計から繰り入れるものとなります。

4款繰越金は39万8,000円を計上しました。

221ページをご覧ください。

5款諸収入は222ページまでとなっており、全体で対前年度比88万8,000円の増となる1,155万8,000円を計上しました。主なものは、健康診査の受託事業収入が984万5,000円、人間ドック補助金140万円などとなります。

223ページ、歳出をご覧ください。

第1款総務費は、対前年度比141万1,000円の増となる1,643万円を計上しました。主なものとしては、保険料の賦課徴収等に係る電算処理の委託料が266万円、健康診査の委託料が984万5,000円、人間ドック補助金が140万円となっています。

224ページ、2款後期高齢者医療広域連合納付金は、対前年度比1,047万円の増となる2億7,513万2,000円で計上しました。内訳については、広域連合事務費等負担金が1,175万7,000円、保険料等負担金が2億1,146万4,000円、保険基盤安定負担金が5,191万1,000円となります。

3款諸支出金では、合わせて30万6,000円を、225ページ、4款予備費では40万円を計上しました。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第30号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第7 議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算

議 長（廣嶋 隆君） 日程第7、議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算を議題とします。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算について提案理由を説明申し上げます。

初めに、第2条業務の予定量です。給水戸数8,567戸、年間総給水量254万2,000立方メートル、1日平均給水量6,964立方メートル、主な建設改良事業は、中央監視システム更新が7,843万5,000円、老朽管布設替工事が3,867万6,000円を見込んでおります。

次に、第3条収益的収入及び支出の予定額は、収入第1款水道事業収益が4億4,179万1,000円、支出第1款水道事業費用は4億2,072万2,000円を見込んでおります。

続いて、第4条資本的収入及び支出の予定額は、収入第1款資本的収入が、8,029万5,000円、支出第1款資本的支出2億642万3,000円を見込んでおり、支出に対する収入の不足額は、当年度分消費税及び資本的収支調整額などの自己財源で補填するものであります。

なお、詳細につきましては、上下水道課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議 長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） それでは、議案第31号につきまして、町長の補足説明をさせていただきます。

議案書2ページの第2条及び第3条並びに3ページ、第4条の予算額については、先ほど町長が申し上げたとおりですが、まず、2ページの中ほどをご覧ください。

第2条第4号の主要な建設改良事業、中央監視システム更新は、導入から20年が経過し、老朽化が進んでいることや浄水場等基幹施設の整備が完了したこと、また、各施設と中央監視装置をつないでいる専用回線サービスが終了することなどを考慮し、更新を実施

したいと考えております。

次の老朽管布設替工事につきましては、防衛省の国庫補助で大久保地区の石綿管布設替工事を予定しております。

それでは次に、3ページをお願いします。

第5条の企業債についてですが、中央監視システム更新についての限度額を7,000万円と定めております。

この後は、主な予算について、予算明細書により説明いたしますので、ページが少し飛びますが、27ページをお願いします。

第3条収益的収入及び支出は、水道事業の経営活動に伴って発生する収入及び支出となります。

収入1款1項1目給水収益3億6,059万6,000円は、水道使用料です。

2目その他営業収益3,157万5,000円は、住宅新築などに伴う新規加入金や材料売却収益などです。

次に、28ページ、2項営業外収益は、1目長期前受金戻入4,544万6,000円は、水道管など資産の財源である工事負担金や国庫補助金などを減価償却に併せ、耐用年数の期間に応じて年度ごとに収益として計上しているものです。

2目雑収益417万3,000円は、公共下水道事業及び農業集落排水事業から支払われる検針負担金などの収益でございます。

続いて、支出に移ります。30ページをご覧ください。

1款1項営業費用は、1目配水及び給水費1億9,845万7,000円で、水道水の供給に係る事務経費になります。主なものは、職員の人件費や31ページ下段からの委託料などで、水道施設管理料は、浄水場や配水池などの施設や設備機器の運転の管理業務でございます。

また、33ページの4段目、受水費は群馬県企業局が運営する県央第一水道事務所から受水している水道水の料金です。

同じページの2目総係費3,978万2,000円は、水道事業の運営に係る事務経費であり、主なものは、職員の人件費や35ページの水道メーターの検針業務委託料などです。

次に、37ページ、3目減価償却費1億4,594万9,000円は、固定資産の目減り分をそれぞれの耐用年数に応じて費用化し、計上したものです。

4目資産減耗費591万2,000円、固定資産除却費の予定額となります。

続いて、2項1目支払利息1,589万2,000円は、企業債の利子償還金です。

以上が収益的収入及び支出でございます。

次に、資本的収入及び支出に移ります。39ページをご覧ください。

収入1款1項1目企業債7,000万円は、中央監視システム更新に伴う企業債借入金です。

3項1目国庫補助金869万5,000円は、大久保地区の老朽管布設替事業に伴う防衛省の国庫補助金です。

続いて、40ページをご覧ください。

支出になります。1款1項建設改良費1目配水設備工事費1億4,323万円の主なものは、建設改良事業に伴う職員の人件費や、次の41ページにあります委託料や、先ほど触れました老朽管布設替えなどの工事請負費でございます。

次に、42ページ、2項企業債償還金6,240万7,000円は、企業債の元金償還の予定額です。

以上が資本的収入及び支出でございます。

それでは、ページを戻りまして、19及び20ページをご覧ください。

令和7年度水道事業予定貸借対照表でございます。この表は、財務状況を明らかにするため、保有する資産と負債及び資本を示したもので、令和7年度末時点を予測したものでございます。

資産の部では、1の固定資産と2の流動資産の合計が40億1,821万3,627円。

20ページの負債の部は、3の固定負債、4の流動負債及び5の繰延収益の合計で、19億693万9,095円。

資本の部の6の資本金と7の剰余金を合計し、負債の部と資本の部の合計で40億1,821万3,627円となり、19ページの資産合計と同額になります。

そのほか、議案書の9ページに予定キャッシュ・フロー計算書が、10ページから17ページには給与費明細書が、23ページから26ページには予定損益計算書及び予定貸借対照表を添付しておりますので、お目通しいたきますようお願いいたします。

以上で町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第31号は、予算決算常任委員会に付託します。

日程第8 議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第8、議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算を議題と

します。

柴崎町長より提案理由の説明を求めます。柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算について提案理由を申し上げます。

初めに、第2条業務の予定量です。処理戸数4,940戸、年間有収水量130万3,000立方メートル、1日平均有収水量3,570立方メートル、主な建設改良事業は、公共下水道管渠布設工事として1億9,188万7,000円を見込んでおります。

次に、第3条収益的収入及び支出の予定額は、収入第1款公共下水道事業収益が3億4,281万7,000円、第2款農業集落排水事業収益が1億4,234万2,000円、支出第1款公共下水道事業費用は3億3,576万1,000円、第2款農業集落排水事業費用は1億4,095万5,000円を見込んでおります。

続いて、3ページの第4条資本的収入及び支出の予定額は、収入第1款公共下水道事業資本的収入が2億5,318万円、第2款農業集落排水事業資本的収入が3,016万円。

支出第1款公共下水道事業資本的支出は3億4,975万2,000円、第2款農業集落排水事業資本的支出は5,819万1,000円を見込んでおり、支出に対する収入の不足額は、当年度分消費税及び資本的収支調整額などの自己財源で補填するものであります。

なお、詳細につきましては、上下水道課長に説明させますので、よろしくご審議の上、可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） それでは、議案第32号につきまして、町長の補足説明をさせていただきます。

議案書2ページの第2条及び第3条並びに3ページ、第4条の予算額については、先ほど町長が申し上げたとおりでございます。

それでは、4ページをお願いします。

第5条の企業債についてですが、公共下水道事業債の限度額は1億2,480万円、流域下水道事業債の限度額は1,430万円と定めております。

この後は、主な予算について、予算明細書により説明いたしますので、ページのほう少し飛びますけれども、27ページをお願いいたします。

第3条収益的収入及び支出は、下水道事業の経営活動に伴って発生する収入及び支出となります。

収入1款1項1目下水道使用料1億3,737万6,000円は、下水道の使用料です。

2項2目一般会計補助金1億3,530万円は、公共下水道事業の維持運営に伴う繰入金です。

3目長期前受金戻入6,967万1,000円は、資産の財源である国庫補助金などを減価償却に併せ、耐用年数の期間に応じて年度ごとに収益として計上しているものです。

次に、28ページ、2款農業集落排水事業収益1項1目農業集落排水施設使用料2,016万円は、農業集落排水の使用料です。この使用料は、農集排の上野田地区が公共下水道へ編入されることから、その分については、先ほど説明いたしました下水道使用料へと予算を移行しております。

続いて、2項1目一般会計補助金7,800万円は、農業集落排水事業の維持運営に伴う繰入金です。

2目長期前受金戻入4,418万1,000円は、資産の財源である国庫補助金などを減価償却に併せ、耐用年数の期間に応じて年度ごとに収益として計上しているものです。

次は、29ページの支出になります。

1款1項1目管渠費1,723万8,000円は、マンホールポンプを含む下水道管の維持補修費などが計上されております。

2目総係費3,516万7,000円は、事業の管理運営に係る事務経費で、職員の人件費や使用料の算定に係る経費などでございます。

3目流域下水道管理運営費負担金7,461万8,000円は、県央処理区の維持管理負担金です。

4目減価償却費1億8,622万5,000円は、資産の目減り分をそれぞれの耐用年数に応じて費用化し、計上したものです。

32ページに移りまして、2項1目支払利息1,841万1,000円は、企業債の利子償還金です。

次に、2款農業集落排水事業費用1項1目管渠費4,418万2,000円は、農業集落排水の処理施設や、その設備機器あるいは管路などの運転管理、維持補修などの費用が計上されております。

2目総係費1,153万7,000円は、事業の管理運営に係る事務経費で、職員の人件費や使用料の算定に係る経費などです。

続いて、35ページの3目減価償却費7,003万8,000円は、資産の目減り分をそれぞれの耐用年数に応じて費用化し、計上したものです。

次の2項1目支払利息1,009万6,000円は、企業債の利子償還金です。

以上が収益的収入及び支出でございます。

次に、資本的収入及び支出に移ります。37ページをご覧ください。

収入1款公共下水道事業資本的収入1項1目企業債1億3,910万円は、建設改良費の財源とするための企業債借入金です。

2項1目受益者負担金2,764万円は、民間の開発事業に伴うものや令和7年度より供用開始を予定している大久保の道城辺玉地区及び沼地区の一部に対する負担金、また、農業集落排水から公共下水道に編入された上野田地区の受益者負担金も見込んでおります。

次に、3項1目国庫補助金7,474万円は、国交省所管の社会資本整備補助金です。

38ページの2款農業集落排水事業資本的収入は、1項1目受益者分担金116万円と2項1目一般会計補助金2,900万円を見込んでおります。

39ページへ移りまして、支出になります。

1款公共下水道事業資本的支出1項1目管渠建設改良費2億2,038万5,000円の主なものは、建設改良事業に伴う職員の人件費や次の40ページにあります委託料、下水道管の布設や舗装本復旧などの工事請負費でございます。

3項1目企業債償還金1億630万1,000円は、企業債の元金償還金の予定額です。

41ページ、2款農業集落排水事業資本的支出は、1項1目企業債償還金5,780万1,000円を見込んでおります。

以上が資本的収入及び支出でございます。

それでは、ページを戻りまして、20及び21ページをご覧ください。

令和7年度下水道事業予定貸借対照表でございます。この表は、財務状況を明らかにするため、保有する資産と負債及び資本を示したもので、令和7年度末時点を予測したものでございます。

資産の部では、1の固定資産と2の流動資産の合計が68億8,166万3,718円。

21ページの負債の部は、3の固定負債、4の流動負債及び5の繰延収益の合計で51億4,155万1,906円。

資本の部の6の資本金と7の剰余金を合計し、負債の部と資本の部合計で68億8,166万3,718円となり、20ページの資産合計と同額になります。

そのほか、議案書の11ページに予定キャッシュ・フロー計算書が、12ページから19ページには給与費明細書が、23ページから26ページには予定損益計算書及び予定貸借対照表を添付しておりますので、お目通しいたきますようお願いいたします。

以上で町長の補足説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。
ただいま議題となっている議案第32号は、予算決算常任委員会に付託します。

散 会

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、本日の日程は終了いたしました。
これにて散会とします。

午後2時10分散会

令和7年第1回吉岡町議会定例会会議録第3号

令和7年3月6日（木曜日）

議事日程 第3号

令和7年3月6日（木曜日）午前9時30分開議

日程第 1 一般質問（別紙質問表による No.1～No.5）

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（14人）

1番	山崎守人君	2番	春山和久君
3番	藤多ゆかり君	4番	大井俊一君
5番	秋山光浩君	6番	宮内正晴君
7番	小林静弥君	8番	富岡栄一君
9番	飯塚憲治君	10番	富岡大志君
11番	坂田一広君	12番	飯島衛君
13番	小池春雄君	14番	廣嶋隆君

欠席議員 なし

説明のため出席した者

町長	柴崎徳一郎君	副町長	高田栄二君
教育長	山口和良君	総務課長	小林康弘君
企画財政課長	齋藤智幸君	住民課長	一倉哲也君
健康福祉課長	永井勇一郎君	産業観光課長	渡部英之君
建設課長	大澤正弘君	税務会計課長	中澤礼子君
上下水道課長	岸一憲君	教育委員会事務局長	米沢弘幸君

事務局職員出席者

事務局長 福島良一 主任 関浩己

開 議

午前9時30分開議

議長（廣嶋 隆君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は14名です。定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

本日と明日の両日、一般質問を行います。

本日は、通告のあった9人のうち、5人の通告者の一般質問を行います。

ここで説明をしておきます。質問と答弁を含めて、議員の持ち時間の範囲内で終了できるようにしてください。なお、持ち時間の残り時間が5分になったときにブザーが鳴ります。さらに、残り時間がなくなったときにマイクの電源が切れますので、ご承知おきください。その時点で、途中であっても質問者及び答弁者は発言を打ち切るように、ご協力をお願いいたします。

それでは、お手元に配付してあります議事日程（第3号）により会議を進めます。

日程第1 一般質問

議長（廣嶋 隆君） 日程第1、一般質問を行います。

10番富岡大志議員を指名します。富岡議員。

〔10番 富岡大志君登壇〕

10番（富岡大志君） それでは、議長への通告に従い一般質問を行います。

ご存じのとおり、吉岡町というのは、今バイパスやインターチェンジが整備されてきて、子育て世代を中心に人口が増加しています。商業系企業も本当に商業集積と言われるぐらいたくさん集まってきて、急速に発展しているところでございます。しかし、発展を続ける今のうちから持続可能な未来を見据えたまちづくりを進める必要があるのではないかと強く思っているところです。もちろん、現在、町はそのための様々な取組、今回も企業誘致というか、産業団地の開発とかに力を入れていくところでありますけれども、住民一人一人がこの町に根を下ろし、共に成長し続けることができるような施策を講じていくことも重要だと考えます。今回、そのところで、シビックプライドという部分についてお尋ねしていくものであります。

1番目の、今回のシビックプライドとシティプロモーションについてなんですけれども、どういうものかという、シビックプライドとシティプロモーションというのは、どちらも最近、地方創生の上で注目されている言葉なんですけれども、どちらも地域や都市の発展や魅力向上に寄与する重要な概念であります。シビックプライドが強いと、市民は都市の改善に積極的に関わり、シティプロモーションが成功します。逆に、シティプロモーションが成功すると、シビックプライドも高まると。この相互作用が町の発展を促進すると

考えられています。

では、シビックプライドは何かというと、住民が自分の町や都市に対して持つ誇りや責任感、そして、その地域への関心と関与を意味します。吉岡町の総合計画に愛郷心というのがあるんですけども、こちら主に地域への感情的な愛情を意味する言葉として定義されているものですが、シビックプライドとは具体的な行動や責任感を伴う点で大きく異なります。これが高まると、住民は町の発展や維持に対する責任を感じ、活動や問題に対して積極的に取り組み、解決策を見つけるために協力します。また、シビックプライドが高まることで、住民同士が連携し、共に働く中でコミュニティーの絆が強まり、地域社会の活性化や住民の幸福感に寄与し、企業や町内外の人たちにとって魅力的な環境が整っていくわけでございます。

繰り返しになりますけれども、町が急速に発展し、人口増・企業進出が進む吉岡町であります。そう遠くない将来に始まる人口減も想定していかなければいけないわけです。そのような中で、住民が町に誇りと愛着を持ち、町のいろいろな取組に対して強い関心を持ち、積極的に関与してもらえるようなシビックプライドの醸成は、この町が自立持続可能性自治体であり続けるために、非常に重要な取組となるのではなからうかと。このような捉え方について、町長はどのような見解にあるのか、お答えを求めたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 皆さん、おはようございます。

今日、明日の2日間、9人の議員方から質問をいただきました。

本日、トップバッターとして、富岡議員より、シビックプライドの醸成についてのご質問を頂きました。

先ほど議員よりシビックプライドの定義等についてご説明いただいたところですので、その部分については割愛をさせていただきますが、近年、「シビックプライド」という概念を用いて、まちづくりを進める自治体が多いことは承知しております。

また、「シビックプライド」と「シティプロモーション」の関係についても、その相互作用によって町の発展を促進するというのはまさにそのとおりであると考えます。

今後、まちづくりの中の重要なキーワードの一つになっていくという認識は持っております。

詳細については、企画財政課長より答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 先ほど富岡議員の質問にもありましたとおり、第6次総合計画の将来

像実現のための3つのまちづくりポリシーの一つとして「ブランド力と郷土愛」を掲げてございます。これは基本構想に掲げているものでございますので、令和13年度の計画終了までの間においては、これらの目標に対してしっかりと取組を行っていきたいと考えております。

ご質問いただいておりますシビックプライドに係る取組については、ご指摘のとおり、ブランド力と郷土愛とは似て非なるものであることは承知してございます。シビックプライドには住民が地域の構成員であると自覚し、さらに町をよい場所にしていこうとする意思が含まれるとの話をいただいておりますが、なかなか腰を据えて取り組んでいかなければならない大きなテーマかと思っております。

重要性は認識した上で、引き続き、総合計画におけるポリシーの達成に取り組むとともに、研究を進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） まずこのことの重要性というのをご紹介させていただいて、認識していただくことがまず一番大事なかなと思っております。分かりました。

地方創生の取組が進む中で、関係人口という言葉も注目されています。関係人口というのは、総務省資料によりますと、移住した定住人口でもなく、観光とかで来た交流人口でもない。特定の地域に継続的に多様な形で関わる人を指します。地方圏は、人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面しているところですが、地域によっては、若者を中心に変化を生み出す人材が地域に入り始めており、関係人口と呼ばれる地域外の人材が、地域づくりの担い手となるのが期待できるわけです。

そこでお尋ねしますが、子供たちにシビックプライドが醸成されれば、将来、町を出ていくことになっても、育った町に誇りや責任感を持ち、将来、関係人口として町に強く関わってもらえるのではないかと考えます。このようなシビックプライドと関係人口の関連については、どのように考えるかお尋ねします。例えば子供たちが、今、中3だと250人ぐらいいるんですが、高校卒業して、大学進学して、多くの子供たちが町から出ていってしまいます。こういう出ていく子供たちが、また戻ってきたい、またこの町に住みたい、住むことができなくても強く関わっていきたいと思えるような形で関係人口になってもらうことも、非常に重要なのではないかなというふうに考え、お尋ねするものであります。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） シビックプライドと関係人口との関連についてですが、町長は日頃より、「若い方たちが、一旦吉岡町を離れたとしても、自分の育った町で子育てがしたいと

思ってもらえるよう取り組みたい」と述べております。

これは、主に教育に係る部分での取組となり、そういった考えを持っていただき、吉岡町に住居を構えていただくことが理想ではあります。しかしながら、ご自身のお仕事や家族といった様々な要因において、吉岡町での生活が難しい場合も当然あるかと思えます。

その中で、議員おっしゃる「シビックプライド」に係る部分での関わり、つまり「関係人口」としてつながりを持っていただくことは、とても重要なことと考えております。

先ほどの答弁と重複いたしますが、重要性は認識した上で、引き続き、総合計画における「ブランド力と郷土愛」のポリシーの達成に取り組むとともに、研究を進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 研究なんですけれども、昨年、総務産業常任委員会で、今、答弁いただいた課長も一緒に富山県舟橋村を訪れました。子育て世代の移住を促進しつつ、地域への積極的な参加を促すような取組が展開されていました。これもシビックプライド醸成へつながる取組であると考えられます。このほか、全国の市町村で地域活性化の上で注目されているものでありまして、大きな効果が期待されています。本町においても、全国各地の先進事例の研究を重ねるとともに、条例制定では、相模原市がこのシビックプライド条例を制定しています。こちらをぜひ研究して、町の中に取り入れていただければなと考えるわけなんですけれども、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 「シビックプライド」のキーワードで情報収集してみますと、様々な自治体がシビックプライドの概念の下、様々な取組をしていることが分かります。

また、「シビックプライド」と銘打たずとも、自治体はもちろん、住民や企業も、まさに「自分たちのまちを、さらによりよい場所にするために、自分自身が関わりを持つ」シビックプライドそのものの考えの下で行われている事業なども多く見られます。

その中には、先ほど議員がおっしゃった、「自身の住むまちではないものの、取組に興味を持ち、そして関わりを持ちたい」とする、いわゆる関係人口の創出に直結するものもございました。

全ての事例について把握できたわけではございませんので、県内はもとより、全国での取組事例などについて、今後研究させていただきたいと考えております。

また、ご提案のありました「シビックプライドに関わる条例制定」についてですが、ご紹介いただきました神奈川県相模原市の「さがみはらみんなのシビックプライド条例」を

拝見させていただきました。逐条解説なども丁寧になされ、あくまでシビックプライドを持つことは自由であり、条例により強制されるものではないことなども強調されておりました。

他の自治体の条例も同じように、あくまで住民の意思を尊重する旨の記載となっております。

目指すべきところという点においては、条例制定も一つ的手段と考えております。

こちらについても、事例の研究・調査を進める中で、併せて行っていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） ということは、条例制定も含めて検討できるということによろしいんですか。いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 今後研究を進めていきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 分かりました。

それでは、次にシティプロモーションについてお尋ねしていきます。

シティプロモーションというのは、地方自治体が地域の魅力を内外に発信し、地域の知名度・イメージを向上させ、地域でヒト・モノ、そして「カネ」を呼び込み、地域を活性化させるための広報・営業活動のことを指します。こちらについては半年前にも質問しているところなんですけれども、改めてお尋ねします。

このシティプロモーションの重要性について、町長自身、今どのようにお考えなのか、また、その効果に対してどのような期待感を持っているのか、改めて見解を求めたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） こちらは首長も同じ課題を抱え、また、町政に対して目指すべき方向性が同じ方々と、今までも意見交換を行っております。今後も意見交換を含め、活動を推進していく考えでございます。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番(富岡大志君) 先ほどの舟橋村の村長もそうでしょうし、私も知っている首長の中で、そういうところで取り組んで、先進的に取り組んでいる方がいるので、ぜひまたご紹介さしあげますので、一度お話しされてはいかがかと思うところであります。

例えば、シティプロモーションに成功すると、というか、シティプロモーションの効果としては、移住定住促進とか、関係人口の創出とか、企業誘致とか、ふるさと納税の増額とか、いろいろなことに期待ができるわけなんですよね。皆さんよくお金がないお金がないと言いますが、このお金がないということが、お金がないと言いますが、少しでもお金を呼び込むためには、このような取組も重要だというふうに考えております。

今回、吉岡中吹奏楽部楽器整備で、ガバメントクラウドファンディングを行いまして、195万2,000円の寄附を頂いたわけですよ。町で議会も協力しました。そして、吉岡町の住民や吉岡町の関係人口と言える人たちが積極的に関わり、町ぐるみのプロモーションが成功したといっても過言ではないのではないのでしょうか。目標額200万円のうち195万円だから、すごいことだと思います。また、連日、寄附額の推移を追っていましたが、最後のラジオ・新聞での情報発信は絶妙のタイミングで、終盤のさらなる増額につながったことは、ここで強く強調しておきたいと思います。さらに、西関東吹奏楽コンクール・西関東アンサンブルコンテストに出場した吉岡中吹奏楽部と町の子供たちは、町の誇りであり、その誇りのために住民と関係人口が積極的に関わり、今回のプロジェクトを通じて、シビックプライドが大きく高まったのではないかと考えております。

今回の成功を糧に、どうして成功できたのか、どのような効果があったのかをしっかりと検討して、さらなる取組につなげていただきたいと考えるわけですが、町長の見解はいかがでしょう。

議長(廣嶋 隆君) 齋藤企画財政課長。

[企画財政課長 齋藤智幸君発言]

企画財政課長(齋藤智幸君) 議員が今回のクラウドファンディングを成功と評していただいたことは非常にうれしく思います。

今年度実施したふるさと納税型クラウドファンディングは、町が過去の実績から見える課題に向き合い、改善を行ってきたことはもちろんですが、何よりも吉岡中学校吹奏楽部の関係者の皆様の熱い思いによる広報活動や、部員の活躍が成果を導いたものと考えております。

ここでは、吉岡町が実施した事業展開について分析・検証させていただきます。

これまで実施したふるさと納税型クラウドファンディングと比較し、今回は広報活動の拡充を図りました。例えば、チラシの作成・配布は変わりませんが、募集に先立って予告を実施と、楽器取扱店等の音楽関係者や各種イベント、店舗等への情報展開と周知依頼を

することで、町内のみならず、町外から来る方へも広範囲に周知を行いました。

また、「ふるさと祭り」開催時のチラシ配布など、吹奏楽部生徒の保護者の方々にもお力添えいただき、町職員だけでなく、関係者が一体となって盛り上げていくことができました。

今回のふるさと納税型クラウドファンディングの取組が、シビックプライドを高める重要なきっかけや変化を引き起こす誘因であれば、引き続きクラウドファンディングの在り方も検討していかなければと考えております。

さらに、議員ご質問のシビックプライドを高める要因となるか分かりませんが、本議会の議案第13号で「吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例」制定議案を上げさせていただきました。この条例により、より活発な事業展開を行うと同時に、寄附の使い道に共感した町民皆様や吉岡町を応援して下さる方々に、吉岡町への関心をより一層高めていただくことで、シビックプライドの高揚に少しでも寄与できればと考えてございます。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 随分準備、今回のクラウドファンディングの準備、随分しっかり進めたようなんですけれども、一方で、終わった後のシティプロモーションというか広報展開というのには、不備があったとまでは言わないですけれども、課題があったのではないかと考えております。

プロジェクトの結果とお礼については、教育委員会のホームページで、終了のお知らせと、「皆様のあたたかいご支援ありがとうございました」という簡単な挨拶があっただけで、町のウェブサイト、いわゆる町のホームページ上では、結果どうだったか、幾ら集まったのかとか、お礼の文の掲載がなかったわけです。また、一昨年までの、いわゆる教育委員会中心に行ったクラウドファンディングへの対応を考えると、今回の成功があるので、また今年も同じプロジェクトをしようとしているのではないかと。前回は二番煎じ、三番煎じまで行って、今回も成功したからまたやろうとしているんじゃないのかなと推測もできるわけです。

もし、この報告、幾ら寄附が集まりましたよというところの報告やお礼がしっかりできていない状態で、また楽器のプロジェクトをしますというようにしてしまうのは、もしそう考えているとしたら、大変寄附をしていただいた方々に失礼になるのではないかとというふうに考えるので、そこのところはしっかり見直して進めていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） お礼についてなんですけれども、先ほど議員は教育委員会のホームページだけに掲載ということでおっしゃられましたが、町ホームページ等でもお礼文のほうを掲載させていただいております。

町ではクラウドファンディングを含め、ふるさと納税をしていただいた方へ寄附受領証明書等の書類をお送りしておりますが、その中で寄附に対するお礼の言葉も添えております。

さらに、通常のふるさと納税において返礼品を希望された方につきましては、返礼品の配送時に、町の紹介と寄附のお礼を兼ねたチラシも同封してございます。

また、これまで町で実施したふるさと納税型クラウドファンディングでは、返礼品なしとして寄附を募っていましたが、今回のふるさと納税型クラウドファンディングでは、部員の手紙のメッセージを送り、返礼品とは別の形で寄附者へお礼を伝える予定でございます。

ホームページ等で掲載されているお礼文は簡単な挨拶とは思われるかもしれませんが、様々な手段で伝えている感謝の気持ちと変わりございません。

また、寄附をされている方の中には、紙1枚だとしてもお金がかかるのであれば、その経費を町政に生かしてもらいたいと強く求める方もいらっしゃいました。

議員のおっしゃることも踏まえ、今後の方針については、さらに相手の立場に立った事業展開を進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） ホームページに掲載ありましたとありますけれども、見つかりませんでした、私は。ということは、やり方がまずいんじゃないんですか。どこかに載っていればいいんですか。まずトップページ、トップの注目情報に載せる、目を引きやすくする、そうしていかないと見つからないんですよ。

例えば、今回、開成町と災害時相互応援協定を結びました。トップ記事になっていないんです。やっと見つけて、つながりができて、これから交流が進んでいくということになっているのに、それを住民にプロモーションしていないわけなんです。知っていますよ、載っているけれども、3回クリックして、吉岡町の災害の協定がどこに今結んでいるかというところの一覧に新たに加わっただけです。なので、トピックスとしてきちんと提供していかないと、こういうのは問題じゃないかなと。こういうところをきちんと進めていかないと、住民に分かりやすく進めていかないと、シティプロモーションにはならないんじゃないかなということで、もっとそういうところを丁寧に進めていただきたいと考え

るわけなんですけれども、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） こちらにつきましては、ふるさと納税のご案内という中で、かなりクリックを加えないと、そちらのほうのお礼文が出てこないような形になっております。今後はそちらのほうを改めたいと思います。

それと、企画財政課としては、各課から提出された原稿を、今までホームページに掲載して、今回の災害支援協定等もやっておりますが、議員のご指摘の点についても気をつけていきたいと考えております。

また、ホームページを管理する担当課としても、今後シティプロモーションを十分意識した上で、今後掲載方法について、各課局と検討した上で行っていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 今回の災害時相互応援協定も、うんと相互を行ったり来たりして、担当の中ではすごく熱い思いがあって進めていたと思うんです。そういうのが課を超えると伝わっていかないというのは、やっぱりそこは課題があると思うんです。そういうところをまたしっかり取り組んでいっていただければなと思うところでもあります。

次、情報発信の見直しについてお尋ねしていきます。

現在、町が情報発信に使用しているプッシュ型SNSは、運営会社の個人情報管理に問題があるばかりか、総務省の行政指導にも十分対応していないし、セキュリティリスクが懸念される実質的な親会社である国外の企業との切離しも指導が入っているのに、それをしようとしていないというのが現状です。

そこでお尋ねするんですけれども、まずこの現状について、どのように把握されているんですか。その上で、町の情報発信のツールとして使用していることについて、問題ないというふうはこのツールを評価しているんでしょうか。そこについてお尋ねしたいと思いますが、いかがでしょう。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ご指摘いただいている町が利用しているSNSについての現状把握でございますが、総務省との一連のやり取りについては承知してございます。

町の運用状況としては、運営会社が提供する無料の自治体アカウントサービスを利用しておりますが、登録されている方の個人情報等については保管しておらず、登録者数を確

認するのみとなっております。

総務省が行政指導を行っていることは紛れもない事実ではございますが、総務省が実施した、「令和5年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」においては、当該メディアの利用割合は全年代で94.9%と非常に多くの方が利用されてございます。より多くの方に情報を届けるという点においては、非常に有用なメディアであると認識してございます。

運営会社の動向については今後も注視した上で、現時点では引き続き利用させていただきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） それでは、現在このSNSで友達登録をしているアカウントは幾つあるんですか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 現在利用しているSNSについてなんですけれども、令和7年2月19日現在で2,401名の登録をいただいております。本日、私のほうが、こちらのほうを見返したら、2,415という形になってございました。

この登録者数については、LINEのアカウントをお持ちの方であれば、友達登録の有無にかかわらずご確認いただくことができますと思います。

以上です。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） たった1割じゃないですか。全住民の。という部分で、9割でしたっけ、ユーザー数9割4分でしたっけ、いると言っていますけれども、実質的に利用している人がそれほど多くないと。その中には、多分職員の皆さん、大勢登録されているので、住民の方というのは実際どのくらいなのかというふうに考えるわけなんです。やっぱりそれは、この数字というのは、説得力はないと思うんですけれども。多くの住民が登録して利用しているんなら分かるんですけれども、結局1割しか登録していない状況で有用だというのは、いかななものなのかというふうに思うんですけれども、そこら辺はいかがお考えですか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 現時点においては1割程度なんですけれども、1割に至っているSN

Sがないということでございます。引き続き町のほうではLINEのほうが有用なコンテンツとして、引き続き利用させていただきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） でも、LINEだったら一方的に押しつけるだけで、それについて、どれだけそれが届いているかとか、どれだけそれについて反応しているか、読み切れないじゃないですか。情報発信戦略においては、リーチとかエンゲージメントという概念、欠かせない要素となっているわけなんです。その重要性を認識している上で、LINEのほうがいいというわけなんですか。そちらについてはどのようにお考えですか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ご指摘のとおり、今プッシュ型という形で、ただこちらから情報発信をするだけで、それを、情報を提供するだけとなっております。

今後は、そちらのほう、吉岡町が行っているアカウントは無料のアカウントで、プッシュ型のみという形になってございますけれども、こちらのほうは費用をかければ、プル型という形にもなる予定でございます。そちらのほうも十分検討した上で、今後進めていければと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） では、インスタグラムとか、フェイスブックはお金がかかるんですか。かかるという形で認識されているのでしょうか。その辺、説明いただければと思いますけれども、いかがでしょう。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 議員ご指摘のとおり、インスタグラム等、別にお金がかかるというものではございません。今後、町のほうはLINEを中心に情報発信をしていきたいということでございます。そちらの中で、できるだけ改善策も踏まえた中で、よりよいものにしていければと考えてございます。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） そうですね、これ以上言ってもね、平行線な部分がある、町はどうしてもLINEを進めたいと、プッシュ型でいきたいと。でも、プル型のほうが、何ていうんですか、例えばインスタ見ている間に飛び込んできて、プル型というやつですね。情報発信もそう

いう形で、押しつけというか、見ていくことができると思うし、実際リーチと。リーチというのはどれだけ見てもらったかです。エンゲージメントというのは、どれだけ反応して、簡単にいいねという言葉がつくかどうか。そういうのがやっぱり見られないというのは、非常に大きな課題だということは、やはり認識しておいてほしいんです。

次に行きます。

次、教育におけるシビックプライド醸成の取組についてお尋ねしていきます。

子供たちが故郷に誇りと愛情、そして希望を持ち、大きくなっても住み続けたい、積極的に関わり続けたい、いつかは戻りたいと思えるような町にしたいと思っております。そのためには、シビックプライドの醸成における学校教育からのアプローチを進めることも重要だと考えます。こちらについて、教育長はどのような見解にあるのか、お答えを求めたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 学校教育を通したシビックプライドの醸成についての見解についてお答えを申し上げます。

まず、シビックプライドとは、町への愛着や誇り、そして地域の一員としての自覚と責任感を育むことであり、これからの町を担う存在として期待される子供たちに身につけてほしい資質の一つであると認識しております。

シビックプライドの醸成に向けた学校教育からのアプローチが重要であるという議員のお考えについてですが、学習指導要領に定められたカリキュラムの内容に「シビックプライド」という言葉は出てまいりませんが、その資質の基礎は、小学校を中心に教科の学習を通して育成できるものになっていると理解しております。また、町立小中学校の総合的な学習の時間で、地域の人々との交流を通した多様な学習が行われており、その資質向上の一翼を担っていると考えております。

また、学習指導要領では、教育活動は学校だけで行うものでなく、地域と連携して行うことを大変重視しております。その点から一つ申し上げますが、学校外の活動ではありますが、地域の人々との交流を図っている町の事業が、つい先日、2月28日、令和6年度文部科学大臣表彰を受賞したことを紹介させていただきます。「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」という内容での受賞です。具体的には、吉中ボランティア、吉中生放課後自習室、休日部活動の地域移行の取組、小学生対象の放課後子ども教室の活動が町の学校運営協議会と一体となって推進されていること、そして、地域が子供を育てる、子供が地域を活性化するという面で意義があることということで受賞をいたしました。ほとんどの活動が児童生徒と地域の皆さんとの交流活動を基盤に行われており、

これら地域との各種連携活動の目的は、議員おっしゃるシビックプライドの育成に結びついていると考えております。

学校教育を通してシビックプライドの育成を考えると、地域との連携は欠かせないものと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 今回ご紹介しましたシビックプライドというのが、既に取り組んでいるかもしれないんですけども、それがシビックプライドにつながるものなんだと、醸成につながるものだというのを、それを意識しながら今後は進めていただきたいと考えております。

先ほどの質問と同じなんですけれども、子供たちにシビックプライドが醸成されれば、将来町を出ていくことになっても、育った町への誇りや責任感を持ち、将来町の関係人口として強く関わってもらえるのではないかと考えるんですけども、その関係人口への結びつきについて、教育長としてはどのようにお考えですか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 「町に住み続ける、また戻ってくるという」視点からは、経済状況や雇用機会、個人のライフスタイルが大きく影響するため、「醸成すること」イコール「住む」ということに直結するとの言及は難しい面がありますが、「町に住んで生活すること」に限定せず、議員がおっしゃる「関係人口として町に強く関わってもらえる」という点から考えると、シビックプライドの醸成は、そこにつながる可能性は大きいというふうに捉えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 改めて申し上げますと、イコール、シビックプライドを醸成して町に住んでもらうというのも、そういう強制的なものではないですね。そこは指摘したいと思います。そういうふうになる子供たちが増えるような取組を進めて、強制的ではないものの、いつかは住みたいとか、いつかは戻ってきたいとか。ここでは、今、関係人口として町に強く関わっていききたいと思えるような形になればなどと思って質問した次第でございますが。

HiBALIプランが今度5.0という形で進化される、もしくは4.1とかで枝分かれとか、いずれにしてもバージョンアップしていくということになると思うんですけども、その中で、シビックプライド醸成も目標とか課題の一つとしていくことを検討していった方がいいかと思うんですけども、教育長、どのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） HiBALIプランに「シビックプライド」というキーワードを加えるということは、今のところ考えておりません。ただ、先ほど議員がおっしゃったように、全ての活動がシビックプライドにつながるというふうな意識を持って教育活動を行うということは言うまでもありません。

HiBALIプランのバージョンアップに当たっては、「子供主体の授業」を実践する際の視点として、「社会につながる体験活動」の重視を設定したいと考えております。その実践過程で、子供たちが地域における各種営みと交わる多様な社会体験、交流体験を積み上げることで、議員おっしゃる「シビックプライドの醸成」につなげていくことが現実的であると考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 生徒、児童と地域との交流についてはまた後で質問していきますけれども、その前に、町の歴史や伝統文化を知って、関心を持ち、愛着と誇りを持ってもらえるような取組も非常に重要なアプローチではないかというふうに考えるわけなんです。そこでお尋ねしますが、まずこのようなアプローチについて、教育長はどのようにお考えでしょう。

例えば、学校教育の中での伝統芸能の学習については、平成28年第2回定例会なので随分昔の話なんですけれども、毎年4月の三宮神社の春祭りで奉納される「太々神楽、溝祭獅子舞、大久保屋台囃子」が収録された動画DVDの小学社会化事業での活用について質問し、DVDを各校へ配布したとの答弁がありました。このDVDの活用は現在行われているのでしょうか。また、ぜひ今後とも積極的な活用を進めるとともに、できれば伝統芸能についての調べ学習とか、お祭りや練習の見学を通じて、関わりたい・参加したいと思えるように、もちろん強制ではございませんけれども、そういうようなつながりをしたいだけだと思いますし、関心のある児童がいれば、各団体に紹介していただいたりしていけるような、そういう体制をつくってほしいと考えるわけなんですけれども、どのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） まず、町の歴史や伝統文化を学ぶことは、自分自身がその歴史の一部であることを認識することにつながります。言い換えれば、過去から現在、そして未来へと続く時間軸の中で、自分もまたその一部を担っているという自覚が芽生えることになると思います。

また、その取組の過程では、高齢者や地域の大人との交流が生まれます。子供が関わる多世代間交流は、保護者も巻き込む可能性が高く、地域の連帯感の醸成にも大きく貢献できると考えます。

次に、議員ご指摘のDVDの内容についてですが、現在ユーチューブ動画でも公開されており、学校では主に4年生の郷土の伝統・文化の学習における調べ学習などで視聴する機会がございます。学校に問い合わせたところ、今年度、このDVDや動画を授業中に調べ学習で視聴することは、残念ながらなかったというふうなことは聞いております。

授業等で全員に向けて視聴する機会も、地域の伝統文化を知る上で、また、興味関心を高める上でも重要でありますので、来年度に向けて、改めてこの動画の積極的な活用について、小学校に働きかけていきたいと考えております。

最後に、伝統関係団体のことにつきましては、各団体では、後継者を募りたいという思いがあることを十分に承知しておりますし、伝統文化の継承の重要性も理解しております。「自分も参加したい」、「やってみたい」などに関心のある児童には、町文化財センターとつなげたり、文化協会や団体を紹介したりすることについて、学校に働きかけてまいります。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） まず、お聞きしている限り、あまり活用が進んでいないみたいな形だったんですけども、やっぱりこういう取組に、伝統芸能の後継者不足とかいろいろ課題はあるんですけども、それは強制的にするものではないし、ただ、やっぱり、まず知ってもらわないと、関心を持ってもらえないです。知って、関心持ってもらって、やってみようかなと思うわけで、まずその最初の知ってもらおうというところにやはり力を入れていただく。その最初の入り口ですよね。アプローチの入り口のところにつなげていっていただきたいのと、そこは強く感じるんです。そこは教育長、どのようにお考えですか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） そこは重要だと思います。副読本には写真は大きく、例えば獅子舞の写真であるとか、地域で行われている八木節の発表の写真であるとか、そういう載っているんですけども、そこがもう少し意識的に、重要性を意識したものになるように進めていくことは大事だと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） それでは、先ほどの町の団体との、地域との交流ですね。今回そういう形

で受賞されたというのは、非常にすばらしいことだと思うわけなんですけれども、もう一つのアプローチとして、学校・児童生徒と町の団体との交流により、子供たちに地域社会への理解や貢献を促す機会を提供することも有効だと思います。ここがHiBALIプラン4.0においても重要なポイントだったのではないかと考えます。そこについては、教育長、どのようにお考えなのか、お答えいただきたいとともに、例えば、毎年保護司とか更生保護女性会と吉岡中2年生との交流授業があります。私も参加しておりますけれども、地域の活動の担い手となっている人たちとの交流は、その取組や課題への理解が進むほか、地域への関心や愛着心を醸成する上で効果的な取組になるのではと考えます。授業時間に限りがあることは承知しておりますが、工夫してこのような交流授業を実施してみたいかがでしょうか。

また、これは例えばですので、例として、例えば消防団の確保も今すごく重要な課題になっていると思うんですけれども、こういう形で、例えばまだ全然何も調整も何もしていない段階なので、あくまでも例として挙げる段階ですけれども、例えば消防団の皆さんとの交流授業をすることで、この消防団の存在とか、町の防火に対する取組とかそういうものを身近に捉えてもらうことができ、将来の入団にも期待していけるのではないかと考えるわけなんですけれども、こちらについてはどのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 来年度に向けて取り組んでいるHiBALIプランのバージョンアップの内容は、「考えて行動できる人の育成」、これは変わらず最上位目標として、多様な人との交流・協働体験、自然体験、挑戦する体験、感動する体験、これを実体験を大切にしながら教育活動を展開し、目標の達成に近づけていくという計画推進は、4.0から引き継ぎたいというふうに思っております。したがって、学校と地域との協働は、子供たちの地域社会の理解を深めることにつながることも含め、重視していくつもりです。

あわせて、教育委員会事務局の取組を紹介いたします。学校地域連携推進員を配置いたしまして、学校の地域学習に貢献していただけたような知識や経験をお持ちの人材をリストアップし、「人材バンク」として登録してもらう事業も進めております。必要な場面で有為な人材を学校にお呼びしたり、子供たちが出かけていってお会いしたりして、学校の教員以外の方から体験的に学ぶ学習を充実させるためのものであります。この事業推進も、今後の「シビックプライドの育成」に貢献できると考えます。

また、例として挙げられた消防団の活動につきましては、小学校3年生の社会科で、火事から暮らしを守るために、私たちの地域ではどのような取組をしているかという調べ学習をしております。その副読本でもページを割いて取り上げているところです。

議員おっしゃるとおり、実際に調べる過程で、消防団員と直接会って、活動の様子や消防団に入団した理由、火事から暮らしを守るための団員としての工夫や努力、入団したよさや気持ちなどをお聞きする体験は、社会科学習を通して地域への愛着や理解を高めることにつながり、将来の入団につながる可能性もあると考えます。

地域に関わる学習では、実際に仕事に携わっている人から生の声を聞く機会を設けるなどの工夫が大切であると考えており、引き続き、続けていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 例えば、今、小学校の伝統芸能のところで学習進んでいるんですけども、そういうところで、例えば、獅子舞というのは、今、吉岡町3団体あるので、連携して取り組んでいるところですけども、こういう団体との交流授業もぜひ検討してほしいなと思うんですけども、その辺、教育長、どのようにお考えですか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 獅子舞をはじめ、地域に関わる学習では、写真や映像を通して学ぶことより、直接話を聞いたり舞を鑑賞したりするなど、体験を通じた学びのほうが狙いを達成するために効果的であります。授業を計画する上で、単元の計画時間、単元で学習できる時間、それと内容をどう構成するかについては、学校の教員が判断していくことでありますけれども、直接体験を重視する姿勢の重要性については、教育委員会からも助言していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 次は、フィールドワークを通じた学びについてお尋ねしていきます。

町の魅力とか、町が好きな理由とか、町で誇りを持っていることとは、そういうことを、町の誇りを持っていることはどういうものがあるのかなみたいな、そういうことを子供たちに意識させ、様々な人に直接話を聞き、町や住民との関わりを持つ、先ほどの教育長の答弁とちょっと似ているんですけども、そういうフィールドワークでの体験を通じた学びによって、子供たちのシビックプライドの醸成を促せないかと。

全国で初めてシビックプライドを条例で掲げている、「さがみはらみんなのシビックプライド条例」を制定した相模原市に、このフィールドワークを通じたシビックプライド醸成の先進的な取組があるので、ぜひ調査研究してみたいかと思うんですけども、こちらについて、教育長、どのようにお考えでしょう。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教 育 長（山口和良君） シビックプライドということを前面に出して教育課程を編成する際には、相模原市などの先進事例を参考にすることはとても有効だと考えます。教育課程をどのように編成するかは、校長が中心になって、学校の特色を打ち出すためにカリキュラムを編成するわけなんですけれども、そこで、やはり現時点で私は、シビックプライドというのをキーワードに加えるという予定は今のところないということを申し上げたように、あまり前面にそこを出した教育課程を学校に組むのがよいというところまでは至っておりません。

ただ、先ほど申し上げたように、社会科の学習であるとか、各学校が工夫して行っている総合的な学習の時間を着実に地道に行っていく、また、フィールドワーク等を通して、直接経験している人から聞いたり、直接よりよいものを見たり、体験したり、こういうことを積み重ねることが、ひいてはそこにつながるというふうに考えております。

これまで申し上げたような、多様な体験活動と地域の人との交流を着実に積み上げていくことにより、各学校が編成している教育課程における授業実践を通して、町への理解や愛着が深まること、そして、それがシビックプライドの醸成につながっていくというふうに、道筋を今のところ考えております。

議 長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） でも調査研究しておく必要はあるんじゃないですか。こういう形の先進事例があってというので、学校につなげる前に、まずどういうものかというのを、例えば教育委員会で視察に行くなりなんなりして、調査しておくことは重要ではないんですか。その辺、教育長、どのようにお考えでしょう。

議 長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教 育 長（山口和良君） 重要だということは認識しますが、研究も、今、議員さんがおっしゃるような、こういうよいものがあるということを知りましたので、教育委員会の事務局としては何らかの、研究までいかないかもしれないですけども、調べたり、どんなものなのかということについては、調べることは十分できると思いますので、それを実施したいと思っております。それを学校にどういうふうに伝えるかについては、先ほどの答弁のように考えております。

議 長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） あと部活動地域移行と文化協会との連携についてお尋ねしていきます。

まず1つ目、部活動地域移行の中で、地域の人たちと密な交流が展開され、シビックプライドの醸成につながることに期待したいと思っております。町の文化協会から部活動地域移行への協力について話があったようなんですけれども、地域移行と文化協会の取組をどのように教育長つなげていくお考えなんでしょうか。また、文化協会の活動内容に合わせ、新たに部をつくってもよいのではと。つまり、例えば、今、文化部があって、文化部の取組の中で文化協会に見合うものがあるのかを探していくのではなくて、文化協会の取組の中から部をつくっていくと、そういう考え方もあっていいんじゃないかと考えるんですけれども、教育長、どのようにお考えでしょう。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） ただいま吉中では、休日部活動の段階的地域移行を実施しているわけですが、昨年度、教育委員会事務局から文化協会の各団体に中学生の参加受入れについて打診したところ、76団体中17団体が受入れをしてくださることになりました。中学生にも紹介をしましたが、今のところ参加申込みをした生徒はおりません。

中学校の部活動として新たな部をつくるということに当たっては、中学校の部活動の創部の決まり等に基づいて進める必要が、まず第一段階としてはあります。顧問を置くこと、一定数の生徒が集まること等が必要になります。

ただ、議員おっしゃるように、もう少し柔軟に参加するような形ができないかということで、地域移行と文化協会に所属する各団体とをどうつなげていくかということですが、引き続き、この受入れの団体の紹介は継続したいと思います。あくまでも生徒自身のやってみたい、参加してみたいという意欲、興味・関心を基本にしていきたいと思います。参加して活動が始まれば、様々な課題等が出てくると思います。その際には、生徒が円滑に参加し、各団体の皆さんと有意義な活動ができるよう、教育委員会事務局としても具体的な支援をしていきたいと考えております。

今のところ、中学校のほうでは、地域の各団体と積極的に関わって、子供たちの部活動として成り立つような工夫をしていきたいという話は聞いておりません。学校とも話し合ったり、子供たちの意向を何らかの形で吸収したりということをしていかないと、なかなか議員がおっしゃるところには結びついていかないと思いますので、その辺のこれからの方向性につきましては、今進めている休日部活動の地域移行とも絡ませながら、どのように進めていけるか考えていきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） お聞きしている限り、初めにあるのが学校の決まりで、新しく部をつくら

ないとか、人数が集まらなきゃいけないとか、顧問を置かなきゃいけないとか、もう今は地域移行にシステム上移っているわけなんです。なのに、旧来の取決めがあって、それ前提に答弁されているようにしか、私思えないんですよ、今の。そうじゃなくて、もう地域移行で地域の活動としてあるんだから、その活動を部として認めてあげればいいんじゃないですかと。

例えば、年間を通して毎日行う部活でなくても、月に数回、土日の中で活動する部活も可でいいんじゃないですか。地域移行だけの部活も可なんじゃないですかと。季節部として文化協会のいろいろな活動に参加していける部があってもよいのではないのでしょうか。現にもう季節部によっては、もう競技が、大会がなくなっていくものもあるわけなんですよね。そういうふうになってきているわけなので、逆に文化部でも季節部みたいなのをつくって、例えば、獅子舞に練習参加してお祭りに出るという、その部分だけを部活動として認めてあげるのも手ではないかと思うんです。

こういう形で、何が言いたいかという、伝統芸能部の創設というのを強く求めたいわけなんです。すると、もう地域に受皿があるわけですし。それを部として認めて、その活動を部活動として認めてあげるだけで、別に顧問も要らないし、人数そろわなきゃいけないわけでもないし、各団体でそれぞれ受け入れて、やっていって、それにただ部というのをつけてあげるだけ、成績表をつけるときに。そういうことをしていってもいいんじゃないかと思うんですが、教育長、どうでしょう。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） いわゆる中学校の部活動ということになると、先ほど申し上げた、やはり決まりがあります。ただ、現在でも、中学校の部活動に、何とか部というところに所属している生徒が、土日についてはほかの活動、地域クラブに参加したいという意欲を持って、実際に活動している生徒もおります。ですから、伝統芸能やほかの文化的活動の活動の場があれば、興味関心のある生徒はそこに参加することも十分考えられます。ただ、それを、土日の活動を中学校の何々部とすることについては、やはりまだ今の段階であっても、なかなか、何ていうんですかね、決まり上難しい面がある。もちろん決まりは変えていかなくちゃならないというのがありますけれども。これは学校側の決まりですから、学校がやはりこのことを踏まえながら、一緒に考えていかなくちゃならないというふうに思っております。

ですから、繰り返しになるんですけれども、学校の部活動としてではなく、地域で行われる活動に、中学生が土日に自主的に参加するということは可能ですので、今後、中学生の土日の活動を受け入れてくださる団体と、さらなる具体策をどのように練っていくか、

事務局でも検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） 教育長、今、部活動の地域移行ですよ。取り組んでいるのは。部活動の地域移行で、土日に部活動を受け入れる団体につなげていっているんじゃないんですか、今の取組は。違いますか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） その辺の定義がなかなかややこしいんですけども、平日に、例えばバレー部、サッカー部の活動をしています。それを地域移行すると、そこは部活動じゃなくて地域クラブという形でしているんですね。地域の指導者で指導していますので。ですから、子供たちは意識としたら、バレーボール部という子供たちが、自分が所属して、地域クラブで地域の人に指導してもらっているところも、部活動と同じ気持ちで参加している可能性がある。顧問の先生がいなくてもですね。ただ、やはりいろいろなお金をどういうふうに払うとか、今いろいろなことがありますので、部活動として土日にやっているかということ、それは部活動ではないです。地域クラブという形なんですね。ですから、この伝統芸能につきましても、地域クラブ的な活動、要するに部活動でなくて、地域クラブ的な活動に持っていくのが、一番今の流れではいいのかなというふうに思っています。地域移行になったものは、部活動ではなく、地域クラブになっているというご理解をいただければと思います。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔10番 富岡大志君発言〕

10番（富岡大志君） なんでしょうけれども、部活動の地域移行と言っているぐらいですから、別に柔軟に考えればいいんじゃないかなと私は思うわけなんです。町の決まりもあると思うんですけども、決まりはもう地域移行で変わってくるので、いろいろが。もっと柔軟に、今ある決まりを重視するんじゃなくて、今後の中にどう考えを変えていくかというのが重要だと思うんです。もちろんこれは強制するものではないと思うんですけども、そういう考え方も持っていただきたいなと思います。

それでは、10番富岡の一般質問をこれにて終了いたします。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、10番富岡大志議員の一般質問を終わります。

ここで休憩を取ります。再開を10時45分とします。

午前10時30分休憩

午前10時45分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 8番富岡栄一議員を指名します。富岡議員。

〔8番 富岡栄一君登壇〕

8番（富岡栄一君） 議長への通告に基づき、一般質問を行います。

最初に、駒寄スマートインターチェンジ西側の産業団地計画についてお伺いします。

アンケート結果に基づく産業団地基本計画（案）について。

先月2月14日、16日に行われた第3回関係者説明会で公表された図面による計画案を見ると、産業団地の中に南北道路ができ、北は町道宮田・大藪線に接続をし、南は午王頭川に橋を架け、前橋市が開発している産業団地につながるとありました。北の町道宮田・大藪線に接する交差点の北側の、町道中学校・池端線は通学路であり、この道路は歩道もなく見通しの悪い道路であります。この道路は中学生のマラソンの練習や大会などで使用していると思います。この道が、南北道路が開通するに当たり、今、鬼ヶ橋を通過した北からとか西から来る車が通ってきた場合、今、関越の側道を右折してインターチェンジとかショッピングセンターとかへ行っているかと思うんですけども、この道が出れば、多分中学校で右折して、この道路を使って、町道中学校・池端線を通して、南北道路を使ってインターに乗るかと思います。そうすると、当然、通行量が多いと。中学校の脇を歩いていく車が当然増えると思います。そのため、今後の車両が増えた場合、危険になると思いますので、今から都市計画マスタープランで道路の改善を考えていたほうがよいと思いますが、町の考えをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議員ご質問のとおり、町道中学校・池端線は中学生の通学路であるにもかかわらず、歩道もなく、見通しの悪い箇所がある道路で、自動車の抜け道になることも認識しております。

これらを踏まえ、都市計画としての道路改善の考え方について、建設課長から答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 町道中学校・池端線は、現在、都市計画道路として決定はされておられません。

歩道設置や車道の拡幅、見通しの改善など、沿線に多くの家屋等が立地しているため、

この道路を都市計画道路として決定し、路線全体を改良することは、多額の費用がかかる上、整備期間も長期になることから、非常に難しいものと考えております。

そこで、局所的に見通しを改善する道路改良や、通学路の歩行空間を明示するグリーンベルトの設置、自動車の速度を抑制するハンプの設置など、短期間で効果が期待できる交通安全対策を検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

- 8 番（富岡栄一君） 同じく宮田・大藪線も、この間、地域住民の説明会がありました。そこでも質問が出ておりました。田中の交差点の渋滞や交通事故、今年に入ってやっぱり田中の交差点で事故が起きております。狭い交差点なので、事故が起きると、もう4方向全部通行止めで、通る車両が大変迷惑しております。特に西側に向かう方向では、右折車が信号の先頭にいますと、上から、西から東に向かう車が渋滞していると、信号が変わるまで出ていけないと。続いて2台目がついていくから、信号が初めて変わって、通行できるのが2台しか通れない。そうすると、信号を2回、3回待つのが大分多くなっております。この交差点に右折車線の整備など、あと大藪地区の見通しの悪い未整備地区もあります。これも都市計画マスタープラン、今から産業団地等ができますと、車の通りが今後もっと多くなると思いますので、道路改修計画に入れたほうがいいと思いますけれども、町の考えをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 前回、第4回定例会でも答弁させていただきましたとおり、町道宮田・大藪線については、全線が都市計画道路として決定されておりますが、改良工事が完了している区間は、県道高崎渋川線バイパスの大藪交差点から東に約300メートルの区間となります。

見通しの確保などの根本的な安全対策は、都市計画道路としての改良事業を実施することが必要になります。

改良事業には多くの期間と費用がかかるため、町内都市計画道路の中で、優先順位を持って順次実施をしております。当該路線は当面の間、改良事業の予定はございません。

そこで、交通安全対策として、スピード抑制のための路面表示などを検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

- 8 番（富岡栄一君） 今あった路面表示、もう既にしてあります。そして、私が前回質問したと

きの路面表示は、もう私が質問する前からしてある。それ以外の対策をお願いします。

次に、産業団地南の午王頭川方面では、河川に向かい緩傾斜をつける護岸工事をするこ
ととなっております。近年の異常気象の中、台風やゲリラ豪雨などが起き、河川の氾濫防
止対策はしっかりできるのか。また、午王頭川は一級河川であり、県からの支援は受けら
れないのかお伺いをします。

議 長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） アンケート結果に基づく産業道路基本計画の案においては、洪水時の河川
氾濫を防止するための対策として、今まで農地が持っていた保水機能がなくなることから、
大雨時の雨水をためて平常時に排水する調整池を産業団地の中に整備する予定でございま
す。また、調整池の整備により、下流での氾濫も防ぐ効果が期待できます。

この開発に伴う調整池の整備は、河川管理者である県ではなく、一般的には産業団地等
の事業者が行うこととなります。

なお、産業団地南側の午王頭川における緩傾斜護岸の整備については、群馬県へ実施の
要望をしているところでございます。

議 長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8 番（富岡栄一君） 図面による計画案にて、北側にある東西道路の位置をずらせないかという
意見に対しまして、そこには群馬用水の配管が通っているとのこと。この開発地域の中にも
上水道管が布設されており、平成29年と令和元年、上水道管の破裂により断水が起き
ています。たまたま平成29年と令和元年を私が目視しただけで、これ以外にも断水が多
分起きていると思います。私が見に行ったというか、現場で確認したのが平成29年と令
和元年になっております。特に令和元年では、早朝のため、朝食の準備や洗濯など、町民
が朝一斉に水を使う時間帯で、通勤通学など出かける人たちにはご迷惑をかけたと思いま
す。

この地域はいまだに石綿管なのか、また、今後開発が進む中、上水道管には十分注意を
し、漏水が起きないように図ってもらいたいと思いますが、町の考えをお願いいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） まず、この地域に石綿セメント管、こちらがあるのかというご質問で
ございますけれども、この産業団地の計画地域内には、石綿管はございません。

また、開発が進む中での漏水とのことですが、今後、開発事業区域内の新たな水
道管、また、既存の水道管の切り直しなどについては、協議を行いながら、計画や設計等、

進められていくと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8 番（富岡栄一君） 今後、工事等を行うに当たり、水道管に十分気をつけていただき、漏水などは起きないように、工事などを行ってほしいと思います。

次に、今後のスケジュールについてお伺いします。

令和6年12月5日から、同意の得られた方の土地の埋蔵文化財調査において、住居跡など遺跡が発見されたとあります。今後は、同意を得られた方からは全体を調査していき、本調査ではおおむね1年を予定しているとのこと。今、土地の譲渡に関する同意書をお願いしているところですが、同意書を出した田んぼの場合、令和7年の収穫後に埋蔵文化財の試掘調査を行うとのこと。その後、事業者への事業化を要望し、令和8年に売買契約が行われるとのこと。事業者への要望は確実にできるのか。試掘調査をして、その後、契約が伸びた場合はどのようにするのか。今現在、令和の米騒動が起き、米が不足しております。掘るだけ掘ってしまって、売買契約がずれてしまった場合、だから8年度に必ずもうお金が入るんだよと言えば、関係者、地権者は何も言わないと思うんですけども、1年延びて9年になったらお金が入るとか、1年間の米作れたじゃないかと、その補償などが考えられます。米を販売している人は死活問題です。試掘調査をした場合、必ず売買契約にならないのでは困ります。町の考えをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 埋蔵文化財調査につきましては、先般開催の説明会において、試掘調査の実施時期をご調整いただき、夏以降、耕作等をされていない農地、作付を計画している畑、稲作収穫後の田に関し、試掘調査を実施させていただきたい旨を、関係者の皆様にご依頼させていただいたところでございます。

現在、関係者の皆様の同意を前提とした、説明会でお示しした事業者の事業化と売買契約の時期、スケジュールについては、今後も丁寧に説明に努めて、皆様のご理解・ご協力を得られるよう最善の努力を続けていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8 番（富岡栄一君） 次に、この産業団地の中に、幹線道路や公園は、町が事業主体として行うとありますが、県の事業者への事業要望、全体が決まってから行うのか、それより先に、道だけは町が先に、道や公園は町が先に行うのかお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 幹線道路や公園についてのお尋ねでございますが、幹線道路計画も公園計画も産業団地の整備に伴う事業でございます。このため、事業の時期については、必要な工程について、団地造成事業とともに並行して進行していくこととなります。

幹線道路については、令和7年度には現地測量や詳細設計を行うこととなっております。その後、用地補償調査や用地買収を行い、工事に着手することとなります。

幹線道路や公園についても、地権者の皆様のご理解、ご協力が必要な事業でございますので、産業団地造成事業と歩調を合わせて丁寧に進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8 番（富岡栄一君） 関係者説明会で、税金の申告のことを心配している方々がいました。譲渡所得税だけではなく、住民税や、国保であれば国保税などの説明が必要だと思います。土地代金が入ったからと、もう譲渡所得税はこれだけは取っておくんだよ、ただし、それ以外に住民税に、国保なら国保税、翌年に払わなくちゃならない、その分まで関係者にお金を取っておいてくださいねと、そういう説明も必要かと思いますが、各種手続や税金申告のサポートすることが重要です。地権者が不安を持つことのないようにしてほしいと思いますが、町の考えをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 税についてのご質問や確定申告手続のサポートの要望などについては、地権者説明会を通して多数のご意見、ご要望がございました。その際、譲渡所得税や復興所得税の賦課についてだけではなく、住民税、いわゆる市町村民税や都道府県民税についてもご説明はさせていただいております。

今後は国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療保険についても説明を行ってまいります。いずれにつきましても、譲渡所得以外の所得についても関係することがございますので、地権者の方に対しては個別に対応していくことを考えております。

確定申告手続のサポートにつきましては、関係法令等を踏まえて検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8 番（富岡栄一君） 税金ですので、一人一人納付する税金が変わってくるかと思いますが、その対応のほう、よろしく願いいたします。

次に、町民に対しての周知についてお伺いします。

産業団地開発について説明会は一通り終わりましたが、現在の進行状況、今後予定しているスケジュールなどをホームページなどに記載し、周知を進めるべきだと思いますが、町の考えをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 本事業は、地権者の皆様とともに、町民皆様のご理解を深めていただくことが重要と考えております。

町ホームページにおきましても、本事業に係るページを設け、事業概要のほか、目的、経緯、予定に関して掲載をしております。今後も引き続き事業の進行状況などを随時更新し、分かりやすく丁寧な情報提供に努めてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） 事業が進んでいくに当たりまして、誘致企業の選定方法の施策が必要かと思えます。地権者や地域住民の説明会を開催し、資料などを配布し、町民に対してもホームページなどを利用し公表すべきではないかと思えますが、町のお考えをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 繰り返しとなりますが、本事業は、住民皆様のご理解を深めていただくことが重要と考えております。

企業誘致の選定方針の公表とのご質問でございますが、先般開催の関係者説明会や住民説明会においてお示しいたしました産業団地基本計画（案）により、「建物の用途や形態を規制・誘導する土地利用計画」、「地域振興や環境に配慮した企業を中心とした誘致」に関してご説明をさせていただいたところでございます。

住民アンケートや説明会においても、企業誘致に関するご意見をいただいておりますので、説明会や町ホームページで引き続き情報提供を行ってまいります。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） 次に、農業関連の質問に入ります。

最初に、農地バンクについて。

現在、農業委員会に許可を受けて、相対で農地の貸借が行われていますが、令和7年4月より、来月より、地域計画が作成された地域などが、農地バンクを経由した農地利用集積等促進計画が一本化されるとあります。計画地域に指定されているところはどこなのか、また、今後どのように変わるのかお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 令和5年4月1日に農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律が施行され、市町村の農用地利用集積計画は、公益財団法人群馬県農業公社、いわゆる農地中間管理機構が策定する農用地利用集積等促進計画に統合されました。このため、経過措置が終了する令和7年4月1日からは、原則として農地の利用権設定は農地中間管理機構を通じた設定に一本化されることとなります。

詳細については、産業観光課長より答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 町長の補足説明をさせていただきます。

目指すべき将来の農地利用を明確化するために、地域計画の策定がこのたび法定化されました。町では、認定農業者、農業委員会、JA北群渋川等の協力をいただきながら、町の農業の課題について話し合いを重ねました。その中で、集団的なまとまりがあり、今後、農地の集約が期待できるエリアを限定し、上野田（1か所）、北下（1か所）、漆原地区（2か所）を地域計画の中に位置づけて策定を進めているところであり、こちらが指定されているというところになります。

今後でございますが、地域計画の実現のため、地域のみならず、地域外からも農地の受け手を幅広く確保し、農地バンクを活用した農地の集約を進めていくこととなります。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） 指定された地域というのは、今後、除外、転用、あくまでここはもう農業用地ですよと、もう一切それ以外は除外もしませんから転用もできませんと、そういう地域に今もなっているか知りませんが、なっているのでしょうか、お伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 指定地域は、基本的には第1種農地という扱いになっておりますので、第1種農地内でできる土地利用に関しては、除外、転用等は可能になりますが、それに関してはかなりの制約がございます。その内容については個々の案件となりますので、ちょっとここでは、総体的に説明はできないという形になります。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） それでは、除外ができるかもしれないということかと思えます。それと、

それ以外、指定された以外は、地域計画が策定されていない地域は、農業委員会の要請等に応じて農地を貸し借りしますということは、それ以外の地域は今までどおりでよろしいのかお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） それ以外の地域についても、一応現在では契約とか結ばれていますけれども、当然のことながら、管理機構を通した農地の集積のバンクに関しては、引き続き行えるような形になると、ちょっと認識しております。詳細について、私のほうで地域外について調べが足りませんでしたので、また後日ご報告させていただきたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） そこで、この農地バンクができるというか、これ役場でやるんですかね、どこでやるんですか。これができることによって、今後、遊休農地が減少するのか、耕作放棄地もあるかと思うんですけれども、お伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 遊休農地の減少が改善するのかというご質問ではありますが、地域計画の策定を進めるに当たり、農地の所有者の方々に対し、今後の農業経営に関するアンケート調査を実施しております。その中で、貸出し希望との回答をいただいた方は、今回の策定の中で貸し借りの調整を進めているところであります。また、地域計画策定後、貸手・借手の希望があれば、これは随時、地域計画の更新を行っていくこととなっております。

地域計画によって、今まで以上に遊休農地の改善が進むかということについては、実際借り受ける農業従事者の高齢化や担い手の不足、町の農業を取り巻く状況を考えると、非常に厳しい状況にあるのも事実と考えております。しかしながら、将来を見据えた地域計画の実現を進めていくこと、さらには、農業委員会による農地パトロールと併せて、遊休農地の減少に、この方策以外にもいろいろありますので、努めてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） 次に、農林業センサスについてお伺いします。

令和7年2月1日が調査日になっている農業センサス調査があります。どのような調査を行っているのかお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など、農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査となります。

調査の内容としましては、農林業経営体の生産構造、就業構造となっております。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） その調査の方法なんですけれども、取りあえず広報よしおかに載っていたのを見ますと、統計調査員が農林業を営んでいる全ての農家と、農家、林家、法人の皆様の方へ伺い、聞き取りにより調査客体を判定を行い、調査客体となった皆様に対して、調査票の記入をお願いし、後日記入していただくとありました。この調査客体、全体のどのくらいというか、最初これ読んでみると、私のうちにも調査が来るのかなと思っていたら、全ての農家と書いたあったんですけれども、農家客体、要するにサンプルですかね、分からないですけれども。どのくらいの方々のサンプルを取るのかお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 全ての農家ということになりますと、国調等では、農業経営体が五百数件ございます。そちらのほうと新たに農業を始めた方、5年前の調査では該当されなかったけれども、今回調査員等が回っている中で、聞き及んだ中で新たに農業をした方等には、農林業センサスの調査のほうを配るよう指導してございます。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） それがどのくらいかというのは、取りあえず把握はしていないでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） あくまでも、農業経営体、五百幾つという形になっておりますので、そちらのほうには満遍なく配るよう指導をしてございます。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） 今、調査が始まりました。この調査が確定するのはいつ頃なのか、結果により今後の町の農林業の施策を策定すると思いますが、いつ頃になるのかお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 調査情報が確定する時期についてですが、通常、調査実施後約1年ほどで結果が公表されます。例えば、今回、令和7年、2025年に実施されている農林業センサスのその結果は、令和8年、2026年中に公表される予定でございます。

このように、調査結果が迅速に提供されることで、政策立案や研究者、農業関係者が必要な情報をタイムリーに入手できるよう配慮されてございます。

議長（廣嶋 隆君） 富岡議員。

〔8番 富岡栄一君発言〕

8番（富岡栄一君） すみません、時間がなくなりましたので、最後、申し訳ございません、プラスチック類のごみの質問は終わります。

以上をもちまして、8番富岡、一般質問を終了します。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、8番富岡栄一議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩を取ります。再開を11時25分とします。

午前11時15分休憩

午前11時25分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 6番宮内正晴議員を指名します。宮内議員。

〔6番 宮内正晴君登壇〕

6番（宮内正晴君） 議長への通告に基づき、一般質問を行いたいと思います。

まず、道路拡張整備についてですが、本年1月7日に住宅火災が大久保で起こりました。この火災現場は、道が狭くて大型の消防車両が近づけず、放水ホースを延長して対応しておりました。

火災は初期消火が大事だと思いますが、町長の考えを伺います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 1月の大久保の住宅火災、私も発災直後駆けつけて、納屋のトラクターの引き出しを何人かで試みた次第であります。

火災発生直後の初期消火は大変重要であります。

一般に初期消火が可能なのは、天井に火が回るまでと言われておりますが、一般的な家庭では二、三分で天井まで火が到達いたします。この間に行う消火活動が「初期消火」であります。

これは、町が各世帯に配布している防災ハザードマップにも掲載していることですが、①早く知らせる、②早く消火する、③早く逃げるの3原則が大切で、1人で消せるだろうと考えず、隣近所に助けを求め、速やかに119番通報することが必要であります。

今回の火災においては、周辺道路は広いとは言えませんでした。現場状況に応じた消防車両の適切な配置と消防署員、消防団員の迅速な活動により、消火活動に支障はなかったと考えております。

ここで、改めて消火活動に当たられた南分署員、渋川広域消防署員、そして町消防団員の皆様に御礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） そこで伺いますが、商業施設の周辺は、建築基準法に沿って幅4メートル以上の町道になっており、災害時には対応しているが、吉岡町の旧住宅街を走ってみますと、4メートル以下の狭小道路（別名馬入れ）があり、このままでは災害時の対応ができないので、拡張計画はあるのか、町長に伺います。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 火災発生時には、狭隘道路において消防車の交通に支障が出る場所があることは認識しております。このような道路を拡幅するには、沿線の家屋や塀などの移転等が必要となります。狭隘道路の拡幅整備には地元地権者のご理解、ご協力が必要であるとともに、長い整備期間と多額の整備費用を必要としますので、現在では具体的な計画はございません。

なお、現在の建築基準法では、幅員4メートル未満の道路に接している宅地は、4メートルの道路が将来整備できるように、道路中心線から2メートルセットバックした位置でなければ家屋は建築できないことになっております。したがって、古い家屋等の建て替えが進めば道路用地が生まれるため、町でも道路整備を検討することが可能となります。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） 今、大澤課長がおっしゃったとおりに、逆のパターンで、私の前の道路は逆に3メートルしかなかったんです。前にアパートができるということで、4メートルに変わったという経緯があります。確かに50センチ寄附したということは覚えております。町民の協力を得ないといけないことだとは思いますが、災害時に対応できる道路というのは絶対必要だと思いますので、なるべく協力を得るようにしてください。お願いいたします。

これは私の感じたことですが、県道南新井前橋バイパス線、大松交差点から駒寄スマートインター南交差点間に横断歩道がありません。そのため、道路を横切る方がおられます。信号機の距離があると間には横断歩道が設置されています。横断歩道の設置条件は、道路幅員4メートル以上、ピーク1時間の往復交通量300台、信号機からの距離が150メートル以上、条件を満たしていると思いますので、町民の安全を守るために、県道管理者や関連機関に検討してもらうのはどうでしょうか。

さて、次に質問ですが、道路の陥没や亀裂補修について伺います。

自治会要望から確認調査して、補修工事になるのでしょうか。それとも、町の担当者が巡回を行い、発見し、補修工事になるのでしょうか。また、要望・発見から補修工事完了までの期間を伺います。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 道路の補修工事完了までの期間につきましては、事故につながらないように短期間で実施をしております。舗装の穴埋め等で事故につながるおそれがある場合は、発見後、委託している道路作業員により速やかに穴埋め等の補修をしております。

また、道路作業員で対応できない場合には、一度穴を塞ぐか、コーンを置くなどの応急対策をした上で、専門業者に発注して、なるべく短期間で工事を実施しております。工事の期間は、道路損傷の規模により異なります。

なお、道路の亀裂などの事故につながるおそれのない場所については、他の危険箇所を優先して対策を実施しております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） 早急の対応をよろしくお願ひしたいと思います。

令和7年1月23日の新聞記事で、自転車走行中に、県内の国道で穴にはまり、転倒骨折の裁判判決の言渡しがあり、県に201万円の賠償命令が出ました。今、自転車の愛好家も多いし、吉中生も自転車通学者が多数おります。事故防止のために、早期発見・早期補修が望ましいと思いますが、町長の考えを伺います。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 現在、町ホームページにおいても町道の危険箇所の早期発見に努めているところでございます。

議員ご指摘のように、自転車や歩行者の事故、また、自動車の事故につながる道路の損傷等については早期に発見し、早期に補修をして、事故の軽減に努めていきたいと考えて

おります。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） よろしくお願ひいたします。

次に、交通違反防止についてです。

町内の右折信号がない交差点、例えば、大松交差点から南に2つ目の信号、交差点ですね、周辺に商業施設が多数あり、赤信号に変わっても三、四台が右折をしております。通学路安全推進会議の中で、違反について意見・要望・対策は議題になっていますか。交通事故が起きてからでは遅いです。被害者・加害者になってはならないため、早く対策をと思います。例えば、警察官の看板設置はどうでしょうか。町の方針を伺います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 通学路安全推進会議の中では、運転者の違反についての意見や要望、対策は議題に上がってはいないとのこととあります。

対策についてですが、町として交通規制や違反の取締りはできませんので、実効力のある対策は、やはり警察に取締り等をお願いすることが一番であると考えております。

町の対策として、ご提案の看板設置も手段の一つであるとは思いますが、現在も町交通安全会と渋川警察署を中心に行っている、季節ごとの交通安全運動での運転者への啓発活動を継続していきたいと考えております。

また、歩行者目線での対策として、小中学校での交通安全教室の実施の際に、ルールを守らないドライバーがいることも周知し、信号機の表示だけに頼らず、実際に目視で安全を確認することの重要性も児童生徒に訴えかけていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） その点はよろしくお願ひいたします。ただ、交差点で事故が起きないという保証はありません。それなので、やはり何ていうんでしょうか、町外から来られた方が、やっぱり違反を行っているように見受けられます。そのために、注意喚起のために看板を設置していただけたらなど、私個人では思います。

次に、大松交差点の滞留についてですが、滞留で生活道路に入り込む人がおられます。

令和5年10月に、交通量調査と渋滞長調査が行われ、調査結果は今後の道路整備に活用すると答弁をいただきましたが、朝晩の通勤時間帯と土日の夕方に、県道前橋伊香保線と県道南新井前橋線が交わる大松交差点で長い滞留が起きています。上毛大橋を渡るために生活道路への進入（大松交差点より南に1つ目の交差点です）、速度を上げて走行して

いるので、とても危険であります。町民の安全対策として、生活道路への看板設置を考えてはと思いますが、町長の考えを伺います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 大松交差点周辺地域につきましては、大型商業施設の出店等もあり、右折車が右折レーンに滞留し切れず、渋滞してしまう状況がございます。

議員ご指摘のように、商業施設に向かう車両が渋滞を嫌い、生活道路が抜け道のように利用されている状況もありますので、地域住民の安全対策として、注意喚起の看板等の設置を検討していきたいと考えております。

また、県道の安全対策や渋滞対策につきましても、県渋川土木事務所や渋川警察署と連携しながら、必要な協力をしていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） 了解いたしました。次に、町独自のゾーン設置を考えてはどうでしょうか。

生活道路では、道路標識、標示がないので、制限速度を設ける必要があると思われませんが、速度規制のため、町独自のゾーン30を設けることは可能でしょうか。例えば、静岡県内では「いたわりゾーン」があり、名古屋市内では「ユニバーサルゾーン」があります。また、柏崎には「さわやかゾーン」があり、子供や高齢者、障害者など交通弱者の交通安全を守る地域を目指しています。吉岡町は人に優しく高齢者に安全に暮らせるまちづくりとありますが、町民の安全を守るために、町の方針を伺います。

議長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） 町独自の速度規制のためのゾーンということでございますが、議員がおっしゃった静岡県や柏崎市の例は、県警・地元警察による規制がかかっているようでございます。

本町でも、仮に速度規制のためのゾーンを設けるとなると、町が単独で設置できるわけではなく、やはり規制をかける立場である渋川警察署と十分に協議した上で規制を検討することになります。

また、ゾーンで規制をかける場合、そのゾーンの地元住民との合意形成も必要となってきますので、いずれにせよ、慎重な協議が必要になると考えております。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 大松信号交差点の渋滞対策については、県渋川土木事務所に要望するとともに、町長が答弁したとおり、生活道路に看板を設置して、生活道路への車両の進入を抑制したいと考えております。

高齢者が安全に歩行できるように、引き続き、安全対策が必要な箇所につきましては、対策を講じていく方針でございます。

今後は、県渋川土木事務所や警察署、そして地域の方と相談しながら、有効な方法を検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） 次に、空き家の防犯・活用についてですが、空き家の防犯・活用について、吉岡町で400件以上の空き家がありますが、空き家バンク登録数はほぼなし、ゼロ件です。令和7年1月26日の新聞記事では、空き家の窃盗多発、全国の昨年の被害額は11億円とありました。管理されないと狙われやすいと警備会社は話しています。特に雑草の茂りや郵便受けのチラシが犯罪者の目安となっています。吉岡町の空き家防犯について、町長の考えを伺います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 議員のおっしゃるとおり、管理されていない空き家は犯罪の温床となる可能性が高くなりますので、空き家の防犯については、地域住民の方々の協力を得ながら、様々な取組が必要であると考えております。

なお、詳細につきましては、建設課長より答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 空き家自体には所有者がおり、所有者の財産であるため、所有者の責任において、防犯を含めた家の管理をしていただくことが原則であると考えております。しかしながら、管理されていない空き家は、雑草や樹木の繁茂により、地域住民からの通報や職員による道路パトロール等で発覚することが多く、その場合、町で所有者等を特定し、問題がある場合には、その対応とその後の適切な管理をお願いしているところでございます。

引き続き、地域住民や自治会の皆様からの情報提供などのご協力を得ながら、また、町としても、道路パトロール等により、管理されていない空き家の把握と所有者等の特定により、空き家の防犯に努めてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6 番（宮内正晴君） 空き家対策は難しいと言われておりますが、これは令和7年1月26日の新聞記事ですが、南牧村の空き家対策が地域再生大賞の優秀賞を受賞したとあります。南牧山村ぐらし支援協議会が、人口減少が進み増え続ける空き家を活用し、行政と連携して移住希望者の受入れにつなげているとありました。吉岡町でもできることではないかと思いますが、町の考えを伺います。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 南牧山村ぐらし支援協議会の取組に関しましては、協議会が10年以上にわたり行政と連携し、空き家の活用と移住者の受入れにつなげている点を評価され、受賞されたと聞いております。

空き家を貸したい人と移住したい人のマッチング方法や空き家バンクのさらなる活用、空き家と行政の関わり方など、吉岡町への適用の可能性や課題について、今後、調査研究をしていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6 番（宮内正晴君） 町のところを見ますと、やっぱり高齢化が、移住者も増えていますが、高齢化も進んでいって、若い人たちが外に出て、年配者の方が住宅に残り、最後には住宅を出て介護施設に入るといったような流れが、今発生していると思います。そのために空き家が増えてくるという形になっていると思いますので、やはり空き家の活用をこれからも考えていただいて、なるべく空き家がなくなるような形を取っていただきたいなと思います。

次に、教室確保と学童クラブ増員について伺います。

吉岡町では人口が年々増加しております。10年後の人口減少ということもありますが、今現状では年々増えております。それに伴って、保育園の整備や学童クラブ増設・新設し、待機児童はなしという状態になってはいますが、人口増加に対して、認定こども園や学校の受入れ体制は大丈夫でしょうか。これから毎年毎年増えてくるのに対して、空きがない状態だと、急に増えた場合、対応ができないと思うんですね。その体制は大丈夫でしょうか、教育長に伺います。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教育長（山口和良君） それでは、まず私のほうから、学校の受入れ体制について答弁させていただきます。

議員ご指摘のとおり、近年の児童生徒数は増加傾向にあります。それに備え、これまで

も校舎の増築や既存教室の改修等を行ってまいりました。これは未就学児の人数を参考に、近々、児童生徒数が何人で何クラス必要になるのかを想定しながら行っており、それ以降の動向につきましては、国立社会保障・人口問題研究所の人口推移計結果を参考にしております。推移結果を見ますと、今後、児童生徒の推移は令和11年度がピークで、それ以降は減少していくと推定されます。

現在の空き教室の状況ですが、中学校は、令和7年度予定では各学年1教室程度の空き教室になる状態ではありますが、明治小、駒寄小につきましては、あまり空き教室がない状態となっております。年によってクラス数の多い年と少ない年の幅があり、また、クラスの人数を分ける基準の変更もあることから、単純に児童生徒数の全体の増減を把握するだけでは対応できない問題ではありますが、今後も児童生徒数を注視しながら対応していきたいと考えております。

認定こども園等につきましては、健康福祉課長が答弁いたします。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それでは、健康福祉課からは、保育所や認定こども園、学童クラブについてお答えします。

現在策定中であります第3期吉岡町子ども・子育て支援事業計画におきまして、将来の児童数の推計及び保護者アンケート等の結果に基づき、計画の最終年度となる令和11年度末までの保育の見込み量の推計及びその確保方策について検討を行っております。

本計画に基づきまして、令和7年度においても保育所の施設整備を行い、定員増を図ってまいります。また、今後も待機児童を出さないために、保育所及び認定こども園、また、学童クラブ等の教育・保育施設の確保方策を講じてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） やっぱり移ってこられた方に、安心して、吉岡町は学校、園が余裕があるんだよというように言われるようにしていただきたいなと思います。駒寄スマートインター西側の産業団地がこれから開設、数年後には開設されます。それに伴って、やっぱり児童も増えてくるということも予想されますので、そういうのを加味しながら対策をしていただきたいなと思います。

吉岡町の未来を担う子供たちに、教育と居場所づくりと考えておりますが、町長の考えを伺います。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 先ほど申し上げた第3期吉岡町子ども・子育て支援事業計画における将来の児童数、また、保育の必要量、こちらの推計に当たっては、産業団地の建設等の要素は特に加味されておりません。

しかしながら、必要な保育の量を確保するための施設整備、そういった計画については、その時々の実情に応じて随時見直しを行うべきだというふうに考えております。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） 先ほどの教育長の答弁のとおり、町立学校については、児童生徒の転出入の状況などを鑑み、特別教室や他利用の教室を普通教室に改修して対応しているところですが、空き教室についてはほとんどない状況です。このような状況であります。子供たちが入れない状態にはならないよう、今後も施設整備に取り組んでいきたいと考えています。

議長（廣嶋 隆君） 宮内議員。

〔6番 宮内正晴君発言〕

6番（宮内正晴君） 子供たちが困らないようよろしくお願いいたします。

以上で、宮内の一般質問を終了いたします。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、6番宮内正晴議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩を取ります。再開を13時とします。

午前11時55分休憩

午後 1時00分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 12番飯島 衛議員を指名します。飯島議員。

〔12番 飯島 衛君登壇〕

12番（飯島 衛君） それでは、議長への通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

まず1点目といたしまして、健康福祉関連ということでございます。

（1）として、带状疱疹予防接種の助成についてでございます。

吉岡町では、令和5年4月1日からワクチン接種に一部助成が始まりました。これは、この予防接種を受けた方から大変喜ばれております。そして、今年の4月より原則65歳以上の人を対象に定期接種化されるということでございますけれども、この費用も定期接種化により接種費用の一部が公費で助成されるということでございます。

そこで、この65歳以上の方たちへの今後の町の助成について、町ではどのように考え

ているのか、町長の見解をお伺いいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 令和7年度から、65歳の方などへの带状疱疹ワクチンの予防接種が、予防接種法に基づく定期接種の対象になります。

接種の対象者は、令和7年度中に65歳を迎える方、あるいは60歳以上65歳未満であって、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方であります。また、5年間の経過措置として、その年度内に70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳となる方も対象となります。

接種費用の自己負担額については、現在、渋川広域市町村圏で協議を進めており、3市町村で足並みをそろえて実施する予定となっております。

議 長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） それでは、これから費用については協議して決まるということでございますけれども、それでは、今までの50歳以上の方への助成ということを行ってございましたけれども、それについては今までどおりでよろしいでしょうか。要するに、65歳からは定期接種になりますけれども、前は、令和5年4月からは50歳以上の方を対象にしていたかと思うんですけれども、その辺に対しての助成については継続ということによろしいでしょうか。

議 長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 現在実施しております任意接種、こちらにつきましては50歳以上の方が対象になります。

令和7年度以降におきましても、50歳以上の方で定期接種の対象にならない年齢の方に対しましては、任意接種を継続してまいります。

自己負担の金額についても、今年度と同様の金額を要求しておりますので、そちらのほうで対応していきたいというふうに考えております。

議 長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） 引き続きよろしくお願いたします。

また、ある報道によりますと、今、子供たちへの水痘のワクチンの接種が広く行われてきた反面、若い親御さんたちが、带状疱疹にかかる人が増えているというような、ちょっと報道を見ました。そして、この带状疱疹、本当に神経系統に何というかウイルスがかか

るものですから、通常の痛み止めが効かないなんていうような報道を聞いたものですから、そういう若い親御さんが増えているということも聞きましたので、やはり任意でいいと思うんですけども、やはり50歳以下でも受けたいよという人がいれば、その50歳以上、今行っている助成と同じような助成ができないかということをお聞きしたいんですけども、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 带状疱疹の発症率につきましては、50歳以上で増加をしまして、50代、60代、70代と、その加齢によってさらに増大していくということが分かっております。

若い人につきましては、子供のときに水ぼうそうを発症しまして、そのとき獲得した免疫によって带状疱疹の発症をある程度抑えられるということが分かっております。また、中高年になるとその免疫効果が薄まってしまうことによって、带状疱疹を発症しやすくなるということがございます。

また、合併症の一つであります带状疱疹後神経痛への移行リスク、これも加齢とともに高くなるというふうに言われています。

まずは、これら医学的見地に基つきまして、発症のリスクの高い50代からの接種費用、こちらの助成について、町としては行っていきたいというふうに考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） 取りあえず50歳以下の方はちょっと様子見ということで、今までどおり50歳以上の方はやっていただけるということで、分かりました。ぜひよろしく願いいたします。

（2）といたしまして、社会福祉協議会の生活福祉資金貸付事業についてでございます。

緊急小口資金や総合支援資金とか、善意銀行貸付事業というのが、社会福祉協議会のほうはあるんですけども、これは社会福祉協議会のほうで行っているの、そんなに分からないかと思っておりますけれども、取りあえず利用状況みたいなものがもし分かれば教えていただきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それでは、ご質問のありました生活福祉資金貸付制度の利用状況についてお答えします。

貸付元としては群馬県社会福祉協議会となり、吉岡町社会福祉協議会は申込みの窓口と

いうふうになっております。

現在、町内の方で貸付けを受けている方は、総合支援資金が2件、福祉資金が1件、教育支援資金が2件、緊急小口資金が3件です。

次に、善意銀行ですが、こちらの貸付元は吉岡町社会福祉協議会となります。現在、貸付けを受けている方は1件ということでございます。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） これは、本当にコロナの影響で大変な世帯を対象に始めたというような形があろうかと思うんですけども、随分人数が少なくてあれかと思えますけれども、告知が少なかったのか、それとも、あっても、やはり利用者が現実にはこれだけだったということでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それぞれ貸付理由が異なります。目的もちろん、それぞれの資金の貸付目的も異なりますので、そういった意味で単純な比較はできないんですが、基本的には相談に来た方の状況、あと、それから返済に向けた計画、そういったものを総合的に勘案して貸付けを行っているというふうに伺っております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） 最初に緊急小口資金や総合支援資金は保証人もなく借りられるということで、あくまでも県の社協の、吉岡の社協が窓口になっているということで、県のほうで資金は借りるということで、保証人はなしということでございますけれども、もう一つの善意銀行の貸付事業というのが、保証人が要だなんてことで相談を受けたことがございまして、その辺の事情をちょっと教えていただければありがたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 生活福祉資金について、まずちょっとお答えしますが、保証人をつけない場合は金利が発生します。もちろん保証人いなくても貸付けはできるんですけども、その場合は金利が発生すると。保証人をつけると無利子で借りられるということです。

それから、善意銀行なんですけど、この善意銀行については、その名称が示すとおり、人々の善意による寄附金が主な原資となっております。これまで社会協議会で福祉バザーとかも行ってございまして、その収益金なんかもこの善意銀行の原資に充てていたそうなんですけど、現在そういったバザーを行ってございませんので、純然たる住民の方からの寄附、

この原資に基づいて貸付けを行っているというものでございます。

つまり生活を再建するための長い期間で貸付けを行う、長期的な計画に基づく貸付けというよりは、年金の支給とか、給与の支給とか、そういったものが出るまでの期間のつなぎとして、一時的・緊急的に貸し付ける、そういった性格を持っている貸付けでございますので、保証人を町内在住者に限るといふふうにして理由についても確認したところ、やはり社会福祉協議会では、住民の方のいろいろな様々な住所ですとか、そういった情報を知るすべがないので、どうしても貸付けをした後、返済が予定どおり行われなかった場合に、町外の方ですと住民情報が追えない、転出等した場合にその行方が分からなくなってしまうというような、そういったリスク、貸倒れのリスク等を考慮して、そういうふうに対応しているというふうに伺いました。

議 長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） よく分かりました。万が一、滞ったときのね。

実は、この保証人ということで、町内在住の保証人が必要だということで、私もちょっと相談を受けたことがあるんですけども、実際、町内に保証人になる人がいないという例があるんです。私なんか保証人になったことがあるんですけども。これは社協がやっていることですから。何かの懇談するような機会があったら、なるべく町内に保証人がなくてもいい方向で、何かいい策を考えていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

議 長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 善意銀行の保証人の取扱いに関しては、先ほど議員がおっしゃっており、社会福祉協議会が独自で行っている事業ですので、町として直接的な関与はできませんが、そういった要望・意見があったということ等は社会福祉協議会のほうにつなげていきたいというふうに感じております。

議 長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） ぜひよろしく願いいたします。吉岡町に在住の町民の方で、本当に様々な人がいらっしゃるということを知っていただきたいと思っております。

それでは、次に移ります。

安心安全関連ということで、（1）は消防団員の確保対策についてということでございます。

昨年の9月30日の上毛新聞に掲載されておりました。昨年の4月1日現在で、全国の

消防団員数が74万6,681人で過去最少を更新してしまったと。群馬県でも172人減少の1万630人で過去最少だったというふうに記事が載っておりました。そうした中、本県では女性団員が2012年の63人から、昨年の2024年には198人に増えたということでございます。ちなみに、学生の方も21人から154人に増加したというふうに報道でありました。団員の高齢化の問題もあります。町でもさらなる確保対策が急務と考えます。

吉岡町、第4分団に女性3人が入団したということは、既にご存じですけれども、その確保対策というのは急務ではないかと思っておりますので、町長の見解をお伺いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 本町の消防団員の現状につきましては、団員定数128名に対して、令和6年4月1日現在の団員数が74名で、充足率は57.8%と危機的状況となっております。

なお、吉岡町の消防団員の平均年齢は39.27歳ですが、令和6年4月1日現在の全国平均が44.0歳ですので、吉岡町は全国平均よりも4.73歳低くなっております。

また、消防団は消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関であり、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っておりますが、吉岡町の消防団員の居住状況を見てみますと、吉岡町内に居住している団員は74名中60名で、中には消防団員が1人も居住していない自治会もございます。団員の居住状況においても大きなばらつきがある状況となっております。

現在の吉岡町の消防団活動は、現団員が精力的に活動することにより、辛うじて活動が成り立っており、議員ご指摘のとおり、さらなる団員確保対策は急務であると考えております。

町といたしましても、この状況を少しでも打開するため、令和6年度より、団員の処遇改善策の一つとして、これまで年額報酬の支給に加えて、団員の訓練、点検、災害出動等のそれぞれの活動に対して、その活動時間に応じた出動報酬の支給を各個人宛てに開始しております。

今後につきましては、改善された処遇面も大きくアピールしながら、少しでも団員数を増やすべく、自治会を通じた団員募集のお願いや広報や回覧による団員募集、町のイベント開催時の団員募集活動、そして、吉岡町商工会を通じた事業者への働きかけなど、様々な視点から団員募集に取り組んでいきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番(飯島 衛君) 今の町長のお話ですと、処遇面をこれからいろいろ考えているというふうにお聞きしました。本当に、今東北のほうで、岩手のほうで山火事等発生して、前橋の消防団が駆けつけたりなんかしているというふうに聞いています。吉岡町も今年2件ですか、火事がありましたね、大久保があつて、南下があつて。本当に消防団の人は大変な思いをされているかと思ひます。やはり人数がどんどん減ってしまうということは、本当に大変な問題ですので、処遇の面を本当によく考えていただいて、なるべく募集とか、入ってもいいなというような雰囲気をつくっていただいて、消防団員の増加に貢献するようお願いしたいと思います。

また、今後の女性団員の加入に備えてということありますけれども、今、第4分団では、女性の団員が3人おるといふことでございますけれども、やはり女性が入るとなると、更衣室やトイレの設置というのは、どうしても必要になろうかと思ひます。その辺の第4分団の現状についてと、今後、ほかの分団の設備を、団員が入ってから工事するか、それとも、もういつでも入ってもいいように、少しずつ更衣室なりトイレなりを増設というんですか、そういうふうを考えているのか、その辺をお伺ひいたします。

議長(廣嶋 隆君) 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長(小林康弘君) 現在、女性消防団員3名が所属しております第4分団詰所のトイレの改修工事につきましては、今年度中に改修を終える予定となっております。

また、更衣室についてでございますが、通常、消防団員が出動する際には、詰所に到着する前に自宅等で活動服に着替えてからの出動となっております。また、広域消防の消防署員と違い、通常の活動においては、詰所に寝泊まりすることは想定しておりませんので、常設の更衣室の設置については現時点で考えておりません。

また、もし現時点で必要となった場合については、詰所の部屋の中から鍵をかけて対応していただくことを想定しております。

なお、女性消防団員が活動しやすい環境の整備につきましては、町としても必要だと考えておりますので、今後についても、可能な限りの対応を取っていただければと考えております。

議長(廣嶋 隆君) 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番(飯島 衛君) 自宅で着替えるのであれば、更衣室は要らないかと。トイレのほうの改修というのは、いつ入団してもいいように、やはりその辺は用意しておいていただいてもいいんじゃないかと思ひますので、ぜひよろしくお伺ひいたします。本当に消防団員ね、町

民の命と財産を守る重要な使命を持った団員さんですので、ぜひなるべく急いで人員の増加をお願いしたいと思います。

次に、(2)といたしまして、AEDケースに三角巾の設置をということでございます。

公民館や学校などに設置してある自動体外式除細動器(AED)の使用実績について、まずお伺いいたします。

議長(廣嶋 隆君) 永井健康福祉課長。

[健康福祉課長 永井勇一郎君発言]

健康福祉課長(永井勇一郎君) 現在、町内の公共施設並びに学校に配備されているAEDは全部で24台ございます。

AEDの使用実績について調査したところ、現時点で実際に使用されたケースというのはありませんでした。

議長(廣嶋 隆君) 飯島議員。

[12番 飯島 衛君発言]

12番(飯島 衛君) 使用されていないということは本当によかったです。それは本当に驚きました。万が一のときにあれが使えるようになっているんだけれども、ゼロだったよということは、本当によかったです。私も、もう二、三年前ですか、うちの近所の人が倒れたというので、電話をもらって、すぐ駆けつけて、自宅へ行きましてね。もう年配の女の人だったんですけども、AEDの発想も何もなくて、取りあえず心臓マッサージをやった記憶があります。それから消防に電話して、ドクターヘリが八幡山に来るからというので、そこへ連れて行って、それで、その方は亡くなってしまったんですけども。ドクターヘリが着いて、お医者さんがその患者さんを見たら、もう助からないということで、乗せられなかったんです。だから、このAEDは、学校とかそういう公共のところでは何かあったときは対処できるけれども、一般の家庭で万が一なるときには、ちょっとどこにあるかも分からないし、探してというのもできないかなというふうに、実際ね。だから、やはり学校とか公共施設のところでは、これは設置するしかないのかなというふうに思います。限界があるというか。人命を救うにはね。

そんなところで、今このAEDの収納ケースの中に、三角巾と使用方法の書かれた説明書を設置する自治体というのが、何か多くなってきているようなんです。榛東さんでもつい最近設置したなんていうのでありましたけれども。ちょうどたまたまテレビのニュース見ていましたら、女性の方ですから、このAEDの装置を設置するときに、下着をこういうふうに外すんですよ。それで、それがセクハラになるかならないかなんて、ちょうどそんな話を聞きまして。そうしたら、やはり結論はならないということです、それは人命救助だからね。そういったことで、要するに、女性の方がこのAEDを使う可能性も、私

も女の高齢の方をちょっとね、そのときは無我夢中だから、全然そんなことを思っていなかったですけども。女性の方でそういうのあったときの対処として、この三角巾を使うということだったと思うんです。ぜひこの三角巾を収納ケースの中に入れるというのを町でも考えていただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 議員がおっしゃるとおり、女性の方にAEDの電極パッドを装着するときに、素肌を出さざるを得ない、出すことへの抵抗感から、AEDの使用率、これに男女で差があるというような大学の研究チームの報告もありました。

そういった意味で、三角巾は広げて女性の体にかぶせることができるというだけでなく、患部の固定ですとか、傷口の止血、そういったものにも使えますので、AEDに三角巾を配備するという事は非常に効果的であるというふうに感じております。

AEDを設置している各部署となるべく早い段階で相談をかけまして、早めに協議をしまして、三角巾の配備のほうは進めてまいりたいというふうに考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） ぜひよろしく願いいたします。

それでは、続いて、次に移ります。

道路管理に関してでございます。

（1）道路に埋設された上下水道、群馬用水の検査についてということでございます。

皆さん当然ご存じのように、1月28日に、埼玉県の八潮市ですごい道路の陥没事故がございました。そうしたら、何と下水道管は直径が5メートルぐらいあるとかなんとかと、すごい大きな下水道管が長年の老朽化で、それが崩れてしまって、大きな穴が空いたということで、まだまだ今の時点でも、映像で見ますと穴がどんどん広がっている状態で、いつ本当に元に戻るのか分からないような状況になっております。そういうことをきっかけに、県でも下水道管を点検するとか、前橋とか高崎なんか点検をしているようでございます。ただ、この下水道管なんかの内径が2メートル以上とかという形で、結構大きめの管が敷設されたところだけを検査しているというふうでございますけれども、そういったことを踏まえて、吉岡町でも検査が必要ではないかというふうに思うわけでございます。

また、昨年夏頃だと思いますけれども、南下の信号を第二保育園のほうに上がっていく途中で、何か道路が水浸しになって、何か工事をやっているところにちょうど出くわしたんです。それが水道だったか、農業用水だったのか、群用だったのかちょっと確認しなかったんですけども。そういった町でも水があふれていて、そんな事故がありました。

そして、皆さんのお手元にちょっとお配りした資料の1番なんですけれども、これは今年の1月18日に、土曜日ですね、ある町民の方から、道路に大きな穴が空いているよというので、連絡いただいたんです。でも、ちょうどその日は同窓会やっていて、ちょっと駆けつけることができなくて。それで、一応役場のほうには連絡したということなんですけれども、この工事に関しては、課長、何か連絡は聞いていますか。それで、翌日が19日から新春コンサートというのがありました、文化センター。それで、私その前にちょっと寄ったら、こんな形でコーンが置いてあって、こういうふうになった写真なんです。これは、場所は北下ということで。第二保育園の西のほうになりますか。それで、結構見ますと、幅30センチで、先ほど宮内さんが高崎のほうの穴で、自転車をね、そこにはまって大けがして、二百幾らお金を払ったというのがありますけれども、結構これ大きな穴だったんです。深さもあって。たまたま事故がなくてよかったんですけども。

こういった形で、これは町道で、路肩というか路面がかなり荒れていて。それで、この穴が空いている左側が、これ、この水路みたいなところが石垣積みのかかなり古い水路なんです。私は多分これ、ちょっとすみません、その後、ちょっと見ていなかったんですけども、これ穴が空いて、ただ補修するんじゃないくて、その原因を突き詰めないといけないんじゃないかと思うんです。ただ空いたから埋めるんじゃないくて、これ、この写真を見ると、手前のほう、ひびが入っています。よくこういう下水なんかで設備屋さんの工事なんか見ていると、管を伏せる前に砂を入れるんです。密着するように砂を入れて、高さを調整しながら、隙間を、後は砂を埋めるような工法を取っているんです。大きい石をだらだらやるんじゃないくて、砂を入れてこういうふうには密着させるというような形の固定の仕方をやっているんですけども。だから、こういうこともあるので、そういう検査が。検査というのは、私が言っている検査は、まず、よく漏水しているのを、人間が歩いて、何か聴診器みたいなやつを道路に当てると音がする、何かありますよね。

そんな形で、そういうまず検査を吉岡町ではしているのか、それとも、する予定があるのか、しなくても大丈夫なのか。また、こういう穴が空いたときは、原因までやはり調べたほうがいいんじゃないかというふうに思うんですけども、町長、見解をお伺いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 今の答弁の前に、先ほど消防活動の質問の中で、飯島議員から、東北の岩手県大船渡市の山林火災に、消火活動に前橋市消防団の応援という発言あったんですけども、渋川の広域の消防署員も出かけて消火活動に行っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

埼玉県八潮市で発生した下水道管の破損に伴う大規模な道路陥没事故に関しては、非常に衝撃を受けており、社会インフラの維持管理の重要性を改めて認識したところでございます。

上下水道、群馬用水の管路、その点検及び今後の対応方針に関しましては、それぞれの担当課長から説明をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） まず、私のほうからは、上水道の埋設管の点検はということですが、内部調査等につきましては、構造上の問題、あるいは飲料水が汚染される等のリスクが伴うことから、実施しておりません。また、先ほど議員さんおっしゃられた、路面からの聴診による点検、検査等も実施はしておりません。

また、下水道につきましては、毎年度、本管の内部にテレビカメラを入れまして、調査を行っております。

これまでに、公共下水道では約2万5,000メートル、農業集落排水では約1万メートルを点検しております。

また、今後についてですけれども、上水道管につきましては主に老朽管の布設替え、こちらのほうを継続していくということ、また、下水道についてはカメラ調査のほうを継続いたしまして、本管内への浸入水が確認された場合には、速やかに補修するなどが中心になっていくと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 群馬用土地改良区に確認したところ、埋設管路に附帯する減圧設備やポンプ機などでは定期的に異常確認を行い対応しているが、道路に埋設している管路については、特別な点検をしていないとのこと。

なお、今回の大規模な道路陥没事故を受けて、2月に吉岡町を含めて、群馬用水管理地域全体で、緊急的に本管が埋設されている幹線道路について、群馬用水が目視による点検を行い、異常はなかったとの報告を受けております。

今後の点検について、群馬用土地改良区に確認したところ、本管が埋設されている道路については、目視による点検を定期的実施していくとともに、止水弁等の作動確認を行いつつ、緊急時における初動体制をより一層強化していきたいとのこと。

あと、もう1点、議員からご質問がありました、今回のこの陥没の写真の原因ということなんですけれども、考えられますのは、議員のおっしゃるとおり、左側の水路側溝が石積みであるということから、そこから水が差してくる可能性がある。それ以外に、この

道路の写真を見ますと、道路は舗装がカッター切っております。ここの切ったところが、これは恐らく下水道が埋設された跡かなというふうに考えられます。そうすると、水道が埋設されましたので、そういった埋設されると、多少なりともどうしてもそういう陥没しやすいといえますか、そういう影響も考えられる。また、写真の奥のほうを見ますと、マンホールがございまして、こちらは農業集落排水のいわゆる下水の管もこの道路には入っております。ですから、下水道が原因の可能性もございます。あともう1点、考えられるのは、こちら写真の右側のほうには田んぼがございまして。そうすると、田んぼのほうには、この左側の水路から、斜めに水を入れる取り口があります。また、取り口が何かもう老朽化しておりますので、それが原因とも考えられます。本当に複数の要因が考えられますので、ちょっと特定するのは難しいんですけども、そのような複数の要因が考えられます。以上です。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） 本当に、確かに原因は複数あるかと思えます。だから、こちら辺は、よくまた調べていただいて、またほかがぼこっとなる可能性もありますので、ぜひよろしくをお願いします。

あと、私ちょっと危惧しているのは、旧県道高崎渋川線が陣場から小倉まで、今度町道になりましたよね。あそこ。広い道路が町道になって。そこの管というのは、もう県がどうせあるでしょう。検査はしてくれないと思うんです。今度町道ですから。その辺を、ちょっと私、危惧している。どうせ下水管も大きなのが少し入っているんじゃないかと思えますけれども、その辺、今後どうしますか。ちょっとお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 岸上下水道課長。

〔上下水道課長 岸 一憲君発言〕

上下水道課長（岸 一憲君） 旧高渋線の下水道管につきましては、今現在では、いつ点検をしようという具体的なことはちょっとお示しできませんけれども、吉岡町の中では、管径、管の口径が最大で800ミリぐらいが一番大きいかなというふうに思っております。その辺は、主にはもう逆に言うと上越線線路沿いがメインじゃないかなと。その辺であっても、公共下水は吉岡町、供用開始が昭和62年でございます。ですので、ざっと40年弱でしょうかね。比較的新しいと言えるのではないかなというふうにも考えておりますので、その辺を鑑みながら、点検のほうはしていくということになるかと思えます。

以上です。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

1 2 番 (飯島 衛君) 本当に今回は八潮市の件をきっかけに、全国的に改めて焦点が当てられたというようなことでございます。

また、今日ちょうどインターネット見ていたら、大阪のほうで、やっぱり水道のインフラも何か異変があるなんていうことで、ちょうど見ていたら、大阪の堺市と美原区で、相次いで水道の管が破裂しちゃったと。それで、映像を見ると、鉄の水道管なんです。直径30センチか40センチぐらいですかね。中がさびて詰まっているような映像があったんです。何か下水道か群用、やっぱり上水道、水道の水道管というの、鉄の布設替えでやっていますよね。だから、まだ吉岡はたっていないと思いますけれども、年数がたつと、やはり、埋設している管が、全てが点検が必要になってくるということで、これから本当にちょっと費用もかかったり、大変な時代になるのかなというふうにちょっと思っていますので、またそういったことを踏まえて、検討のほうとか、対策を練っていただきたいと思います。

また、水道管が破裂するということは、物すごい何か大変なんです。阪神・淡路大震災のときに、この水道管の破裂が火災の消火活動に遅れをもたらして甚大な被害が生まれたということで。要するに消防の水は水道の水使っているからね。だから本当にこの水道管が、万が一はねたとき、火事があっても、貯水槽の水だけは使えるけれども、何ていうかな、消防の設備の水が下手すると使えなくなっちゃうと。だから本当に水道のインフラというの物すごい重要になってくるということで、本当にその辺の対策というか、慎重にしていきたいと思います。

それでは、次に移ります。

窓口対応及び情報発信に関してということでございます。

私も以前にもちょっとお話しさせていただきました。(1) 軟骨伝導イヤホンの導入をということでございます。

今年の1月5日に桐生市、1月27日に伊勢崎市ということで、この伝導イヤホンを使っているなんていうのが上毛新聞に載っておりました。どうも新聞にこういうふうに乗ると、何か私は、やはりこういういいものはどんどん広めてくださいよというふうに言っているんじゃないかというふうに勝手に思っているんですけども。やはり高崎市ももう昨年実施しているということで。こういう便利なものは、やはり利便性があって本当に重宝しているのではないかと思います。再度のまた質問になりますけれども、ぜひお年寄りに寄り添った施策というのを吉岡町でも考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長 (廣嶋 隆君) 柴崎町長。

[町長 柴崎徳一郎君登壇]

町 長（柴崎徳一郎君） 軟骨伝導イヤホンの購入補助については、過去の一般質問でも飯島議員よりご提案をいただいております。

耳の聞こえづらい高齢者への支援としては、今年度から吉岡町でも補聴器の購入費の助成事業を始めたばかりであります。

前回と同じ答弁になってしまいますが、まずは補聴器が必要となった際に、本事業を高齢者に活用してもらい、購入費の助成が受けられるよう、引き続き周知を図ってまいります。

軟骨伝導イヤホンを助成の対象に加えることについては、引き続き検討してまいりたいと思います。

議 長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） ぜひ検討していただきたいと思います。

次に、（2）町勢要覧の掲載は必要ではということでございます。

1月16日に、長野県の箕輪町が視察に訪れたわけですが、そのとき箕輪町のことを調べましたところ、ホームページに町勢要覧が載っております、物すごくよくできておりました。町でも掲載を考えてはと思うということで町長にお聞きするんですけども、吉岡町のホームページ見ますと、私が通告したのは2月20日で、この通告を出したわけなんですけれども、それを出したということは、その当時はまだ載っていませんよね、そういう詳しいような町勢要覧というのは。だから、ここに箕輪町のあれを見て、町も載付けてというふうにお話ししたんですけども、今日の質問に対しての答弁もないのに、もう既に町勢要覧が、それも箕輪町と同じような形のPDFでダウンロードするような形式がもう既に載っているんですけども、これはどういうことなんでしょうか、お聞きいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 町の町勢要覧につきましては、今年10月に5年ぶりに発行させていただきました。

ホームページへの掲載についてなんですけれども、公開のタイミングを、しようということで予定しておりましたが、遅くなってしまいました、先月21日、ホームページに公開させていただいた経緯がございます。

ご指摘の箕輪町の町勢要覧についてなんですけれども、拝見させていただきました。今回、町で作成しました町勢要覧についても、箕輪町様のそれに引けを取らない内容となったのではないかと考えております。

今後、議員のほうに言われたからということではなく、タイミングを逸してしまったということですので、情報発信については、今後も遅滞なく、そして「分かりやすく」、「見やすく」を心がけて取り組んでいきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） やはり通告制度というのは、職員と議員の信頼関係に基づいて、これはなされているわけです。私は載っていなかったから、こういうふうに質問して、20日に通告を出しているんです。それで、21日の議運の後に、私の質問はどういうのですかというふうに聞かれたから、私は町勢要覧の冊子のことじゃないよ、ホームページのほうに載っているそういうものだよというような形で返答したんです。そのときはまだ、要する私が20日に通告したときはホームページには載っていなかったと。それが、私が議運の後に執行のほうへ、21日に、ホームページのほうに載せたらというような形で、そういうのを提案するんだというようなことを言ったら、このホームページの最終更新日が2月21日という。何か物すごく発表するタイミングが。別に21日じゃなくても、この一般質問、私が通告出しているのが20日ですから、この質問を受けてから、別に載せたっていいと思いますけれども。どうして通告の20日を締めたその翌日に載せるようなことをしたんでしょうか。その辺ちょっと、物すごくこの通告制度に対して疑問に思うんです。

要するにこれをされちゃうと、町道の外側線とか、もし私が質問するということで、通告を20日に出すとするじゃないですか。そうしたら、今日の質問まで幾日あるんですか。2週間ぐらいあるんです。そうすると、その間に、私が質問しているのに、こっそり塗って、実は議員、もうできていますよ、そういうことができちゃうんです。これ通告をして一般質問をしようとしているのに、今日の質問を待たずして、もうできちゃったというのは、どういうんですか、これは。町長。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） こちらに関しましては、既にもう出来上がっていた中で、公開のタイミングというものを考えておりました。

議員おっしゃるとおり、議員の質問等にありまして、それで企画財政課のほうも、そのタイミングというものを逸していたことに気づきまして、急遽、すみません、載せさせていただいた次第でございます。

今後このようなことがないように注意していきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

1 2 番 (飯島 衛君) いや今後これがあつたら困ります、それは。何で通告出した翌日に、私がこれこれ内容はこういうふうに質問するんだよと言つたら、その日のうちに更新しちゃうんだから。これは本当にちょっとあれですよ、町長。この辺確認していただきたいと思ひます。こんなことやっていたら、もう通告も出さないで質問することになりますよ。大まかな健康福祉関連というだけで、内容はもう通告しないで質問するような形になりますよ。そうすると困るのは皆さん方ですから。全部の資料もそろえなきゃなんない、何聞かれてもいいようにね。そのためにどういうふうに話すかということを通告しているんですから。それを通告した翌日に載せる、幾ら何でも本当に町長、これは大いに反省していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

あと、この町勢要覧ですけれども、箕輪町を見て、吉岡町を見ると、ちょっと一つ、ちょっと残念な情報を。吉岡町、1月25日、2月25日か、移住先日本一ということで、群馬県が選ばれました。それで26日に、知人から、今吉岡町に取材が入っているんだというふうに連絡があつたんです。後でその映像を見ると、下野田の群銀とかあの辺をカメラで撮っていて、町民に取材していたんです。ちょうど26日に。そういった形で、吉岡町は、今、全国でも移住先1位になるぐらい注目されて、なおかつ吉岡町が取り上げられたということは、吉岡町、物すごく人気があるということで、これからも注目度が高まります。ですから、この町勢要覧も、しっかり本当に毎年毎年。箕輪町さんは、2007年からずっと毎年作ったやつが、こういうふうに掲載されています。それで、吉岡町のちょっと足りないのは、確認したら、ほかの産業だとか、健康とか、構想だとか、そういういろいろありますけれども、教育のね、学校の件数はあるけれども、箕輪町さんは、小学校は1、2、3、4、5つあって、中学校は1校あって、それで学級は何人、男何人、女子何人、計何人、教員何人、事務職何人、そんな形で、図書館の数、体育施設なんかも載っていたんです。学校の、吉岡町の小中の人数調べるのが、意外と吉岡町のホームページは不便なんです。ですから、せつかく町勢要覧、21日にできました。ですから、この教育の関係で、この学校の情報もぜひ載せてください。そうすると、吉岡町の町勢要覧は満点になるんじゃないかと私は思ひます。ぜひよろしくお願ひいたします。本当に吉岡町、注目の的の町ですから、よろしくお願ひいたします。

それでは、地域の課題ということでございますけれども、陣場自治会の道路の側溝の改修ということでございます。

皆さん、お手元に配った地図、2022年12月議会でも質問させていただきました。これは陣場の薬師という墓地があつて、その側溝なんですけれども、つい最近、地元自治会長より、この側溝に関しての町からの回答は、検討するというふうに言われたと。そんなことで、私が再度どのように検討するのかということで、今日はお伺ひするわけでござ

ございます。町長の見解をお願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 自治会からの側溝や道路の整備要望は、毎年、数多くの要望がございます。現地の確認を行い、危険箇所を優先して改善・対処しておるところであり、通学路の安全対策に重点的に取り組んでおります。

2022年12月にご質問いただいた薬師の側溝の改修につきましては、現地の状況と工事施工方法を改めて検討した結果、令和7年度中に工事を行う予定でございます。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） いよいよ着工ということで、よろしくをお願いいたします。足かけ7年になろうかと思えます。よろしくをお願いいたします。

それでは、続いて、陣場に田中病院というのがございまして、その北の道路は、旧高渋線よりちょっと狭いぐらいで、かなり広い道路がございます。そこは、旧高渋線から東のほうへ真っすぐ行きますと、今、前橋で造成している産業団地に当たるんです。それで、今後、産業団地ができますと、交通量の増大が見込まれるということで、そして、今、北側にちょっと小さい、普通に側溝があるんですけども、やはり南側のほうにも側溝を造って、その上を歩道という形で使えるような形でちょっとしていただきたいというふうな地元からの要望でございます。その辺を町長、検討をお願いいたします。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 議員ご指摘の東西道路の沿線は、農地が多いことや、既存の側溝で雨水排水処理ができていることから、現時点では南側に歩道として利用できる側溝を整備する予定はございません。

しかし、議員のおっしゃるとおり、今後の前橋市の産業団地の開発状況等を踏まえて、自動車交通量に大きな変化があれば対応を検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯島議員。

〔12番 飯島 衛君発言〕

12番（飯島 衛君） ぜひよろしくをお願いいたします。

以上をもちまして、飯島の一般質問を終了します。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、12番飯島 衛議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩を取ります。再開を14時15分とします。

午後1時57分休憩

午後2時15分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 4番大井俊一議員を指名します。大井議員。

〔4番 大井俊一君登壇〕

4番（大井俊一君） 議長への通告に基づき、一般質問を行います。

最初に、吉中生のボランティアの活動を通した人格形成についてお聞きをしていきます。

近年、吉中生のボランティア活動を様々な場面で見ることがあります。これは吉岡町という地域社会において大変喜ばしいことでもあります。

町内で開催されている各種事業の社会貢献の場面に、中学生がボランティア活動として参加することは、各個人の人格形成の面でとても重要なことであると考えます。

AIテクノロジーの進展とその活用により、中程度のスキルを必要とする業務の減少による賃金格差の進展が危惧される社会情勢と、また、厚生労働省（2016年）によれば、2060年に2010年比32.3%人口減少をするという超高齢社会到来の中に、従来の個人の成果主義だけでは地域社会を守っていけない現状があります。

このような社会情勢の中において、長年にわたり社会貢献を現場で支えてきた人たちとボランティア活動を通した交流と、地域住民からの感謝、笑顔を仲間とボランティア活動を通して共感することで、みんなで地域社会を支え守っていくことを体験することで、すばらしい人格形成になると確信をしています。

これからの地域社会においては、みんなで地域社会を支え守っていく人を育てていくことが重要となっています。

近年、吉岡町における中学生のボランティア活動への参加状況についてお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教育長（山口和良君） 吉中生のボランティア活動が、このように議会の一般質問で大きく取り上げられるまでになり、私自身、感無量であります。吉中ボランティアを始めたときの思いは、「「町のよしおか祭り」において、中学生にスタッフの一員として動いてもらい、中学生の力を町民に広く知ってもらいたい。そして、その活躍ぶりを大人に直接褒めてもらうことで、中学生自身が、地域のため、人のために役立ったという気概を持ち、自らのよさや存在感を認識できるようなチャンスにしたい」というものでした。

そのことを当時の吉中の校長先生に話したところ、賛成してもらったばかりか、自治会長

さん方をお願いをして、地域の各種行事にボランティアとして中学生を募ってもらい、地域の大人から直接褒めてもらったり、激励してもらったりすることで、自己有用感を高める機会としたいということで話が盛り上がりました。

以来、開始から丸3年がたちました。町の行事のみならず、自治会、社会福祉協議会の催物等、町のあちこちで中学生が活躍する姿が注目されるようになり、今、大井議員がおっしゃったように、「吉中ボランティア」はすっかり市民権を得るまでになったと考えております。

さて、ご質問の中学生のボランティア活動への参加状況ですが、登録者数として、令和5年度に184人、令和6年度は、この2月現在で238人です。参加は、令和5年度が23団体300人、令和6年度は23団体からまたボランティア依頼があり、約200人の中学生が参加しています。

主な参加先は、自治会の行事や活動、子ども食堂、町の事業であるよしかふるさと祭り、二十歳のつどい、敬老大会などの社会福祉協議会主催の事業、小学校の運動会の補助など多岐にわたっております。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 成人の行動の動機は、今までの人生における体験の積み重ねによって決まります。実体験とともに共感することと、感謝されることと、達成感を持つこと、地域社会によって高く評価されることの経験の多さにより、地域社会を一緒によくするために行動する人が増えていきます。

中学生のボランティア活動に対しての吉岡町及び教育委員会の現状の取組についてお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） ボランティア活動という体験活動を通して、地域の方から多くの感謝の言葉をいただき、吉中生は地域に貢献した実感や達成感、また、自己有用感を得ていると考えられます。

今後もこの活動を通して、吉中生の人的成長と町に対する郷土愛を育み、さらに次世代の地域リーダーとなることを期待しており、教育委員会事務局としては、学校と地域との連携を図るため、地域学校協働センターを引き続き設置し、支援をしていきます。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 子供たちは、一人一人様々な全く違う才能の宝庫でもあります。ボランテ

ボランティア活動に興味・関心を持ってくれた吉中生の人格形成の場として、大切な人生の生きがいの一つとして心の中に持ち続けてくれ、先達や仲間と共に人に優しく行動できる成長の場として、人づくりの場の提供は可能だと考えます。

ボランティア活動の場の提供について、吉岡町としての考えをお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） 町では、自治会連合会の定例会で吉中生ボランティア活動について説明をし、活動の機会を中学生に依頼するようお願いをしています。さらに、町地域学校協働活動推進員が、吉中生に対して依頼があるたびに参加を呼びかけています。

今後にも多くの活動の場が提供できるよう、吉中生のボランティア活動について、周知の拡充をしていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 非常にいい方向で行っているんですが、一部残念なことに、ボランティアが1年だけで尻切れとんぼになってしまったというお話も聞くところであります。

感謝状等、地域社会から高く評価されているという経験は大きなモチベーションになります。内申書のような学校内の評価だけではなく、地域社会の評価としての感謝状の交付制度など、制度設計も必要と考えます。

吉中生の継続したボランティア活動を長期に実施していくための町としての考えをお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 吉中ボランティアを依頼して下さった自治会等には、毎回、活動の報告を提出していただいております。そこに記載されているコメント欄には、具体的な称賛の言葉がたくさん書かれており、参加した生徒に地域活動推進員や先生方を通して、生徒に伝えていただいております。関わった地域の方からの称賛に加え、学校の先生方からも認められることは糧になり、次の活動への動機づけとなっていることが一つの意義であると考えます。

また、今、議員がおっしゃられた尻切れとんぼで終わってしまうという課題についてでありますけれども、その課題の原因の一つに、けがをした場合、また、けが等をさせた場合のための保険への加入料負担の件がございました。当初は、この加入料の負担を学校で入ることができましたが、その予算も尽きてしまいまして、昨年度は、自治会等の行事参加の場合は自治会で入っていただくというような形になりました。ただ、この場

合、その自治会に住む中学生にだけしか適用にならないということがあったために、ほかの自治会に住んでいるところから要請のあった自治会に生徒を受け入れるということが難しかった、そういう実情がございました。これではボランティア活動に参加しようと思っても、おのずと参加できる活動の範囲が限られてしまいます。そこで、来年度は、ボランティア活動に参加する意思を持つ生徒に対し、町が保険料を負担することで、どの自治会の活動であっても、ボランティア活動に参加する際、保険を適用できるようにしたいと、今予算をお願いしているところです。どの地域の活動にも参加できるようになると考えておりまして、継続的に実施するための有効な手だてというふうになると思っております。

また、議員ご指摘の感謝状制度については、今のところは考えておりません。参加するたびに、主催者の大人による大きな励ましの言葉をいただくことが何よりの生徒への励みとなり、自己有用感の高揚につながる最も大切なことであると考えております。町の全ての大人が、自分の言葉で若者を育てるという意識を持って中学生に接していただくということが、この継続にかかっていると私は思っております。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 町のスポーツ協会のほうでは、スポーツ表彰を、毎年、教育委員会と一緒に、その年度、頑張って成績を出した子供たちにしておりますけれども、それと同様な形で、社会として、吉岡町として、頑張ってくれた子供に、スポーツだけではなくて、いろいろな形での表彰制度、表彰までいかない、表彰というとまた定めが厳しくなったりもしますので、感謝状というような形で、地域社会での認めたあかしとして出してあげることができれば、学校での内申書に書いたりするようなこととは違って、一人の個人の人生の中を通してずっとそこに残るものになりますので、ぜひそういったご検討もいただけると、さらに子供たちが励んでいただくのとともに、地元に戻るなり、帰らなくても、また地域のために働いてくれる人間が育ってくることになると思います。

また、保険料の関係でお話しいただきましたけれども、地域の無形文化財とか、そういったものを継続するのに当たって、自治会を超えたお祭り、別のところで、吉岡ですと三宮神社は由緒ある、伝統のある無形文化を引き継いでいる、そういったところもありますので、そういったところでも、やはり自治会外の子供に対しては、なかなか協力していただく、それを続けて継続していただくためには、なかなかそういうお金が出せないのというようなところもやっぱり現実にありますので、それと同じように、ぜひとも子供たちが希望する、自治会の枠を超えてもやってみたい、そういうことをさらに後押ししてあげるために、ぜひ町の予算のほうも考えていただけたらと思っております。

では、次に、吉岡町への企業誘致の考え方についてお聞きをしたいと思っております。

本年度、湯けむりフォーラム群馬2024における寺島実郎（一般社団法人日本総合研究所会長）の講演（21世紀・世界の構造変化と日本の針路ー日本再生の道筋と群馬県の役割ー）において、近年、日本海から津軽海峡を通り、アメリカにつながる日本海物流が、貿易ベースで、中国ー米国の量だけで日本ー米国の3倍前後で推移しているというご指摘がありました。これに対して、日本の太平洋港湾の空洞化がやはり指摘をされています。

2023年世界港湾ランキング（コンテナ取扱量）ベストテンは、7位に釜山、9位にドバイ、あと全てが中国の港という現状が紹介されました。

国内の外国貿易コンテナ貨物の伸び率（2005年から2023年）では、日本海13港の平均伸び率が19.6%、全国が10.1%でありました。

関東地方整備局の太平洋・日本海ゲートウェイプロジェクトなどで示されている、世界の巨大流通ルートへつながる国内メインルートの一つである関越自動車道にインターチェンジを持ち、北関東自動車道からの物流にも好位置に立地する吉岡町において、企業誘致の方針をお聞きしたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 大井議員より、吉岡町の企業誘致の方針に係るご質問をいただきました。

近年、企業の立地ニーズが高まる一方、産業用地の供給が不足し、企業誘致をめぐる地方自治体で地域間競争が生じております。

企業誘致に当たっては、私自身、強い決意をもって先頭に立ち、トップセールスを進めてまいります。

ご質問の件につきましては、産業観光課長より答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 町長の補足説明をさせていただきます。

経済産業省の調査によりますと、群馬県の工場立地件数は全国上位に位置し、また、高速道路のインターチェンジから5キロ以内に立地する企業が半数を占めることから、企業が適地を選定する上で、インターチェンジの近さは極めて重要な要素であることは明らかです。

議員がおっしゃるとおり、本産業団地の予定区域は、関越自動車道の駒寄スマートインターチェンジに隣接しているだけでなく、北関東自動車道方面からのアクセス性も備え、企業の物流効率に最適な立地であります。

この地理的な利点は、一般的な商品の輸送や部品の供給に加え、製造業におけるロジスティクスの最適化、運送業における集積の拠点化を後押しするものと捉え、地域経済の成

長と発展をリードするものと考えており、この点も踏まえ、企業の誘致を進めてまいります。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 昨年、震災と大雨による災害に見舞われ、いまだに復旧がならない能登半島の皆様にはお見舞いを申し上げます。

気候変動による洪水被害の増加は、地震列島日本において深刻な問題であります。

地震等災害が少ない群馬県において、過去に大きな地震を引き起こした活断層もなく、山間部や平野部に比較して水害も少ない吉岡町、災害による企業活動の制限を受ける可能性の低い吉岡町、この点に着目した町の企業誘致の考えについてお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 企業がリスクマネジメントを考える際、地震や水害といった自然災害の発生頻度が低い地域を選ぶことは一つの有効策と言え、災害が発生した際の企業活動への影響を最小限に抑えることが可能となります。具体的には、災害に起因する企業の損失防止、サプライチェーンの安定化、従業員の生命や安全確保が期待できます。

群馬県は、地震、その他の自然災害が比較的少なく、日照時間が全国上位で快晴日数も多いため、安定した企業活動が可能な環境が整っております。

吉岡町におきましても、適切な災害リスクの管理を確保しつつ、企業活動を遂行できる最適な環境が提供できるものと考えており、その特徴を強く押し出し、企業誘致を進めてまいります。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） ぜひそういう考えを前面に出して頑張ってくださいと思いますが。

次に、群馬県は、移住希望地ランキング、これを提出したときはまだ2位という、そういうデータだけだったんですけども、その直後に1位という大変喜ばしいデータが発表されましたけれども、群馬県においても、人口増加率では吉岡町が1位という現状にあります。

このことに着目した町の企業誘致の考えについてお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター発表の2024年移住希望地ランキングでは、群馬県が初の1位に選ばれ、子育てを希望する若い世代、また、セカ

ンドライフの場としての関心が得られたようでございます。

吉岡町におきましても、恵まれた自然と歴史の下、先人により築かれた礎が実を結び、多方面で住みやすい町として注目され、人口増加を続けております。

人口増加が続く自治体は、人々の住みやすさが求められているあかしと見ることができ、企業にとっても労働力の確保だけでなく、企業に勤める従業員にとっても魅力的と言えます。町が有する住みやすさという魅力を最大限アピールすることが企業誘致につながるものと考えております。

議 長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4 番（大井俊一君） 近年、世界的企業の日本本社などが、群馬県内に移転することが散見されてきています。このことに着目した町の企業誘致について、お考えをお聞きしたいと思います。

議 長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 世界的な企業が日本本社を群馬県内に移転する動きは、県の魅力と可能性がグローバルな視野を持つ企業に評価されていると考えられ、大きなチャンスであると捉えております。

この動きは、地域のブランド力を一層高めるだけでなく、ほかの企業や投資家に魅力的な環境を提示することにつながり、その結果、さらなる企業誘致を引き寄せる好循環を生むことが期待されます。

その実現に向かい、県とも連携し、未来のある企業の誘致に取り組んでまいります。

議 長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4 番（大井俊一君） ミシュランなどの世界的な企業、現実には、ミシュランガイドだけではなく、太田の工場のほうに本社機能を移してきたりしている。結構フランス系の企業が群馬県内に関心を持って、その主体が今日ご回答いただいたような安全性だとかそういったもの、それから社員の住む環境としていい場所というようなことを主眼にしてくださっているようですので、そういった面では非常に、それから物流の面でも非常に吉岡町というのが、現在、日本中見てもこんなにいい条件にあるところはないと思いますので、ぜひそういったよさを生かした形で、工業団地の造成にあっては、そういう、吉岡をさらに伸ばしてくれるような企業さんにおいていただくと幸いです。ぜひ町には頑張ってくださいと思います。

次に、吉岡町児童生徒の各種活動への応援についてお聞きしていきたいと思っております。

吉岡町の児童生徒の各種活動における活動がマスコミ等で紹介されることは、町を広く社会に知らしめてくれ、誇らしくも郷土の誉れであります。その陰には、先生方の指導と地域指導者の導き、父兄兄弟のサポート、仲間や地域社会の応援があり、その上に本人の努力があり生まれた成果であると確信し、関係者に感謝申し上げる次第であります。

吉岡町においては、過去にスポーツの分野では吉中駅伝部の全国優勝がありましたが、大会出場生徒の応援に、父兄のみならず、関係者を含め、大勢で山口県まで応援に行っていました。

現在の吉岡児童生徒の音楽関係を含めた各種活動への応援の状況と問題点についてお聞きしたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教育長（山口和良君） 各種大会等への出場に関わる交通費や宿泊費につきましては、吉岡町学校教育関係補助金交付要綱で定められております。その要綱に定められている事業に対しては、その定められた範囲内で補助金を交付しております。

要綱にある補助対象は、登録選手、登録されている生徒、監督、コーチ、それから練習等に必要な最小限の児童生徒に対する補助となっております。

応援の制度につきましては、令和6年第3回定例会、山崎議員の一般質問で答弁したとおり、必要があれば、町のマイクロバスの利用も可としているところです。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 吉岡町児童生徒の各種活動における活躍は、単発あるいは短期間でなくなってしまうのは、大勢の人の協力によりつくり上げられた文化の成果であり、地域社会に芽生え始めた一つの文化を捨ててしまうことにもなります。その文化の芽生えを継続していくことが、真に吉岡町を文化の誉れ高い町として成長させていく原点と考えます。

吉岡町児童生徒の大会等参加者以外の子供たちに応援の機会をつくることは、群馬県内・関東等ブロック・全国における自分の仲間の大会等参加者の実力を目にするものであり、また、その差を実感することで、自分の立ち位置を確認することになるとともに、今日からの自分の目標を明確にすることであり、いじめなどを行っている暇がないこと、毎日の練習に目標の明確な設定が可能になること等、将来吉岡町を担う子供たちの成長に欠くことのできないものです。

吉岡町児童生徒の大会等参加者以外の応援活動の現状とその意義について、町の考えをお聞きします。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） 現状についてですが、先ほど教育長が答弁したとおり、町有のマイクロバスが空いていれば、大会参加者以外で応援に出かける中学校生徒の利用もできるようにしています。

また、大会等参加者以外の中学校生徒が応援する意義についてですが、同じ目標に向かって応援することで、一体感や連帯感を深めることができたり、試合の感動や興奮を共有することで、参加者全員の思い出に残る体験となったりすることが考えられます。また、下級生ならば、次年度に向けて目標を持って練習に取り組もうとする意欲の向上に寄与することにつながると考えます。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 大会参加者以外の児童生徒についても、非常に吉岡町、一つのことだけではなくて、人格を形成していくのに当たって、吉岡町をしょって立つような子供たち、他人を思いやったりするような心を持ちながら精進をする、そういったことの体験の積み重ねをする大きなチャンス、大きな大会、場合によれば日本中の中で本当に頑張っている子供たち、同じ年の子供たちの現状を知ることによって、子供が日々の毎日のやること、1年先、2年先、3年先の自分を映し出して、今日何をするかということを確認に示すことでもありますので、ぜひとも町の派遣費、そういったものとは別に、私たちも協力をして音頭を取りながら応援をしていくような、そういったものもやっていきたいと思っておりますけれども、今までもやってきましたけれども、ぜひとも町の中でも、そういった経験をするチャンスを与えることができないかどうか、ぜひ今後ご検討していただけたら幸いです。

次に行きます。

吉岡町内の地域行事等における公共施設の活用についてお聞きをします。

町民融和と、子供たちの思い出に残る故郷の思い出に残る町内行事、コロナ禍で下火になった町内行事は、ようやく再開され始めたところでは。

これは、独り親世帯の子供の居場所と心のふるさとづくりでもあります。子供たちをめぐる様々な問題における社会の支えの一つになる重要なことでもあります。

その一つとして、吉岡町や自治会の施設や民間施設等において実施される、どんど焼き等、火を使用した地域行事等の町内の実施状況について、町の把握状況をお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 町内で実施されている道祖神祭り、いわゆる「どんど焼き」について、町が把握している実施状況をお答えいたします。

令和7年1月に実施されたどんど焼きは、町内の10か所で実施されております。地区別で見ますと、小倉、上野田、北下、南下、陣場、大久保寺下、大久保寺上、漆原西がそれぞれ1か所ずつと、下野田が2か所で実施されており、実施場所としては、民間の田畑、集会施設の広場等が挙げられます。

なお、どんど焼き以外の火を使用した地域行事については、幾つかの自治会で実施されている夏の花火の打ち上げ以外は、町としては把握しておりません。

議 長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4 番（大井俊一君） 最近では、モチ米を、まきを使い、釜とふかしでふかし、臼ときねでつき上げるといふ昔ながらの体験というものが、一般の家庭ではなかなかできないものとなりました。お正月の風物の思い出を、吉岡町の多くの子供たちにさせてあげることができないのでしょうか。

吉岡町における火を使った地域行事等の施設における町の規制状況についてお聞かせください。

議 長（廣嶋 隆君） 小林総務課長。

〔総務課長 小林康弘君発言〕

総務課長（小林康弘君） 地域行事が行われる施設として、各地域の集会施設等が挙げられますが、町内に集会施設での火の使用を規制するような規定はないものと認識しております。

なお、吉岡町を含む渋川広域圏市町村の火災予防上必要な事項を定めている「渋川地区広域市町村圏振興整備組合火災予防条例」によりますと、第25条第1項で、可燃性の物品その他の可燃物の近くにおいては、たき火をしてはならない、第2項で、たき火をする場合においては、消火準備その他火災予防上必要な措置を講じなければならないと規定されております。

また、同条例第45条で、火災とまぎらわしい煙又は火災を發するおそれのある行為を行う際に、消防長に届け出なければならないということが規定されており、どんど焼きを実施する際には、この届出を渋川広域消防署南分署へ提出していただくこととなっております。

なお、どんど焼きに当たりますとは、毎年12月上旬に主催者を対象とした講習会を実施しておりまして、その際、実施に当たっての注意点や届出書類について、消防署員より説明し、安全にどんど焼きが実施できるよう指導しているところでございます。

議 長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4 番(大井俊一君) 地域の火を使った無形の文化の有無と、無形文化の継承について、町の考えをお聞かせください。

議長(廣嶋 隆君) 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長(米沢弘幸君) 吉岡町内で現在行われている火を使った行事としては、先ほど来、話題になっております道祖神祭りや、あとは町内の寺院で行われている護摩焚き、お盆の迎え火・送り火などがあります。

地域の伝統行事を継承していくことは、人と人とのつながりを生んだり、古い文化を未来へつなぐという点ですばらしいことだと考えております。

議長(廣嶋 隆君) 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4 番(大井俊一君) 私もヤマダの応援団で、毎年収穫祭というのを一緒に協力して、開催の協力をしているところなんですけれども、現在、餅つき一つ取って、現実に実際にできるのが、私から上ぐらいの年代の人なんです。そういったお正月の文化、行事、そういったものをやれる人が、もうさすがに、実際に米ふかして、ついて、伸ばしてというのが、もう限界の年齢になってきてしまっている。このコロナの5年間でそれが途絶えてしまって、そういう一つの大きな文化的な行事、そういったものを体験する機会がなくなってきてしまっていますので、ぜひともそういうものをつないでいく一つの材料として、お餅つきなども入れたものを、地域で子供たちが自分のふるさととして思ってもらいたい大切な一つだと思いますので、そういったところも含めてご検討願えるところです。

次に、アフターコロナのスポーツ振興についてお聞きします。

スポーツによる町民の健康づくりにおいて、コロナ禍による町民の身体、精神面の影響は計り知れないものがあります。

吉岡町におけるコロナ禍の前と、コロナの最中と、それから現在の町民スポーツ参加状況についてお聞かせください。

議長(廣嶋 隆君) 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教育長(山口和良君) コロナ禍以前は、町民大会等を数多く実施し、多くの町民が参加をしておりました。

コロナ禍の間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、多くの町民大会等が中止になり、町民のスポーツを行う機会をつくることができませんでした。

コロナ禍後の現在では、多くの町民大会等が再開され、町民が参加をしております。

具体的な人数等は、教育委員会事務局長に答弁させます。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） それでは、人数のほうを答弁させていただきます。

コロナ禍前の平成30年度ですが、大会数23、参加人数が3,089人です。コロナ禍中の令和2年ですが、大会数12、参加人数839人です。コロナ禍後は、令和5年度になりますが、大会数は31です。参加人数なんですけど、1万6,459人となっておりますが、こちらにつきましては、ラジオ体操の参加人数が入っているもので、平成30年度と同様の集計をすると2,457人となっております。

以上です。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） スポーツの効用・効能には、心と体の健康づくりに寄与すること、スポーツを通じた町民の仲間づくり、地域のチームワーク育成、新住民と社交性を持った交流など、現代社会においてスポーツの果たす役割が大きいのは周知の事実です。

高齢者の介護予防、子供の成長促進なども含めて、吉岡町としての今後のスポーツ振興の施策に対する考えをお聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） それでは、私のほうから、教育委員会事務局からの立場で答弁させていただきます。

今後のスポーツ振興については、第6次吉岡町総合計画にも掲げていますが、各種大会の参加者を増やし、スポーツをしやすい機運を高めるとともに、スポーツ推進委員による地域住民への軽スポーツの普及活動を促進していきたいと考えています。

具体的には、今後ともスポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団と連携を図り、「町民一人・一スポーツ」を目指して、一人でも多くの町民がスポーツに触れ合い、親しむ機会をつくり、生涯スポーツとして継続できるように、幼児から高齢者までを対象に様々なスポーツ教室・講習会・大会等を実施していきたいと考えています。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 私のほうからは、高齢者の介護予防に関しての部分、面について、運動習慣についてお答えさせていただきます。

高齢者に運動の習慣をつけていただくということは、介護予防の面においても非常に奨

励されていることでございます。町が行う介護予防教室並びに健康No.1事業を今後も推進してまいりたいというふうに考えております。

特に健康No.1プロジェクトにおきましては、高齢者にとって非常に有効な運動となる有酸素運動を取り入れた運動教室を各地で行っております。また、来年度には、高齢者に対する運動の動機づけとしまして、コロナ以降、約6年ぶりに社会体育館、広い体育館を使って全町民向けの合同体力測定を実施する予定でおります。

また、高齢者向けの軽スポーツとして、健康づくりだけでなく仲間づくりにも最適なパークゴルフの普及を目指しまして、各自治会に対しまして、健康No.1事業の補助金とは別枠でパークゴルフのプレー代の一部を補助しております。

こういった取組を今後も進めてまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） パークゴルフのお話が今出まして、パークゴルフについては、過去には高齢者が、町民パークゴルフ大会ですけれども、97歳の方が出席していただいたり、それから、あと90歳以上の方も多々見られる。そういった非常に、その中については本人がやりたくて、そこへ出てくる、そういう90歳にもなってもまだそのために、一生懸命だんから練習して、動いて、そこへ出てくるという。町民の健康づくり、体力づくり、そういった面では非常にいいもので、私も見ていて、私もあの年まであんなふうに行けるかなんて思うほどすばらしい行事だと思っています。

ただ、残念なことに、コロナ以降、大会参加者がずっと減ってしまった。そのままになっているスポーツ団体もたくさんあります。そういった中で、行政のほうからも力を入れて、みんながピンピンコロリといけるように。私の近所の加藤さんなんか、92歳で大会出て、元気でいたんですけども、知り合いが、その後、何か月もしないで遊びに行ったら亡くなっていたなんていうような。私もそういうふうになりたいとは思わなくても、そういうふうに関心するようない運営ができるように、ぜひこれからも指導をしていただけたらと思うんですが。

最後の3番目のほうなんですけれども、町民みんなが参加できたスポーツイベントとして、チャレンジデー2022、2023、町長が開催をしていただいて、多くの町民が家族そろって参加していただき、町にとってその効果は、健康面・社会的効果・持続性・スポーツ参加人口の増加など、多くのメリットがありました。しかし、2023年でイベント自体が終了となってしまいました。これに代わり、現在、SSFアクティブチャレンジ2025を笹川スポーツ財団が推奨しています。

吉岡町のスポーツを通じた健康推進のため、町民参加型の施策について、町長のお考え

をお聞きいたします。

議 長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） 町民参加型のスポーツイベントについては、町全体の予算の関係もありますが、今後、多くの町民が参加しやすいように研究を進めていきたいと考えております。

具体的には、「住民総参加型のスポーツプログラム」や「性別や年代などに関係なく多くの住民が参加できるプログラム」や「チャレンジデーと違い対戦型ではないプログラム」などを研究をしていきたいと考えております。

以上です。

議 長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4 番（大井俊一君） チャレンジデーにつきましては、バスケットボールなどでは全国で1番だと、そういうようなすばらしい成果も残しておりますし、また、新しくいろいろなスポーツをやってみようという人の気持ちのきっかけにもたくさんなって、多くのスポーツ団体で新しい参加者が増えていたのも現実の問題ですので、そういった面も含めて、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

引き続きまして、最後になりますけれども、町道の計画的な整備についてお聞きをしていきたいと思っております。

吉岡町の人口増加は、多くの吉岡町に家を建てて子供を育てたいという方が支えてくださっています。しかし、反面、住宅新築等工事の付帯工事として、上下水道の引込み工事によりまして、町道の荒廃箇所が散見されるのも現実の問題であります。

致し方ない面もあるとは思いますが、吉岡町における町道仮復旧後の本復旧工事の現状についてお聞きします。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 町内では、子育て世帯を中心とした世帯による住宅の新規着工が多く見られ、上下水道の引込み工事も多くあります。

この上下水道の引込み工事に伴う掘削工事が、道路舗装面を継ぎはぎのようにしてしまい、舗装の劣化を早める要因となっております。

引込み工事に伴う町道の本復旧工事の現状については、建設課長に答弁をさせます。

議 長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 上下水道の引込み工事に伴う道路占用工事につきましては、道路幅員に応じた路盤構成で、道路舗装の仮復旧工事を行い、路盤が安定する3か月後以降、6か月以内に舗装の本復旧工事を行うことになっております。

仮復旧工事のみで本復旧工事を期間内に実施していない事例があることから、工事完了届出の未提出の道路占用申請者に対し、本復旧工事を行うよう催促の通知を行っております。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） 仮復旧後、埋め戻しますので、ある程度の期間、自然転圧したほうが、道路、将来的に安定した道路の使用ができる。そういったところは分かるのですが、やはりそれを守っていただいて、何とか凸凹だらけ、今日もお二人が道路の修繕関係についてご質問がありましたけれども、そういったもののもとにもなりかねないところでもありますので、そういったところを、ぜひ目配せをしっかりとさせていただくということをお願いしたいと思います。

荒廃した町道の整備計画の現状についてお聞きいたします。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 生活道路につきましては、先ほどの上下水道の取り出しに伴う占用工事等で、路面が傷んだ路線を含めて、穴や段差などの危険箇所の改善を優先し、維持補修工事を実施しております。

しかし、スポット的な補修では間に合わないような箇所につきましては、自治会からの要望等に照らし合わせて、道路長寿命化計画に位置づけ、全面的な舗装補修工事を実施しているところです。

議長（廣嶋 隆君） 大井議員。

〔4番 大井俊一君発言〕

4番（大井俊一君） ぜひ各自治体の要望を踏まえて、安全に通行できるような、また、凸凹等があると、降雨時、隣接する家屋等に雨水が飛んだりとか、そういったものでも、そういう被害を受ける方については大変ご迷惑なことになると思いますので、計画的な対応等をぜひお願いしたいと思います。

以上で、4番大井の一般質問を終わりたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、4番大井俊一議員の一般質問が終わりました。

以上で、本日の会議で予定されておりました一般質問は全て終了しました。

明日は、通告のあった9人のうち、残りの4人の通告者の一般質問を行います。

散 会

議 長（廣嶋 隆君） 本日はこれをもって散会とします。

午後3時14分散会

令和7年第1回吉岡町議会定例会会議録第4号

令和7年3月7日（金曜日）

議事日程 第4号

令和7年3月7日（金曜日）午前9時30分開議

日程第 1 一般質問（別紙質問表による No.6～No.9）

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（14人）

1番	山崎守人君	2番	春山和久君
3番	藤多ゆかり君	4番	大井俊一君
5番	秋山光浩君	6番	宮内正晴君
7番	小林静弥君	8番	富岡栄一君
9番	飯塚憲治君	10番	富岡大志君
11番	坂田一広君	12番	飯島衛君
13番	小池春雄君	14番	廣嶋隆君

欠席議員 なし

説明のため出席した者

町長	柴崎徳一郎君	副町長	高田栄二君
教育長	山口和良君	総務課長	小林康弘君
企画財政課長	齋藤智幸君	住民課長	一倉哲也君
健康福祉課長	永井勇一郎君	産業観光課長	渡部英之君
建設課長	大澤正弘君	税務会計課長	中澤礼子君
上下水道課長	岸一憲君	教育委員会事務局長	米沢弘幸君

事務局職員出席者

事務局長 福島良一 主任 関浩己

開 議

午前9時30分開議

議長（廣嶋 隆君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は14名です。定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

昨日に引き続き、一般質問を行います。

本日は、通告のあった9人のうち、残り4人の通告者の一般質問を行います。

これよりお手元に配付してあります議事日程（第4号）により会議を進めます。

日程第1 一般質問

議長（廣嶋 隆君） 日程第1、一般質問を行います。

9番飯塚憲治議員を指名します。飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君登壇〕

9番（飯塚憲治君） それでは、9番飯塚ですが、通告書に従って一般質問をいたします。

質問の1、1つ目の質問は、地域開発の進展と今後の計画をお尋ねいたします。

まず、第1番目です。JR上越線の川久保踏切東側、この一帯地域の開発計画の進展に関係して質問します。

川久保踏切東側の一帯の地域開発は、町長も話をされていますとおり、クリーンエネルギー関連の企業を希望として、民間ディベロッパーとの協働計画が進められようとしていて聞いております。最近、ディベロッパーからの問合せ、状況連絡などが町に対してそろそろ始まっているのではないかと思うところであります。私もこの地域に土地を若干ですが持っておりますので、ディベロッパーからの話は聞いております。現在立ち上がりつつあるこの開発計画に、現在町はどのように協働し、あるいは参画しているのでしょうか。現在の状況をお尋ねいたします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） おはようございます。

今日は2日目、4人の議員さん方から質問をいただきます。

まず、飯塚議員のほうから、地域開発の進展と今後の計画についてということで質問をいただきました。お答えさせていただきます。

クリーンエネルギー関連拠点構想については、昨年10月に県による吉岡バイパスの延伸着手が決定したことから、この地域の交通の優位性を生かすべく、クリーンエネルギー関連産業の誘致を含めた新たな産業団地構想として、これから具体的に検討を進める予定でございます。現時点では、あくまでも構想でありまして、具体的な地域や内容は決まっ

ておりません。

詳細については、建設課長から答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） クリーンエネルギー関連拠点構想につきましては、これから改定する都市計画マスタープランに新規の産業団地としての位置づけをした上で検討を進める予定です。また、渋川市との行政境、行政の境にあることから、渋川市との連携が必要不可欠です。

今後、群馬県や渋川市とどのように取り組んでいくのか、検討や調整を開始する予定です。

なお、議員のおっしゃる民間ディベロッパーとの協働計画は、現時点ではございません。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 今のところはないということですね。ちょっと足並みといいですか、歩みが遅いような気がします。この地域一帯、町長も十分お分かりのことと思いますけれども、ここの地域一帯に関わる開発計画、随分と前からあります。煙が立っては消え、また立っては消え、これを繰り返していたと聞いております。

今回の開発計画は、駒寄インター西の産業団地計画に続く、吉岡町としては大きな計画となると思います。これらの計画の達成は、町長も度々言われていますとおり、町としての収入の増加、地域住民の雇用の創生に大きく貢献するものであって、私としても必ず実現しなければならないものと考えております。先ほどの答弁にありましたけれども、計画はまだない、協働体制は組んでいないと、こういうふうな話でありますけれども、それらを実現するためには、この計画に町は積極的に取り組むべきと考えますが、町長のお考え、今後の取組の考え方、これについていかがでしょうか、お尋ねいたします。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 現在、町では駒寄スマートインターチェンジ西側の産業団地事業に着手しており、関係者のご理解を得るために全力で取り組んでいるところでございます。この産業団地の取組を最優先とした上で、今般のクリーンエネルギー関連拠点構想も町の重要施策として着実に取り組んでいくために、まずは都市計画マスタープランへの新規の産業団地としての位置づけと、県や渋川市との調整から始めたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） ちょっと歩みが遅いように感じます。

次に行きます。2番目は県道宮東交差点から東へ1.3キロメートル、吉岡バイパスの延伸工事の早期着手に向けての取組をお尋ねします。

当該区間の建設は、令和7年度から10年間の県土整備計画に盛り込まれ、建設が決定されたと理解しております。しかし、この10年間のいつ着手するのか、これが重要です。社会情勢の変動によってさらに計画が延期される。あるいは、まさかでありますけれども、白紙撤回されるなどという最悪の状態に陥らないか、私は心配なんです。

なぜなら、このバイパス延伸は宮東交差点が完成してから20年以上も放置されてきた問題のルートだからです。建設の必要性、有効性が県に理解されていなかったからです。長年にわたる今までの町の努力不足が原因と考えられます。町長は心配になりませんか。ただ待っているだけでは先には進みません。希望しているだけでは駄目なんです。この希望をかなえるためには、これからの町としての早期着手に向けての取組が重要であると考えられます。

そこでお尋ねしたいのです。バイパス延伸工事、早期着手に向けてのこれからの町の取組、今後どのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 吉岡バイパスの延伸につきましては、昨年10月の県議会産経土木常任委員会において、次期県土整備プランの着手する事業として位置づけられたもので、吉岡バイパス延伸を着手する事業として記された新たな県土整備プランが今年度中に正式に発表される予定でございます。

今後は、引き続き県に対して、一日でも早い事業着手を強く要望していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 希望はもちろんするんですよね。するんですけれども、その希望の根拠となる相手方が納得して分かったという、そういう希望を出していかないと駄目なんです。それがどういうことをやるのかというのをお聞きしたいんですけれども、それはどういうことになっていきますか。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） このバイパスの延伸先につきましては、渋川市に隣接しているというところで、まずは関係機関である群馬県と渋川市と吉岡町で3者の調整の会議を設ける予定でございます。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 鋭意努力していただきたいというふうに思います。

3番目です。仮称杉下交差点から西へ、上野田までの吉岡バイパス延伸の戦略について質問します。

県道前橋伊香保線、通称吉岡バイパスの建設については、上野田までの町としての計画があると前回確認いたしました。県もそれを認識しているようですが、施工計画の俎上にはのってきていないのが現状でしょう。

吉岡町は交通の要衝にあります。日本の流通の要、そして隣接する都市との経済的つながりから、南北方向の道路は国道も含めて幾筋もが整備されています。しかし、古来からその必要性が薄かったのか、東西方向の幹線道路の整備状況は十分とは言えません。最近、一本できましたけれどもね。前橋伊香保線吉岡バイパスの建設は、この弱点を補って、町のさらなる発展に寄与する社会資本の整備です。将来に向けての吉岡町の最重要課題と言ってもよいと思います。

しかし、ここで問題なのが、吉岡町にとっての独自の重要課題であるということです。すなわち吉岡町が独自でバイパス建設の必要性、その効果をつくり出し、建設主体に説明していかなければならないということです。上野田までのバイパスの建設には幾つかの課題があり、その実現は容易ではないでしょうが、今取組を始めなければならない大きな目標であると思います。

上毛大橋から始まった吉岡町の発展、県道南新井前橋線の町内部分の完成、その後、今までの現在の町の発展状況を見れば、いかに将来を見据えた取組が必要なのか、大切なのか、誰でもが感じるところでしょう。

そこでお尋ねしたいのです。吉岡バイパス、上野田までの延伸に向けての今後の戦略はどのようにお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 次期県土整備プランにおいては、大久保の宮東交差点から下野田の仮称杉下交差点までの約1.3キロメートルが県道整備計画となっております。町としては、仮称杉下交差点から先の上野田までの区間についても、令和3年度の吉岡町都市計画道路見直し検討業務において、当該道路に求められる機能は現在でも失われておらず、将来的においても整備が必要な道路という検証結果が出ておりますので、整備が必要な道路と認識しております。

したがって、仮称杉下交差点から先の上野田までの事業化につきましては、宮東交

差点から仮称杉下交差点までの早期の事業着手が最優先であることから、この事業の進捗状況を見ながら、引き続き、県に対して要望を行っていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 希望していくのはいいんですけれども、その戦略はどう考えているのかというのを聞きしているんですよ。それが大切なんです。ただ希望しているだけじゃ駄目なんです。1. 3キロメートルの延伸、これは最大の目標でしょうから、それを見ながらやっているというんですけれども、杉下交差点から西へ向かう道路、これについても、もうそろそろこういうふうにしていこうという考えは始めないと、もう駄目ですよ。何しろタイムリミットがありますからね。

4番目です。社会情勢の変化に対応した業務執行体制の構築に関して質問します。

町長、私は最近、特にまた心配が増えました。社会資本インフラのトリアージについてです。前は「ジチタイワークス」という冊子にありました富山市が実施していることを話しました。

今日はここに地方新聞が2日分あります。去年の4月25日、今年の1月8日です。1月8日の記事に、県警察が5か年計画で交通安全に関わる設備を2%、約2,000か所を削減する。まずは、今年4月から11月の間で県内500か所を撤去する。この計画、内容は道路標識や路面表示などのことです。富山県の例でなく、群馬県もインフラのトリアージが始まっているということです。理由は人口の減少です。これが最大のネックです。

一方、昨年4月25日の記事では、全国で2020年から2050年の間に消滅の可能性がある市町村と題しての記事がありました。群馬県では20の市町村が消滅予想されています。その中で我が吉岡町は、この期間の人口減少率が県内で一番低い。減らないんですよ。また、唯一の自立持続の可能性、これのある自治体とありました。

県警察のインフラトリアージと本町の未来予測には大きな乖離が見えますが、本町も人口のピークは2035年であり、その後は減少しているわけですから、今は喜んでいいですよ。しかし、将来を楽観視しているわけにはいかないと思います。今、このときだと思えます。好調なときこそ将来への布石を打つ。これは一般の企業で非常に重要なことです。行政でも同じでしょう。今、その準備をすべきときだと思います。

町長、いつも言われているとおり、自分で言われていますよね。雇用を増やし、人口の減少を抑制すると。このために業務執行体制を見直し、将来への取組を開始するべきときと思えますが、現在のお考えはいかがでしょうか、お尋ねいたします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ただいま飯塚議員より、業務執行体制の見直し等についてのご質問をいただきました。

議員からは、以前より業務執行体制の見直し等についてご質問いただいているところでございます。雇用を増やし、人口の減少を抑制するために業務執行体制を見直し、将来への取組を開始するべきとのご指摘ではございますが、以前から答弁させていただいておりますとおり、現状の組織体制においても、様々な課題に対して連携を取りながら柔軟な対応が取れていることから、現時点では引き続きこの体制での業務の執行を行っていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

- 9 番（飯塚憲治君） だから、駄目なんです。連携を取って柔軟に対応すると。これは一般的にいいように聞こえますけれども、それは責任分散体制というんです。トップがいて、強ちに組織を引っ張って、責任を集中してやっていくという組織をつくらないと、うまくいかないですよ。コロナで忙しくて、横通しで各課が協力してやりましたよね。あれはうまくいったと思います。やる事が決まっているからです。何をどういうふうにやればいいのか決まっているわけです。この開発関係、建設関係というのは、新しいことを自分で開拓していかななくては駄目なわけです。そのためにはトップリーダーが必要なんです。責任分散して、いつまでに誰が何をやるかというのが不明確な状態で、横通しで柔軟に対応する、それは無理なんです。その考えを変えていかないといけません。

これから、その話をいたします。町長、私は先日、新高崎渋川バイパスの現地に行ってみました。交差点、野田宿と小倉中央の間です。なるほど、そこには将来の先ほどの仮称杉下交差点に下っていくための吉岡バイパスへの入り口部分が完成していました。10メートルか15メートルぐらいでした。ここから東に向けて下っていく新しい道の着手時期はいつになるのでしょうか。宮東交差点から北への延伸は20年以上放置されてきました。現時点から20年以上といえば、日本人の人口が8,000万人になると予測される2050年にもうすぐ手が届いてしまうという時期です。そうしたら、この道の開発、建設は非常に難しくなります、利用者が減るんですから。その道を使う利用者というのは吉岡町の間人だけじゃないですよ。周囲の市町村の人がいるわけです。

先ほどの新聞の内容によりますと、吉岡町の周囲の市町村は、2020年から2050年の間に減少率はほとんどが50%前後です。半分になるんです。2050年に8,000万人になるという話で、あまりびんとこない人もいかもしれませんが、2050年までに日本人の人口が3分の1いなくなるということです。現在の残るのは3分の2ということです。そうしたら利用者が減るでしょう。新しいものなんか造る必要ないんで

す。それに加えてどんどんトリアージが行われてくる時代なんです。その前に何とかしようとするのが吉岡町の町長、あなたの役目だと思います。この入り口部分の15メートルが完成しているから、次もやがてはできるだろうということはとても望むべきもないと私は思っていますし、誰もが思っていないと思います。

それに、我が町の行政は、先ほどの建設課長の答弁もありましたように、とにかく忙しい。増え続ける子供対応の教育・子育て関連業務、駒寄インター西の産業団地開発、上越線川久保踏切東地区の、先ほどこれから対応すると言っておりました開発対応、バイパス1.3キロメートル延伸の早期着手への取組、杉下交差点から西へのバイパスの建設づくり、これの条件づくりです。それにぼつぼつと出てくるジョイフル本田からカインズ周辺の地域開発対応、それに町長、重要ですよ、総社漆原線、この業務も山積しております。目が回るようじゃありませんか。どうしますか、これらの案件は。

しかし、町長、あなたが目鼻をつけていかなければならない全ての業務です。私が町の建設・開発の担当者であったなら、町長、もうどうしようもないですよ、何とかしてくださいとお願いしてしまうような状況です。このような膨大かつ多岐にわたる業務を遂行していくためには、世間一般的にはプロジェクトチームを組み対応していきます。目標とする期限内に全ての案件を完了、あるいは目鼻をつけさせるためです。吉岡町には開発担当のプロジェクトチームが必要と思います。費用はかかるでしょうが、将来への投資と考えるべきです。町長も次期施政方針の中で言うておられるじゃないですか。チーム結成の考えをお尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 飯塚議員より、プロジェクトチームにおける対応についてのご質問をいただきました。

先ほども答弁させていただきましたが、現状の組織体制においても、様々な課題に対して連携を取りながら柔軟な対応が取れていることから、現時点では引き続きこの体制での業務の執行を行っていきたいと考えております。

しかしながら、これほどの様々な案件を同時進行的に進めていくことは、過去の事例を見ても、なかなか経験のないことであるのも事実でございます。議員おっしゃるプロジェクトチームを編成しての取組については、組織横断的な対応を行っていく中で、様々な意見を聞きながら対応されるべきものと認識しております。

今後も、事業の進捗を確認しながら、また担当課との対話を重ね、検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

- 9 番（飯塚憲治君） さっきから言っているじゃないですか。それでは駄目なんです。現執行体制で私が今ずらずらっと並べた業務を執行していくと、そのやり方には2つあります。一つは、プロジェクトチームを組んで、パラレルに同時進行体制でタイムリミットが来る前に仕上げる。もう一つは、今の現状の限られた体制の中で、それらの業務をシリーズにやってみると。Aが終わったら次はB、Bが終わったらC、こういうふうに順序をつけてやってみると。先ほど建設課長も、インター西の業務が一番大切だから、それを最大の目標としてやってみると。もうそれがシリーズの第1番目なんです。

しかし、先ほどから言っていますとおり、2050年には日本人の人口が8,000万人になるんです。そうすると、いろいろなものを利用する人が減るわけです。当然、道、橋が、これは要らないだろうというのが出てくるんです。その中で、今私がずらずらっと言ったことで、必要性がなくなるのがあるでしょう。そのとき町長はどうするんですか。もうタイムリミットが来れば、この未着手の案件、これはみんな放棄しなくてはなりません。そうなるということは、上毛大橋に始まった吉岡町の発展がそこで途切れるということであり、諸先輩たちが築き上げてきたものが、ここでスローダウンしてしまうということなんです。

今、町長に求められるのは、将来に向けて、先輩たちの遺産をさらにどのくらい拡大していくかということだと思います。それは急には組織改正できないでしょうけれども、横断の責任分散体制じゃ駄目です。町長がやると言っても、私の前にいる方々がやる気にならなくてはどうしようもないですけれどもね。町長がやるわけじゃないですから、この前におられる全員がやるわけですから。その人たちが実行部隊ですから、町長だけでなく私の前におられる方はよく考えていただきたいというふうに思います。

質問の2に移ります。よしおか温泉桜並木の維持管理に関連して質問します。

1番目は、現在、一部不十分な状況にある桜並木の管理状況の改善をお尋ねします。

温泉と緑地運動公園、さらにサイクリングコースに沿って植樹された桜並木などは、これからの季節、素晴らしい景観であり、多くの方が訪れる吉岡町のレクリエーション、観光の起点となるべき施設の集合体です。多くの方が、吉岡町の東の玄関口と呼んでいるところです。

その中で、桜並木の管理は、桜並木里親の会が1人桜2本を分担して、除草・下草刈りをボランティア活動として行っています。現在会員は63名です。このあたりの事情は、里親会の会員であります町長も十分に承知していることと思います。

この桜並木、平成7年に植樹されました。当初のエリアのしだれ桜の管理は順調ですが、一方、平成30年、「花と緑のぐんまづくり2018 in 吉岡」と銘打ったイベント、こ

のイベントで植樹された約50本ほどの桜がありますが、そのうちのある部分が管理不行き届きとなっております。植樹本数14本ほどの部分であります、提出の資料を見ていただきたいと思います。

吉岡町の緑地運動公園の南側約半分の図面です。リバーピア吉岡が中央、天神東公園が中央にあります。右側がケイマンゴルフ場、その間にウナギの寝床のような細長い赤く塗られたエリアがありますが、これが管理不行き届きの桜の木が14本ほど植樹されているエリアです。南北長手方向に約200メートルあります。

2枚目を見ていただけますか。この200メートルの部分の状況が、つい先日までこのような状態でした。桜がどこにあるかよく見ないと分からないという状況も発生しております。雑木林状態になって雑木が生い茂って、葉っぱが繁茂する季節では桜の木が明瞭には識別できません。

今議会でも吉岡町の東の玄関口という言葉が何回も出てきております。この辺を玄関口と位置づけるのであれば、当該箇所も他の桜並木と同様に良好な状態で管理すべきであると我々会員も考えております。しかし、会員も不足の実態であり、困っているところであります。町はこの現況をどのように捉えているのでしょうか。今後の町の玄関口は、汚い状態のまま放置するべきではないと思いますが、今後、この部分の管理、改善策をお尋ねいたします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 飯塚議員より、よしおか温泉周辺の桜並木の維持管理に係るご質問をいただきました。

桜並木里親の会の皆様におかれましては、道の駅よしおか温泉含め、当該エリアの観光客の誘致促進に対し、多大なるご尽力をいただいておりますことに厚く感謝、御礼申し上げます。

間もなく訪れるしだれ桜の開花、その美しい桜並木と赤城山の壮大なパノラマが広がり、背景に流れる利根川の瀬音を聞きながら眺望する風景は、町の東の玄関口として訪れる方々の心を優しく癒やし、安らぎを与えていております。

ご質問の件に関しましては、産業観光課長より答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 議員ご指摘の当該地の河津桜については、「花と緑のぐんまづくり2018 in 吉岡」の開催に伴うプレイベントとして、平成30年3月10日に町民有志のご協力により植樹されたものと承知しております。

当該地については、天神東公園沿いのサイクリングロードの東側に位置し、優れた景観を有していることから、町としてもこの景観を維持したいと考えております。そこで、管理区分、方法を明確にする必要があることから、まずは河川管理者、道路管理者である渋川土木事務所と管理区分、管理方法について再確認をするとともに、今後の管理方法を協議してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 結論は出ていないようですが、今後の管理方法のもくろみとしてはどんな考えがありますか。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 現在、天神東公園の整備も進んでおりますので、そちらのほうも絡めて、周辺の管理について確認、もしくは考えていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 管理が行き届いているほかの部分、大部分ですよ。管理が行き届いていないのはこの部分だけですから、その管理が行き届いているところと同等な管理方法にしていただきたいと、そういうふうにするべきであると思います。その辺のお考えはいかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 渡部産業観光課長。

〔産業観光課長 渡部英之君発言〕

産業観光課長（渡部英之君） 当然管理となると、除草等、樹木の適切な間伐みたいな、枝切りとかがありますが、当然周辺と同じような管理は行うことがありますが、その管理方法、管理主体については、当然関係機関がありますので、そちらと協議して考えていきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） なるべくほかのところと同じようにするべきだと考えます。

2番目ですが、桜並木里親の会の運営・維持の取組について質問します。

現在、桜並木里親の会は高齢化が進み、毎年体調不良などにより1名、2名の退会者があります。今年も2名の退会者がありましたが、1名が補充されただけです。1名不足です。さらに、先ほどの管理放棄地の管理をするならば、1人につき2本ですから、不足人数と合わせて計8名の入会者が必要です。現在は漆原東、漆原西、駒寄の3自治会を主体

として、最近、大久保自治会から数名の参加をいただき活動しております。

吉岡町の東の玄関口は漆原地区にあります。町全体の玄関口と捉えるのが当然でしょう。玄関口は家全体のイメージ、すなわち町の顔です。町長、町の玄関口である桜並木の管理をよりスムーズに、かつ永続的に行うためには、桜並木里親会の会員は全13自治会から参加していただくのが適当であると私は考えますが、どうでしょう。町としてはいかがお考えでしょうか、お尋ねいたします。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 桜並木里親の会の皆様には、除草等のボランティア活動に対し、感謝申し上げます。

地域住民で育てる桜の並木道という里親の会の活動は、住民自治の観点からも非常に重要なことと認識しておりますので、必要な支援等について桜並木里親の会との意見交換を含めて検討したいと考えております。その上で、議員からご提案いただきましたことも含めて、活動が継続できるような有効な支援策を検討していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 方向性はもう決まっていると思います。もうその3自治会を中心としたところではもたないんです。町の玄関口と言われるところを全部負担させていく、3つの自治会プラスアルファでやっていくと、これは不自然だと思います。実はこれはもうずっと前から問題としてあって、もう9年、10年前ですけれども、私が自治会長だったとき、自治会連合会でも出ました。会員が不足しているの、各自治会長さんは自分のところに帰って、希望する方を募って里親の会のほうへ連絡してほしいと。だけれども、そのときは全く不発でした。しかし、10年ほどたって、また危機的な状況になっているわけです。今まで何とかやってきただけですよ。町長、それは十分承知しておいてもらいたいです。

次に行きます。質問の3つ目です。自治体の増収対策に関連して質問します。

1番目は、ネーミングライツの実施を質問します。

ネーミングライツは、多くの事例では、スポンサーはその施設に企業名をつけるなどの名称をつけ、施設の所有者はその契約料を得る契約によって、スポンサーは宣伝効果を、施設所有者は料金収入を得られるという、互いにメリットがある取組であります。

群馬県内でも、県独自で行っているもの、自治体で実施しているものなど、多くの事例があります。その事例には、スポーツや文化の施設、公園のトイレ、橋梁、はたまた歩道橋まであるようです。しかし、実施に関しては懸念もあるようで、違和感を与えるような

文字と色、公共施設に企業名はそぐわないなどの市民の反対意見などがあり、これらをクリアしていかなければならないということでもあります。

また、スポンサーとなり得る企業の選定、契約料金なども課題であったと、実施自治体からの意見がありました。しかし、これらを乗り越えて実施中の企業からは、宣伝効果が大きかった、地域への社会貢献になった。一方、自治体からは、予想以上の収入源の確保につながったなどの意見もあつたようです。

以上の諸条件、前例などの状況を考えたとき、吉岡町としてもネーミングライツを実施すべきと考えますが、町長のお考えはいかがでしょうか。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 町有施設へのネーミングライツ導入についてでございますが、吉岡町の財政状況が厳しい時期に、新たな財源確保の取組は大変重要な課題となっております。その財源確保の一端を担うものとなり得るネーミングライツは、新たな財源確保の方策であるとともに、企業にとっても宣伝効果やイメージアップの期待をもたらす手法であります。企業に人気があるのは、テレビなどのメディアに登場し、宣伝効果の高い大規模な施設であるとも考えます。

ネーミングライツを導入する場合、議員のご質問中にもありましたように、一定の効果と課題がございます。また、全国を見ますと、大規模集客施設だけではなく、地域に根づいた小さな施設に命名権を設定している事例もございます。世界的なイベントや全国的なイベントを行う著名なスポーツ施設ほど期待はできないと思いますが、今後の公共施設の管理、運営確保の一方策として、ネーミングライツの有効性及び課題について検討できればと考えます。

詳細につきましては、企画財政課長より答弁をさせます。

議 長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 町長の補足説明をさせていただきます。

議員のご質問や町長の答弁にもあつたように、ネーミングライツ導入にはメリットやデメリットがございます。ネーミングライツを導入するメリットとしましては、企業側には宣伝効果、あるいは地域貢献によるイメージアップが、自治体にとりましては施設の管理費の軽減ですとか、新たな財源確保などが挙げられます。

一方で、契約期間の終了によりまして短期間で幾度も施設名称が変わることで利用者が混乱する場合、企業側に不祥事が生じた場合、施設のイメージまで損なわれる可能性があるほか、地域住民の理解ですとか、施設等の所在や機能の不明確化などのデメリットも指

摘されてございます。また、それに伴い、名前や看板、地図を変えたりする必要もあるため、果たして費用対効果が望めるのかとの考えもございます。いずれにしても、ネーミングライツ導入につきましては、今後慎重に検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

- 9番（飯塚憲治君） 私もいろいろ資料等を見ましたところ、今課長が答弁していただいたようなことが書いてありました。しかし、それは私がさっき言ったとおりに、これらを乗り越えて実施中の企業からはというのが結論なんです。新しいことをするのは大変でしょうけれども、要するにこれから話しますふるさと納税もそうですけれども、町長のポケットマネーを増やすということです。町長のところには、13自治会長からいろんな細かい要望とか申請が来ていますよね。それが10万円のできるか、50万円のできるか、あるいは100万円のできるかとか、そういうレベルの問題が一番多いと思いますよ。

こういうことで、あまり1,000万円だ、2,000万円だというそういうレベルにはなりませんけれども、そういったポケットマネーを増やすことによって、町長は自治会長からの要望に応じていけるという状態になると思います。新しいことをするのはまた面倒で大変でしょうけれども、これはやるべきだと思います。群馬県の中でもいろいろな前例があるわけですから、それを十分研究していただき、いいところ、悪いところあるでしょうけれども、ぜひ取り組んで町長のポケットマネーを増やしていただきたい、そういう要望であります。町長、それは大賛成ですよ。

2番目に移ります。2番目はふるさと納税、これの増収への取組を質問します。

本町のふるさと納税の内容に関しましては、今までに数多くの議員、本会議においても、委員会においても多くの議員から取り上げられ、また、行政の中でもほぼ議論が尽くされ、検討がし尽くされてきていることと思います。行政としても、増収への取組に日夜頑張っていると私は思います。しかし、実際としてなかなか希望するほどには収益が上がってこない、こういう状況が続いております。町長、やっぱり自分の部下の人たちの努力が実を結んでいないんです。一生懸命やっているんだと思います。残念なんです。

そこで何が原因なのか、何が収益が上がらない要因なのか、この点を見詰め直すこと、これが必要です。このふるさと納税の制度では、その取組が功を奏して収益増となった自治体もあれば、その反対に減収一方といった大変な自治体もあります。この制度のキーポイントがここにあると私は思います。すなわち、全自治体が競争の世界に放り込まれた、競争のプールの中に放り込まれたということです。今まで経験したことがない自治体同士の激しいパイの奪い合い、これですよ。自治体としては、こういうような競争というのが今までなかったですよ。ですから、眉を示して対応しないと駄目だということなんです。

こういう制度ができたのか、それではうちでもやらなくちゃなと、うちもやってみようかという程度の考え方で取り組んだのでは、競争に勝ち残れないんです。町長、どうでしょうか。一旦原点に立ち返り、作戦を練り直してはいかがでしょうか。今までと同じ指向性、その拡大を模索して同じようなことをやっていたのでは、結果も当然同じようになってしまう可能性が大です。三人寄れば文殊の知恵といいます。役場に加えて商工会、農業委員会などやほかの方々も含め、知見ある方々にご協力をいただくこと、そしてネーミングライツとふるさと納税についての増収への対策検討会を開き、町としては増収増益、聞き慣れない言葉だと思いますけれども、この増収増益の道筋を見つけるべきだと思います。町長のお考えはいかがでしょうか、お尋ねいたします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ふるさと納税は、平成20年度にスタートした制度でございます。そして、ふるさと納税の基となった議論は、税収の減少に伴い、十分な行政サービスができないなど、過疎化に悩む地方を見直す必要が出てきたため、ふるさと納税には理念として3つの大きな意義がございます。

第1に、納税者が寄附先を選択する制度であり、選択するからこそ、その使われ方を考えるきっかけとなる制度であること、第2に、生まれ故郷はもちろん、お世話になった地域に、これから応援したい地域へも力になれる制度であること、第3に、自治体が国民に取組をアピールすることでふるさと納税を呼びかけ、自治体間の競争が進むことでございます。

これがいつしか返礼品競争の様相を呈してきました。制度スタート時から返礼品はあったと思いますが、ささやかな特産品でした。それが年々エスカレートし、返礼品が過度に重視されるという点でよくない方向に向かっています。視点を変えると、返礼品がなければ、制度がここまで定着し、活用されることはなかったことも事実でございます。

議員が先ほど、一旦原点に立ち返りということですが、これまでの努力、取組が現在に至っているわけで、この制度に関わった返礼品提供事業者へも大変失礼なお話となっております。

今回の一般質問では、富岡大志議員より、ふるさと納税クラウドファンディングが成功裏に終えたと称賛していただきました。これは、ふるさと納税制度を導入した理念に立ち返って、ふるさと納税の使途に重きを置いた寄附の募集結果だと考えてございます。

もちろん、ご質問の趣旨はこのようなことではなく、ふるさと納税の寄附額を上げ、町政に生かしてもらいたいとの意図からだと思います。ふるさと納税の制度上、限られた経費の中ではありますが、議員のおっしゃることも踏まえ、引き続き幅広く意見を聞き、改

善するところは改善していきたいと考えてございます。

議長（廣嶋 隆君） 飯塚議員。

〔9番 飯塚憲治君発言〕

9番（飯塚憲治君） 今答弁いただいた内容は私も調べて、そういうことで税収が少ない。地方自治体の地方創生の一環というようなイメージだというのは承知しておりますけれども、しかし、競争のプールの中に全員が放り込まれてしまったんです。そこに注目していただきたいと思います。ルールがない競争というわけではありませんけれども、激しい競争なんです。先ほど、激しいパイの奪い合いと、それは言い過ぎじゃないのかと思う人もいるかもしれません。しかし、実態はそうなんです。

先ほど、増収増益という言葉を使いました。自治体には競争だとか、増収増益、改善、それに提案、こういった言葉はあまりそぐわなかったですね。聞いたことがない人もいます。自分自身の仕事としては耳慣れないという言葉でしょう。しかし、町長、そういう厳しい社会の中で、社会一般企業はその厳しさを乗り越えてきたんです。それで、日本は高度経済成長を達成してきたんです。当時、一部の業界では、日本の中で勝てば世界に出ても勝てると、こういうふうに言われていたんです。それぐらい日本の企業は努力して、現在の日本があるわけです。

時代は変化しています。先ほど耳慣れない言葉といろいろ言いました。競争、増収増益、改善、提案、こういったものをそろそろ頭の片隅、あるいは半分ぐらいに取り入れていく必要が自治体としてもあるんじゃないですか。時代は変わっているんです。特に吉岡町は、人口減少時代に向けて、新たに新しい施策をどんどん打っていかうという今大きな発展の途上、最終段階になっているかもしれませんけれども、そういう段階ですね。町長もそれは前から発言していますよね、発展途上だと。それをやるためには、タイムリミットが来る前に体制をつくってやるということであります。考えも変えて、体制も変えてやっていかなければならない時代が到来しているんです。

今までのように右肩上がりですと行ったら、今回のように1.3キロメートルができるんだと。あるいは、このまま努力して行ったら、高速道路西の産業団地もできるだろう。こういうのは、今までの右肩上がりの状態が続けばできるんです。ところが、もう先、川下りで、のどかに川を越えて行ったら、先に2050年という滝が待っているんです。そこへ落ちたらもう終わりなんです。やはり考えも体制も変えてやっていただきたいと。それは、私が議員でなくても、町民の一人として希望いたします。最後にそれを希望いたします。私9番飯塚の一般質問を終了いたします。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、9番飯塚憲治議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩を取ります。再開を10時50分とします。

午前10時26分休憩

午前10時50分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 13番小池春雄議員を指名します。小池議員。

〔13番 小池春雄君登壇〕

13番（小池春雄君） それでは、通告によりまして一般質問を行います。

まず、1点目でありますけれども、GIGAスクール構想についてお尋ねをするものがあります。

GIGAスクール構想につきましては、「ICT教育で子供の学力が下がる？」ということで、大阪教育文化センターの田中康寛さんという方が講演を行いました。これは渋川市、そして吉岡町、榛東村、それとそれぞれの各教育委員会が後援ということで、私も興味があるもので行ってまいりました。

その中で、特に私が聞いてなるほどなという主だったものが何点かありましたので、ちょっと紹介してみますけれども、人間は三次元の世界を五感で捉えることで発達すると言われていています。それに対し、二次元のデジタル画面でそれをしてしまうと、体の動きなどにも影響が生じるといいます。スウェーデンの文献では、基本的な運動能力は低下、前回りや片足立ちができない、生活面では、結び目を作れない、はさみで真っすぐに切れないなど、三次元の動作が難しくなるとあります。

日本でも似たような現象が起こっています。文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査でも、デバイス使用の影響による学力低下が明らかになっています。勉強にICTを活用している時間が30分未満の子供と3時間以上の子供を比較すると、全国平均で小学校でも中学校でも30分未満の子供のほうが成績よく点数が高いという結果が出ています。あるいは、GIGAスクール構想はまだ導入から数年で、過渡期であり評価が難しい。

ただ、悪い面ばかりではありません。まず、教育資源や文化資源がない一部の家庭の子供たちが社会に出たときに、初めてデジタル端末に触れるというハンディを背負う事態を避けられます。デジタル教材の音声の読み上げ機能も、もともと読み書きが苦手な子供にとっても非常に役立ちます。1人1台デジタル端末の配備は、教育の機会均等、特に義務教育で受けるべき教育をきっちり全員が享受するという点では確かに意義がありますという、主だったものを私は聞いて、この文書にありましたけれども、この辺についてなるほどなど。GIGAスクール構想というのは、メリットもあればデメリットもあるんだなということをやはり承知して教育に取り組まなければならないというふうに思っております。

これまで全く、このところ本当にもう10年ぐらいの間、いわゆるICTの発達によりまして私たちの生活も一変しまして、コロナがあったこともありましたが、しかし、新しいものを得るといことはやっぱり人間の能力の中にも限りがありますから、新しいものやる時は何かを捨てないと新しいものは得られないと思います。能力というのはすごくいっぱいあって、いっぱい詰まりそうなんですけれども、物理的にそういうことが考えられると思います。そういう中で、先ほども言いましたけれども、ICT教育というのはまだ始まったばかりでありますから、やはり押さえるべきところはしっかり押さえて前に進んでいかなければならないというふうに思いますので、まず教育長にICT教育に関する考え方、メリット・デメリット、そして今後の進め方等についてどのように考えているかをお尋ねします。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教育長（山口和良君） ただいま小池議員から、ICT教育への取組について、メリット・デメリットを含めてどのように考えているかということについてご質問いただきました。私もただいま小池議員がお話しされた田中先生の講演については、吉岡町の教育委員会も後援をさせていただいております。様々な考えをしっかりと聞くという姿勢で、ICT教育は学力が下がるのではないかというそういうテーマのお話でしたけれども、私はそこへ行けなかったんですけれども、うちの校長も参加して資料も頂いて、しっかり読ませていただきました。その資料の内容も、私たちもそのことも踏まえながら今まで進めてきましたので、少し前に遡りながら、ちょっと時間をいただいて、今の考え、これからの進め方についてお話をさせていただきたいと思います。

まず初めに、このICT教育は、吉岡町ではHiBALIプランというふうに組み込まれておりますので、国のGIGAスクール構想のメリット・デメリットを語るにはHiBALIプランの取組について語ることが吉岡町の進んできた道を話すことになると思いますので、HiBALIプランの取組の実情からまず答弁させていただきます。

吉岡町のICTを活用した教育の実現を図るために構想したHiBALIプランは、令和2年度、ICT環境の整備と児童生徒が1人1台端末の授業における有効活用、そして家庭での学習にも使えるようにするという1.0から始まりました。そして、そのときに、もう何度も申し上げますけれども、Hill-town Basis toward the Active Learning Innovation、この頭文字から名づけたようにアクティブ・ラーニング・イノベーション、すなわち「主体的・対話的で深い学び」に向けた学校改革、これを大きく掲げました。これは文科省が示す「未知の状況にも対応でき、予測困難な未来を生き抜ける思考力、判断力、表現力等の育成」、これを目指

す教育の実現のためにICT環境を積極的に活用していこうというものとして始めました。

その後、令和3年度、令和4年度、これはHiBALIプランの2.0、2.1という時期なんですけれども、ここでは児童生徒に貸与した1人1台タブレットについて、授業では児童生徒が自分の考えを表現したり、目標を持って調べたりする活動を行う場面での使用を進めるとともに、生活の改善等にも有効な手段となり得ることから、子供たちが自分の気持ちや生活の様子をタブレットで記録したり振り返ったりすることで、自己を見詰め、自らの生活をよりよくする力を培うために活用したり、アンケートや生活や気持ちの記録を担当が把握することで、きめ細かなアドバイスをするツールとしたりしてきました。

そして、令和5年度の3.0では、さらなる段階に入りました。ICT活用による授業改善を進めるとともにプランの最上位目標を「吉岡町は持続可能な社会の創り手となる「考えて行動できる人」を育てます」と掲げました。そして、「子どもを主語とした学校づくり」を掲げ、学校運営の基本に据えることを学校と確認し合いました。すなわち授業で、ICTの活用も含めた多様な工夫により子供の学びをさらに変革することにとどまらず、地域やNPO法人等との連携を深め、不登校対策の充実、直接体験や対面を重視した子供と地域の人との交流の場の充実を図り、学校の教員だけで子供を育てるところを、地域全体で子供を育てるところへの脱皮を図り、この目標に迫る学校教育の充実を進めてまいりました。

このように、HiBALIプランの始まりはICT環境の整備推進計画でしたが、3.0の段階、令和5年度にICTという言葉は表面上からは消え、町の学校教育推進計画としたわけです。

さて、直近の今年度、令和6年度は4.0といたしました。日常の学校生活や教育活動にICTの利活用がすっかり定着してきた環境を基盤にして、授業を通して子供たちに確かな学力や学び方などの能力をしっかりと身につけるとともに、誰一人取り残されない教育として、不登校対策等のさらなる充実をHiBALIプランに盛り込みました。

最上位目標を「考えて行動できる人の育成」と定め、その中の重点の一つに「子供主体の授業」を掲げました。このHiBALIプラン4.0も、ICT活用教育に特化した計画ではございません。ICTを効果的に利活用するものの、何より、個別最適な学び、協働的な学び、そして個人の興味や関心に基づく探究的な学習の充実やお互いの学び合いによって子供が成長する学習の充実を図ってまいりました。

町内の学校で先月、令和7年2月に実施した学力テストの実施結果によれば、思考力に関わる観点において、全国平均を100としたとき、それを20ポイント以上上回る結果を出した教科も出てまいりました。これも、これまでの学校が積み重ねてきた成果の一つと考えています。

4. 0のもう一つの柱は、整えてきたデジタル環境を教職員の校務の効率化と負担軽減につなげ、先生方が子供と向き合う時間や授業準備の時間を確保できるようにすることでした。令和5年度から県内で唯一、文科省のリーディングDX事業の指定を受け、2年続けてその補助金をいただいたことにより、国のGIGAスクール構想をリードする専門家の話や各地の先進的授業実践に直接、町の教員や事務局職員が触れることができる体制を継続させました。これは児童生徒が使う端末と教員が校務事務や授業準備で使う端末のそれぞれの環境を安全で円滑に使う仕組みを整える上で、非常に有益なものとなりました。

吉岡町がこの間に整えた仕組みについて、群馬県教育委員会も有益であると注目し、吉岡町で整えてきた「汎用クラウド環境」というんですけれども、この汎用クラウド環境を全県域に広げるため、群馬県の令和7年度予算案に2億3,000万円を計上しております。

ここまで、現状ということで、これまでの経緯と授業改革と校務のデジタル化による成果の一端について述べさせていただきました。

次に、ご質問にあった今後の対応ということについてですが、授業等で児童生徒がICTほか様々な媒体を選んで利活用しながら、自ら調べ、調べたことについて自分の考えを持ち、表現したりする場面が増えてきましたが、教科特有の見方・考え方を深めていくような場面が授業であまり見られていない。その点がまだ不十分であるとの指摘を、外部からの評価で課題として挙げられております。この指摘については正面からしっかり受け止め、さらなる授業改善を進めていく必要があると考えております。

文科省が、昨年12月に公表した「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver. 2.0）」に即した内容も、これをどのように取り入れていくかということについても今後の課題として取り組んでまいりたいと考えております。

また、毎年のようにHiBALIプランのバージョンアップを重ねてまいりましたが、そのほかの課題もございます。先ほど小池議員が触れられた内容にも関わることですけれども、デジタル学習基盤による情報活用の充実は、決してそれ自体が子供たちの資質・能力に直結するものではありません。すなわち、ICTタブレットを使えば学力が伸長する、考え方が深まるというものでは決してありません。多様な子供たちの一人一人の主体的・対話的で深い学びの実現こそが資質・能力の育成につながっていくものです。適切な指導計画や学習環境の設定、子供の活動や表現したことの丁寧な見取りと支援といった学びの専門職としての教員の役割は極めて重要であり、不可欠であることは、GIGAスクール構想の前から不変であり不易なものです。

授業においては、紙や鉛筆を用いた学習、プリントや紙の教科書を使って理解させたり考えさせたりする学習のよさや重要性も再認識されております。ただ、紙かデジタルか、

本かインターネットかのような二項対立に陥りたくはありません。例えば、ある課題に対して、児童生徒自身が紙の教科書、デジタル教科書、インターネットの動画やウェブサイト、紙の図書、デジタル教材、教師がクラウド上に共有した素材などを選択・活用し、ゴールに向かってそれぞれの学び方でアプローチすることができる、これがデジタル学習基盤と呼びたいと思っているんですけども、これによって一人一人の児童生徒にとって個別最適な教材や情報と出会える可能性が向上し、学びの進化の可能性を高めていきたいと考えております。

今後の対応をまとめれば、4つあります。1つ、これら教育の不易な部分と新しい手段という両面を大切に、課題解決を進めていくこと、2つ目、デジタル基盤の有効性とともによりリアルな交流や直接体験、自然体験を大切にすること、3つ目として、紙教材のよさも生かして授業をさらに改善していくこと、4つ目、生成AIの利活用については、学校現場で押さえておくべきポイントをしっかりと把握するとともに、ガイドラインを基に適切な利活用を進めていくことです。

今後においては、これらを基にした教育活動を充実させるための方策に踏み込んだHIBALIプラン5.0を令和7年度に向けて策定し、国のGIGAスクール構想第2期の具現化に向け、教育委員会と学校が一体となって進めていけるようにしたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 法政大学の教授で坂本さんという方が、スマホなどのデジタル機器から子供を引き離すのではなく、子供たち自身がバランスを取った使い方を進めるスキルを身につける授業が今行われていると。そもそもデジタルメディアは使用をやめたくなくなるように設計をされていると。その仕組みに子供たちが気づくような授業をします。その上で、自分がどのようにバランスの取れた使い方をすればいいのかを考えさせます。生成AIについても、その仕組みを理解させることが必要ですというふうに言っていますが、私はまさにそのとおりだと思うんですね。

だから、そういう部分について、やはりこれからの肝になる部分というのは、私たちもついスマホなんかでも見ちゃうと見続けちゃう。それはもう見続けられるように設計されているのでやめられなくなっちゃうという、そういう人たちが今すごく増えているんですよ。ですから、使い方を一つ間違えると、生徒たちはそういうふうになっていっちゃうと。その部分に対する学校での指導、教え方、使い方、限られた時間の中で使っているところと悪いところというけじめというものをつけていないと、そこにはまっていっちゃうという部分がありますけれども、その点について教育長として、学校長とはどのような

話をしていますか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） デジタルのことについて語るときに少し分けて考えたいのが、いわゆる多くの子供たちが今持っているスマホ、これは授業では使わないんですけども、家庭であるとか、友達同士が集まったときに使う。スマホのインターネットの情報なんかはもう、今小池議員おっしゃったようにやめられないようにできて、自分の興味のある情報がどんどんどんどん入ってくる。そういう使い方を現実的に子供たちはしている可能性は十分にあります。

もう一つが、授業で使う1人1台端末、議員さんが持っていらっしゃるような端末を子供たち一人一人が持っているんですけども、それはしっかりと授業の中で教員が指導しながら使っているものでありまして、その使い方の多くは、自分の考えをそこに書き込んで、打ち込んで、それを他者参照とよく言うんですけども、打ち込んだことが誰にでも分かるようになって、友達の見解を自分の考えを打ち込みながらほかの子はどんなことを考えているんだろうとか、どんなことを調べたんだろうというのが分かることが非常に大きな利点なんですね。

インターネットで調べる内容は、例えば社会科で吉岡町にはどんな特徴があるんだろうということを調べたいときに、吉岡町のホームページか何かを開いて調べることができるわけですけども、そういうふうにして調べる方法は授業で使う中のほんの一部なんです。ですから、授業で使っている端末の使い方というのは、主に子供たちの交流とか、自分の考えをまとめたり表現したりということに使っておりますので、学校で使う端末の使い方については、そういう離れられなくなってしまう、ちょっと依存症になってしまうような状態にはないと考えております。

ただ一方で、スマホのようなものを持っている子供たちに対して、当然のことながら、やはりインターネットの仕組みはこういう特徴があるけれども、よさもあるけれども欠点もある。生成AIについても使う場合には、しっかりと特徴はこうで、よさはこうで、ただ実際の授業の中で中学校なんかは取り上げるようになると思うんですけども、実際に生成AIで調べさせてみて、生成AIから出てきたものを教材にしながら授業で扱ってみる。そういうことを繰り返しながら、依存の対策を考えていったり、生成AIの対応を考えていったりしていくということを行っていくということで、校長と今共通理解を図っているところです。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

1 3 番（小池春雄君） それでは、2点目の質問に移ります。

魚のすめる川づくりということで出しておきましたけれども、吉岡町地内で直接利根川につながっているのは2つの川だというふうに思いますけれども、恐らく昔はこの町の川にも魚や小動物などが多くいたのではないかと想像します。自然破壊は進み、護岸工事などで自然体系を度外視して開発整備が行われるなど、様々な要因で生き物のすまない川となっているのだと想像できます。蛍舞い、渡り鳥が飛来する環境は人間にとっても住みよい町だと思います。生き物がすめる環境整備への取組をすべきだというふうに思いますけれども、いかがお考えでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 今、小池議員の質問の最初に、吉岡町の利根川への河口が2つあると言われましたけれども、滝沢川と吉岡川、2つあるんですけれども、そこも昔、私自身の遊び場でありました。本当に魚がいっぱいすんでいた、そういう記憶がございます。

河川の護岸整備は、大雨の洪水による水害などを防ぐために行ってきました。また、議員のおっしゃるとおり、河川の環境整備は動植物との共生を表現し、住みよい町にするために必要なことであると考えております。

河川の環境整備に対する考え方の詳細につきましては、建設課長から答弁をさせます。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 河川の整備につきましては、洪水被害を減らすための流下断面を増やす整備とともに、動植物の生息、生育、繁殖環境に配慮した自然との調和を図る保全を行うことが重要であると考えます。

町では、吉岡を流れる河川の水質調査、微生物生息調査、河川清掃及び啓発活動を行っている団体への補助を実施しております。町内の河川環境の保全・美化への取組をしている活動に対して、今後、引き続き支援をしていく方針でございます。

また、町内の一級河川の区間は群馬県が管理しているため、河川改修に当たっては、河川環境整備を併せて実施するように県に要望してまいります。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔1 3 番 小池春雄君発言〕

1 3 番（小池春雄君） 私が言っている魚がすめる川づくり、他人任せ、県にお願いしますというんじゃないで、もう今のこの現状を見て、川は2本入っていますけれども、魚が上がってこないじゃないですか。だから、それを魚がすめる町にする、魚が遡上する川にするためにはどう考えますかと、どうしますかということを行っているので、県には何とかお願い

しますという話じゃなくて、もう少しそのことに共感できれば共感して、すべきことは何かと、どういう手順でやっているかということをやらないと、いつになっても魚がすむ町にもなりません。その中で、私たちが協力しなければ何があると、それは当然のことです。だけれども、滝沢川ですか、あれは直接はここに流れ込んでいますから、ちょっと段差になっていませんでした。段差になっていれば、段差を取らなければ、魚は2メートル、3メートルもジャンプして川になんか上がれないんだから、ちゃんと水が注ぎ込めるようにしなければ魚が上がってきませんよね。

そういう整備をすると同時に、それをクリアするのと同時に魚がすめる環境整備というのが水質です。必要になってくるわけでしょう。だから、そういう川にしませんかといったら、そのためにはどうすればできるのか、何をすべきなのかということを考えてもらわないと、やっぱり魚はいつになってもすまないですよ。利根川にもいろんな小魚がたくさんいますよ。恐らく昔は蛍も乱舞していたんだと思います。町長が幼少期の頃というのは、町長のうちのこっちの西のほうに流れる川なんていうのは蛍がいたんじゃないですか。ですから、そういうものを取り戻すというためにはどうするかということが課題なんです。だから、群馬県にお願いしますというんじゃなくて、もしもそう思うといったら、何が足りないか、どうすればいいかというふうに、やっぱりその気になってやってほしいと思うんですけれども、町長いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 漆原地域でも蛍がすめる地域にということで、蛍の会が今活動しているところなんですけれども、そのほか先ほどちょっと建設課長のほうからも話が出ましたように、町の勤労者協和会というところで、地域の川の清浄化というんですか、そういう活動をしていただいて、魚のすめる川をという活動をされております。そういった皆さんと一緒に、今管理そのものは県でやっていただいている川でございますので、県のほうと話をしながら、魚道というんですか、魚が上ってこられるような、そういう方策をまた検討していけたらと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 私は、これを真剣になって考えれば、取り戻せると思うんです。佐渡に昔、今も幾らか出てきたようなんですけれども、絶滅したんですけれども、中国のほうからもらって育っているらしいですけれども、トキが昔はいたと。しかし、いわゆる緑の革命というんですか、昔の農業から化学肥料を使う、そして化学農薬を使うというふうになっていって、自然体系が壊れていって、カエルもすまない、ドジョウもすまない、要するにトキの

餌がなくなったのでトキがいなくなったんですよね。それで、今やっと減農薬にして、魚がすめる、カエルもいる河川をつくるということで、トキがそこに放鳥してもそこでだんだん増えていくふうになっていると。

私は、これはトキだけの問題じゃなくて、昔を考えると吉岡町も昔はそうだったと思うんですよね。戦前というのは恐らくそういう川だったと思うんですよ。ですから、その川にするにはどうしようかと。本当にしようというふうに思えば、町長が思って町長が指示すれば、これは町長、可能なんです。そうすれば多くの人たちも参加すると思うんですよ。ですから、町長がよし、やってみようと、俺はそのことにも興味あると。一部の利根川の河川敷だけに蛍がいるんじゃないくて、そこにもいいんですよ。でも、もっとカワナがすむところに蛍というのはどんどん上がってきますから、そういう魚だけじゃなくカワナでも何でもそこにすめる、そういう川をこれからつくっていかうと。

もう、昨日ですか、おとといでしたか、町の下水道の話も出ていましたけれども、だんだん水質もきれいになってきていますから、生活用水も下水道に入るようになってきますから、そうすると、もう生活雑排水が入ってきませんから、やっぱり魚のすむ町というのはそんな遠い未来の話じゃなくて、もう環境が整っていれば、あとはそこに住む人たちの協力だと思うんですよ。昔みたいに化学農薬であるとか、そういうものが川にどんどん入っちゃえば、それは生きていけませんけれども、でもそういう目的を持つことで、子供たちにきれいな河川を残してあげる。蛍が舞う、魚が泳ぐ川を残したいという気持ちがあれば、私はその気持ちがあれば残していけるんだと思うんですよ。そういうことを思って、いわゆる農業者にも協力してもらおう。それは目的が一つですから、そのための努力を町長、先頭になってしてほしいんですよ。いかがですか。

議 長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町 長（柴崎徳一郎君） もちろん、自然環境保全には十分力を入れていきたいと思っております。ただ、今魚のすめる川というんですけれども、実際のところの役場の前に溝祭の自治会、先ほど言いました勤労者協和会と溝祭の子ども会の皆さんとで川をきれいにする清掃活動を毎年やっていただいているというふうに聞いております。そういう中でも今魚が上ってきているよと、そんな話も聞いております。自分も子供の頃、漆原から溝祭、上野田のほうまで魚取りに上った記憶もございます。ですから、そういう昔のような川が、上ってこられるようなそんな川にしていけたらなと、そんなふうには考えております。ただ、河川の管理そのものは県のほうでございまして、県のほうとしっかりと話ができたらと思っております。

議 長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番(小池春雄君) 分かりました。ぜひともやっていただきたい。確かに河川整備は、一級河川ですから、一級河川は大蔵省財産ですから国のもので、国のものを群馬県が委託を受けてやっているということですから、それはそれでいいと思うんですけども、環境整備というのは、先ほど言われたように、そこに住む住民たちの意識というのもあるんです。いわゆる除草剤というのもすごく毒なんです。除草剤がちょっと入ると、川の魚ってみんな死んじゃいます。ですから、協力してもらおうというのは、やっぱり近隣に住む、近くにいる人に対する農薬とか、そういうものの減農薬をお願いするというのも必要なんです。そこに住む人たちの意識改革というのも大事ですから、皆さんが力を合わせてやっていくということが大事だというふうに思いますので、そのことも含めて、魚のすめる川づくりのために尽力をしていただきたいということをお願いしておきます。

続きまして、子育て支援策と高齢者福祉ということでありますけれども、まず学校給食、保育料の無料化、高校生の通学費の運賃補助、奨学金制度の創設というふうに出しておきましたけれども、まず、この中で給食費の無料制度は、これまで議会でも毎年、町への要望として出しておりますけれども、いまだ実現はしておりませんが、早い実現が求められるというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

議長(廣嶋 隆君) 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長(柴崎徳一郎君) 学校給食費の無償化の質問でございますが、町では、保護者負担を軽減する観点で、児童生徒1人当たり月950円、年額1万4500円の補助、そして食材費補助として500万円、第3子以降の児童生徒の無料化、そして昨今の食材費高騰に伴い、令和6年度当初では1,100万円を繰出ししていましたが、現在も物価高に伴う食材費の高騰が続いており、給食費の保護者負担の増加につながることを防ぐよう一般会計からの補填により対応したいと考えていることから、12月の定例議会でさらに一般会計から700万円の補填を行い、令和6年度は一般会計からの繰入れを約5,200万円をしており、令和7年度当初予算では5,500万円を繰り入れる予定となっております。

繰り返しとなりますが、町としては、給食費の保護者負担の増加につながらないように配慮するとともに、今後も一定の負担を求めていきたいと考えております。

議長(廣嶋 隆君) 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番(小池春雄君) 一定負担をしているのは私も承知しているんです、町長。昨今でも、前橋市も今年からですか、去年までは中学生、それで新年度からは小学生が無料になります。そしてまた、みどり市でも給食費は無料化に決めた。榛東でもやっている、渋川でもや

っているという、まだ給食費の無償化をやっていない自治体のほうがもう本当に少数になっているんです。私は前から言っているんですけれども、「子どもを育てるなら吉岡町」と言うんですから、もうそろそろやらないと、本当に保護者の生活というのは大変になっていますから、やっぱりやる時期だと思うんです。

町長は同じことを繰り返すだけで、これまで補助しているというだけで、3子以降は無料にしたと。それは承知しているんです。ですから、もうどこの市町村もみんな財政難だと思うんです、大変だと思うんです。でも、未来の子供たち、今は6人に1人、7人に1人が貧困というふうに言われているんです。そしてまた、シングルマザーでは2人に1人が貧困だというふうに言われているんです。そういう中で、やはり「子どもを育てるなら吉岡町」というふうに言っているわけですから、私はもう、町長、一歩出ないと、本当に吉岡町は何やっているんだと。子供たちが誇れる町にはならないと思うんです。いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 県内自治体の多くが無償化されているという状況は、新聞報道あるいはニュース等で拝見させていただいている状況でございます。そんな中で既に何度も質問にお答えさせていただいているように、吉岡町は今も県内唯一の活気あふれる人口増加の町、児童生徒の増加が見込まれている状況でございます。この現状において、これまで、また現在も増加していく児童生徒らの教育環境をまずは整備していくため、様々な施策展開を進めているところでございます。そんな中でも、物価高騰への対応策として保護者への負担軽減、いわゆる値上がり分についてはしっかりと予算化していきたいと考えております。今後も町の状況等をしっかり見据えながら、将来のまちづくりを描いていく中で判断していきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） それでは、保育料の無償化についてはどう考えますか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 現在、町の保育料につきましては無償化されておりますが、園児の給食費としまして主食費と副食費、こちらは園側が徴収しております。ただし3歳未満児の給食費につきましては保育料に含まれておりますので、保護者の負担は原則ございません。また、3歳以上のお子さんの副食費については、年収360万円未満に相当する世帯及び第3子以降の園児に対する免除制度というものがございます。

児童の年齢にも保護者の所得にもよらない完全無償化の実現につきましては、昨年第3回の議会定例会での一般質問の答弁と同じになってしまいますが、保育園などに通っていない児童を持つ保護者との公平性等も鑑み、現在のところ考えてはおりません。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 私は、承知して、町の条例を見て質問しているので、細かいことは言わなくても大丈夫です。それは承知していますから、このところに吉岡町のこれはありますから、承知してやっていますから。ですから、その部分で無償化にならないのかと、私が無償化と言っているのは完全無償化のことを言っているんですよ。今やっていないのは分かっているんです。だから、それをやってほしいと。でも、それはできないよというんだったら、できないという正当な理由が、なるほどなど。でも、やっているところもあるじゃないですか。これをやったからといって、完全無償化したら幾らかかりますか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 今年度8月時点での試算になりますが、給食費完全無償化にした場合、およそ3,871万1,200円を町が負担する形になります。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 給食費の分ですよ。あとは今無償になっているわけだから、要するに今は無償化になっていない3歳以上児の給食費です。あとはみんな無料になっているじゃないですか。3歳以上児は保育料は国の制度になっているんだから、今無料化になっていない副食費のことを言っているんです。保護者から実費で徴収している費用、いわゆる食材費、行事費などについては引き続き保護者様に負担いただきますというふうに言っていますよね。ですから、ここで言っている食材費というのは幾らですかと聞いているんです。無償化になっている人はいいいですよ。無償化になっていない人で今払っている人は何人いて、この人はお幾らですかと聞いているんです。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） それが給食費、実際に払っていただいている金額が3,871万1,200円でございます。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 保護者が払うとしたら、それを無償化にしたら町の負担が幾らですかと聞

いているんです。そんなにならないでしょう。副食費だけですよ。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 既に免除分は町が負担しておりますので、やはりそれも含めて町が全部無償化した場合は3, 800万円程度かかるというふうに考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 1人4, 800円ですよ、副食費は。今はもう無償になっている人がいるんです。今無償になっていない人が、要するに一定の収入がある人というのは無償になっていませんよと。無償になっていないこの人の分を町が負担したら幾らですかと聞いているんですよ、私。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 給食費には副食費とさらに主食費もかかっておりますので、そちらの分も含めて給食費ということで算出しています。現状、副食費については、徴収対象者が604人いるうち、免除されている方が98人いらっしゃいますので、その免除分については町が既に負担をしていると。さらに、その徴収対象者のうち免除になっていない方も含めて、免除者分も含めて町が負担した場合に約3, 800万円かかるということでございます。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 月4, 800円でしょう。4, 800円ですよ。それで無償になっている人がいて、それで無償になっていない人がいる。その無償になっていない人が何人いますか。それ掛ける4, 800円ですよ。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 副食費につきましては、保育園によって若干金額が異なりますので、一律4, 800円ではございません。先ほど申し上げたように主食費もかかっておりますので、こちらはこれもちよっと金額にピンキリがございまして、500円から1, 000円徴収しています。実際に今免除になっていない方は、令和6年度8月現在で506人いらっしゃいますので、そちらの方に関して免除した場合は、さらに給食費に対しての補助が必要になってくるということでございます。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 今、副食費がかかる、これには要件はあるようですけれども、4,800円ですよね。4,800円を何人の方が払っていますか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 現在506名の方が払っています。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） それで計算すると、それが3,800万円になります。3,780万円になります。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 12か月分かかりますので、本当に単純計算にはなってしまうんですが、先ほど言った主食費と合わせましておおむね5,500円前後、平均すればなんです、かかります。それに対して、実際に免除されていない方が506名いらっしゃいますので、それ掛ける12か月ということでおおむね3,300万円、400万円ぐらいで、そこにさらに既に免除になっている方の町の補助分も含めると、およそ3,800万円ということになります。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 免除になっている分を含めちゃならないんです。要するに私が言っているのは、免除になっている人はいいんです。これからこの人たちを免除にしたらプラス幾らになりますかということを知っているんです。それが3,700万円ですか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 既に免除になって町が負担している分を除けば、3,200万円から300万円程度というふうに試算しております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 私が言いたいのは、今副食費の完全無償化というのが進んでいるんです。ですから、副食費の完全無償化をしたらいかがですかというふうに知っているんです。仮にそれが幾らかかりますかと、そんなに大変な額ですかというふうに言っているんです。仮にどこでもやっていなくても、初めてやった市町村というのは、やっぱり初めてのところ、

それでも初めての試みをやっているわけです。それがもうすごく増えているんです。ですから、吉岡町も、「子どもを育てるなら吉岡町」と言いながら、子育て支援に後ろ向きじゃないかと。だから、その部分をしっかりやってほしいと。先ほど紹介した例なんですけれども、みどり市ですか、ここなんかも要するに副食費も完全無償化にしているんです。ですから、そういうところに倣って吉岡町はいかがですかというふうに言っているんですけれども、これはやっぱり町長、回答は同じですか。無償化にはできませんか。私は無償化にすべきだと思うんですけれども。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 保育園の完全無償化につきましても、今の町の置かれている状況等を見極めて決断していきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） それから、この中に高校生の運賃補助、これは最近のニュースの中で、新聞報道でも、榛東村が通学費に半額まで助成という記事が載っておりました。それと、太田市でしたか、就学助成金ですか、奨学金ですね。新たに大学生の奨学金制度をつくったと。これも60人でしたか、無償だというような記事もありました。本当に子育てに力を入れているんだなというふうに思いますけれども、町長、これまで奨学金についても検討はしたくないということでしたけれども、ぜひ子供の通学費補助、今まで最高で2,000円ですか、ですけれども、これを少なくとも榛東並みに上げるというような考えはございませんか。いかがですか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 現在、吉岡では公共交通の利用促進と高校生等の保護者の経済的負担軽減を図るため、高校生等が通学に利用するバスや鉄道の定期券を購入した場合、購入費用の一部を補助してございます。補助金額については割愛させていただきます。

ご指摘いただいておりますさらなる拡充についてですが、利用者の利用状況や金額等を踏まえ、周知も含めて、さらなる利用促進及び経済的負担軽減に向けた検討を進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 検討ばかりしていて、検討じゃなくてそこから一歩先に出ることが私は大事だと思うんです。ですから、そういう一歩出るといふ考えはございませんか。検討の

話はもう何回も聞いているので、検討ばかりしたって前に進まなければ意味ないので。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君発言〕

町長（柴崎徳一郎君） 今、企画財政課長のほうから答弁がありましたように、まだ利用状況が全員に周知されていないということがまず一つはございます。そういった中で、周知を含め利用促進、また経済的負担軽減に向けた検討ということで進めていきたいと思っております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 限度額は2,000円ですと、やはり2,000円じゃというので、いいやというふうになっていたと思うんです。それはやっぱりある程度もう少し、少なくとも5,000円とか、そういうふうになってくれば申請しようかなというふうになると思うんです。でも僅か額が少ないと、申請しようという人が出てこないんじゃないかというふうに思います。ですから、そのためにはやはりある程度、額のアップも大事じゃないかというふうに思います。

それから、子育て支援ガイドというのがあるんですけども、吉岡町のと榛東のを比べてみますと、やはり子育て支援ガイド、これは榛東村なんですけれども、こっちのほうがすごく見て分かりやすいです。字も大きいです。吉岡町のも手元にありますけれども、字も小さくて分かりにくい。やはり暇なときに、仮におじいちゃん、おばあちゃんがいたりすれば、大きい字のほうが見やすいですよ。そうすると子供に、お母さんに、何かこんな制度があるらしいよという会話にもなりやすいし、それぞれの市町村、我が町がどんなことをしているかというのが分かりやすい。そのためには榛東村みたいに、これはいいなと思ったんですけども。吉岡町のと比べてみたら、やっぱりこちらのほうがいいなというふうに。これは吉岡町のなんですけれども、中をはぐってみるとやっぱり榛東のほうが見やすいです。やっぱり子育て支援をするというのであれば、支援ガイドの中身の充実、見やすさというものが大事だと思いますけれども、まだ改善の余地があると思いますけれども、いかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 子育て応援ガイドブックに関しましては、ちょっと今手元に置いていないんですが、今年度まだ改訂を、それとはまた別です。それとは別で、ちょっと民間事業者にも協力していただいて、ポケットサイズの持ち運びがしやすい大きさのものを改訂したばかりでございます。また、今ネット時代ですので、QRコード等を読み込めば、

ネットでも同じように、スマホでもパソコンでも検索できるような、必要なページが見られるような仕様にはしております。文字の大きさですとか、見やすさという部分では少し小さいものになりますので、劣っている部分はあると思いますので、様々な方がご覧になる機会が多いかと思っておりますので、そちらのほうにつきましても大きい文字、それから見やすい紙面構成等は今後またちょっと検討していきたいというふうに考えております。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） それから、敬老年金を廃止しまして、そのときにまた新たなことも考えていきたいというような答弁が課長のほうからあったわけですが、高齢者に対しまして新たなものを何か考えましたか。そのときの回答というのが、一律の給付型の予算というのは、どうしてもこれから高齢者が増えていく中で増大していますので、今後、町の高齢者施策の方針としては、高齢者の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるための事業を展開していきたいと。そのために、高齢者の方がもし何か生活で困ることがあった場合、重点的に事業を行っていくと。一律型給付じゃなくて、そういうふうにはやっていくんだというふうに言っているんです。でも、要するに高齢者年金は300万円ぐらいあったんですけれども、それを外して、それに代わるものを何か考えているという話なんですけれども、それはどんなものだったのでしょうか。それを見て、高齢者の方が年金がこっちに変わってよかったなというふうに喜べるものになりましたか。いかがですか。

議長（廣嶋 隆君） 永井健康福祉課長。

〔健康福祉課長 永井勇一郎君発言〕

健康福祉課長（永井勇一郎君） 先ほど小池議員からご指摘のありました、高齢者に対して町がどういう施策に予算を振り向けたかという部分なんですけど、これも既に予算等でも説明させてもらっているんですけれども、やはり今感染症を予防するためのワクチンの助成、こちらを町としては費用を増やしております。肺炎球菌やインフルエンザに加えて、今年度から新型コロナも定期接種化されたんですが、全額が公費負担とはなりません。よって高齢者に新たな自己負担が発生しておりますので、その自己負担を軽減するための費用助成というのを町では行っております。また、来年度には今度は肺炎球菌、インフルエンザ、コロナワクチンと同様に带状疱疹も定期接種化される中で、やはり自己負担が発生してしまいますので、その自己負担が少しでも減るよう、町独自の予算で費用を助成するための財政措置を行う予定でおります。

議長（廣嶋 隆君） 小池議員。

〔13番 小池春雄君発言〕

13番（小池春雄君） 高齢者に対する敬老祝金がそれに化けたというのはどうもね、高齢者はそ

れを喜ばないですよ。やはりぜひなるほどというものを考えてほしいと。聞いていてやっぱり、そういう考えなのかもしれませんけれども、今まで現金を給付したものが現金がなくなって、それに代わるもの、じゃあ何かくれるかなと、何かメリットがあるのかなと思ったら、それがワクチンに化けちゃったという。ワクチンはまた別枠で町の行政のサービスとしてやるべきもので、敬老祝金がそれに化けたというのは、やっぱり納得は私はできないものだというふうに思います。それに代わるものといったら、それに代わって本当にみんながよかったねというものにならないと、そういうふうにはならないということを指摘しておきます。ぜひとも新たなものを考えていただきたいということを強く求めておきたいと思います。

それと、家計支援と水源への汚染問題ということで出しておきましたけれども、特にメガソーラーのところにある吉岡町の水源なんですけれども、今PFASのことが問題になっておりますけれども、このこともありますので、ぜひ町とすればしっかりとした対応をしていただきたいということをお願いしまして、4と5番目を残してしまいましたけれども、質問を終わります。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、13番小池春雄議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩を取ります。再開を13時とします。

午前11時51分休憩

午後 1時00分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 1番山崎守人議員を指名します。山崎議員。

〔1番 山崎守人君登壇〕

1番（山崎守人君） 1番、山崎です。

議長への通告に従い、一般質問をいたします。

先日、2024年の移住者希望地の都道府県ランキングで群馬県が1位になったと発表がありまして、昨日、飯島議員も一般質問の中でその話題を取り上げておりましたが、実に喜ばしいことと思いますし、吉岡町、ひいては群馬県にも定住者が増えてほしいと切に願うばかりです。

そんないい環境の中、吉岡町の若者支援についてお伺いいたします。

1月に行われました「二十歳のつどい」で、町長は式典に参加されていた若者たちに「吉岡に帰ってきてください」とおっしゃっていました。また、今回の施政方針演説の中にも同様の内容があったと思いますが、町を離れた子供たち、もしくは町にとどまろうか

迷っている子供たちに対して、つなぎ止めようとする施策は何か検討されているのかをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 山崎議員より、子供たちを町につなぎ止めようとする施策についてご質問をいただきました。ご指摘にあります1月に開催された「二十歳のつどい」はもちろん、青少年らに機会あるごとに「吉岡町に帰ってきてほしい」、「吉岡町に戻ってきてほしい」とお話をさせていただいているところであります。

これは主に教育に係る部分での取組となり、自身が受けた教育を自身のお子さんらにも受けさせたい、受けてもらいたいとの趣旨でございます。また、吉岡町に居を構えていただくことが理想であると考えておりますが、ご自身のお仕事や家族といった様々な要因において、吉岡町での生活が難しい場合も当然あるかと思えます。そういった中で、どのように関わりを持っていただけるかについても考えていく必要があります、様々な視点において検討を進めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

1番（山崎守人君） 文部科学省が公表しています、令和6年3月の高校卒業者、ちょうど1年ぐらい前ですね、の進路状況によりますと、91万8,850人の高校を卒業した子供たちのうちで、大学や短大に進学した子が61.9%、専門学校や公共職業能力開発施設などへの進学が19.3%、就職した子が14.1%、その他が4.7%と公表されています。つまり、高校を卒業した後、新たな学びの機会を求めて進学する子供たちが76%、ほとんどが進学するというような状況下にあるという中で、進学する先々の進学費用に奨学金を活用している学生が大勢いらっしゃるというような報道も見聞きしています。

そのような学生が多いのが現状という中で、例えばその先に進んだ大学であったり、専門学校を卒業した後に、進学時に借りていた奨学金の返済で就職した後も大変な思いをされているという方が多いということも伺ったりします。実際、私の友人も大学を奨学金を借りて入学して、卒業した後、35歳ぐらいまで返済に時間がかかったなんていうような話も聞きます。実際私の友人の話为例に取ってみても、大体その大学を卒業してから35歳ぐらいまでの間というのは、いろんな人生の転機というか、家庭を持ったりですとか、子供ができたというようにも多いうような時期なのかなと思います。

おととしのことになりますが、視察で北海道の士幌町さんのほうへお邪魔させていただいて、一部の有資格者が対象とはなっていましたが、本年度より奨学金返還支援助成金の事業が始まるということをお伺いしました。いろんな要因があってそのような事業を開始され

たというところではあると思うんですが、その制度がとてもいいものだなというふうに私は個人的に思いまして、ぜひ吉岡町でもこのような制度ができてくれればなというふうに思っているところです。

具体的には、一部の有資格者にはなりますが、保育士であったり、幼稚園教諭といった幼児教育に携わる職業の方々や、看護師や介護士などの医療・介護に携わる方で町内在住者に限定するというような形にはなりますが、奨学金返済を支援する制度をぜひ吉岡町でも制度化してほしいと思うところですが、見解のほうはいかがでしょうか。

議 長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） いわゆる奨学金については町では実施する予定はございませんが、奨学金償還支援事業については、全国的にも取り組んでいる自治体が増えていることは承知しております。先ほど町長が申したとおり、若い世代の方たちが吉岡町に帰ってきたい、吉岡町に戻ってきたいと思っただけの取組の一つではないかと考えております。

ご質問いただいている、ある特定の業種に就労した方に対して支援をするという施策もあろうかと思いますが、まずはどのくらい対象の方がいて、どのくらいの金額を返還しているのか等を含め、全体として検討を始めていきたいと考えております。

議 長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

1 番（山崎守人君） 本当であれば区別なく、町内在住で経済的に困っている若者を支援していただきたいというところではありますが、今回一部の業種にだけでも絞って提案させていただいているのは、町としても、社会的なインフラとしても、先ほど挙げさせていただいたような方が重要な人材であるからと考えるからです。町長も、小林議員からの施政方針演説への質問答弁でも、保育士の慢性的な人手不足ということに言及されていたと思います。仮に今回提案した制度があれば、町にある5つの保育園、認定こども園や学童保育などの町内事業者の人手不足の解消の一助になるかもしれません。

また、町内には入院施設を伴う医療機関は1施設のみですが、近隣を見れば、入院可能な医療機関というのはたくさんあります。どの業態の方々も、職員確保には物すごい苦慮されるというふうに伺っています。職員確保のために人材紹介会社などを活用して、予定外の支出を計上することもあると聞いています。実際私も以前、医療機関であったり、介護事業所のほうに勤務しておりまして、1年間で本当に多額の人材紹介料を支払って職員を確保していたというような経験もあります。

介護事業所においては、慢性的な人手不足の中、これから介護サービスを利用される方であったり、利用を予定している方が増加するというような見込みもあります。このよう

な社会情勢の中で今回提案させていただいた事業が制度化されれば、町内で運営されている事業者さんの経営的な支援もできますし、当然ながら対象とする人は町内在住の方になりますので、税収の確保という面でもメリットがあると思います。という、2つのメリットがあるというところで、先ほど予定はない、これから検討するというようなことでしたが、改めて実施する予定があるのかどうかを含め、町の見解をお伺いしたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 先ほどちょっと申したのは、奨学金については実施する予定はございませんが、奨学金償還支援事業については前向きに検討を進めていきたいという形で述べさせていただきました。それを踏まえて、実際特定の業種に就労した方に対する奨学金返済支援事業を実施している自治体があることは承知しておりますが、先ほどもお答えしましたとおり、全体としての需要を含め、検討を始めていきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

1番（山崎守人君） 前向きに検討いただけるということで、やはり先ほどもどれぐらいの需要がというようなことをおっしゃられました。やはり一番問題になるのは財源のことかなというふうに考えます。とはいっても、今回提案させていただいているものは有益なものになるかと思っておりますので、いろいろなひょっとしたら活用できそうなものもあるのではないかなと思うんですが、そのあたり、何かお調べいただいたりということはありませんでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ご指摘の奨学金返還支援事業を行うための国などの財政的な支援についてですが、議員おっしゃるとおり、特別交付税による措置の対象となっております。措置率としては、状況に応じて0.3から0.5となっております。

また、日本学生支援機構、いわゆるJASSOは企業に対して企業等による奨学金返還支援制度を呼びかけてございます。これは奨学金返還支援（代理返還）制度と呼ばれ、従業員の奨学金返還残額を企業等がJASSOへ直接送付するという制度でございます。令和6年10月末時点で、全国で2,587社がこの制度を利用しております。群馬県が実施している奨学金返還支援制度は、この制度を利用している企業に対して補助を行うものとなっております。町としても、こういった制度の周知についてはしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1 番（山崎守人君） いろいろお調べいただいた特別交付税の対象になるということで、恐らくお調べいただいたのが令和4年4月の内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議議事録、奨学金を活用した若者の地方定着促進要綱の一部改正の通知を多分基にご回答いただいたのかなと思うんですが、答弁いただいたとおり、こちらの制度を使って地方自治体に若者が定着してということを目的としているようなところで、実際群馬県でも幾つかの自治体さんのほうでこちらも活用されているというようなことであったり、日本学生支援機構の先ほどご説明いただきましたけれども、甘楽町さんなんかはこちらの制度を使っているようで、そんなホームページを拝見しました。

いろんな制度はこれからもいろいろお調べいただきたいところではあるんですが、もう一つ、財源を考えたときの案としてなんです、例えば企業版ふるさと納税を原資として活用する方法なんかもあるんじゃないのかなというところで提案とさせていただきます。例えば今回提案させていただいた有資格者の方ですが、基本は町内の事業者さんで働いてもらうのが一番だとは思いますが、当然、町外にもいろんな会社さんだったり、運営している法人さんはあると思うので、そういうところにも視野を向けて、企業版ふるさと納税というような形で納付いただいたものを原資として、これを制度化するというのはいかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ご承知のとおり、企業版ふるさと納税については、国が認定した地域再生計画に位置づけられた地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みでございます。

町が、この奨学金返還支援事業について検討の結果、予算化させていただき、実施となった場合には、この活動にご賛同いただけるよう周知を行った上で、企業様のご厚意としての企業版ふるさと納税をいただけるのであれば、ぜひ活用させていただきたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1 番（山崎守人君） 私もちよっと簡単になんですけれども調べてみたところ、福井県とかでも、UIターン奨学金返還事業ということで、企業版ふるさと納税を活用した奨学金返済支援制度を設けておったり、宮城県石巻市で、こちらのほうはちょっと業種が絞ってあるようなんですけれども、医療、介護、福祉分野の専門職員の人材確保と市内へのUIターン等を、地元の就職の促進を図るために、市内の事業者に就職した方を対象として返還の一

部に企業版ふるさと納税を活用しているような事例もあるようです。

あと、群馬県の富岡市さんなんですけれども、ふるさとコネクトというような、ふるさと納税を募るようなサイトなんですけれども、そこに若者定住促進と銘打って、奨学金返還支援事業というので企業版ふるさと納税を募集しているサイト等もありました。私もいろいろ調べ切れていない部分というのも多々あるんですが、方法論を探せば実現できる可能性はあるのではないのかなというふうに考えています。

今回、この奨学金返還支援事業の提案をさせていただいた背景なんですけど、先日、私の住んでいる自治体の方とお話しする機会がありまして、そこのお宅のお子さんが今大学3年生で、今年4年生ということなんですけど、県外の大学に進学されていて、大学を卒業した後、群馬県に帰ってきたいよというふうに思っていると。吉岡に帰ってきたいんですかと聞いたら、いや、県内のどこかで住んで仕事をする予定だというような話をされていたんですね。

あとは、私の息子が先ほど紹介した令和6年3月に高校を卒業した組なんですけど、やっぱり県外の学校に進学している子というのは結構な数でいらっしゃるというようなところがありまして、せっかく町長が先頭に立って子育て支援とかもいろいろやられて、約16ページに及ぶようなこんなことをやっていますよみたいな、まとめた冊子にもなっていたりすると思うんですが、高校を卒業したのと同時に町を離れてしまっただという状況ですと、今まで未来への投資としてやってきてくださっていることが効果が薄れてしまうんじゃないのかなというふうに思うわけです。

昨日の富岡議員や大井議員なども、町への郷土愛など、離れても関係人口としてくれるような施策の提言もされていましたが、実際、実があれば帰ってきてくれる率も上がるんじゃないのかなというふうにも思いますので、ぜひ今後も検討のほうをお願いできればと思います。

次の質問に移らせていただきます。

今年の1月6日まで行われていました吹奏楽部の楽器購入のためのクラウドファンディングですが、町が目標としていた100万円の2サイト、200万円に僅かに届かない結果でありました。この金額については本当にすばらしい結果かなと思っておりますが、多くの方々の支援をいただいたことに本当に感謝でいっぱいなんですけど、町としてこの結果をどのように受け止めているのか、所感をお伺いしたいと思います。

議 長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教 育 長（山口和良君） 教育委員会事務局といたしましても、今回のふるさと納税を活用した吉岡中学校吹奏楽部クラウドファンディングに対しまして、たくさんの方々からご支援、ご協

力をいただき、大変感謝しております。協力していただいた方に改めて厚く御礼申し上げます。

本プロジェクトは、子供たちのよりよい環境の整備につながるとともに、吹奏楽部を応援したいという方々の存在や熱い思いを改めて実感する機会にもなりました。結果として、議員おっしゃるように、2つのサイトで200万円の目標のところ、僅か足りませんでした。195万2,000円の寄附をいただいたところです。今回の結果を踏まえ、本議会に新たな吹奏楽の楽器を購入する補正予算を上程しております。町としては、今回のご支援も生かし、今後も楽器の更新等を進め、活動に専念できる環境を整備してまいります。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1番（山崎守人君） 今回のクラウドファンディングですが、実際私、寄附はしていないんですけども、アプリをダウンロードして実際に寄附までどういうふうな形でできるのかというのを自分自身でもやってみました。その感想にはなるんですけども、年齢を重ねた方々にはインターネット上の寄附というのは、操作性とかも含めて少しハードルが高いのかなというふうに思いました。実際、私の母親なんですけれども、ジョイホンパークでの演奏会を見た後、ふるさと祭りに来て、現金を持ってきて、どこでクラウドファンディングができるんだというようなことを聞いてきました。インターネット上の寄附というのは、場所も時間も問わずに利便性の高い方法であると思うんですが、インターネットを介しての寄附以外というようなもの、例えば実際に町の窓口を持ち込まれたとか、そういうような寄附というのがあったのかをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） ふるさと納税型クラウドファンディングに限らず、通常のふるさと納税も含めて、ポータルサイトを通じた寄附のほか、役場窓口での受付、郵送対応等を行っております。今回のふるさと納税型クラウドファンディングについても、窓口へお越しいただき寄附された方もいらっしゃいました。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1番（山崎守人君） 郵送対応と窓口での対応をしてくださっていたということなんですが、実際、今回も役場窓口のほうにお持ちいただいた方々がいらっしゃったということなんですが、今回の195万7,000円の中に役場の窓口で寄附いただいた方の金額というのも、このクラウドファンディングの中に含まれているのか、含まれていないのかをちょっとお伺いできればと思います。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 今回窓口で寄附された方で、ふるさと納税型クラウドファンディングを使い道として選択された方の分については、今回集計に含まれております。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1番（山崎守人君） 今回窓口にお持ちになった方でも、クラウドファンディング用ですというような申出があった方に関してはその195万7,000円の中に含まれているというようなことですが、ちょっと単純な疑問なんですが、クラウドファンディングに含む方法とえばいいですかね、一旦それは役場で保管しておいて後で合算したのか、それとも町が代行してそのサイトのほうに寄附をしたというような形になるのか、そちらは方法としてはどのような形で行ったのか、お聞かせください。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 今回の件につきましては、町担当職員がふるさと納税を管理しているシステムに代行入力することで反映させていただきました。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1番（山崎守人君） サイトを経由するという事は、その経費とえばいいですかね、いろんな手数料とかも含めて発生するのではないかというふうに思うんですが、例えばそのままの寄附を後で別口で合算するとかというふうにすれば、その分を全額寄附として活用できたのではないかと思うんですが、そちらへ逆に代行でもサイトのほうに入れてしまうことで手数料とかが発生して目減りしてしまうんじゃないかと思うんですが、そちらのほうはいかがでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 今回、役場窓口で寄附された寄附については返礼品等がないので、手数料等はかかっておりません。ただし、今後手数料を徴収する場合には、手数料条例まで波及してまいりますので、今後検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

- 1番（山崎守人君） 今回頂いたクラウドファンディングで集まった費用なんですけれども、寄附とは少し性質が変わってしまうかと思うんですけれども、私が携わっている介護業界に

は、介護サービスを利用した人から、サービス提供ごとに介護職員処遇改善というようなサービス費用というのを頂いているようなものがあるんですね。そちらのほうは保険者の方から最終的に事業者に支給される費用なんですけど、その費用というのは、保険者から頂いた費用の1円でも多く職員に還元しなさいというようなものになっています。その頂いた費用に関して職員に幾ら払いましたよというような報告の義務を負っているようなものなんですけど、今回頂いたクラウドファンディングの費用の内訳といえればいいですかね、頂いた195万7,000円というところに対して、内訳というか、195万円の使い道、どのような内訳になっていて、どのような形で使うのか、執行状況等について現状のところをお伺いします。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） 今回ご協力いただいた寄附金の使途なんですけど、令和6年度に購入したチューバ1台分にまず充てました。残金については、今回の3月補正予算に上げているんですけど、クラリネット2台とトランペット1台、あとティンパニ1台を購入する予定で、町の予算を若干上乗せして計上しているというような形になります。

議長（廣嶋 隆君） 山崎議員。

〔1番 山崎守人君発言〕

1番（山崎守人君） チューバの購入と、クラリネット、トランペット、ティンパニを購入する費用を町の予算を上乗せして利用いただけているというようなことですね。実際、今回の定例会にはクラウドファンディングに関する議案等もあり、ちょっと内容を見てみて少し不安になるようなところもあったりするというのが正直なところではあるんですけど、本来のクラウドファンディングの趣旨というのは、予算計上されているものにプラスアルファで応援してくれる方の費用があって、活動の原資にしてくださいというようなものなのかなと思っております。ぜひ、そういうような町外の方々、町内の方も含めてでしょうが、応援してくれる方々の善意を踏みにじらないためにも、いろいろ今後も進めてほしいと思います。

最後になんですけど、吉岡町の吹奏楽部で3月2日に実施された新人戦において、最優秀賞は逃してしまったんですけど、優秀賞を受賞され、3月27日に開催される首都圏の交歓演奏会に県代表として出場されることとなりました。また、その同じ大会に出場していた伊勢崎市内にあるある中学校の顧問の先生から、伊勢崎の子供たちにも吉中の吹奏楽部の演奏を聴かせたいというようなことで、今月の20日に伊勢崎市で開催される伊勢崎地区新人演奏会へゲストとして参加してくださいというようなことの連絡を受けたというふうにも聞いています。子供たちが頑張ってくれたおかげで吉岡の価値を上げてくれていると

というようなことになっていると思いますので、吹奏楽部に限らず、頑張ってくれている子供たちへの支援策をぜひこれからもお願いしたいと思います。

以上で1番山崎の一般質問を終わりにします。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、1番山崎守人議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩を取ります。再開を13時45分とします。

午後1時31分休憩

午後1時45分再開

議長（廣嶋 隆君） 会議を再開します。

議長（廣嶋 隆君） 11番坂田一広議員を指名します。坂田議員。

〔11番 坂田一広君登壇〕

11番（坂田一広君） 通告に従いまして、一般質問をいたします。

まず、第1点目として、学校教育についてであります。

学校教育の現状と課題について伺うものであります。

まず、GIGAスクール構想の成果等について伺うものであります。

これはちょっと午前中の小池議員の答弁と重なる部分もあるかと思いますが、答弁のほうよろしく願いいたします。

国のGIGAスクール構想により、町では令和2年にICT機器、環境が整備され、令和3年から学習アプリの導入、教育環境が大きく変化して5年目を迎えようとしておるところであります。

現在は、教育に係る基本構想としてHiBALIプラン4.0を作成し、目標として「考えて行動できる人の育成」を掲げ、目指す姿として「自らが主語となる学び」、「当事者意識をもって行動」、「多様性を尊重」、「協働的に学ぶ」、「生涯学び続ける」を掲げているところであります。中学生についてはもう全学年、小学生においても大半の学年がGIGAスクール構想の下で学校教育を受けてきたことになりました。このような中で、教育のICT化について一定の成果や新たな課題も見えてきたのではないかと思います。

そこで、まず2点伺いたいと思います。まず、第1点目として、児童生徒の学力・学びに対する姿勢についての成果と課題、第2点目として、校務DXの進捗と課題についてそれぞれ伺うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君登壇〕

教育長（山口和良君） それでは、初めに、児童の学力・学びに対する姿勢についての成果と課題について答弁いたします。

H i B A L Iプランでは、「考えて行動できる人の育成」を最上位目標に掲げ、実践を重ねてまいりました。特に学校教育においては、I C Tの有効活用を基盤にして、子供が主体となる授業を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っております。

町内の学校で実施した最新のC R Tテスト、令和7年2月に実施した目標達成度の測定テストでありますけれども、思考力、判断力、表現力の観点については、全国平均を100とすると、全ての教科で100を上回るのはもちろん、教科によっては全国比122という驚くべき値を示しているものもあります。このことは、知識習得、理解面のみを目指した授業ではなく、各学校で子供が主体的に自分で考え、それを表現しようとする活動を意識した授業実践において学んでいる成果と考えております。

課題としましては、I C Tを利活用し、児童生徒が自分で調べ、考えを持ったり表現したりする場面が増えたものの、成長段階に応じて教科特有の見方・考え方を深めていくような授業改善を図ること、また、文科省がこのたび作成した生成A I活用のガイドラインに即した教育課程をどのように編成していくのか、さらなる研究や研修を進めることなどが上げられます。

2つ目のご質問、校務D Xの進捗と課題について述べます。

文科省が令和6年12月に、全国全ての自治体を対象に行った「G I G Aスクール構想の下での校務D Xチェックリスト」に基づく自己点検のフォローアップの実施結果の概要が出ておりますので、その結果を基に答弁させていただきます。

初めに、学校を対象とした調査、全34問あるんですけども、その結果を紹介します。吉岡町3校の平均は660.0ポイントで、群馬県内の市町村では第1位です。県全体の平均は369.8ポイントでした。全国的に見ると、全国平均は375.3ポイントで、吉岡町の660.0ポイントは全国の自治体の中でトップ10に入っております。

この結果からは、H i B A L Iプランを定め、町が一体となってI C T機器やネットワークなどの環境を早期に整備し、活用を進めた吉岡町3校が、校務D Xにも着実に取り組んできていることについて客観的に証明されたと評価できます。校務D Xにおいては、日々新しい機能がアップデートされます。吉岡町3校の教職員は、日々その推進研究及び研修を重ねているところです。

次に、学校設置者、すなわち教育委員会を対象としたD Xの調査、これは全21問なんですけれども、その結果を紹介します。吉岡町教育委員会の結果は395ポイント、群馬県内では第5位でした。ちなみに県の平均は289.3ポイントであり、県平均は上回っ

ているものの、学校対象の調査結果よりも低い順位です。

今後の課題としては、当該チェック項目にあって実現していなかった項目である、「学校との各種手続のさらなるペーパーレス化」、「ファクスの利用をやめる」、「学校で取り扱う書類についての押印を廃止する」、「学校に教育委員会から発信する通知のさらなるクラウドサービス利用」、「町の指導主事にGIGA端末を貸与すること」などを進める必要があることが分かりました。今後は、これらの具体的な課題について、教育委員会事務局内の各室と連携しながら、統括的にDX化を推進したいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） GIGAスクール構想の大きな目的として、個別最適な学び、協働的な学び、これは児童生徒に対してでしようけれども、校務DXのほうは、第1点目には働き方改革、2点目には教育活動の一層の高度化というような目標を掲げてGIGAスクール構想というのできているかと思うんですけども、実際現場の教職員の方の働き方改革というのは校務DXを推進することによって達成されておりますか。実感で結構ですので。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 一つの指針といたしまして、勤務時間、学校での仕事の時間、滞在時間というんですかね、そのデータはここ数年、全教職員のものを取っておりますけれども、確実にいわゆる残業に当たるような時間が減っている、減少しているということは、数字の上で明らかになっております。

教職員の多忙感ということから申し上げますと、今、GIGAスクール構想の校務DX化で、各教員が今までなかったことに対してここ数年、新たなことを学ばなくてはならないということで、研修でもそれを取り上げて、議員の皆さんからもその辺のご心配をいただいていたわけなんですけれども、やはりそれがなかったかといえ、それは確かに新しいことを始めるわけですから必ずありましたが、それでもその経過を経ることによって、明らかに先ほどの勤務時間が減少している、そして子供たちと向き合う時間が増えている、そしてまた、授業改善に向けて授業研究をする時間も増えているということで、教員の本来担わなくてはならない、担うべき仕事に集中できる時間が伸びている実感を感じている教職員は増えてきているというふうに、現場の声からも上がっております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 校務DXの推進ということで一つ懸念事項があるんですけども、学校からの情報流出という原因のほとんどが、ルールを守らないで流出してしまった事例という

ように聞いております。そういったことで、いろいろ端末を使うわけでありましてけれども、その辺のルールの徹底というのはなされておりますか。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） これまで吉岡町教育情報セキュリティポリシーというものを定めていなかったんですけども、この年度末までにそれが完成いたしましたので、今度公開することになっております。公開部分については、そのセキュリティポリシーを確実に守ることになれば、いろんな情報がそれを守っていれば当然流出は避けられる。そして、そういうシステムをきちんと構築しておりますので、それは大丈夫なんですけれども、一番怖いのは、先日新聞にも載ったように、うっかり教員が保護者の配付資料の中に子供の個人の名前を載せてしまったということが発生しましたが、これはいかにこれセキュリティポリシーを定めようとも、教員一人一人が気をつけ、また複数のチェック体制がなくてはきちんと守ることができませんので、そこはやっぱり人の力で最終的なチェックを、きちんと内容を確認して外に出すということは欠かせないというふうに考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 続きまして、COCOLOプランについて伺います。

まず、第1点目として、不登校の児童生徒について伺うものであります。

文部科学省により令和5年3月に取りまとめられたCOCOLOプランによると、全国の小中高等学校の不登校児童生徒の数は約30万人、令和3年時点で中学生は16万3,442人、小学生は8万1,498人となっております。町の不登校児童生徒の数はどのように推移しておるか伺うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） 不登校児童生徒は、病気以外の理由で年間30日以上欠席した児童生徒となります。町の状況の推移ですが、令和2年度から令和6年度1月までの推移を申し上げます。令和2年度の不登校の割合は1.06%、令和3年度は2.04%と増加しました。令和4年度は1.96%、令和5年度は2.6%と増加しています。令和6年度は1月までの状況ですが、令和5年度より低く2.0%となっており、昨年度より改善されていると考えます。また、国の割合と比較すると、吉岡町の不登校割合は低い状況が続いております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

1 1 番（坂田一広君） 続きまして、教育支援センターについて伺うものであります。

町では教育支援センターとして従前のふれあい教室に加え、令和6年から新たにひばりの家が開設されました。それぞれに通う児童生徒はどれくらいいますか。また、不登校でありながらこれらに通うことのできない児童生徒の数及びその対応はどのようにしているか。オープンドアサポート、教育支援センター相談員の活動状況等あるかと思います。本年の令和7年1月に教育委員会のほうで吉岡町小中学校における不登校対策の概要なんていうのが教育委員会のホームページで発表されておりますけれども、これらの対応を含めてお伺いするものであります。

議長（廣嶋 隆君） 米沢教育委員会事務局長。

〔教育委員会事務局長 米沢弘幸君発言〕

教育委員会事務局長（米沢弘幸君） まず、ふれあい教室についてです。ふれあい教室については、現在6名の中学生が通室しています。次に、ひばりの家ですが、現在9名の小中学生が通所しています。ふれあい教室の相談員は、個々の学習内容に合わせた教材を準備し、教科指導を行うこと、学級担任との連携を図ることで登校に向けた支援を行っています。

学校に戻ることを第一目標としないひばりの家には、相談員を2名配置しており、その日にやることや過ごし方を児童生徒が自主的に決めて活動できるように支援しています。子供たち同士や相談員との交流を重ねるうちに、心を開いて楽しく会話するようになったり、自ら取り組みたいことを決め、創作活動をしたり、勉強に取り組んだりする姿も見られるようになっていきます。

令和6年度1月までの不登校児童生徒数は、小中3校で43名です。教育支援センターを利用している児童生徒数は15名ですので、28名がふれあい教室とひばりの家を利用していない不登校児童生徒数になります。この28名については、定期的開催される校内教育相談部会において、学校内において状況や対応方法を確認し、共有しています。

具体的な対応としては、欠席した際には学級担任から家庭への働きかけはもちろんのこと、それ以外にY' ODSによる家庭訪問、会えないときには手紙のポスティング、メール連絡などを行うことで、学校と家庭・児童生徒をつなぐために、個々の児童生徒や家庭の状況に応じたサポートを行っています。

登校した際には、校内の相談室で安心して過ごすことができるよう配慮したり、担任や副担任、養護教諭、また勤務していればスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがコミュニケーションを取るなどして、一人一人の児童生徒に対し丁寧に対応することを心がけております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔1 1 番 坂田一広君発言〕

1 1 番（坂田一広君） 続きまして、不登校児童生徒の成績評価について伺うものであります。

学校に通うことができなくても、教育支援センターや民間団体等の学校外の機関や自宅等で学習を続けている不登校児童生徒の努力を評価し、社会的自立を後押しすることは重要であると考えます。文部科学省ではこれまでも、「不登校児童生徒への支援の在り方について」、これは令和元年10月、初等中等教育局長通知でありますけれども、これにおいて、国の義務教育制度を前提としつつ、一定の要件を満たす場合に、不登校児童生徒が学校外の機関や自宅等で行う学習の成果を成績に反映できることとしてきたわけでありませぬ。

これが令和6年8月29日、学校教育法施行規則が改正され、令和元年の通知の内容が法令上明確化されました。不登校児童生徒の努力の成果を適切に評価し、学びの充実を推進するということは大変重要であると考えます。従前の不登校児童生徒の成績評価の取組と、今回の改正で取扱いに変化はありましたか。従前の取扱い等も含めて伺えたらと思ひます。

議 長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教 育 長（山口和良君） 結論から申し上げますと、令和元年通知の頃から令和6年の規則改正に基づいて法令化されるまで、内容的にはあまり変わっていませんので、そのような対応をしましてまいりましたので、そのことについてお話をさせていただきます。

今回の令和6年の一部改正により、坂田議員おっしゃるように、教育支援センター等の公的機関や民間のフリースクール等、また自宅等での学習を成績評価に含めることが可能になりました。我が国の義務教育制度を前提としつつ、不登校児童生徒が一定の要件を満たした上で、自宅等においてICT等も活用した学習活動については、可能な限り指導要録上出席扱いとするとともに、本人の進学等の意向等を考慮し、学習評価を行い、その結果を評定などの成績評価に反映することが望ましいことが示されているわけです。

例えばICTを活用したオンライン学習や、学校から提供された教材を用いた自宅学習なども評価対象とすることができます。不登校児童生徒の自宅におけるICT等を活用した学習活動の成績評価を行う際には、原則として、訪問等を通じて定期的かつ継続的に対面での相談・指導を行うことが望まれることや、学校が民間施設、例えばフリースクール等、ICT等を活用する場合も含めますけれども、その施設等における学習活動の成果を評価に反映する場合には、学校が把握した学習の計画、また内容が学校の教育課程に照らして校長が適切と判断するということが前提となっております。

吉岡町の学校でも、通知に基づき、条件が整う場合には、児童生徒の学習に対するそれぞれの取組を積極的に評価し、後の進路選択の際に不利になることのないよう最大限の配

慮を行っております。

町のふれあい教室へ通室している生徒につきましては、ふれあい教室で学習を進め、その内容を含む定期テストを学校に行ったり、またふれあい教室で受けておりますので、その結果が評価され、通知表や指導要録に反映されております。また、民間のフリースクールに通っている生徒についても、フリースクールで生徒が取り組んだ内容を学校と共有し、それが教育課程に照らし適切と判断できれば、成績にも反映されます。しかし、現状ではその要件を満たしている生徒はございません。不登校の生徒が自宅で学習したことであっても、先ほど申し上げた諸条件に合致すれば、その成果を適正に評価いたします。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 先ほど、吉岡の教育支援センターであるふれあい教室、あるいはひばりの家に通えていない児童生徒が28人いると答弁ありました。そのうち、例えばですよ、フリースクールに通っている児童生徒の方、あるいは民間のeラーニング等を利用して勉強されている方というのはどれくらいいらっしゃいますか、それぞれ。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 中学生でフリースクールに通っている生徒は、本人が特定されないようにお願いしたいんですけども、おります。何人というのは申し上げたほうがよろしいですか。いいですか、はい。eラーニング等で学んでいる子は把握しておりません。学校の授業を配信して、それで授業を受けているお子さんはいらっしゃいます。全ての教科ではないですけども、事情に応じて行っているお子さんがおります。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 今回の法令改正が学校教育の枠内ということで、フリースクールに通っている方とかで要件を満たす方がいらっしゃらないというのは致し方ない部分があるのかなという気もいたしますけれども、できるだけこの子供たちの進路に影響がないような評価をやっていただければというふうに思います。今まで令和元年からやってきていただいたということなので、できているんだ、町はきちんと対応していたんだということが確認できました。

続きまして、児童生徒の健康観察・教育相談について伺うものであります。

児童生徒の不登校等を未然に防ぐには、心や体調の変化を早期発見し、小さなSOSを見逃さないことが重要であると考えます。学校ではどのように対応しているのか。また、児童生徒の心のケアやストレスの対処方法に関する授業を行うスクールカウンセラーの役

割というのは大きいと考えます。

現状では、各学校週1日ということでスクールカウンセラーが県から派遣されて、県の事情もあるということは重々承知しておるわけでありましてけれども、1月に公開された、つくられました吉岡町小中学校における不登校対策の概要で、まず予防対応におけるスクールカウンセラーの役割であるとか、あるいはまたCOCOLOプランの中でも、心の小さなSOSを見逃さずチーム学校で支援しますとある中の重要な役割の一つを担うのがスクールカウンセラーだと思っております。各学校、毎週1日は少ないと思われましてけれども、週当たりの日数等を増やして、難しいことは重々承知しておるところでありますけれども、そういった努力はできないものか伺うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 山口教育長。

〔教育長 山口和良君発言〕

教育長（山口和良君） 今、坂田議員おっしゃったように、予防的対応が非常に不登校対策では重要になっております。そのために吉岡町3校では一つの方策として、タブレットで児童生徒が自分でその日の健康状態や気分、悩み事などの相談について毎日タブレットに入力ができる「Gライフログ」、来年度からは子供たちの意見を基にして、吉岡の「よし」で「よしログ」というふうに改名しますが、これを活用しております。このよしログの内容は、担任のほかに管理職や養護教諭など、特定の一部教員が見ることができて、児童生徒の小さな変化にも気づき、早期対応できるものとして有効な仕組みでありまして、町独自の取組でもあります。相談したいこと、また心配な記述をした児童生徒には、必要に応じて担任や養護教諭が対面でコミュニケーションを取りながら対応しています。

吉岡町では3校で1名のスクールカウンセラーが県の予算で配置され、坂田議員ご指摘のとおり、各校とも毎週1日、スクールカウンセラーが勤務しております。勤務日にはカウンセラーの相談枠はほぼ埋まっている状況ですが、各校の様子を確認したところ、相談の数に対して十分な対応ができていないという状況にはないということでした。

スクールカウンセラーの県の任用期間では、年度末には終了してしまい、いわゆる今の時期、年度末という重要な時期にカウンセラーが不在となる週が出てまいります。そこで、吉岡町では不在になる週が出る事態を解消するため、町独自で予算を組んで、3月中もしっかり毎週スクールカウンセラーが勤務し、相談を受けられる体制を整えており、進学、進級を前にした重要な時期の相談時間の不足が生じないように丁寧に対応していただいているところです。

ただ、カウンセラーの勤務時間、勤務日が多くなるにこしたことはありません。学校教育関係者の全てがそう考えております。県に対して、引き続きその実現に向け、私たち教育長会並びに教育委員会、教育長連合会、いろんなどころを通じて要望してまいりたいと

いうふうを考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） ぜひともお願いします。ただ、今相談数には対応し切れているというお話でありましたけれども、スクールカウンセラーというのはそれだけじゃなくて、やっぱり学校内を巡って様子を把握するとか、いろいろ相談に応ずるだけが業務じゃなくて、やっぱりその学校学校に配置されて、学校の様子、そして個々のカウンセラーを必要としているなような児童生徒の様子も観察しながら相談業務を行うというのが、文科省が本来予定している業務なわけでありましてけれども、それが各校週1回というのではちょっと果たせていないのかなということでこの趣旨の質問をさせていただいたわけでありましてけれども、そういったことで県のほうに要望していただけるということなので、ぜひともしっかり要望していただいて、県のほうにおつなぎいただければというふうに考えます。

続きまして、2番目、公共交通について伺うものであります。

町の公共交通に係る現状と今後の施策等について伺うものであります。

まず、第1点目として、町の公共交通に対する町長の所感についてということで、公共交通マスタープランが平成27年3月に策定と書きましたけれども、これは改定されですね、改定され10年目を迎えようとしております。同プランによると、当時の町の公共交通の状況は、「町内に鉄道駅がないことから、町民は最寄り駅である八木原駅・群馬総社駅を利用しています。また、町内には9本のバス路線がありますが、ほとんどが周辺7町村を起終点とする広域運行のため、吉岡町を通過する形態となっています。全般的に町民の公共交通利用の習慣性は低いのが実情」とし、問題点として、「公共交通が未成熟で、結果的に町民の公共交通利用者は極めて少なくなっています」としています。

計画策定後、当時実証実験中であった相乗りタクシーが本格運用され、さらに利便性向上の観点から既存の福祉タクシーと統合、助成券の交付枚数を増やすなどの施策を講じてきたのは周知の事実であります。町長は、町の公共交通の現状についてどのようにお考えになっているのでしょうか。また、当時存在した公共交通空白地域、不便地域について、現状をどのようにお考えになっているか伺うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町長（柴崎徳一郎君） 町の公共交通の現状につきましては、現行の公共交通マスタープランを策定した平成26年度から一部施策は実施してきているものの、バス路線の減少等により、さらに公共交通を利用しにくい状況になっていると考えております。

公共交通空白地域の利用はしたくても公共交通を利用できない、公共交通不便地域の利

用はできるが便数やダイヤの問題で不便といった状況についても、その解消はされていないと考えております。

今後は、都市計画マスタープラン改定の中で公共交通マスタープランについても議論し、自動車以外の移動手段を検討してまいりたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 第2点目として、公共交通、都市計画マスタープランについて伺うものがあります。

公共交通マスタープランの評価についてを伺います。

現行の公共交通マスタープランでは、基本方針として、町民のスムーズな町内移動を支える多様な公共交通体系の実現、2点目として、ベッドタウンとしての機能を担保するため連携の取れた公共交通体系の実現、3点目として、既存駅を有効活用した公共交通体系の実現、4点目として、町民の意識改革を含めた利用促進の推進の4点を掲げ、施策として大きく分けて10項目について短期から中長期にわたり計画、実施するものとしております。前回、改定予定ということで一般質問の答弁がありましたけれども、実際、現行のプランにおいても長期のもので10年ということで、見直しの必要が来ているのかなというふうにも思っております。そこで、現行プランにつきどれだけ進捗が図られたのか、その評価を伺うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 現行の公共交通マスタープラン策定後、公共交通に係る10施策のうち、取組ができたものは、バス路線の商業施設への変更やグループタクシーの導入の代替として相乗りタクシーなど2割から3割程度であり、その成果も十分なものではないと考えられます。

今後は、先ほどの町長答弁のとおり、都市計画マスタープラン改定の中で公共交通マスタープランについても議論し、自動車以外の移動手段の検討や各種公共交通施策について、吉岡町民の移動状況に適した取組や近隣市町村と連携した取組も含めて検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） それでは、今後のスケジュールについて伺います。

前回の一般質問で、「都市計画マスタープランの改定に合わせて、平成27年3月に策定した吉岡町公共交通マスタープランを改定し、まちづくりと移動手段が一体となった都

市計画マスタープランとして策定する予定」というふうにありました。予算も通っておることは承知しておりますけれども、今後のスケジュール、どのようになっておるか伺うものであります。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 都市計画マスタープラン改定の今後のスケジュールにつきましては、先月末に公募型プロポーザル方式において特定した委託業者と、現在、業務委託契約を締結したところでございます。今年の夏から秋にかけて、公共交通に関するアンケートや公園に関するインタビュー調査などを実施する予定です。その後、設立予定である都市計画マスタープラン検討委員会や町議会の意見を聞きながら計画案を策定し、パブリックコメントを経て、町の都市計画審議会に諮り、町議会の議決を経て、令和8年度中の公表を予定しております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 続きまして、タクシー運賃等助成事業について伺います。

公共交通マスタープランの改定から新たなコミュニティ交通の計画、実施に至るまでの間、高齢者の移動手段に係る施策として、タクシー運賃等助成事業の充実は欠かせないものと考えます。現行では最大12か月分もらえる人で72枚の助成券がもらえるということですか。72枚というと、往復1枚ずつ使ったとしても3回しか出かけられないですよ。500円を往復で6枚、3回使うと往復で6枚使うことになりますよね。ですから、月、恐らく3回しか出かけられない計算になります。

高齢者福祉の観点からすれば、高齢者の方に外出を促すという施策は極めて重要です。それはフレイル対策、あるいは認知症対策、あるいは虐待予防や早期発見、いろいろとにかく高齢者福祉の観点からすれば、高齢者の外出を促すということが大事であって、タクシー運賃等助成事業についてもそのような対応をしていかなければいけないと私は思います。月3回ではちょっと足りないような気がするんですけども、この点も含めて今後の町の考えを伺いたいと思います。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 本事業につきましては、令和2年度からの相乗り推奨タクシー・福祉タクシー制度の一本化、令和6年度から1回の乗車で利用可能な助成券の増加、介護・福祉タクシー事業者への助成券利用範囲の拡大などにより、利用者が拡大してございます。

具体的な利用状況としましては、令和5年度実績で申請者数が391人、交付枚数2万

5, 452枚、利用枚数が6, 280枚で、利用割合は25%となっております。また、直近の令和7年1月末時点となりますと、申請者数が491名、交付枚数が3万1, 236枚、利用枚数が9, 590枚、利用割合は31%に増加してございます。

より利便性を高めるため等今後の方向性ですが、議会含め様々なご意見をいただいております。全体としての利用枚数の増、また1回の乗車で使える枚数の増、地域ごとの利用設定などとなります。ただ、新規申請をされる方の中には、「知り合いから聞いて初めて聞いた」とお話しされる方もいらっしゃいます。これは周知不足にほかならないと反省しております。

まず、制度周知を徹底し、制度の対象者で利用を希望される方に申請いただけるよう、さらなる周知を図ることを最優先課題としながら、いただいているご意見等も含め、よりよい制度となるよう今後も取り組んでまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 今、周知の話がありましたけれども、私ももう80過ぎた方ですかね、ご夫婦。その方は子供さんご夫婦と一緒に暮らされている方なんですけれども、全くこのタクシー運賃等助成事業、ご存じありませんでした。私のほうで年度途中になっちゃうけれども申請してみてもどうかとお勧めしたわけでありましてけれども、ただその内容を聞いて、「これじゃあまり出かけられないね」というようなお声も賜っております。ぜひとも利便性を高める方向でよろしくをお願いします。

続きまして、総合計画についてを伺います。

デマンドバスについてを伺うものであります。

これも見直すということでこの前答弁いただいているし、これを何で蒸し返すかということ、このことを明らかにしないと、また新たに計画に載ったとしても、担当が替わったり、所管の課が替わったりして、事情を知らなくて、またあれですか、こんなの需要がないとか、ああでもない、こうでもない、やらないということになったら困るので、反省の意味も込めて、なぜ総合計画にデマンドバスという記載が載ったのかと、それをお尋ねするところであります。

令和4年3月定例会で第6次総合計画が策定されました。議決されました。その議決経過を見ると、平成30年3月に基礎資料としての住民アンケート調査、令和元年に3回にわたるプロジェクトチームによるワークショップ、令和2年に3回にわたる住民によるワークショップ、令和3年に団体ワークショップ、中学生ワークショップ、4回にわたる総合計画策定委員会、策定部会の開催及び4回にわたる総合計画審議会の開催、答申、基本構想に係るパブリックコメントを経て、12月に第6次総合計画案として議会に上程、

議会総合計画特別委員会での審査が始まりました。令和4年には基本計画案に係るパブリックコメント、2回にわたる第1回吉岡町議会総合計画特別委員会、2回にわたる総合計画特別委員会、2回にわたる総合計画策定委員会での修正を経て、議会の議決、策定に至ったという経緯であります。

これはもう冊子の後ろのほうに載っておるところをかいつまんで述べただけなんですけれども、基礎資料である住民アンケートの分析において、道路・交通についての満足度・重要度が低く、自由記載意見においても、高齢者の移動手段確保の充実を図り、自宅での生活をできるだけ長く営める町にしてほしい、免許を返納した後が不安ですという意見、ワークショップでも改善したほうがいいところとして、公共交通の不足や高齢者の移動手段確保が上げられておりました。

基礎資料の分析や複数回にわたる各種会議等での議論を経て、第6次総合計画において、「多様な公共交通システムの構築を目指し、民間事業者による取組の支援とデマンドバスの導入に取り組みます」との記載に至ったと認識しております。ところが、前回の一般質問において、「デマンドバスにつきましては、バスの運転士不足や吉岡町は住宅が拡散しているため需要の見込みが少ないことから、事業化に当たっては慎重な判断が必要となります」との答弁があり、寝耳に水、青天のへきれきであったということでもあります。

総合計画にデマンドバス導入の記載に至った経緯、総合計画策定から令和4年第4回定例会の一般質問における「(デマンドバスについて)令和8年度までには検証まで終える予定で協議を進めている」と答弁に至る経緯、この答弁から前回一般質問の「(デマンドバスについて)慎重な判断が必要」との答弁に至る経緯について、それぞれ伺うものであります。

議長(廣嶋 隆君) 齋藤企画財政課長。

[企画財政課長 齋藤智幸君発言]

企画財政課長(齋藤智幸君) デマンドバスについては、議員ご指摘の部分と重複するところがございますが、第6次総合計画策定におけるアンケートにおいても、定住意向の部分における住みたくない主な理由において、「道路事情や交通の便が悪い」が1位に挙げられているほか、ワークショップにおいては、高齢者の交通手段の不足、巡回のバスがないなどのご意見をいただいております。

基礎調査結果報告書においても、町の現状と今後の取組についてにおいては、満足度が低く、重要度の高い、今後特に力を入れて対応すべき項目として道路・交通を上げております。そういったことを踏まえ、第6次総合計画における「紡ぐ3-② 道路・公共交通の充実」における現況と課題の部分で、「公共交通システムの充実が求められている」とし、その取組の中で、公共交通システムの拡充として、「多様な公共交通システムの構築

を目指し、民間事業者による取組の支援とデマンドバスの導入に取り組みます」としたところでございます。その後、デマンドバス関係事業者と数回話し合いを持ちました。

そうした中、令和4年第4回定例会において坂田議員からのご質問に対し、「多様な公共交通システムの構築を目指し、現在デマンドバスの実証実験について業者から聞き取り調査を行っており、スケジュール感として前期計画期間内でございます令和8年度までには検証まで終える予定で協議を進めている状況になります」と答弁させていただいたものでございます。

その後、関係事業者との話し合いを続けていく中で、事業提案や見積書をいただきましたが、財政面を考慮すると、今後事業を進めていくことが非常に難しいと判断しました。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 「慎重な判断が必要」との答弁に至った経緯につきましては、利用者の行き先、利用者の目的地が町内・町外であるのかはっきり分かっておらず、また、現在の住宅が拡散して立地している土地利用状況では、デマンドバス利用の需要をうまく捉えられず、デマンドバスの運行が非効率になり、事業として成立するか不明な点もあったことから、慎重な判断が必要と答弁いたしました。

今後取り組む都市計画マスタープランの改定の中で、公共交通アンケートを実施し、住民の移動先を把握し、デマンドバスも含めて吉岡町にとって最適な移動手段について検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 今はこのデマンドバスがなかなか費用面等々で、バス事業者からお話を伺ったりとか、見積りを取った中で無理と判断したというふうにお答えになりました。でも、デマンドバスっていろいろ自治体に取り組んでいる公共交通の取組の中で、そのうちのひとつですよ。だから、どういうものを予定してデマンドバスという記載をされたんだか分からないけれども、例えば議員が3人ぐらいそれまでに一般質問をしていました、私を含めて。デマンドバスの導入をということによって一般質問をしていたわけでありましてけれども、皆さん、口にするのはドア・ツー・ドアでのデマンドバスというようなことで、どちらかというとこのデマンドタクシー、今で言うところの乗合タクシーのことを言っていた。デマンド交通一般でも、乗合タクシーを言っていたというふうに私は考えておりますけれども、私も含めて、あえてデマンドバスでどういうデマンドバスを想定されていたんだか。路線を設定して、そこを定時定刻に決まった路線を走るのではなくて、予約があったときにだけ決まった路線を走るような、そういうバスの形態を予定していたんですか、まず。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 議員のおっしゃるとおり、デマンドバスなんですけれども、ほかの市町村さんを見ると、乗合場所が大体ごみステーション等を活用しているんですね。それで、うちのほうとしてはデマンドバスを導入するよりはタクシーを充実することによって、タクシーはドア・ツー・ドアでございますし、乗合タクシーという意味も含めておりますので、究極のデマンドバスがタクシーだというふうに判断して、タクシーのほうの拡充に取り組んだ次第でございます。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 要するに、多分前の前の議会からデマンドバスということで一般質問されていたのは私を含めて3人と、繰り返しになりますけれども、どのお方も停留所に止まるタイプではなくてドア・ツー・ドアということを申し上げてきました、執行部に対しては。車についても、セダンタイプかワンボックスタイプの車でドア・ツー・ドアでというようなことで質問してきたわけなんだけれども、今、課長がおっしゃったようなデマンドバス、安中市で実証実験中ですかね、ごみステーションとか、そういった本当に細かい集落ごとにバス停を用いるような。だから、議会としてはそういうふうに要望していて、デマンド交通だからドア・ツー・ドアなんだろうなというふうに思っておったわけだけれども、停留所を予定されて、それは私もあまり需要がないなど。

高齢者福祉の観点からすればドアからドアへと運ぶのがベストであって、それだったら公共交通の中でも乗合タクシー、要するに今のタクシー運賃等助成事業においては、いわゆる町が最初にやった相乗りタクシーというのはあまり相乗りの形では活用されなかったわけですよね。でも、乗合タクシーであればコストも安く済むし、二、三百円でどこも運用しているところが多かった。ワンコインですよね。ワンコインで運用していくところが多かったので、そういった事例も参考にしながら、デマンドバスという言葉は使ったけれども究極のタクシーであると、乗合タクシーであるというような。じゃあ、最初からそこに書けばよかったじゃないですか、総合計画に。何でデマンドバスというような形で、それは高くつきますよね。何でデマンドバスが出てきたんだか。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 当初は、先ほどもご説明したとおり、今のタクシーよりも低額で乗れるもの等も検討してまいりました。しかし、それを導入するということになると、システムの構築とか、人を雇ったりしなくてははいけない。吉岡町内ですと、必要となるバスが2

台ぐらひは必要、そういうようなことを全て勘案した中で、それを整備するよりは、今タクシーという形でドア・ツー・ドアという形でさせてもらっている補助券をもっと拡充することによってそれが賄えるんじゃないかということで、そちらのほうを今までご理解いただいた中で拡充してきた次第でございます。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） でも、往復で1枚ずつ使ったとしても、月3回しか出かけられない計算になりますよね、最大でもらっている方で。それが本当に拡充してきたところなのかと。それは不十分であるとずっと指摘はされているじゃないですか、増やした、増やしたとは言っているけれども。要するに、初期投資がはばかれたわけですよね。成功するか失敗するか分からないんだけど、数千万円の初期投資はしたくないということでこれをやったという理解でよろしいんですかね。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 財政面も含めて総合的に判断させていただきました。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） これ以上言ってもね、何でデマンドバスになってしまったのかと。停留所で止まる、それを想定してやられたのかということも含めてもうちょっと聞きたいけれども、時間がないので、次の質問に移ります。

先ほども申し上げました総合計画の進捗状況について、去年までは、令和5年度第6次総合計画実施計画の計画シートということで、各課で事業評価をまとめたものが議員には配付されておりました。ところが、本年度はいまだに配付されておられません。総合計画は議会の議決事項でもありますし、議会の関心は高いはずで。あえて地方自治法第96条第1項の議決事項を拡大して、条例でもって総合計画については議会の議決事項とした。議会のことを考えれば、進捗状況について毎年説明が、資料の見方しか説明してもらっていないので、配付はされるべきだと思うんですけども、その点についてのお考えは。

議長（廣嶋 隆君） 齋藤企画財政課長。

〔企画財政課長 齋藤智幸君発言〕

企画財政課長（齋藤智幸君） 昨年度の実施計画については、2月に配付させていただいているところです。議員お尋ねの令和6年度分の実施計画についてなんですけれども、令和7年度以降の行財政改革に資するために、令和6年度における各事業の進捗状況も最大限含めて情報をつかみ、令和7年度以降に生かしたいと考えております。このため、例年よりは遅く

なって大変申し訳ありませんが、3月中に取りまとめ、配付したいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） ぜひともよろしく願いいたします。

続きまして、公共交通の充実に向けた具体的取組等について伺いたいと思います。

ちょっと時間がないので、日本版ライドシェア、公共ライドシェアについてという質問に関しましては割愛して、2番目の日本版ライドシェア、公共ライドシェアについての国交省の働きかけについてを伺います。

国交省のほうは、交通空白解消本部というのを設置して、ライドシェアについて日本国内の普及を相当熱心に図ろうとしておるようであります。昨年の5月の調査段階でライドシェア未実施の622の市町村に対して、去年の7月以降働きかけを行ったり、タクシー会社と自治体の間を橋渡しするというようなことが国交省の資料に書いてありました。町に対して働きかけはあったのでしょうか。

議長（廣嶋 隆君） 大澤建設課長。

〔建設課長 大澤正弘君発言〕

建設課長（大澤正弘君） 昨年10月に国土交通省関東運輸局、群馬運輸支局長らが町長を訪問され、交通空白解消に向けた制度の説明をしていただき、公共ライドシェアと日本版ライドシェア等についても意見交換を行いました。これを受けて、町としては、今後導入に向けた移動手段の一つとして、都市計画マスタープランの改定の中で検討してまいりたいと考えております。

議長（廣嶋 隆君） 坂田議員。

〔11番 坂田一広君発言〕

11番（坂田一広君） 計画を立てることは極めて重要なだけけれども、今回のようなことがあると、全く計画も無意味ということになってしまいます。地方自治の目的というのは、住民の福祉の増進、それ以外ないんですよ。立派な計画を立てることじゃないんですよ、実現不可能な計画とか。なので、一日も早く高齢者の移動手段の確保の施策を講じていただきたいと申し上げまして、やりたい質問もあったんですけども、時間もないので、私の一般質問はこれで終わりにします。

議長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、11番坂田一広議員の一般質問が終わりました。

以上で、本日の会議で予定されておりました一般質問が全て終了しました。

散 会

議長（廣嶋 隆君） 本日はこれをもって散会いたします。

午後2時44分散会

令和7年第1回吉岡町議会定例会会議録第5号

令和7年3月21日（金曜日）

議事日程 第5号

令和7年3月21日（金曜日）午前9時30分開議

- 日程第 1 委員会議案審査報告
(総務産業・文教厚生・予算決算 各常任委員長報告) [第2～第28]
(委員長報告に対する質疑)
- 日程第 2 発議第 1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について
(討論・表決)
- 日程第 3 議案第 7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第 4 議案第 8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第 5 議案第 9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第 6 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第 7 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例
(討論・表決)
- 日程第 8 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第 9 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例
(討論・表決)
- 日程第10 議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第11 議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

- (討論・表決)
- 日程第12 議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第13 議案第17号 吉岡町渇水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例
(討論・表決)
- 日程第14 議案第18号 町道路線の認定・廃止について
(討論・表決)
- 日程第15 議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例
(討論・表決)
- 日程第16 議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算(第7号)
(討論・表決)
- 日程第17 議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
(討論・表決)
- 日程第18 議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算(第4号)
(討論・表決)
- 日程第19 議案第23号 令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)
(討論・表決)
- 日程第20 議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)
(討論・表決)
- 日程第21 議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算(第4号)
(討論・表決)
- 日程第22 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算
(討論・表決)
- 日程第23 議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算
(討論・表決)
- 日程第24 議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算
(討論・表決)
- 日程第25 議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算
(討論・表決)
- 日程第26 議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算
(討論・表決)
- 日程第27 議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算
(討論・表決)

日程第28 議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算

(討論・表決)

日程第29 議会運営委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第30 総務産業常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第31 文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第32 議会広報常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第33 予算決算常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第34 議会議員の派遣について

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（14人）

1番	山崎守人君	2番	春山和久君
3番	藤多ゆかり君	4番	大井俊一君
5番	秋山光浩君	6番	宮内正晴君
7番	小林静弥君	8番	富岡栄一君
9番	飯塚憲治君	10番	富岡大志君
11番	坂田一広君	12番	飯島衛君
13番	小池春雄君	14番	廣嶋隆君

欠席議員 なし

説明のため出席した者

町長	柴崎徳一郎君	副町長	高田栄二君
教育長	山口和良君	総務課長	小林康弘君
企画財政課長	齊藤智幸君	住民課長	一倉哲也君
健康子育て課長	永井勇一郎君	産業観光課長	渡部英之君
建設課長	大澤正弘君	税務会計課長	中澤礼子君
上下水道課長	岸一憲君	教育委員会事務局長	米沢弘幸君

事務局職員出席者

事務局長 福島良一 主任 関浩己

開 議

午前9時30分開議

議 長（廣嶋 隆君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は14名です。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

これよりお手元に配付してあります議事日程（第5号）により会議を進めます。

本日は、委員会に付託した議案の委員長報告を、議事日程の日程第1で行いますので、各委員長におかれましては、よろしく願いいたします。

日程第1 委員会議案審査報告（総務産業・文教厚生・予算決算 各常任委員長報告）

議 長（廣嶋 隆君） 日程第1、委員会議案審査報告を議題とします。

委員会に付託した議案について、各委員長から委員長報告を求めます。

それでは、総務産業常任委員会富岡栄一委員長、委員長報告をお願いいたします。富岡委員長。

〔総務産業常任委員会委員長 富岡栄一君登壇〕

総務産業常任委員長（富岡栄一君） 8番富岡です。

総務産業常任委員会の議案審査報告を行います。

3月3日、本会議場にて議長より当委員会に付託されました議案について、3月10日月曜日午前9時30分より委員会室において、委員全員、議長及び執行から町長、副町長、教育長、課・局長、室長の出席の下、審査を行いましたので、その結果について報告いたします。

議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例については、今回行われた報酬審議会の具体的な内容とその根拠などの質疑に対し、答申内容につきましてはおおむね増加方向に見直すべきとの意見があり、一方、町の財政状況や財政調整基金残高、他市町村の状況を考慮した場合、大幅な引上げについては慎重に対応すべきとの意見がありました。

それを踏まえ、平成31年に開催された吉岡町特別職報酬等審議会から、令和6年の相場指数、消費者物価指数の数字が108.5%なので、この数字を準拠し、8.5%の引上げに決まったとのこと。審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決いたしました。

議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例については、報酬改定の経緯についての質疑に対し、前回の全体見直しから10年が経過しており、その間の県内の市町村の状況とか近年の物価の上昇とか社会情勢の変化を鑑み、報酬額の見直しを行ったとのこと。審査の結果、原案適正と認め、全

会一致で可決いたしました。

議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例については、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例については、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例については、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例については、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例については、この条例の提案理由の目的についての質疑に対し、ふるさと納税型クラウドファンディングに係る基金について、基金を設置することにより基金をプールしておき、次年度に事業等が行えるようになる。基金を設置することにより、活用方法を適正かつ効果的に行うために本条例を制定するものとの回答があり、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例については、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第17号 吉岡町渇水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例は、基金を残しておき町からの繰入れをしながら行っていく考えや、この基金の設置時期や金額についての質疑に対し、基金を残しておいても、一般財源から繰り入れてもすぐ電気代などで引き出すことになり、基金を廃止しても問題がないとのこと。この基金の設置時期は昭和62年で、年度末4億9,815万4,000円とのこと。審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第18号 町道路線の認定・廃止について、審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例については、負担金についての質疑に対し、今回の負担金については、農業集落排水地域を公共下水道地域に統合することにより、農業集落排水地域の受益者負担が29万円であり、不公平と公平の不公平さをなくすために29万円にしたとのこと。審査の結果、原案適正と認め、全会一致で可決しました。

以上報告といたします。

議長（廣嶋 隆君） 委員長報告が終わりました。

委員長報告に対し質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

富岡委員長、自席にお戻りください。

次に、文教厚生常任委員会小林静弥委員長、委員長報告をお願いいたします。小林委員長。

〔文教厚生常任委員会委員長 小林静弥君登壇〕

文教厚生常任委員長（小林静弥君） 7番小林です。

文教厚生常任委員会委員長報告をいたします。

3月3日本会議にて、議長より当委員会に付託されました議案2件、発議1件について、3月11日火曜日午前9時30分から委員会室におきまして、委員全員、議長、執行側からは、町長、副町長、教育長、関係課長、局長、室長の出席の下、文教厚生常任委員会を開催し、審査を行いました。その結果について報告いたします。

議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例については、改正点が多くある中で大きな改正点はとの質疑に、盛土の崩落による災害防止のための規制と、汚染の土壌が入らないようにする土壌汚染の防止という両方の規制があったが、災害の防止に関しては国の法律で規制し、土壌の汚染の防止をこの条例で規制するとの答弁。この改正によって土壌汚染を防げるのか、監視できるのかとの質疑に、今回の条例……

議長（廣嶋 隆君） 暫時休憩します。

午前9時39分休憩

午前9時40分再開

議長（廣嶋 隆君） 再開します。

文教厚生常任委員長（小林静弥君） 繰り返しになるかもしれませんが、途中から始めます。

改正点が多くある中で大きな改正点はとの質疑に、盛土の崩落による災害防止のための規制と、汚染の土壌が入らないようにする土壌汚染の防止という両方の規制があったが、災害の防止に関しては、国の法律で規制し、土壌の汚染の防止をこの条例で規制するとの答弁。この改正によって土壌汚染を防げるのか、監視できるのかとの質疑に、今回の条例改正は監視体制の強化を考え、対策を打っていくとの答弁。

第16条第2項で、汚染された土砂等があることを確認したときは町長に報告するとあるが、中止という文言は要らないのかとの質疑に、届出をしたものに止めさせる権限はなく、報告を受ける町長が第19条で改善命令の権限を持っている。報告を受けて行政も動

くということとなっているとの答弁。

町の関係部署、県の関係者と速やかに協議をして、十分にこの改正を生かして対応ができる情報の流れをつくっているかとの質疑に、町の建設課、群馬県の環境部局、県土整備部とも今後密に連携を図っていききたいとの答弁。

第21条について必要な措置を命ずることができるとあるが、必要な措置とはどの質疑に、汚染土壌であれば撤去や入替えなどとなるとの答弁。範囲が500平方メートル以下は何の規制もかからないのかとの質疑に、群馬県主導で500平方メートルという基準が出されており、群馬県内の市町村での条例でいうと、規制がかかるのはほぼ500平方メートル以上となっているとの答弁。などの質疑応答がありました。

審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決いたしました。

議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については、栄養士と管理栄養士との差とは何かとの質疑に、栄養士は都道府県の知事が認定する国家資格で、栄養士の養成施設を出れば自動的に栄養士の資格が与えられるが、管理栄養士は厚生労働大臣が定める免許を受けた国家資格で国家試験があり、今までは管理栄養士になるためには栄養士の実務経験が必要だったが、今後、法改正によって、管理栄養士の養成施設を卒業していれば、栄養士の資格がなく実務経験がなくても、管理栄養士の国家試験が受けられるというような体制になったとの答弁がありました。審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決いたしました。

発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について意見を求めたところ、次のような意見がありました。

既に20年余り検討以上の進展がないが、外務省の見解では、世界的、日本の国内的な情勢においても、国連からの指導があろうとも、もはや司法権の独立、国権の独立とも必ずしも相入れないものとは考えていないとなっており、ある程度容認していかななくてはならない事態、世情になっていると思うので、特に強く反対するという感じはないという意見。また、国際社会の中で日本は遅れている、速やかに批准を求めるべきだとの意見などがありました。

審査の結果、採決を行い、賛成多数でこの意見書を提出することと決しました。

以上をもって報告とさせていただきます。

議長（廣嶋 隆君） 委員長報告が終わりました。

委員長報告に対し質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

小林委員長、自席にお戻りください。

続きまして、予算決算常任委員会飯島 衛委員長、委員長報告をお願いします。飯島委員長。

〔予算決算常任委員会委員長 飯島 衛君登壇〕

予算決算常任委員長（飯島 衛君） 12番飯島です。

予算決算常任委員会委員長報告を行います。

去る3月3日及び4日に本会議におきまして当委員会に付託されました議案について、3月12日から18日の4日間にわたり、午前9時30分より委員会室において、執行より町長、副町長、教育長、関係課長、局長、室長、議長、委員全員の出席の下、慎重に審査を行いましたので報告いたします。

なお、各議案につきましては、歳入歳出ともに、款、項、目の目ごとに審査しました。

議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）については、歳入では、軽自動車税や国庫補助金などについて質疑がありました。

歳出では、社会福祉総務費や老人福祉費について質疑がありました。

本補正は、計数整理が主な減額補正です。審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）については、見込額の減額が主で、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第23号 令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算（第4号）については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算については、歳入では、地方交付税の減額について、農林水産業費県補助金では小規模農村整備事業費補助金などについて質疑があり、資料の提出を求めました。ふるさと納税では、今後についてや企業版ふるさと納税などについて多くの質疑がありました。貸付金元利収入では住宅新築資金等貸付金について、農林水産業費受託事業収入では湧水対策施設管理費について多くの質疑がありました。

歳出では、総務管理費の諸費で、防犯灯設置工事や防犯カメラの設置工事について質疑があり、防犯灯のリースが今年度末で10年リースが満了になるとのことでした。

社会福祉総務費では、社会福祉協議会補助金や温泉施設使用料の無料招待券交付事業に

ついて質疑があり、多人数の世帯に対する対策などについて多くの質疑がありました。

老人福祉費では、ごみ出し支援業務や買物代行業務委託料などについて質疑があり、ごみ出し支援は今年度29件の利用があり、買物代行の登録人数は30人とのことでした。

児童保育費では、保育所運営委託料や私立保育所等施設整備補助金などに質疑がありました。

清掃費の塵芥処理費では、一般廃棄物収集運搬委託料の入札などについて質疑がありました。

道路維持費では、道路維持補修工事についての質疑がありました。

教育総務費では、学習用情報端末保守業務委託料についての質疑では、1台につき3,564円の補償で2,369台を見込んでいるとのことでした。

中学校費の教育振興費では要・準要保護生徒就学援助費について、学校建設費では渡り廊下改修工事について質疑がありました。

審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算については、児童生徒給食費や、ひばりの家給食費について質疑がありました。審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算については、審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算については、国庫補助金で、相馬原飛行場周辺水道設置助成事業（老朽管布設替事業）について質疑があり、残りは1,649メートルとのことでした。

審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算については、農業集落排水処理施設機械設備撤去工事实施設設計業務委託について、多くの質疑がありました。審査の結果、原案適正と認め、賛成多数で可決されました。

なお、当委員会では、審査の過程で課題となった事案について、要望書を提出することと決定いたしました。

予算執行に関する要望書。1、ふるさと納税の強化、充実を図られたい。2、予算書、決算書の説明資料のさらなる改善を図られたい。3、地域福祉交流拠点の西部地区の設置

と有効活用のための人員配置、施設で実施する事業の拡大を図られたい。4、委託料と契約の適正化（随意契約も含む）を図られたい。5、SDGsの推進を図られたい。6、学童保育の入所条件の緩和を図られたい。7、給食費の無償化を図られたい。8、ごみの減量化への取組強化と資源化を図られたい。

以上、委員長報告といたします。

議長（廣嶋 隆君） 委員長報告が終わりました。

委員長報告に対し質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

飯島委員長、自席にお戻りください。

日程第2 発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出について

議長（廣嶋 隆君） 日程第2、発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出についてを議題といたします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

発議第1号 「女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書」の国への提出についてを委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数。

よって、発議第1号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第3 議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第3、議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第7号 吉岡町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第7号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第4 議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第4、議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第8号 吉岡町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第8号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第5 議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第5、議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第9号 吉岡町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第9号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第6 議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第6、議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第10号 吉岡町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第10号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第7 議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第7、議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第11号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第11号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第8 議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第8、議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第12号 吉岡町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第12号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第9 議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第9、議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第13号 吉岡町ふるさと納税型クラウドファンディング基金条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第13号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第10 議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第10、議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第14号 吉岡町土砂等による埋立て等の規制に関する条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第14号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第11 議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第11、議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第15号 吉岡町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第15号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第12 議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第12、議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第16号 吉岡町小口資金融資促進条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第16号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第13 議案第17号 吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第13、議案第17号 吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第17号 吉岡町湧水対策施設維持管理基金条例を廃止する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第17号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第14 議案第18号 町道路線の認定・廃止について

議長（廣嶋 隆君） 日程第14、議案第18号 町道路線の認定・廃止についてを議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第18号 町道路線の認定・廃止についてを委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第18号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第15 議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例

議長（廣嶋 隆君） 日程第15、議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

[「なし」の声あり]

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第19号 吉岡町下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第19号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第16 議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）

議長（廣嶋 隆君） 日程第16、議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

[「なし」の声あり]

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。

お諮りいたします。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第20号 令和6年度吉岡町一般会計補正予算（第7号）を委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

議 長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、議案第20号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第17 議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

議 長（廣嶋 隆君） 日程第17、議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。

お諮りします。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第21号 令和6年度吉岡町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、議案第21号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第18 議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）

議 長（廣嶋 隆君） 日程第18、議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。

お諮りします。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第22号 令和6年度吉岡町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）を委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議 長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、議案第22号は、委員長の報告のとおり可決されました。

**日程第19 議案第23号 令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算
(第3号)**

議長(廣嶋 隆君) 日程第19、議案第23号 令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長(廣嶋 隆君) 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。

お諮りします。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第23号 令和6年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)を委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長(廣嶋 隆君) 異議なしと認めます。

よって、議案第23号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第20 議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)

議長(廣嶋 隆君) 日程第20、議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長(廣嶋 隆君) 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。

お諮りします。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第24号 令和6年度吉岡町水道事業会計補正予算(第4号)を委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長(廣嶋 隆君) 異議なしと認めます。

よって、議案第24号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第21 議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）

議長（廣嶋 隆君） 日程第21、議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。

お諮りします。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第25号 令和6年度吉岡町下水道事業会計補正予算（第4号）を委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、議案第25号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第22 議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第22、議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第26号 令和7年度吉岡町一般会計予算を委員長の報告のとおり決定することにご賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第26号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第23 議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第23、議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第27号 令和7年度吉岡町学校給食事業特別会計予算を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第27号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第24 議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第24、議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第28号 令和7年度吉岡町国民健康保険事業特別会計予算を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第28号は委員長の報告のとおり可決されました。

日程第25 議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第25、議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第29号 令和7年度吉岡町介護保険事業特別会計予算を委員長の報告のとおり決

定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第29号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第26 議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第26、議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

[「なし」の声あり]

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第30号 令和7年度吉岡町後期高齢者医療事業特別会計予算を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第30号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第27 議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第27、議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

[「なし」の声あり]

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第31号 令和7年度吉岡町水道事業会計予算を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第31号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第28 議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算

議長（廣嶋 隆君） 日程第28、議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算を議題とします。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決を行います。この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長の報告は可決です。

議案第32号 令和7年度吉岡町下水道事業会計予算を委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔「なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 起立多数です。

よって、議案第32号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第29 議会運営委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第30 総務産業常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第31 文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第32 議会広報常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

日程第33 予算決算常任委員会の閉会中の継続調査の申し出について

議長（廣嶋 隆君） 日程第29から第33までの各委員会の閉会中の継続調査の申し出についてを、吉岡町議会会議規則第35条により一括議題にし、採決はそれぞれ分離して行いたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。よって、一括議題と決定しました。

各委員会の閉会中の継続調査の申し出についてを議題とします。

各委員会委員長から、吉岡町議会会議規則第71条の規定により、お手元にお配りしました調査事項について閉会中の継続調査の申し出がありました。

これから、この申し出5件を分離して採決します。

最初に、議会運営委員会委員長からの申し出についてお諮りします。

委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

次に、総務産業常任委員会委員長からの申出についてお諮りします。

委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

次に、文教厚生常任委員会委員長からの申出についてお諮りします。

委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

次に、議会広報常任委員会委員長からの申出についてお諮りします。

委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

次に、予算決算常任委員会委員長からの申出についてお諮りします。

委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

日程第34 議会議員の派遣について

議長（廣嶋 隆君） 日程第34、議会議員の派遣についてを議題とします。

お諮りします。お手元に配付してあるとおり、議員研修のため、議会議員を派遣することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（廣嶋 隆君） 異議なしと認めます。

よって、配付のとおり、議会議員を派遣することに決定しました。

町長挨拶

議長（廣嶋 隆君） これで、本日の日程が全て終了しました。

閉会の前に、町長の発言の申入れを許可します。

柴崎町長。

〔町長 柴崎徳一郎君登壇〕

町 長（柴崎徳一郎君） 令和7年第1回定例会閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本定例会の中で審議していただきました議案につきまして、いずれも可決いただき誠にありがとうございます。

これから新しい年度を迎える準備が始まります。それぞれの事業が円滑に推進できますように、議員各位のご協力、そしてご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、本議会における各議案審議の過程及び一般質問の中で賜りましたご指摘、ご意見に対しましては、今後、町政の執行の中で留意していきたいと思えます。

春分の日も過ぎ、大分春めいてまいりましたが、気候の変化が激しい傾向は続いております。議員皆様におかれましては、ますます健康に十分ご留意の上、ご活躍くださいますようご祈念申し上げ、閉会に当たっての挨拶に代えさせていただきます。

長期間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

閉 会

議 長（廣嶋 隆君） 以上をもちまして、令和7年第1回吉岡町議会定例会を閉会します。

午前10時22分閉会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する

吉岡町議会議長 廣 嶋 隆

吉岡町議会議員 富 岡 栄 一

吉岡町議会議員 飯 塚 憲 治